



三芳町緑の基本計画

令和2年4月

埼玉県三芳町

ごあいさつ

三芳町では、平成 17（2005）年 3 月に「三芳町緑の基本計画」を策定しました。3 つの基本方針として、「歴史のなかで創られた緑をまもり、緑豊かな快適なまちづくり」「緑の基盤による潤いのあるまちづくり」「緑と人のふれあいによる豊かなひとづくりができるまちづくり」を掲げ、緑と魅力にあふれる景観や環境整備の形成に取り組んでまいりました。



この計画期間において、「緑地協定の締結」、「緑のトラスト保全第 14 号地取得・保全」、「みよしグリーンサポート隊の活動支援」、「緑化推進費寄付金の設立」など、様々な施策により、成果が生まれています。

しかしながら、首都圏 30km 圏内に位置することから、都市型の開発が進んでおり、産業・経済が発展する一方で、いかに環境を保全していくのかが、大きな課題となっております。そのような中で、本町では令和元年 11 月に「SDGs のまちづくり宣言」を表明し、持続可能なまちづくりを進めることになりました。

本町には、先人から受け継いだ美しい平地林と田園風景が残されており、豊かな平地林や三富新田に代表される特徴的な「みどり」の魅力を守り育てていくことが重要になってきます。この良好な自然環境を後世につなげるとともに、新たな緑を街中にも創出し、潤いのある環境の中で心豊かに暮らせる社会を実現するため、「みどりが育むうるおいと豊かさのあるまち 三芳」を将来像とした緑の基本計画を改定し、新しい時代のみどりのまちづくりを展開してまいります。

結びに、本計画の策定にあたり貴重なご意見やご提案をいただきました住民の皆様をはじめ、慎重なご審議をいただきました策定検討委員会委員、議会議員の皆様、並びに関係各位に対しまして心から厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも計画の実現に向け、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年 4 月

三芳町長 林 伊佐雄

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 第1章 はじめに（緑の基本計画について） | 1 |
| 1.1 みどりの役割と機能 | 1 |
| 1.2 計画改定の背景 | 1 |
| 1.3 計画の目的 | 3 |
| 1.4 緑の基本計画の位置づけ | 4 |
| 1.5 対象とする緑・緑地の定義 | 5 |
| 1.6 計画の対象区域 | 7 |
| 1.7 計画の期間 | 7 |
| 第2章 三芳町の現況と特性 | 9 |
| 2.1 三芳町の現況 | 9 |
| (1) 自然的条件 | 9 |
| 1) 位置・特徴 | 9 |
| 2) 気象・地形の状況 | 9 |
| ア) 気象 | 9 |
| イ) 地形 | 10 |
| 3) 緑の状況 | 13 |
| 4) 植生の状況 | 16 |
| 5) 平地林の状況 | 17 |
| ア) 平地林の状況 | 17 |
| イ) 森林整備計画 | 19 |
| 6) 動物・植物の生息・生育状況 | 21 |
| ア) 町内の生物相 | 21 |
| ア) 植物 | 21 |
| イ) 鳥類 | 21 |
| ウ) 両生類・爬虫類 | 21 |
| エ) 哺乳類 | 21 |
| オ) 昆虫類 | 21 |
| イ) 生物の地理的分布 | 22 |
| ア) 重要な植物の状況 | 22 |
| イ) 重要な鳥類の状況 | 23 |
| ウ) 重要な両生類・爬虫類の状況 | 25 |
| エ) 重要な哺乳類の状況 | 26 |
| オ) 重要な昆虫類の状況 | 27 |

| | |
|--------------------------------------|----|
| (ウ) 生息環境の分布状況 | 29 |
| ア) 指標 1：生息地となるポテンシャルを有する緑地等の指標 | 29 |
| イ) 指標 3：平地林のエコロジカルネットワークの指標 | 30 |
| ウ) 指標 5-1：生態系サービスの指標 | 31 |
| (2) 社会的条件 | 36 |
| 1) 人口・世帯 | 36 |
| (ア) 人口・世帯 | 36 |
| (イ) 年齢別人口 | 37 |
| 2) 土地利用 | 38 |
| 3) 都市施設 | 45 |
| (ア) 公共交通 | 45 |
| 4) 道路整備 | 45 |
| (ア) 道路体系 | 45 |
| (イ) 都市計画道路 | 45 |
| (ウ) 街路樹 | 47 |
| 5) 公園 | 49 |
| 6) 市街地開発事業 | 51 |
| 2.2 緑地の現況 | 53 |
| (1) 施設緑地の現況 | 53 |
| (2) 地域制緑地の現況 | 55 |
| 2.3 みどりを守り育む住民活動の状況 | 58 |
| (1) 緑化・花いっぱい運動 | 58 |
| (2) ごみゼロ運動 | 58 |
| (3) 生垣設置補助 | 58 |
| 2.4 みどりの保護に係る施策の実績 | 58 |
| (1) 条例の制定 | 58 |
| 1) 三芳町みどりの保護育成及び活用に関する条例 | 58 |
| (2) 各種事業による取組 | 58 |
| 1) くぬぎ山自然再生事業 | 58 |
| 2) 平地林の保全にかかる事業 | 58 |
| 3) 武蔵野の落ち葉堆肥農法の継承 | 59 |
| 4) 森林整備計画 | 59 |
| 2.5 みどりの機能からみた現況 | 61 |
| (1) 環境保全機能 | 61 |
| (2) レクリエーション機能 | 61 |
| (3) 防災機能 | 61 |

| | |
|----------------------------------|----|
| (4) 景観構成機能 | 62 |
| 1) 自然景観 | 62 |
| 2) 歴史的景観 | 62 |
| 3) 都市景観 | 62 |
| 4) 県指定景観地 | 62 |
| 5) みどりの景観八景 | 62 |
| (5) 生き物の生育・生息機能 | 65 |
| (6) コミュニティ形成機能 | 67 |
| 2.6 みどりに関する住民の意識 | 68 |
| (1) 町への愛着度・居住意向 | 68 |
| (2) 地域環境への評価 | 68 |
| (3) 三芳町の将来のまちづくり | 68 |
| (4) みどりに関する住民意識の要約 | 69 |
| | |
| 第3章 都市のみどりに関する税制の状況 | 71 |
| | |
| 第4章 施策の実施状況 | 73 |
| 4.1 実施した主な施策 | 73 |
| 4.2 目標の達成状況 | 74 |
| | |
| 第5章 現状分析と課題及び見直し点 | 75 |
| 5.1 計画全体 | 75 |
| 5.2 緑地の保全・活用に係る課題と見直し点 | 76 |
| 5.3 緑化の推進に係る課題と見直し点 | 77 |
| 5.4 公園整備に係る課題と見直し点 | 78 |
| 5.5 環境に係る課題と見直し点 | 79 |
| 5.6 生物多様性に配慮したエコロジカルネットワークの形成の追加 | 80 |
| | |
| 第6章 みどりの将来像と目標 | 83 |
| 6.1 基本理念 | 83 |
| 6.2 みどりの将来像 | 84 |
| 6.3 基本方針 | 87 |
| 6.4 計画の目標 | 89 |
| (1) 人口等の計画フレーム | 89 |
| (2) 平地林の維持目標 | 89 |

| | |
|----------------------------|-----|
| 第7章 みどりの推進施策 | 91 |
| 7.1 施策の実施時期 | 91 |
| 7.2 施策の体系 | 91 |
| 7.3 特質すべき事項の詳細内容 | 97 |
| (1) 平地林の保全 | 97 |
| 1) 市民緑地制度等の活用 | 97 |
| (ア) 市民緑地制度の活用 | 97 |
| (イ) 管理協定制度の活用 | 97 |
| 2) 緑地協定制度の推進 | 97 |
| (2) 緑に関する施策における計画反映のための関連性 | 98 |
| 7.4 重点地区のみどりの推進施策 | 102 |
| (1) 重点地区の選定 | 102 |
| (2) 現状と課題 | 102 |
| 7.5 緑化推進に関する施策 | 103 |
| (1) 都市公園等 | 103 |
| (2) 道路 | 103 |
| (3) 商業地・住宅地 | 103 |
| (4) 工業地 | 103 |
| 第8章 進捗管理計画 | 105 |
| 8.1 推進体制 | 105 |
| 8.2 進行管理 | 106 |
| (1) PDCA サイクル | 106 |
| (2) 施策を担当する関連部署 | 107 |
| 資料編 | |
| 1. 三芳町緑の基本計画策定検討委員会 | 109 |
| 2. 用語の説明 | 111 |
| 3. 表や図及び写真の索引と記載頁 | 117 |
| 4. 町内の生物相 | 120 |

第1章 はじめに（緑の基本計画について）

1.1 みどりの役割と機能

本町では、平地林や社寺林、屋敷林、農地、公園、公共施設や住宅等の植栽空間、広場や空地等のオープンスペース^{※1}を「みどり」と定義し、その保全・創出に努めてきました。

みどりには、主に表 1-1 に示すように、環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能、景観形成機能、生き物の生育生息機能及びコミュニティ形成機能の6つの機能や役割が期待されています。

1.2 計画改定の背景

本町では、2005(平成 17)年 3 月に「三芳町緑の基本計画」(以下、「H17 緑計画」という)を策定し、みどりに係る施策を展開し、町域のみどりの保全・活用を図ってきたところです。

このたび、計画期間の 2020(令和 2)年に達することから、その見直しを行うものです。また、上位計画である「三芳町第 5 次総合計画^{※2}」、関連する計画である「三芳町都市計画マスタープラン^{※3}」との整合を図るとともに、これまでの計画の達成度と施策の検証を踏まえつつ、以下の 3 点との整合・連携した改訂を行いました。

- ① 「三芳町第 5 次総合計画-平成 28 年度～平成 35 年度 平成 28 年 4 月」の関連する計画に即すること
- ② 「三芳町都市計画マスタープラン 令和 2 年 4 月」の関連する計画との整合を図ること
- ③ 「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き 平成 30 年 4 月 国土交通省都市局公園緑地・景観課」(以下「生物多様性手引き」という)及び「緑の基本計画における生物多様性の確保に関する技術的配慮事項 平成 23 年

※¹ オープンスペース

公園・広場・河川・農地など建物によって覆われていない土地あるいは敷地内の空地をいいます。

※² 総合計画

1969 年の地方自治法改正により、第 2 条第 4 項「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。」と定められ、総合計画の基本部分である「基本構想」の策定が地方自治体に義務付けられました。総合計画は地方自治体の全ての計画の基本となり、地域づくりの最上位に位置づけられる計画です。

本町では第 5 次総合計画を 2016(平成 28)年 4 月に公表しています。

※³ 三芳町都市計画マスタープラン

都市計画法第 18 条の 2 の規定に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことであり、総合計画、都市計画区域マスタープランに即し、市町村がその都市計画に関する基本的な方針(基本構想、全体構想、地域別構想)を住民の意見を聴きながら定めるものです。

本町では 2018(平成 30)年 5 月～2020(令和 2)年 3 月の期間に策定し、目標年次は 20 年後の 2040(令和 22)年としています。

10月 国土交通省都市局」（以下「生物多様性配慮事項」という）を踏まえた計画とすること

表 1-1 みどりの機能と役割

| みどりの機能 | みどりの役割(機能の概要) | 役割 |
|------------|---|-------------------------|
| 環境保全機能 | ① 二酸化炭素の吸収・固定による地球温暖化防止 ② 蒸発散作用によるヒートアイランド現象 ^{※4} の緩和 ③ 生活環境(大気質の浄化、騒音の抑制効果など)の改善 ④ 生物多様性の生育・生息環境の提供 など | 快適なまちづくりを構築する上で重要な役割 |
| レクリエーション機能 | ① 自然とのふれあいの場 ② スポーツ・野外レクリエーションの場 ③ 子どもたちの遊び場 ④ 自然を学ぶ場 など | 健康で安らぎ・憩いのある生活に重要な役割 |
| 防災機能 | ① 地震や火災の際の避難経路・避難場所 ② 火災の延焼防止 ③ 地表からの土の流出や崖崩れ防止 ④ 水源涵養機能促進(雨水流出抑制 ^{※5} 、濁水防止 ^{※6})など | 安全・安心の生活のために重要な役割 |
| 景観形成機能 | ① 街並みに潤いや癒しを与える ② 自然・歴史・文化に根ざした個性的な景観の形成 ③ 都市景観の形成 など | 景観を形成するうえで重要な役割 |
| 生き物の生育生息機能 | ① 生き物の生育・生息地として生物多様性を育む ② 遺伝子や生物種、生態系の保全 ③ エコロジカルネットワーク ^{※7} の形成 など | 生態系の保全・維持に重要な役割 |
| コミュニティ形成機能 | ① 地域住民を主体とした平地林の保全や草花の植栽など住民活動の場 ② 公園での地域のお祭りや催し物など、多世代の住民が交流できる機会を生み出す場 | 人とのつながりやコミュニティの形成に重要な役割 |

※4 ヒートアイランド現象

都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象をいいます。

※5 雨水流出抑制

樹木の樹冠に一時的に雨水が貯まり、さらに幹を通して土壤に浸透させ、一時流出を遅らせることができ、河川等への流出を遅らせることができます。

※6 濁水防止

雨水を土壤に浸透させることにより、流出を遅らせることになり、河川流量を安定化することができます。

※7 エコロジカルネットワーク

野生の生き物が必要とする繁殖の場や餌場、休息の場などの様々な場と、渡りや繁殖、巣立ち、採餌、休息など様々な目的の移動経路の繋がりと、緑のネットワークを形成することです。

1.3 計画の目的

「緑の基本計画」とは、都市緑地法第4条に基づいて市町村が定めることのできる「都市における緑地の適正な保全や緑地の推進に関する基本計画」（以下「緑の基本計画」という。）を定めるものです。

三富新田などに代表される平地林や農地による景観や循環型農業などによる培われた郷土の文化と自然とに立脚し、緑の街並みづくりや自然環境の保全、オープンスペースの創出、生態系の保全といった「みどり」の役割を効果的に発揮させるための指針となる計画です。

この計画は、「みどり」に関わる種々の施策について、住民、事業者(企業)、団体^{※8}、行政との協働により、「みどり」の将来あるべき姿を実現するための方法を示したものです。

※⁸ 本計画において「団体」とは

住民が主体となって組織化された団体をいう。例えば、「みよしグリーンサポート隊」や「竹間沢ほたる育成会」、「北永井さんくのさと」などの団体をイメージしています。

1.4 緑の基本計画の位置づけ

緑の基本計画では、都市計画に関する事項のみならず都市計画制度以外の緑地の保全、公共施設の緑化、民有地の緑化などに関する事項を取り扱います。

本町では、「三芳町第5次総合計画」、「三芳町都市計画マスタープラン」を策定しており、本計画は「三芳町第5次総合計画」を実現するための緑に関するマスタープランとして位置づけられ、同時に「三芳町都市計画マスタープラン」と整合を図ります。

このほか、「三芳町地域防災計画」などに関係する事業についても本計画で取り扱うこととし、各事業実施の段階で整合を図るものとします。

また、本計画は、事業の進捗状況を確認しながら実施していくものとし、社会情勢や環境の変化などに合わせながら、必要に応じて見直しを行うものとします。

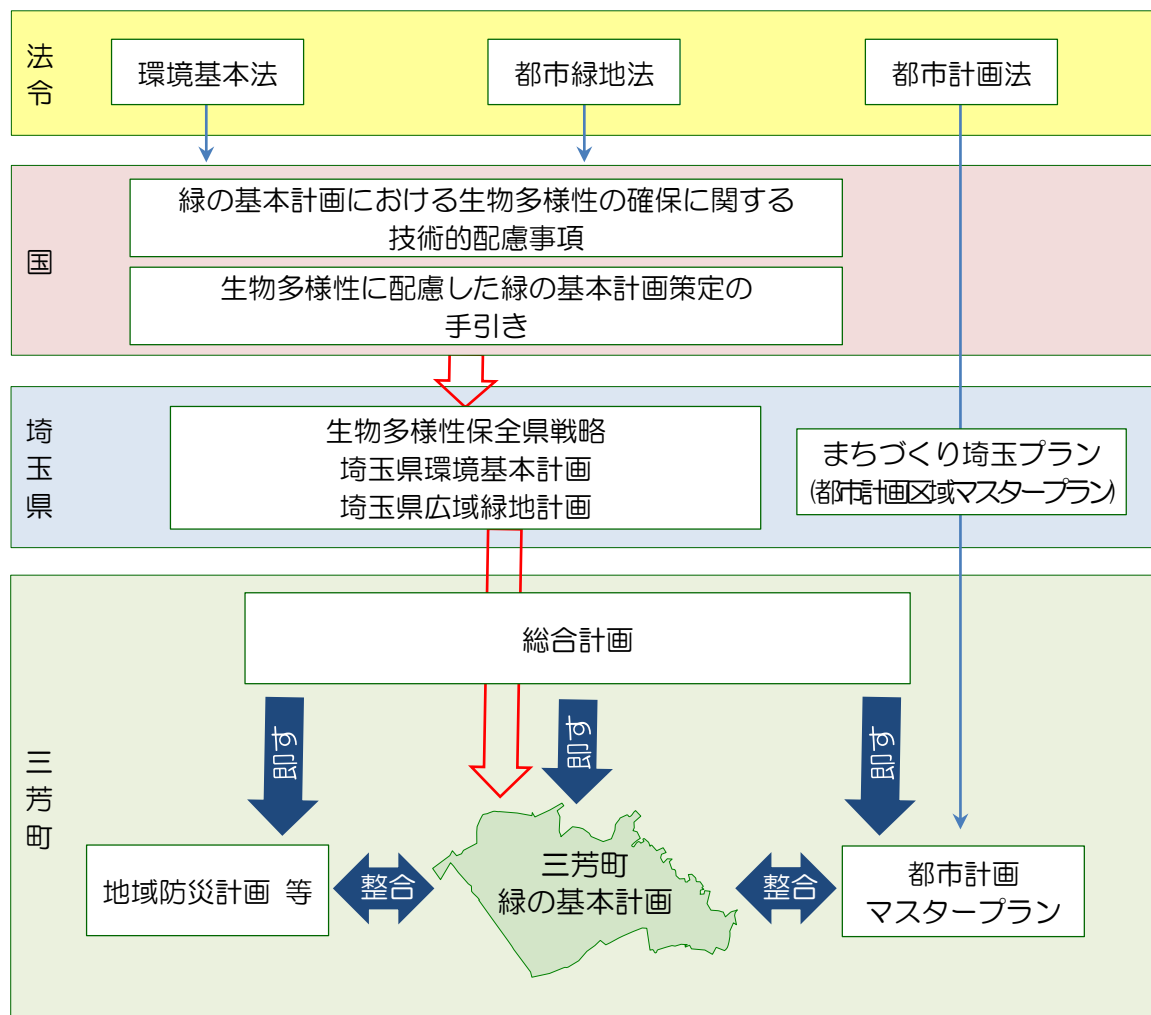


図 1-1 計画の位置づけ

1.5 対象とする緑・緑地の定義

都市緑地法第3条第1項において、「緑地」の定義を「樹林地^{※9}、草地^{※10}、水辺地^{※11}、岩石地^{※12}若しくはその状況がこれらに類する土地^{※13}が、単独で若しくは一体となって、またはこれらと隣接している土地^{※14}が、これらと一体となって、良好な自然的環境を形成しているもの」と定義されています。

本計画で対象とする「みどり」は、法の緑地を含むとともに、図1-2のような植物が生育する土地及びこれらと一体となった水面やオープンスペース等を含むものとしします。

なお、「緑地」は施設緑地^{※15}と地域制緑地^{※16}に分類され、緑地における町域の該当状況を表1-2に整理しました。

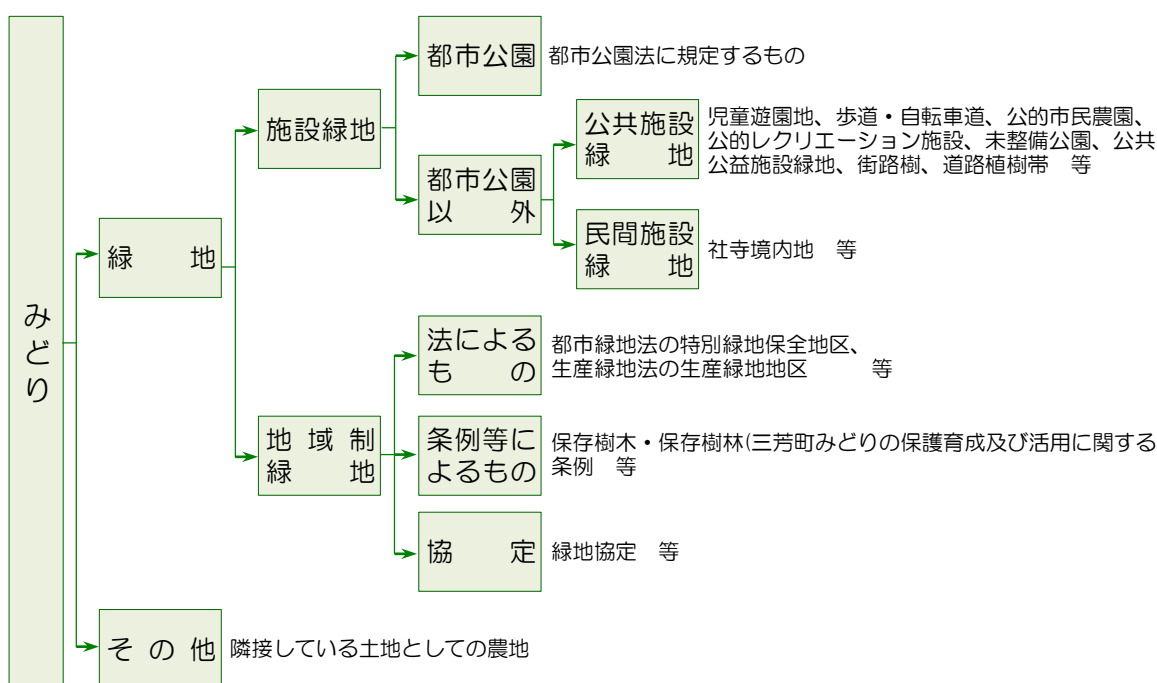


図 1-2 緑地の分類

※⁹ 樹林地：当該土地の大部分について樹木が生育している一団の土地であり、樹林には竹林も含まれる。

※¹⁰ 草地：当該土地の大部分が草で被われている土地であり、ゴルフ場のような人工草地も含まれ、農地は原則含まれない。

※¹¹ 水辺地：池沼、河川、海、湖等の水面を含むそれらの周辺地域である。

※¹² 岩石地：当該土地の大部分が岩石で被われている土地又は岩石が風化して角礫を多く含んだ状態の土地をいい、具体的には、海浜の岩礁地、溶岩台地等をいう。

※¹³ 類する土地：樹林地に類するものとして屋敷林、庭園、街道の並木等、水辺地に類するものとして湿地帯等、岩石地に類するものとして砂丘地等をいい、農地は原則として含まれない。

※¹⁴ 隣接している土地：上記、樹林地等の土地と一体となって良好な自然的環境を形成している土地の範囲をいい、この隣接地には緑地に介在する農地も含まれ得る。

※¹⁵ 施設緑地：施設整備を通じて緑地の保全・創造を図るものであり、都市公園が代表的なものである。

※¹⁶ 地域制緑地：緑地保全のための法律や条例による土地利用規制等を通じて緑地の保全・創造を図るものであり、都市緑地法の「特別緑地保全地区」や「緑地協定」が代表的なものである。

表 1-2 緑地の分類と町域における該当の有無

| 緑地の分類 | | 分類の内容 | | 三芳町該当の有無 |
|-----------------------|----------|---|--|----------|
| 施設緑地 | 都市公園 | 都市公園法に規定するもの ^{※17} | | ○ |
| | 都市公園以外 | 公共施設緑地 | 都市公園以外で公園緑地に準じる機能を持つ施設 公共空地、国民公園、自転車歩行者専用道路、歩行者専用道路、地方自治法設置又は市町村条例設置の公園、公共団体の市民農園、公開教育施設(国公立)、河川緑地、港湾緑地、農業公園、児童遊園、公共団体の運動場やグラウンド、こどもの国等 | ○ |
| | | 公共公益施設における植栽地等 | 学校の植栽地、下水道処理場等の付属緑地、道路環境施設帯及び植樹帯、公共公益施設の植栽地等 | ○ |
| | 民間施設緑地 | 市民緑地、社寺境内地 | | ○ |
| | | 公開空地、市民農園(上記以外)、一時開放広場、教育施設(私立)、開放企業グラウンド(協定)、民間の屋上緑化空間、民間の動物園 等 | | ○ |
| 地域制緑地 | 法による地域 | 都市緑地法 | 緑地保全地域 特別緑地保全地区 | — |
| | | 都市計画法 | 風致地区 | — |
| | | 生産緑地法 | 生産緑地地区 | — |
| | | 首都圏近郊緑地保全法等 | 近郊緑地特別保全地区 | — |
| | | | 近郊緑地保全区域 | — |
| | | 古都保存法 | 歴史的風土保存区域 | — |
| | | | 歴史的風土特別保存地区 | — |
| | | 景観法 | 景観地区で緑地に係る事項を定めているもの | — |
| | | | 景観重要樹木 | — |
| | | 自然公園法 | 自然公園 | — |
| | | 自然環境保全法 | 自然環境保全地域 | — |
| | | 農業振興地域整備法 | 農業振興地域・農用地区域 | ○ |
| | | 河川法 | 河川区域 | — |
| | 森林法 | 保安林区域 | — | |
| | | 地域森林計画対象民有林 | ○ | |
| | 樹木保存法 | 保存樹・保存樹林 | ○ | |
| | 文化財保護法 | 史跡・名勝・天然記念物等の文化財で緑地として扱えるもの | ○ | |
| | 条例等によるもの | 条例・要綱・契約、協定等による緑地の保全地区や緑化の協定地区、樹林等の保存契約、協定による工場植栽地等 | | ○ |
| | | 埼玉県自然環境保全条例 | 県自然環境保全地域 | ○ |
| | | ふるさと埼玉の緑を守る条例 | ふるさとの緑の景観地等 | ○ |
| | | 埼玉県文化財保護条例 | 旧跡：三富開拓地割遺跡 | ○ |
| | | 三芳町文化財保護条例 | 古道：川越街道(松並木) | ○ |
| | | | 古道：地藏街道(木ノ宮地藏堂境内林) | ○ |
| 古道：鎌倉街道(町道竹間沢 55 号線) | | | ○ | |
| 三芳町みどりの保護育成及び活用に関する条例 | 緑化の指導 | ○ | | |
| 協定 | 都市緑地保全法 | 緑地協定 | ○ | |
| | 景観法 | 景観協定で緑地に係る事項を定めているもの | — | |

資料：緑の基本計画ハンドブック改訂版（発行(社)日本公園緑地協会）に一部加筆

※17 都市公園：本町における都市公園とは、都市計画区域内において設置する公園又は緑地で、当該公園又は緑地に設ける公園施設を含むものをいいます。

1.6 計画の対象区域

本計画は、2020(令和 2)年 3 月末現在、都市計画区域としている三芳町全域(15.33km²)を対象とします。

1.7 計画の期間

計画期間は、関連計画を考慮して 2040(令和 22)年までとします。



マヤラン
(環境省 VU、埼玉県 DD)

第2章 三芳町の現況と特性

2.1 三芳町の現況

(1) 自然的条件

1) 位置・特徴

本町は、埼玉県南西部、武蔵野台地の北東部に位置する。南北約 4.2km、東西約 6.9km、海拔 11～50m の範囲にあり、北東に向けて緩やかな傾斜を有し、面積 15.33km² の都市です。

周囲を川越市、所沢市、ふじみ野市、富士見市、志木市、新座市と接し、東京都心まで 30km 圏内の距離にあります。

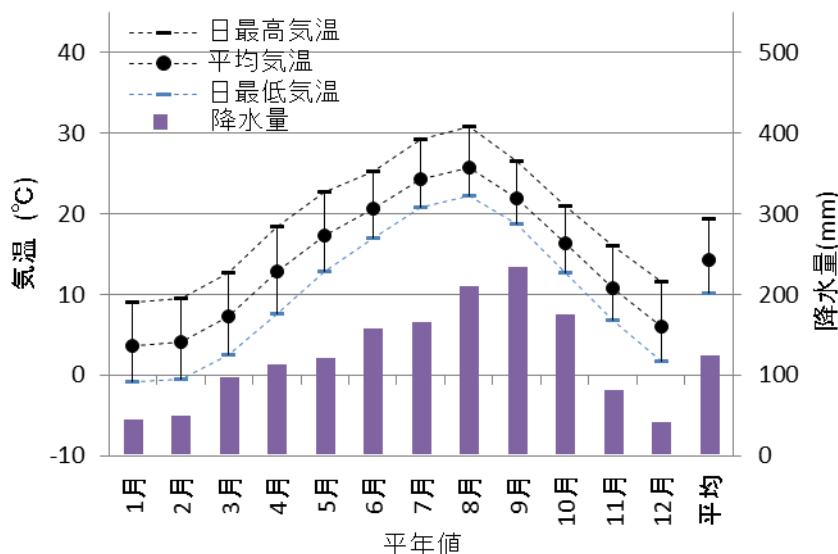
武蔵野台地上に、上富の県指定旧跡である三富開拓地割遺跡に代表される、独特な地割りを持った農耕地が広がっており、また、その中に季節風を防ぐ防風林や薪炭林として発達したクヌギ・コナラ等の二次林が南北方向に農耕地を挟んだ形で存在しています。この二次林は武蔵野の風土を象徴する歴史的遺産として重要なもので、県指定ふるさとの緑の景観地に指定されています。

2) 気象・地形の状況

(ア) 気象

所沢気象観測所(気象庁所沢地域気象観測所-所沢市勝楽寺-)における平年値の気象の状況を図 2-1 に、2015(平成 27)年の風向・風速の状況を図 2-2 に示しました。

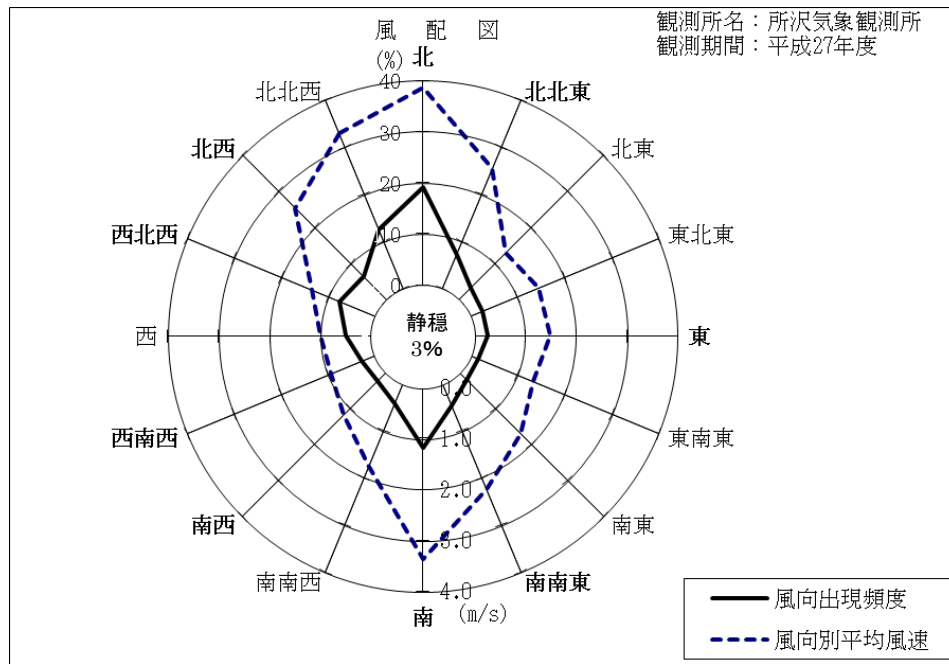
年間降水量は 1,300～1,820mm、年間の風については、北の風が卓越し、平均風速は 2.5m/s です。



資料：平成 28 年度 緑のトラスト保全第 14 号地 自然環境調査 埼玉県 平成 29 年 3 月

図 2-1 平年値(1981～2010 年の 30 年間)の気象状況

第2章三芳町の現況と特性



資料：平成28年度 緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査 埼玉県 平成29年3月

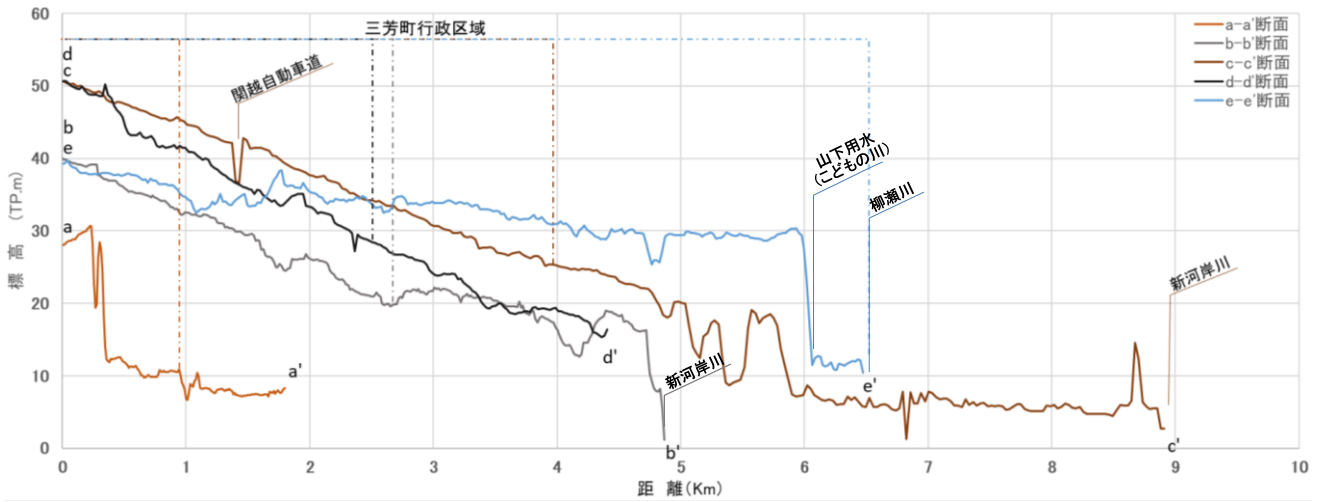
図2-2 風配図の状況

(イ) 地形

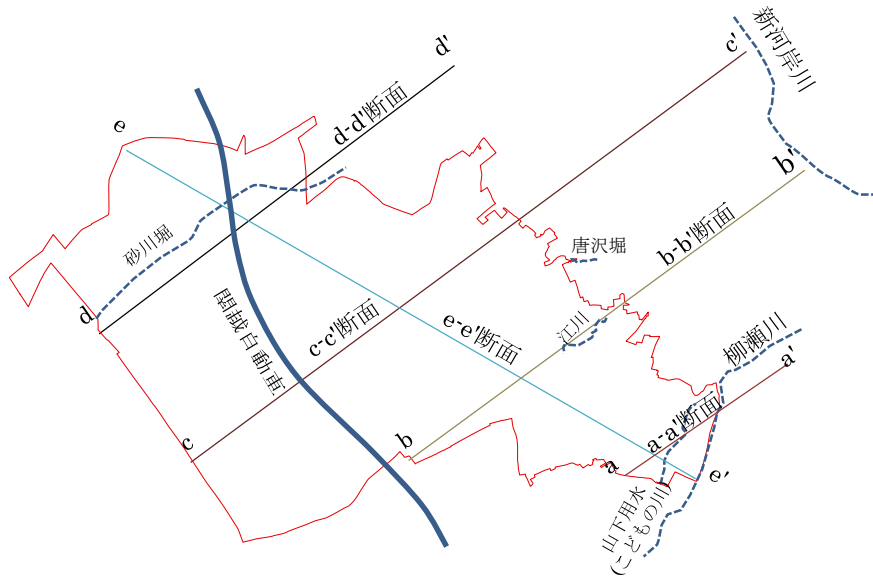
本町は火山灰台地Ⅱからなる武蔵野台地の北東部に位置し、ほぼ全域が台地上にあり、北東方向へ緩やかに傾斜しています。これらの台地の上には小さな谷(凹地形)が存在しますが、いずれも浅く北東方向に向いています。台地の東側には柳瀬川に面して比高約20mの崖があり、柳瀬川の低地に注いでいます。(図2-3、図2-4参照)

台地は関東ローム層によって被覆されており、台地東縁の崖をみると、一般には厚さは4~5mで、武蔵野ローム層と立川ローム層です。しかし、台地全体ではローム層が6mを超えるところもあるので、下末吉ローム層の上部が存在する可能性があります。関東ローム層の下は武蔵野礫層が厚く堆積しています。

本町の河川は東南端を流れる柳瀬川のみで、柳瀬川に臨む台地の崖下に湧水が山下用水(こどもの川)となって流れています。その他、北部には都市下水路の砂川堀、排水路として東部には唐沢堀、江川があります。



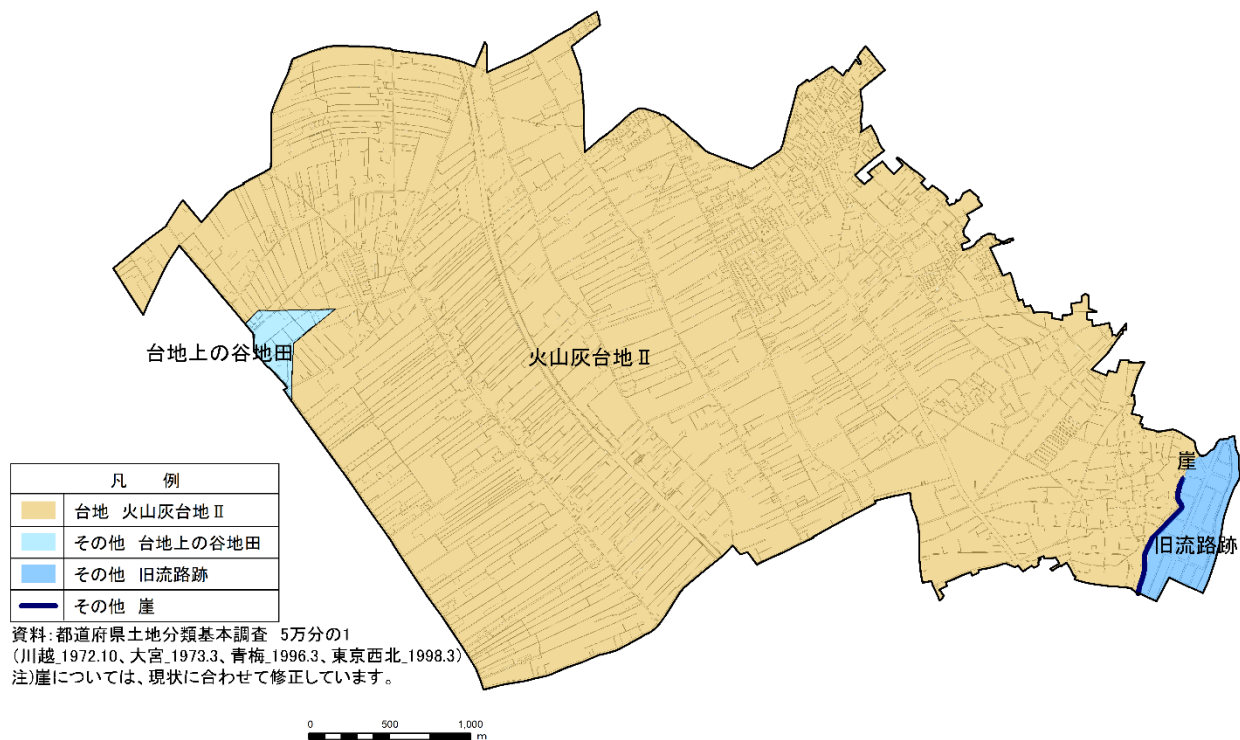
a.断面図



b.断面位置

図 2-3 断面位置と地形断面

第2章 三芳町の現況と特性



資料：都道府県土地分類基本調査 5万分の1
 (川越、大宮、青梅、東京西北)より作成

図 2-4 地形分類図

3) 緑の状況

本町の自然的土地利用地^{※18}は、2015(平成 27)年度において全体で約 700ha あるのに対して、市街化区域では約 19ha と自然的土地利用地全体の 3%と少なく、市街化調整区域に集中しています。これは、市街化区域では人口集中による都市基盤整備や企業の進出による職住近接という面での利点を生み出した一方で、急速な変化による緑地の減少があります。

市街化調整区域では、歴史遺産として多福寺や三富開拓地割遺跡など 681ha の自然地があり、武蔵野の面影が多く残されています。特に農地が全体の 76%、532ha が農用地として利用されています。

表 2-1 自然的土地利用の状況

| 土地利用区分 | | 市街化区域 | | 市街化調整区域 | | 都市計画区域 (町全体) | |
|-----------|--------|-------|-----|---------|------|-----------------|-------|
| | | ha | % | ha | % | ha | % |
| 自然的 利用 | 田 | 0.00 | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 | 0 |
| | 畑 | 15.39 | 2.2 | 531.55 | 75.9 | 546.94 | 78.1 |
| | 山林 | 2.23 | 0.3 | 140.11 | 20.0 | 142.34 | 20.3 |
| | 水面 | 0.78 | 0.1 | 2.01 | 0.3 | 2.79 | 0.4 |
| | その他自然地 | 0.25 | 0.0 | 7.69 | 1.1 | 7.94 | 1.1 |
| | 小計 | 18.65 | 2.7 | 681.36 | 97.3 | 700.01 | 100.0 |

資料：平成 27 年 都市計画基礎調査

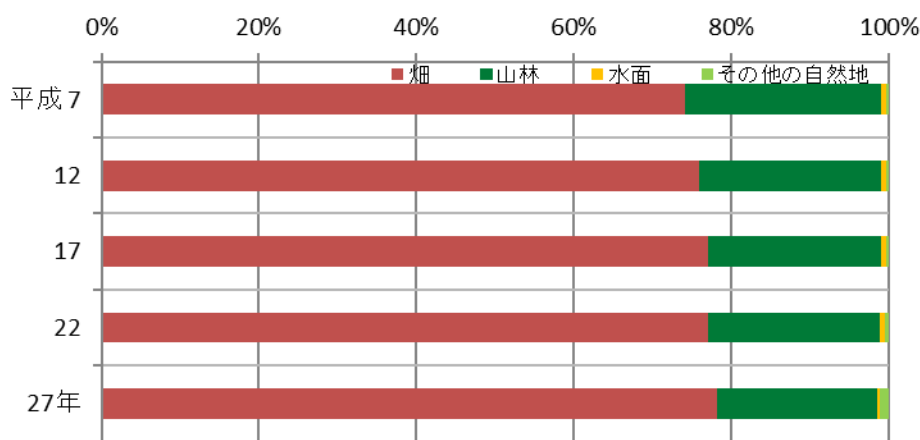
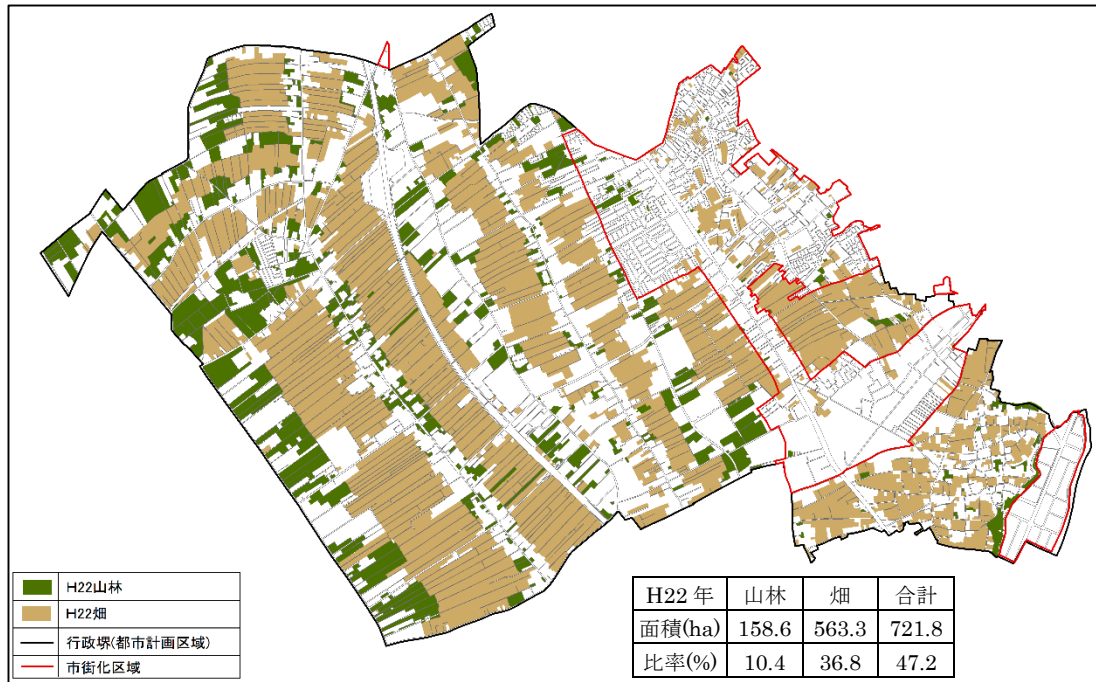
資料：埼玉県統計年鑑 <https://www.pref.saitama.lg.jp/kense/toke/nenkan/h13/index.html>

図 2-5 自然的土地利用の経年変化

明治 19(1886)年の緑被地は 30% (461ha)、2015(平成 27)年には 9%(142ha) と 3分の 1 程になっており、特に北東側の浅間後、富士塚、北松原、藤久保や北永井等の各地区、川越街道(国道 254 号)等の道路沿道の緑地の減少が認められます。(図 2-6～図 2-9 参照)

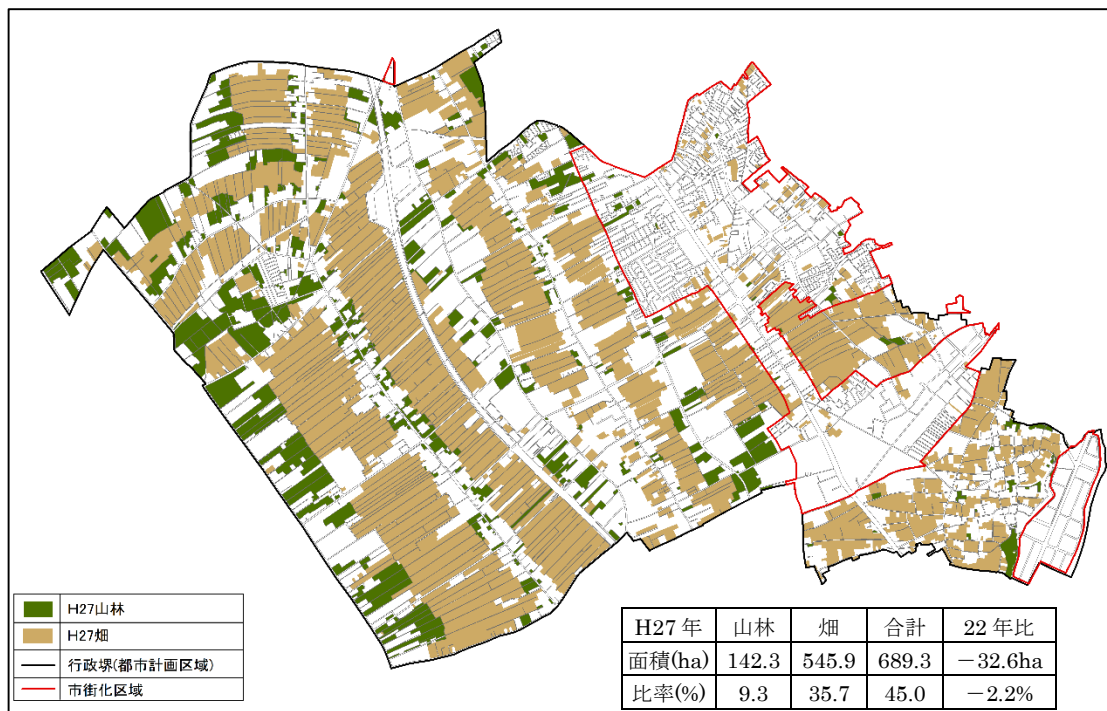
※18 自然的土地利用

ここでは、田、畑、山林、水面及びその他自然地を自然的土地利用と称しています。



資料：みどりの保全・活用_里地・里山に会えるまち・三芳 p8 (平成24年度 三芳町都市計画基礎調査)

図 2-8 2010(平成22)年時の緑被地(山林・畑)状況



資料：平成27年度 三芳町都市計画基礎調査 平成28年3月

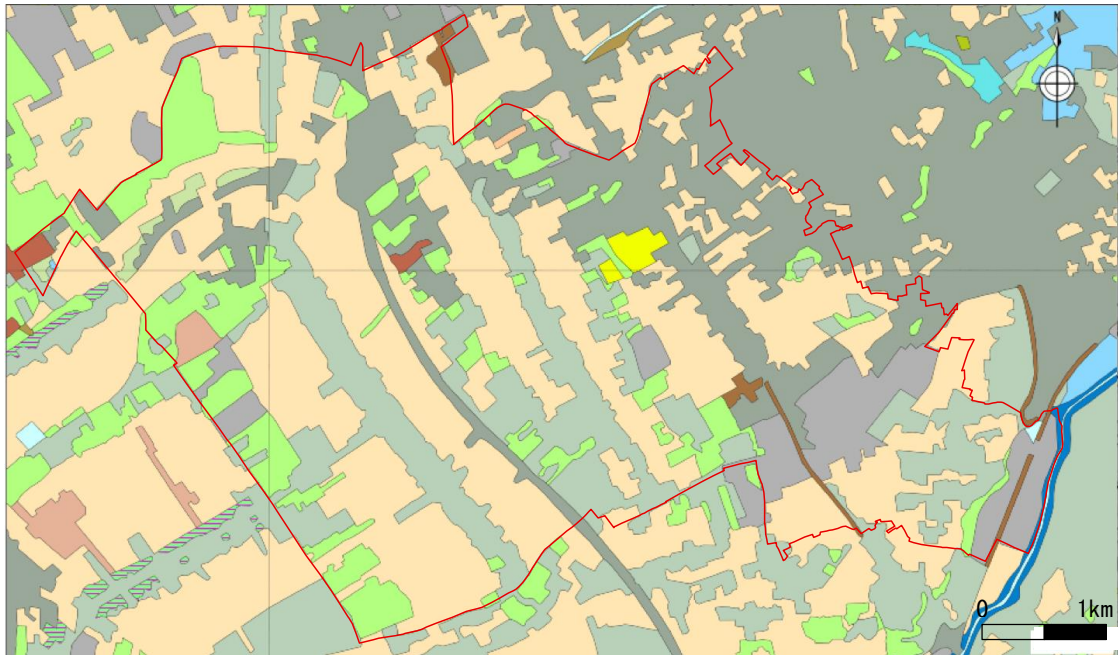
図 2-9 2015(平成27)年時の緑被地(山林・畑)状況

第2章三芳町の現況と特性

4) 植生の状況

本町及びその周辺における植生の状況を図 2-10 に示すとおりであり、自然度植生はヤブツバキクラス域代償植生(常緑広葉樹林帯)に属し、植生はクリ-コナラ群集、アカマツ等の二次林となっています。

また、緑の多い住宅地は、北永井や上富の住宅地に多く分布しています。



【植生調査(1/2.5万) 第6-7回 植生図 凡例】

| | | | |
|-------------------|------------------|---------------------|--------------------------|
| 270101 シラカシ群集 | 541000 その他植林 | 420100 アカマツ群落 | 570300 畑雑草群落 |
| 310100 ハンノキ群落 | 550000 竹林 | 420101 ヤマツツジ-アカマツ群集 | 570400 水田雑草群落 |
| 320100 ヤナギ高木群落 | 550100 モウソウチク林 | 430200 メダケ群落 | 570500 放棄水田雑草群落 |
| 320200 ヤナギ低木群落 | 550200 マダケ・ハチク林 | 440000 低木群落 | 580100 市街地 |
| 400101 ケヤキ-シラカシ群落 | 560100 ゴルフ場・芝地 | 450100 ススキ群集 | 580101 緑の多い住宅地 |
| 400104 シラカシ屋敷林 | 560200 牧草地 | 450101 アズマネザサ-ススキ群集 | 580200 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
| 410100 コナラ群落 | 570100 路傍・空地雑草群落 | 470400 ヨシクラス | 580300 工場地帯 |
| 410101 クリ-コナラ群集 | 570101 放棄畑雑草群落 | 470502 オギ群集 | 580400 造成地 |
| 410102 クヌギ-コナラ群集 | 570200 果樹園 | 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 580600 開放水域 |
| 410400 アカシ-イヌシデ群落 | 570201 茶畑 | 540200 アカマツ植林 | 580700 自然裸地 |
| | | 540902 ニセアカシア群落 | 580800 残存・植栽樹群地 |

資料：環境省生物多様性センターホームページ
http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html#mainText

図 2-10 植生の状況

5) 平地林の状況

(ア) 平地林の状況

本町の緑の特徴として、平地林が多く点在しており、緑豊かな街並みを形成していることが挙げられます。2015(平成27)年でみると、図2-12、表2-2及び図2-11に示すとおり、筆数430筆、面積142.7haであり、その規模は町域の9.3%を占めています。

500m²以上の平地林をみると、面積では98.3%を占め、筆数では71.4%を占めています。

平地林の経年変化については、図2-22(p39)の土地利用の状況で示していますが、「H17緑計画」策定時からの変化量をみると、2000(平成12)年は188.4ha、2015(平成27)年は142.3haであり、46.1ha/15年(3.1ha/年)の減となっています。

表2-2 平地林の面積区分別規模状況(2015(平成27)年)

| 平地林 面積区分 | 面積 | | | 筆数 | | |
|-------------|--------|----------|------------|-----|----------|------------|
| | ha | 構成比 % | 累計 百分率% | 筆 | 構成比 % | 累計 百分率% |
| 3.0ha以上 | 10.32 | 7.3 | 7.3 | 3 | 0.7 | 0.7 |
| ~2.5ha | 0.00 | 0.0 | 7.3 | 0 | 0.0 | 0.7 |
| ~2.0ha | 15.66 | 11.0 | 18.3 | 7 | 1.6 | 2.3 |
| ~1.5ha | 13.67 | 9.6 | 27.9 | 8 | 1.9 | 4.2 |
| ~1.0ha | 23.69 | 16.6 | 44.5 | 20 | 4.7 | 8.8 |
| ~0.5ha | 32.02 | 22.5 | 67.0 | 44 | 10.2 | 19.1 |
| ~0.4ha | 11.29 | 7.9 | 74.9 | 26 | 6.0 | 25.1 |
| ~0.3ha | 9.02 | 6.3 | 81.3 | 26 | 6.0 | 31.2 |
| ~0.2ha | 10.02 | 7.0 | 88.3 | 41 | 9.5 | 40.7 |
| ~0.1ha | 9.21 | 6.5 | 94.8 | 64 | 14.9 | 55.6 |
| ~0.05ha | 4.97 | 3.5 | 98.3 | 68 | 15.8 | 71.4 |
| ~0.01ha | 2.25 | 1.6 | 99.9 | 72 | 16.7 | 88.1 |
| 0.01ha未満 | 0.21 | 0.1 | 100.0 | 51 | 11.9 | 100 |
| 合計 | 142.34 | 100.0 | - | 430 | 100.0 | - |

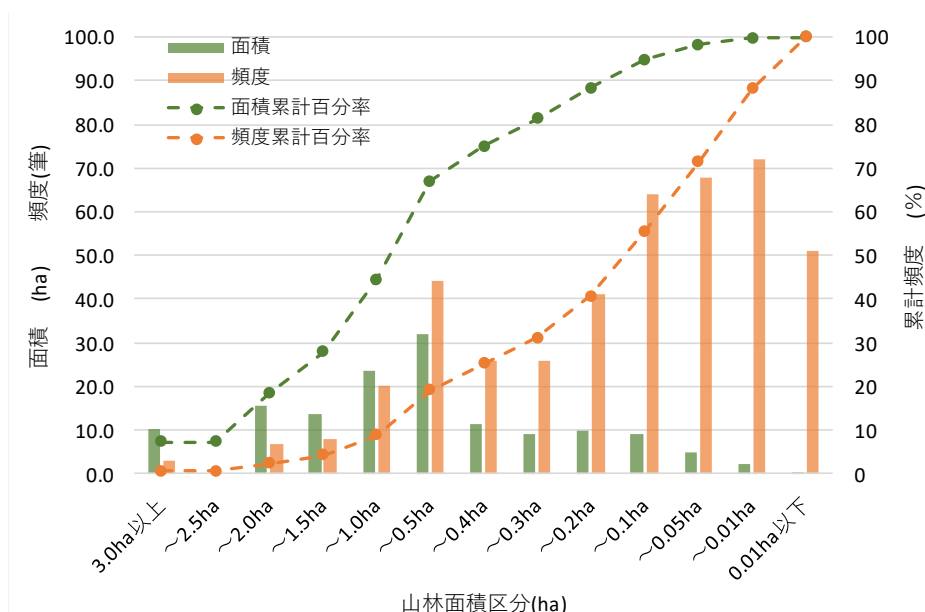


図2-11 平地林の面積区分別規模状況(2015(平成27)年)



図 2-12 平地林の分布状況(2015(平成 27)年)

(イ) 森林整備計画

地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進する森林整備計画を策定しています。

平地林は 143ha の規模を有し、そのうち、民有林面積は 132ha(うち地域森林計画対象森林 116ha、図 2-13 参照)を占めており、そのほとんどはクヌギ・コナラ等を主体とした二次林です。

現状と課題を踏まえ、森林の有する諸機能をより高度に発揮させるため、広葉樹施業や天然生林の的確な保全・整備を進め、多様な森林の育成を図るものです。特に三富地区の農用林として活用されている平地林で活動する各種団体による体験落ち葉掃き、下草刈り等の活動を支援しています。また、イベント等を開催し、これら活動を通じて環境教育、健康づくりの場としての活用を図る計画です。



図 2-13 森林整備計画対象林の状況

6) 動物・植物の生息・生育状況

(ア) 町内の生物相

既存資料（「みよしほたる文庫 人と緑の文化誌」（平成5年2月）、「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年3月）の「荒川西台地」）で確認されている種、「緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査」（平成29年3月 埼玉県 以下、トラスト14号地という）、「くぬぎ山地区自然環境調査報告書」（平成30年3月 埼玉県 以下、くぬぎ山地区という）及び「上富地区自然環境調査報告書」（平成29年3月（公財）埼玉県生態系保護協会 以下、自然環境保全地域という）を基にリストアップしました。

なお、三芳町歴史民俗資料館では、定期的に住民を対象とした観察会を実施し、その中で植物の植物相や生育状況を確認しています。平成29年4月の観察会では、シュンラン等36種を確認しています。

ア) 植物

既存資料では98科331種の植物が確認され、くぬぎ山地区で46科75種、トラスト14号地で79科197種、自然環境保全地域で89科258種の植物が確認されています。

イ) 鳥類

既存資料では13目29科59種が確認され、くぬぎ山地区で5目18科32種、トラスト14号地で13目27科52種、自然環境保全地域で8目23科40種の鳥類が確認されています。

ウ) 両生類・爬虫類

既存資料の両生類ではくぬぎ山地区のみにおいて2目2科2種（ニホンアマガエル、アズマヒキガエル）が、爬虫類では1目4科8種（ニホンヤモリ等）が確認されています。爬虫類の確認状況をみると、くぬぎ山地区で1目3科5種、トラスト14号地で1目4科5種、自然環境保全地域で1目3科3種が確認されています。

エ) 哺乳類

既存資料では5目6科7種が確認され、くぬぎ山で4目4科4種、トラスト14号地で2目4科4種、自然環境保全地域で3目4科5種の哺乳類が確認されています。

オ) 昆虫類

既存資料では14目185科640種の昆虫類が確認され、くぬぎ山で9目42科68種、トラスト14号地で13目162科527種、自然環境保全地域で8目54科119種の昆虫類が確認されており、トラスト14号地では21科59種のクモ類が確認されています。

第2章 三芳町の現況と特性

(イ) 生物の地理的分布

ア) 重要な植物の状況

重要な生物種は、RDB^{※19}に記載されている種を対象に選定されており、植物では表 2-3、写真 2-1 に示すようにエビネ、ギンラン、キンラン、ササバギンラン、サイハイラン、シュンラン、オオバノトンボソウの7種が確認されています。

表 2-3 重要な植物の確認状況

| 番号 | 種名(和名) | 重要種選定基準 | | | | | 確認地域 | | |
|----|-----------|---------|----|-----|----|----|------|------|-----|
| | | I | II | III | IV | V | 14号地 | くぬぎ山 | 自環地 |
| 1 | エビネ | | | | EN | | | | ○ |
| 2 | ギンラン | | | | VU | | ○ | | |
| 3 | キンラン | | | VU | EN | | ○ | | |
| 4 | ササバギンラン | | | | NT | | ○ | | |
| 5 | サイハイラン | | | | NT | | ○ | | |
| 6 | シュンラン | | | | NT | | ○ | | |
| 7 | オオバノトンボソウ | | | | NT | | | | ○ |
| 合計 | 7種 | 0種 | 0種 | 1種 | 7種 | 0種 | 5種 | 0種 | 2種 |

I：『文化財保護法』(1950年 法律第214号)、(以下、文化財保護法という)
 II：『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』(1992年 法律第75号)、(以下、種の保存法という)
 III：『レッドリスト2015について』(環境省)平成27年9月 8 植物I(維管束植物)平成27年3月、(以下、国レッドリストという)
 IV：『埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2011 植物編』(平成24年3月 埼玉県)、(以下、埼玉レッド植物という)
 V：『埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例』(平成15年3月 条例第11号)、(以下、種の保護条例という)
 注1)選定基準の記号 絶滅危惧I類(EN)、絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT)をいう。
 注2)「自環地」は「自然環境保全地域」を略して記載しています。



資料：平成28年度 緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査 埼玉県 平成29年3月
 ：「くぬぎ山地区自然環境調査報告書」 埼玉県 平成30年3月
 ：エビネは令和元年7月現地踏査による記録

写真 2-1 重要な植物の確認状況

※¹⁹ RDB レッドデータブック(Red Data Book(RDB))は、絶滅のおそれのある野生生物に関する保全状況や分布、生態、影響を与えている要因等の情報を記載した図書であり、国では「レッドリスト2015について(環境省)平成27年9月 平成27年3月」、埼玉県では「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2011 植物編』(平成24年3月 埼玉県)」、「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2018 動物編』(令和元年12月 埼玉県)」が発行されています。

イ) 重要な鳥類の状況

重要種は表 2-4、写真 2-2 に示すようにオオタカ、サシバなど樹林地を生活圏とする 17 種の鳥類が確認されています。

表 2-4 重要な鳥類の確認状況

| 番号 | 種名 | 重要種選定基準 | | | | | 14号地 | | 確認地域 | |
|----|---------|---------|----|-----|-----|----|-------------|-----------|------|-----|
| | | I | II | III | IV | V | 内及び 周辺確認 | 区域内 確認 | くぬぎ山 | 自環地 |
| 1 | ヒメアマツバメ | | | | LP | | ○ | | | |
| 2 | アオサギ | | | | DD | | | | | |
| 3 | ツミ | | | | NT | | ○ | | | |
| 4 | オオタカ | | ○ | NT | VU | | ○ | ○ | | ○ |
| 5 | ノスリ | | | | NT2 | | | | | ○ |
| 6 | サシバ | | | VU | EN | | ○ | | | |
| 7 | アオゲラ | | | | RT | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 | ハヤブサ | | ○ | VU | VU | | ○ | | | ○ |
| 9 | チョウゲンボウ | | | | NT | | ○ | | | |
| 10 | ヤマガラ | | | | RT | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 11 | ウグイス | | | | RT | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 12 | コサメビタキ | | | | CR | | | | | |
| 13 | エナガ | | | | RT | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 14 | ジョウビタキ | | | | RT | | | | ○ | ○ |
| 15 | キビタキ | | | | RT | | ○ | ○ | | |
| 16 | ホオジロ | | | | RT | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 17 | アオジ | | | | NT | | ○ | | ○ | ○ |
| 合計 | 17種 | 0種 | 2種 | 3種 | 17種 | 0種 | 13種 | 7種 | 7種 | 10種 |

注1) I:文化財保護法

II:種の保存法

III:国レッドリスト

IV:『埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008 動物編』(平成20年3月 埼玉県、(以下、埼玉レッド動物という))

V:種の保護条例

注2) 選定基準の記号 絶滅危惧IA類(CR)、絶滅危惧IB類(EN)、絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT)、準絶滅危惧2型(NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)をいう。

注3) 「自環地」は「自然環境保全地域」を略して記載しています。

第2章 三芳町の現況と特性

| | | |
|---|---|---|
|  |  |  |
| ヒメアマツバメ (アマツバメ科) | ツミ (タカ科) | オオタカ (タカ科) |
|  |  |  |
| サシバ (タカ科) | アオゲラ (キツツキ科) | ハヤブサ (ハヤブサ科) |
|  |  |  |
| チョウゲンボウ (ハヤブサ科) | ヤマガラ (シジュウカラ科) | ウグイス (ウグイス科) |
|  |  |  |
| エナガ (エナガ科) | キビタキ (ヒタキ科) | ホオジロ (ホオジロ科) |
|  | - | - |
| アオジ (ホオジロ科) | | |

資料：平成28年度 緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査 埼玉県 平成29年3月

写真 2-2(1) 重要な鳥類の確認状況

ウ) 重要な両生類・爬虫類の状況

両生類の重要種は確認されていませんが、爬虫類の重要種はニホンヤモリ等 5種が確認されています。なお、ヒバカリについては、令和元年7月9日の現地踏査において、「北永井さんくのさと」の平地林で1個体を確認しました。(表 2-5、写真 2-3 参照)

表 2-5 重要な爬虫類の確認状況

| 番号 | 種名 | 重要種選定基準 | | | | | 確認地域 | | | |
|----|-----------|---------|----|-----|----|---|------|------|-----|-----------|
| | | I | II | III | IV | V | 14号地 | くぬぎ山 | 自環地 | 北永井さんくのさと |
| 1 | ニホンヤモリ | | | | NT | | ○ | ○ | | |
| 2 | ヒガシニホントカゲ | | | | RT | | ○ | | ○ | |
| 3 | アオダイショウ | | | | NT | | ○ | ○ | | |
| 4 | ヤマカガシ | | | | NT | | | ○ | | |
| 5 | ヒバカリ | | | | VU | | | | | ○ |
| 合計 | 5種 | 0 | 0 | 0 | 5種 | | 3種 | 3種 | 1種 | 1種 |

注1) I：文化財保護法 II：種の保存法 III：国レッドリスト IV：埼玉レッド動物 V：種の保護条例
選定基準の記号 絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT)、地帯別危惧(RT)をいう。

注2) 「自環地」は「自然環境保全地域」を略して記載しています。

| | | |
|---|--|--|
|  |  |  |
| ニホンヤモリ (ヤモリ科) | ヒガシニホントカゲ (トカゲ科) | アオダイショウ (ナミヘビ科) |
|  | — | — |
| ヒバカリ (ナミヘビ科) | | |

資料：平成28年度 緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査 埼玉県 平成29年3月
ただし、ヒバカリは令和元年7月の現地踏査において確認した記録です。

写真 2-3 重要な爬虫類の確認状況

イ) 重要な哺乳類の状況

重要種ではホンドタヌキ等3種が確認されています。(表 2-6、写真 2-4 参照)

表 2-6 重要な哺乳類の確認状況

| 番号 | 種名 | 重要種選定基準 | | | | | 確認地域 | | |
|----|----------|---------|----|-----|----|---|------|------|-----|
| | | I | II | III | IV | V | 14号地 | くぬぎ山 | 自環地 |
| 1 | ノウサギ科の一種 | | | | RT | | | | ○ |
| 2 | ホンドタヌキ | | | | RT | | ○ | ○ | ○ |
| 3 | ホンドイタチ | | | | RT | | | | ○ |
| 合計 | 3種 | 0 | 0 | 0 | 3種 | | 1種 | 1種 | 3種 |

注1) I：文化財保護法 II：種の保存法 III：国レッドリスト IV：埼玉レッド動物 V：種の保護条例
選定基準の記号 地帯別危惧(RT)をいう。

注2) 「自環地」は「自然環境保全地域」を略して記載しています。



ホンドタヌキ (イヌ科)

ホンドイタチ(イヌ科)

資料：平成28年度 緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査 埼玉県 平成29年3月
ただし、ホンドイタチは弊社資料です。

写真 2-4 重要な哺乳類の確認状況

カ) 重要な昆虫類の状況

重要種は表 2-7、写真 2-5 に示すように、21 種（トラスト 14 号地で 12 種、くぬぎ山地区で 3 種、自然環境保全地域で 9 種）が確認されています。

表 2-7 重要な昆虫類等の確認種

| | 番号 | 種名 | 重要種選定基準 | | | | | 確認地域 | | |
|-----|----|-------------|---------|----|-----|-----|----|------|------|-----|
| | | | I | II | III | IV | V | 14号地 | くぬぎ山 | 自環地 |
| 昆虫類 | 1 | クツワムシ | | | | EN | | ○ | | ○ |
| | 2 | コガタコオロギ | | | | NT | | ○ | | |
| | 3 | ヤスマツトビナナフシ | | | | NT | | ○ | | ○ |
| | 4 | ヒメカマキリモドキ | | | | VU | | ○ | | ○ |
| | 5 | ミヤマセセリ | | | | NT1 | | | | ○ |
| | 6 | ジャノメチョウ | | | | NT | | | ○ | |
| | 7 | ウラナミアカシジミ | | | | NT | | | ○ | |
| | 8 | メスグロヒョウモン | | | | NT2 | | | | ○ |
| | 9 | ミスジチョウ | | | | NT2 | | | | ○ |
| | 10 | ヒオドシチョウ | | | | VU | | | | ○ |
| | 11 | ヤママユ | | | | RT | | | | ○ |
| | 12 | コシロシタバ | | | NT | | | ○ | | |
| | 13 | フシキキシタバ | | | | NT | | ○ | | |
| | 14 | ハチモドキハナアブ | | | | NT | | ○ | | |
| | 15 | トダセスジゲンゴロウ | | | VU | EN | | ○ | | |
| | 16 | シリアカハネナガウンカ | | | | NT1 | | | | ○ |
| | 17 | オオハラナガツチバチ | | | | VU | | ○ | | |
| | 18 | モンスズメバチ | | | DD | | | ○ | | |
| | 19 | フタツバギングチ | | | | EN | | ○ | | |
| | 20 | ワモンイスカバチ | | | | NT | | ○ | | |
| クモ類 | 21 | キシノウエトタテグモ | | | NT | NT | | ○ | | |
| 合計 | | 21種 | 0種 | 0種 | 4種 | 19種 | 0種 | 12種 | 3種 | 9種 |

注1) I：文化財保護法 II：種の保存法 III：国レッドリスト IV：埼玉レッド動物 V：種の保護条例
選定基準の記号 絶滅危惧IA類(CR)、絶滅危惧IB類(EN)、絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT)、準絶滅危惧1型(NT1)、
準絶滅危惧2型(NT2)、情報不足(DD)、地帯別危惧(RT)をいう。

注2) 「自環地」は「自然環境保全地域」を略して記載しています。

| | | |
|---|---|--|
|  |  |  |
| <p>クツワムシ (クツワムシ科)</p> | <p>ヤスマツトビナナフシ (ナナフシ科)</p> | <p>ヒメカマキリモドキ (カマキリモドキ科)</p> |
|  |  |  |
| <p>コシロシタバ (ヤガ科)</p> | <p>フシキキシタバ (ヤガ科)</p> | <p>ハチモドキハナアブ (ハナアブ科)</p> |
|  |  |  |
| <p>トダセスジゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)</p> | <p>オオハラナガツチバチ (ツチバチ科)</p> | <p>モンズメバチ (スズメバチ科)</p> |
|  |  |  |
| <p>フタツバギングチ (ギングチバチ科)</p> | <p>ワモンイスカバチ (ギングチバチ科)</p> | <p>キシノウエトタテグモ (トタテグモ科)</p> |

資料：平成28年度 緑のトラスト保全第14号地 自然環境調査 埼玉県 平成29年3月

写真 2-5 重要な昆虫類の確認状況

(ウ) 生息環境の分布状況

動物の生息環境として、平地林とその一体となる緑地としてカウントされる畑地について、その分布状況を「生物多様性手引き」を参考に、動植物の生息地又は生育地となるポテンシャルを有する緑地等の「指標1」※20、エコロジカルネットワークの「指標3」※21及び生態系サービスの「指標5」※22を数量化しています。

指標1、指標3及び指標5を数量化することで、生息環境としての分布状況を確認すると、以下のとおりです。

ア) 指標1：生息地となるポテンシャルを有する緑地等の指標

農地も緑地に見なされており、その分布状況を図2-14に示します。動植物の生息地又は生育地となるポテンシャルを有する緑地等の量的な状況を都市計画区域面積(三芳町全域)の割合で評価しました。

指標1は特に哺乳類を対象とした移動環境を評価する指標です。生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等内の緑被地・水面等の総面積(700.0ha)及び都市計画区域面積(1533.0ha)から評価され、「指標1」は45.7%となり、本町では広大な生息ポテンシャルを有する地域であることが伺えます。同様に市街化調整区域でみると、緑地等内の緑被地・水面等の総面積(681.4ha)及び市街化調整区域面積(1,234.0ha)から「指標1」は55.2%となり、都市計画区域の背後地となる市街化調整区域における生息環境エリアは半分以上が残されていることとなります。

※20 指標1は動植物の生息地又は生育地となるポテンシャルを有する緑地等の量的な状況を都市計画区域面積(三芳町全域)の割合で評価するものです。「動植物の生息地又は生育地としてのポテンシャルを有する緑地等」とは、都市緑地法における緑地の定義「樹林地、草地、水辺地、岩石地若しくはその状況がこれらに類する土地が、単独で若しくは一体となって、又はこれらと隣接している土地が、これらと一体となって、良好な自然的環境を形成しているもの」をはじめ、生物多様性国家戦略において動植物の生息地又は生育地として位置づけられている緑地等を示すものとする。

以下の計算式により算定します。

指標1 = (都市計画区域内における生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等内の緑被地・水面等の総面積) ÷ 都市計画区域面積 × 100

※21 指標3は対象とする緑地の都市でも生息が可能な動植物であるコゲラに着目し、コゲラの生息地又は生育地となるポテンシャルを有する連続性のある緑地等から構成されるエコロジカルネットワークの形成の状況を評価するものです。本町ではコゲラやアカゲラの生息がくぬぎ山及びトラスト14号地で確認されており、森林を対象に生息する鳥類です。15ha以上の一体となった森林が分布するか否かを確認し、存在する場合はエコロジカルネットワークの拠点が存在すると評価する。存在しない場合は本指標の評価の対象外とします。本町では多福寺県自然環境保全地域の面積が20.1haの規模であり、該当することになります。平地林から半径250m以内の平地林を連続性のある緑地とみなし、以下の計算式により算定します。

$$\text{指標3} = \frac{\sum_{i=1}^N A_i^2}{\left(\sum_{i=1}^N A_i\right)^2} \cdot 100$$

N：都市における生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等の総数

A_i：緑地等のそれぞれの面積

※22 指標5は都市の生物多様性が都市住民にもたらす生態系サービスの状況を示す指標であり、都市のみどりによる温室効果ガス吸収量等を数値化し評価するものです。都市の森林を「温室効果ガスを吸収する樹林地」とみなし、その吸収される年間のCO₂量を算定するものです。

以下の計算式により算定します。

指標5₁ = 温室効果ガスを吸収する樹林地の面積(ha) × 10.11(t-CO₂/ha・年)

イ) 指標3：平地林のエコロジカルネットワークの指標

本町の緑の特徴として、平地林が多く点在しており、その規模は三芳町全域の9.3%(142.3ha/1,533.0ha)を占めています。

500m²以上の平地林をみると、面積では98.3%(140.0ha/142.3ha)を占め、筆数では71.4%(123筆/430筆)を占め、広い平地林を有しています。

指標3は鳥類を対象とした移動環境を評価する指標です。「生物多様性手引き」に基づくエコロジカルネットワーク形成の状況をみると、図2-15に示すように平地林が程よく分散しており、エコロジカルネットワークとしては、南北方向に繋がるネットワークが形成されています。

現在1筆当たり500m²以上の平地林を指標3で評価すると、表2-8に示すように「指標3」は65.4%となり、平地林が維持・保全される可能性のある森林整備対象林を指標3で評価すると、「指標3」は34.1%と約2分の1に減少します。その要因は、図2-15でも分かるように、平地林では7区分(A区域からG区域)ですが、森林整備対象林(図2-16参照)では14区分(区域①から区域⑭)と細分化されることに起因しています。これは移動性の生態系に対するエコロジカルネットワークの低下を意味しています。

指標1と指標3を重ね合わせると、図2-17に示すように、市街化調整区域についてはほとんどが動植物の生息地又は生育地となるポテンシャルを有する地域となり、これを指標化すると、動植物の生態系の生息地及び生育地としてのポテンシャルを有する地域(1,124.9ha)であり、91.2%を占めています。

表 2-8 平地林区分における指標3

| 平地林区分 (図 2-15、参照) | 平地林面積 ①a (ha) | 平地林面積 ②a ² (ha ²) |
|----------------------|------------------|---|
| 区域 A | 110.2 | 12,134.30 |
| 区域 B | 23.9 | 573.58 |
| 区域 C | 0.49 | 0.24 |
| 区域 D | 0.07 | 0.01 |
| 区域 E | 0.20 | 0.04 |
| 区域 F | 0.59 | 0.34 |
| 区域 G | 3.99 | 15.95 |
| 合計 | 139.4 | 12,724.46 |
| 指標 3(①/②*100) | | 65.4% |

注)平地林面積は1筆当たり500m²以上を対象とした。

表 2-9 森林整備計画対象林区分における指標 3

| 平地林区分 (図 2-16 参照) | 平地林面積 ①a (ha) | 平地林面積 ②a ² (ha ²) |
|----------------------|------------------|---|
| 区域 1 | 64.2 | 4,123.72 |
| 区域 2 | 11.2 | 126.28 |
| 区域 3 | 2.27 | 5.15 |
| 区域 4 | 12.7 | 161.53 |
| 区域 5 | 2.54 | 6.46 |
| 区域 6 | 0.87 | 0.75 |
| 区域 7 | 4.33 | 18.733 |
| 区域 8 | 0.05 | 0.00 |
| 区域 9 | 1.68 | 2.83 |
| 区域 10 | 11.4 | 129.18 |
| 区域 11 | 0.88 | 0.78 |
| 区域 12 | 0.18 | 0.03 |
| 区域 13 | 0.33 | 0.11 |
| 区域 14 | 3.30 | 10.92 |
| 合計 | 116.0 | 4,586.48 |
| 指標 3(①/②*100) | | 34.1% |

注)森林整備計画対象林は全て対象とした。

ウ) 指標 5₋₁: 生態系サービスの指標

都市の生物多様性が都市住民にもたらす生態系サービスの状況を示す指標であり、都市の生物多様性の確保や、動植物の生息地又は生育地の保全・再生・創出によってもたらされる生態系サービスを数値化したものです。

対象とする平地林を「温室効果ガスを吸収する樹林地」とみなし、そこから吸収される年間の CO₂ 量を算定すると、1,439(t-CO₂/年)の吸収量を有しています。

$$\text{指標 } 5_{-1} = 142.34(\text{ha}) \times 10.11(\text{t-CO}_2/\text{ha} \cdot \text{年})$$

$$= 1,439(\text{t-CO}_2/\text{年})$$

本町では、「三芳町地球温暖化対策実行計画～地球温暖化防止のための三芳町職員率先行動計画～平成 28 年 2 月 三芳町」による公共関連施設(中間処理施設の焼却施設を除く)から二酸化炭素総排出量を推定しており、2018(平成 30)年度の排出量は 2,192.72t-CO₂/年となっています。

上記のように、平地林によって吸収される年間の CO₂ 吸収量(1,439(t-CO₂/年))は、本町の公共関連施設からの排出量の 65.6%を占めています。

本町では、落葉樹の落ち葉を利用した「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産に認定され、平地林の落ち葉を集めて堆肥として農用地(畑)に入れ、合わせて土壌改良を行うことで農作物の安定的な生産を実現し、生物多様性を育むシステムが継承されています。このように、落ち葉を焼却することなく、自然循環システム化されており、樹木が吸収した温室効果ガスを大気中に放出することなく、地球温暖化対策の一助にもなっています。

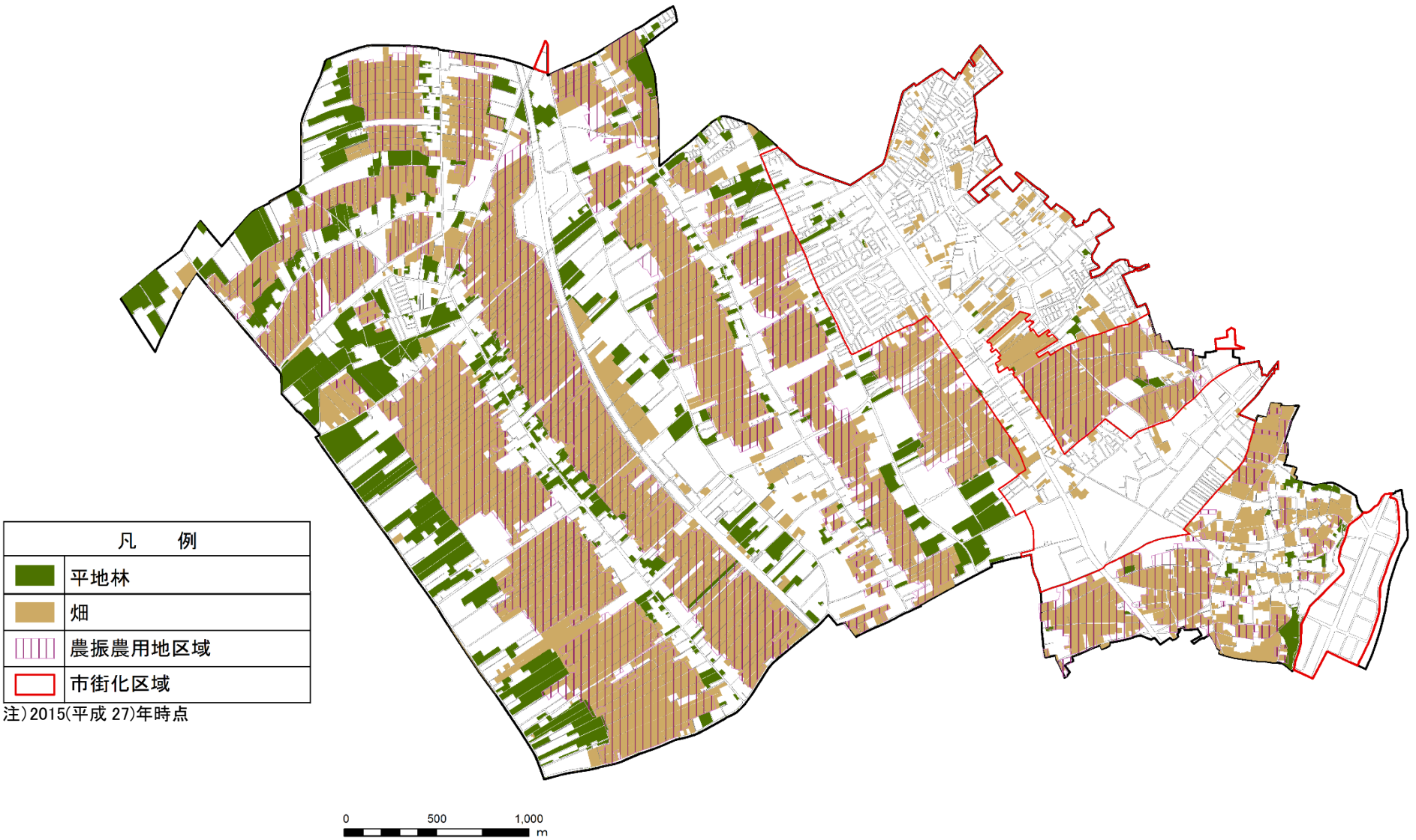


図 2-14 緑地の一部をなす農地(畑)と平地林の分布状況

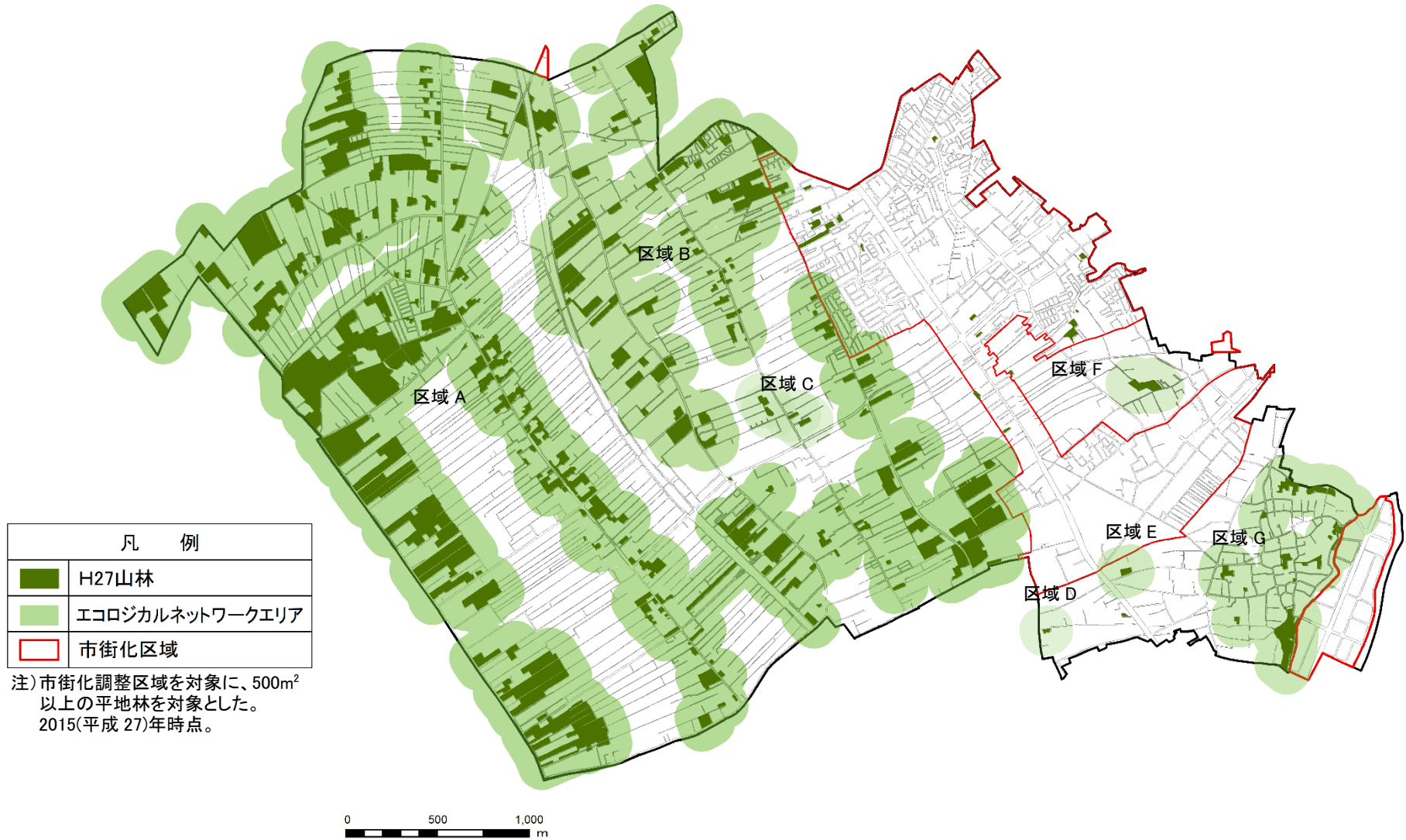


図 2-15 平地林によるエコロジカルネットワーク形状の状況

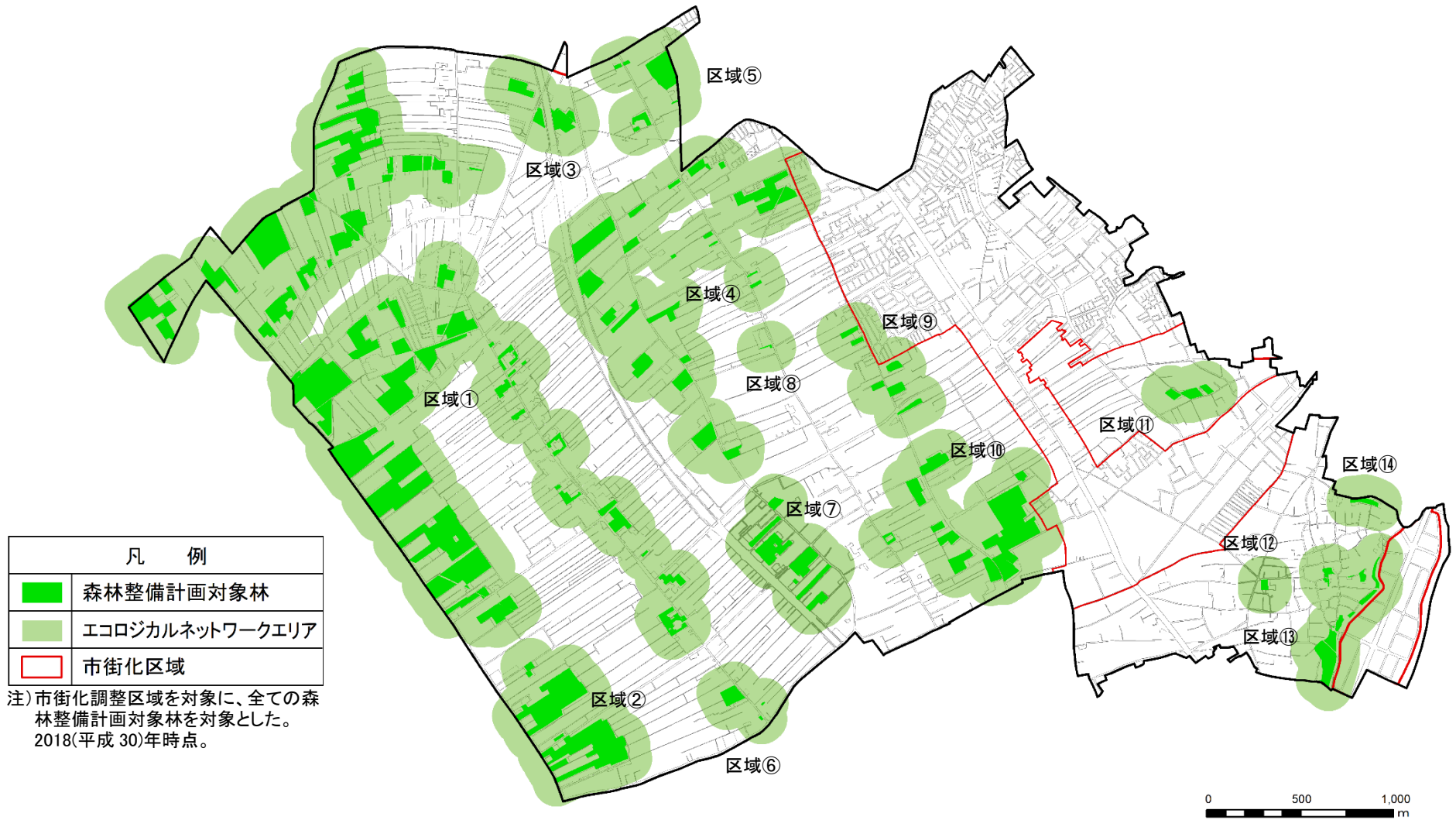


図 2-16 森林整備計画対象林のエコロジカルネットワーク形状の状況

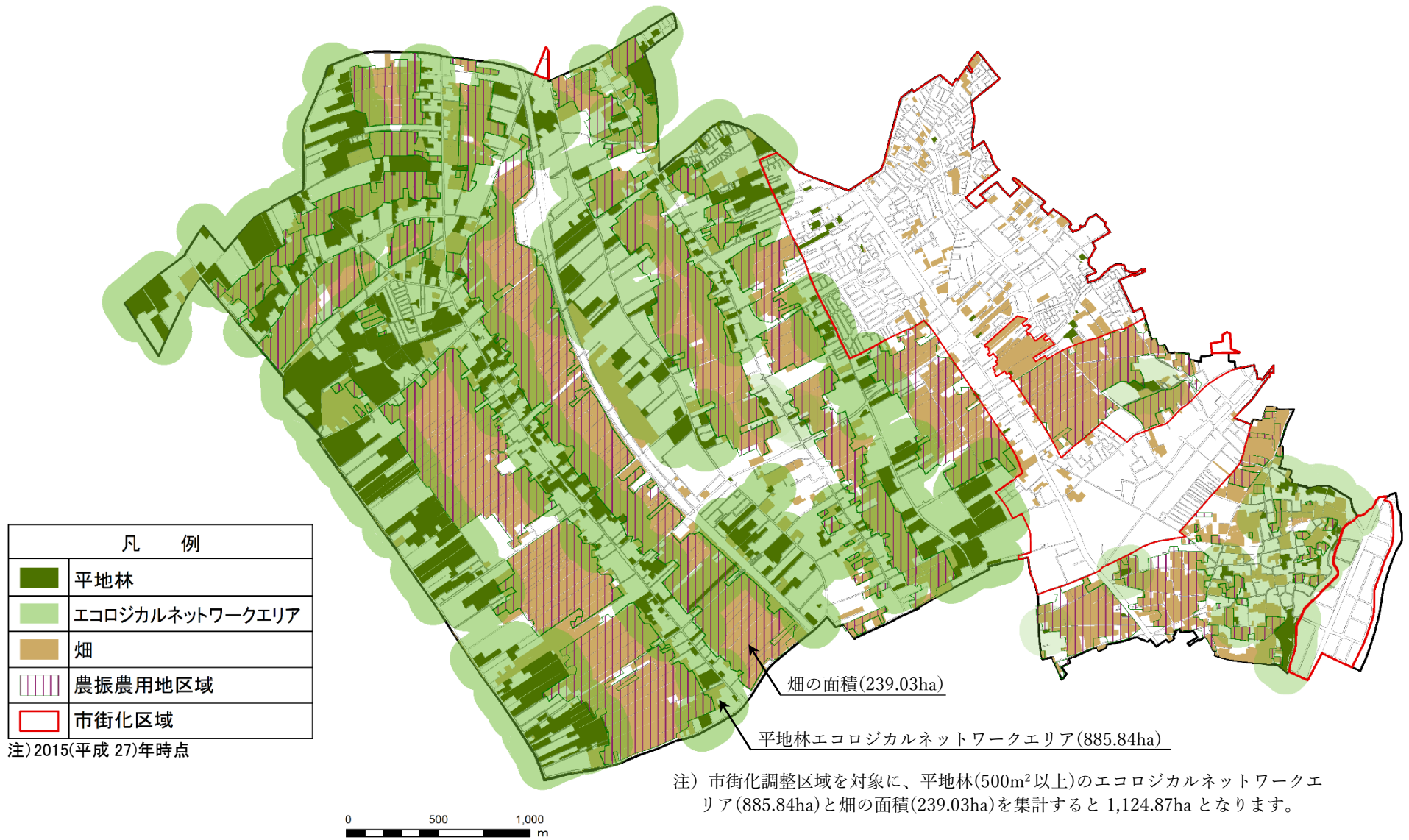


図 2-17 平地林によるエコロジカルネットワークと農用地(畑)の分布状況

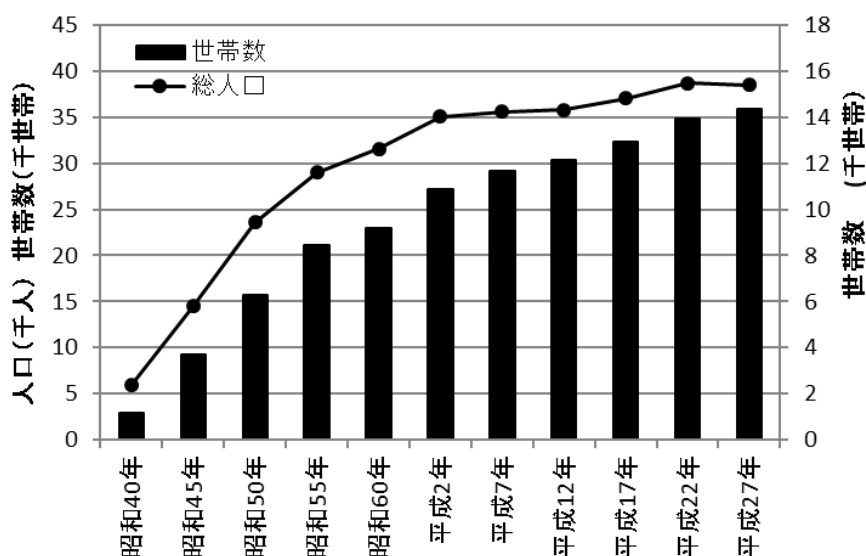
(2) 社会的条件

1) 人口・世帯

(ア) 人口・世帯

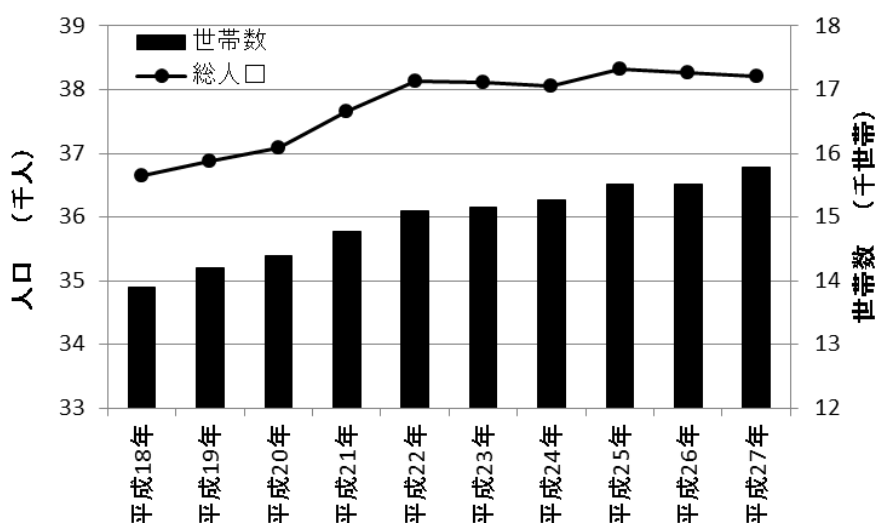
本町の総人口と世帯数は、図 2-18 に示すように平成 27 年で 38,456 人、14,328 世帯です。総人口の推移は、昭和 60 年から平成 2 年のバブル期に 10%以上の急増を経て、その後も増加傾向を維持していましたが、平成 22 年からほぼ横ばいの状態が続いており、令和元年 4 月(住民基本台帳)では 38,193 人となっています(図 2-19 参照)。

世帯数は、増加を続けており令和元年 4 月(住民基本台帳)では 16,193 世帯で、世帯当たり人員数は減少傾向にあります。



資料:国勢調査※23

図 2-18 人口及び世帯数の推移



資料:統計みよし 2015 https://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/town/chosa/02_population2015.pdf

図 2-19 過去 10 年間の人口及び世帯数の経年変化(平成 18~27 年)

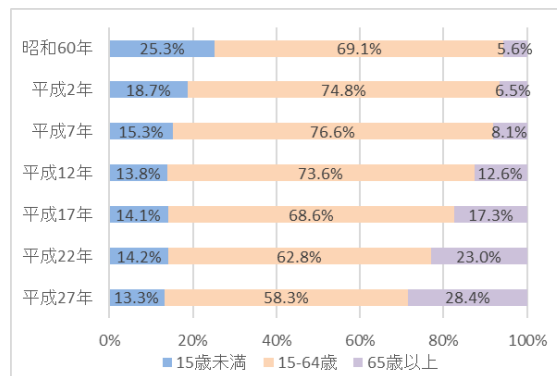
※23 国勢調査:総務省統計局が 5 年に一度行う全国規模の人口等に関する調査。国内のすべての居住者が対象に実施されています。

(イ) 年齢別人口

年齢3区分別人口の構成は、図 2-20 に示すように、平成 17～27 年で生産年齢人口(15～64 歳)の割合が約 10 ポイント低下し、老年人口(65 歳以上)の割合がその分増加する形となっています。

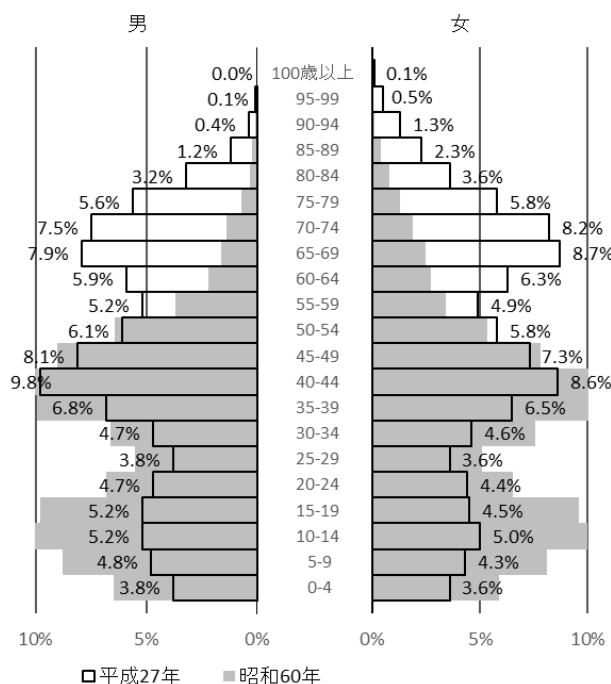
年少人口(15 歳未満)の割合は、昭和 60 年から平成 7 年にかけて 10 ポイント減少したものの、以降はほぼ横ばいで推移しており、住民の高齢化が進む中でも、一定の若年世帯の流入があることが考えられます。

5 歳階級別の比率の経年比較では、図 2-21 に示すように、昭和 60 年にあった 35～49 歳とその子どもの世代である 5～19 歳の 2 つのピークがほぼスライドする形で、30 年後の平成 27 年では 65～79 歳と 35～49 歳がピークとして現れています。ただし、昭和 60 年と違って 35～49 歳の子どもの世代である 5～19 歳には目立ったピークはありません。



資料：国勢調査

図 2-20 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

図 2-21 5 歳階級別人口比率の昭和 60 年と平成 27 年の比較

2) 土地利用

本町の平成27年の土地利用を図2-23、表2-10に示しています。土地利用の優占状況をみると、山林や農地などの自然的土地利用は町域の46%、住宅地や商業地などの都市的土地利用は町域の54%であり、概ね同程度の割合を占めています。

面積の最も広い土地利用は、農地(畑)で約36%を占めており、次いで工業用地の16%、住宅地の14%と続いています。

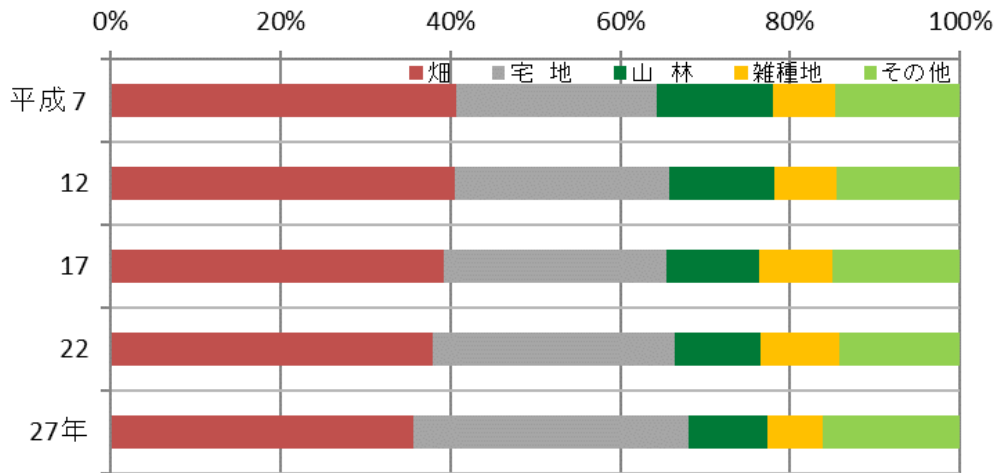
市街化区域内の工業用地以外にも、市街化調整区域の町道幹線3号線沿道や、所沢市の行政堺の町道幹線1号線沿道に広く工業用地として利用され、市街化調整区域の土地利用の15%を占めています。

経年的な変化をみると、図2-22に示すように、農地(畑)や山林が低下し、宅地が上昇しています。その状況を平成22年から平成27年に変化した地域をみると、住宅地は図2-24、図2-27に示すように鶴瀬駅に近い藤久保地区の農地(畑)やその他の空地からの変更が認められ、工業用地は図2-25、図2-26、図2-27に示すように北永井地区の町道幹線3号線沿道や上富地区の町道幹線1号線沿道の農地(畑)や山林、その他の空地からの変更が認められます。

表2-10 土地利用の状況

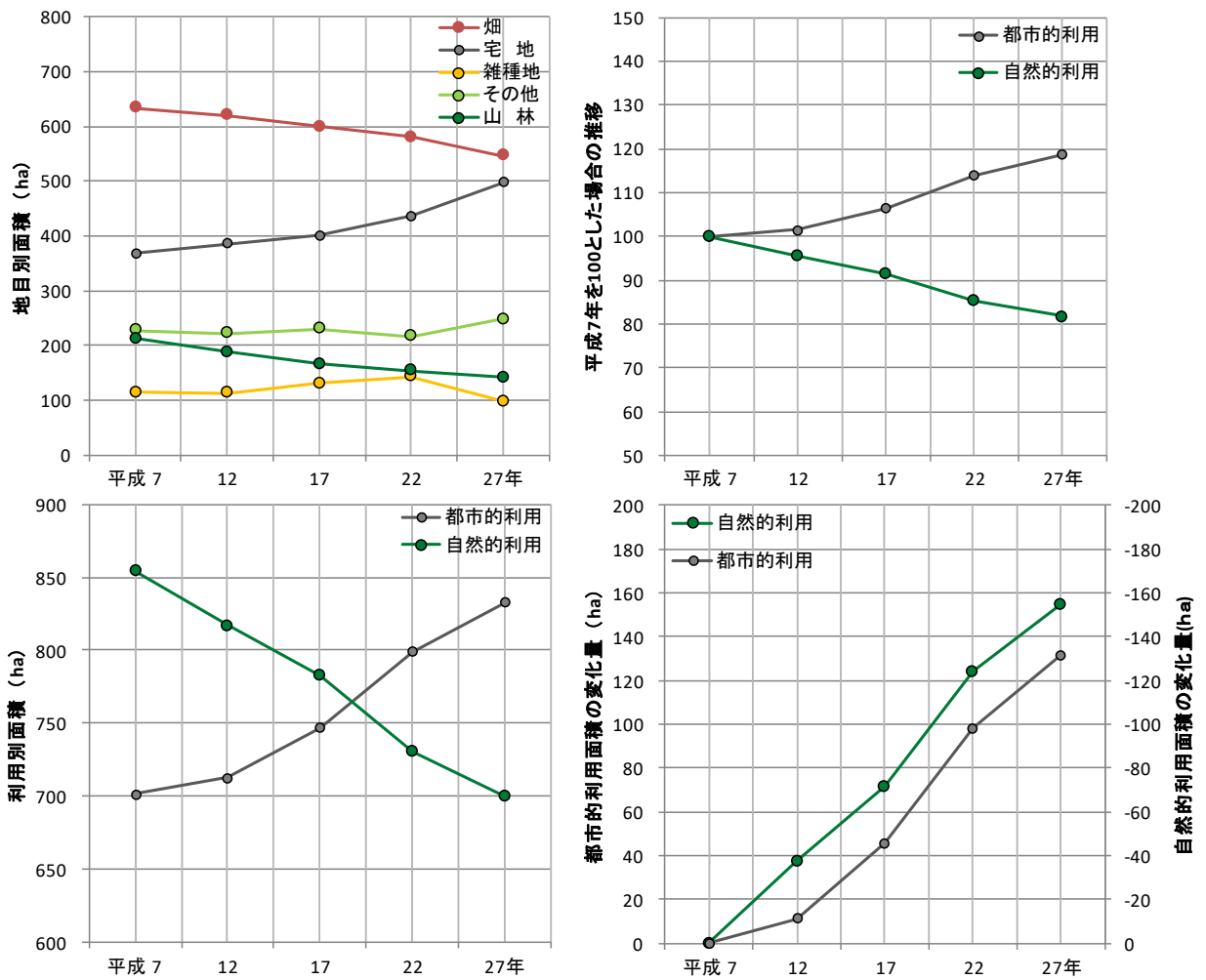
| 土地利用区分 | | 市街化区域 | | 市街化調整区域 | | 都市計画区域 (町全体) | |
|-----------|---------|--------|--------|----------|--------|-----------------|-------|
| | | ha | % | ha | % | ha | % |
| 自然的 利用 | 田 | 0.00 | 0.0 | 0.00 | 0.0 | 0.00 | 0.0 |
| | 畑 | 15.39 | 5.1 | 531.55 | 43.1 | 546.94 | 35.7 |
| | 山林 | 2.23 | 0.7 | 140.11 | 11.4 | 142.34 | 9.3 |
| | 水面 | 0.78 | 0.3 | 2.01 | 0.2 | 2.79 | 0.2 |
| | その他自然地 | 0.25 | 0.1 | 7.69 | 0.6 | 7.94 | 0.5 |
| | 小計 | 18.65 | 6.2 | 681.36 | 55.2 | 700.01 | 45.7 |
| 都市的 利用 | 宅地 | 114.98 | 38.5 | 98.24 | 8.0 | 213.22 | 13.9 |
| | 商業 | 20.63 | 6.9 | 15.08 | 1.2 | 35.71 | 2.3 |
| | 工業 | 59.76 | 20.0 | 188.28 | 15.3 | 248.04 | 16.2 |
| | 農業施設 | 0.00 | 0.0 | 2.87 | 0.2 | 2.87 | 0.2 |
| | 公益施設 | 6.09 | 2.0 | 45.31 | 3.7 | 51.40 | 3.4 |
| | 公共空地 | 4.29 | 1.4 | 24.36 | 2.0 | 28.65 | 1.9 |
| | 道路 | 52.83 | 17.7 | 112.83 | 9.1 | 165.66 | 10.8 |
| | 交通施設 | 0.00 | 0.0 | 0.00 | 0.0 | 0.00 | 0.0 |
| | その他公的施設 | 0.00 | 0.0 | 0.00 | 0.0 | 0.00 | 0.0 |
| | その他空地 | 21.77 | 7.3 | 65.67 | 5.3 | 87.44 | 5.7 |
| 小計 | 280.35 | 93.8 | 552.64 | 44.8 | 832.99 | 54.3 | |
| 合計 | | 299.00 | 100.0 | 1,234.00 | 100.0 | 1,533.00 | 100.0 |

資料：平成27年 都市計画基礎調査



資料：埼玉県統計年鑑 <https://www.pref.saitama.lg.jp/kense/toke/nenkan/h13/index.html>

図 2-22(1) 土地利用の状況



資料：埼玉県統計年鑑 <https://www.pref.saitama.lg.jp/kense/toke/nenkan/h13/index.html>

図 2-22(2) 土地利用の状況

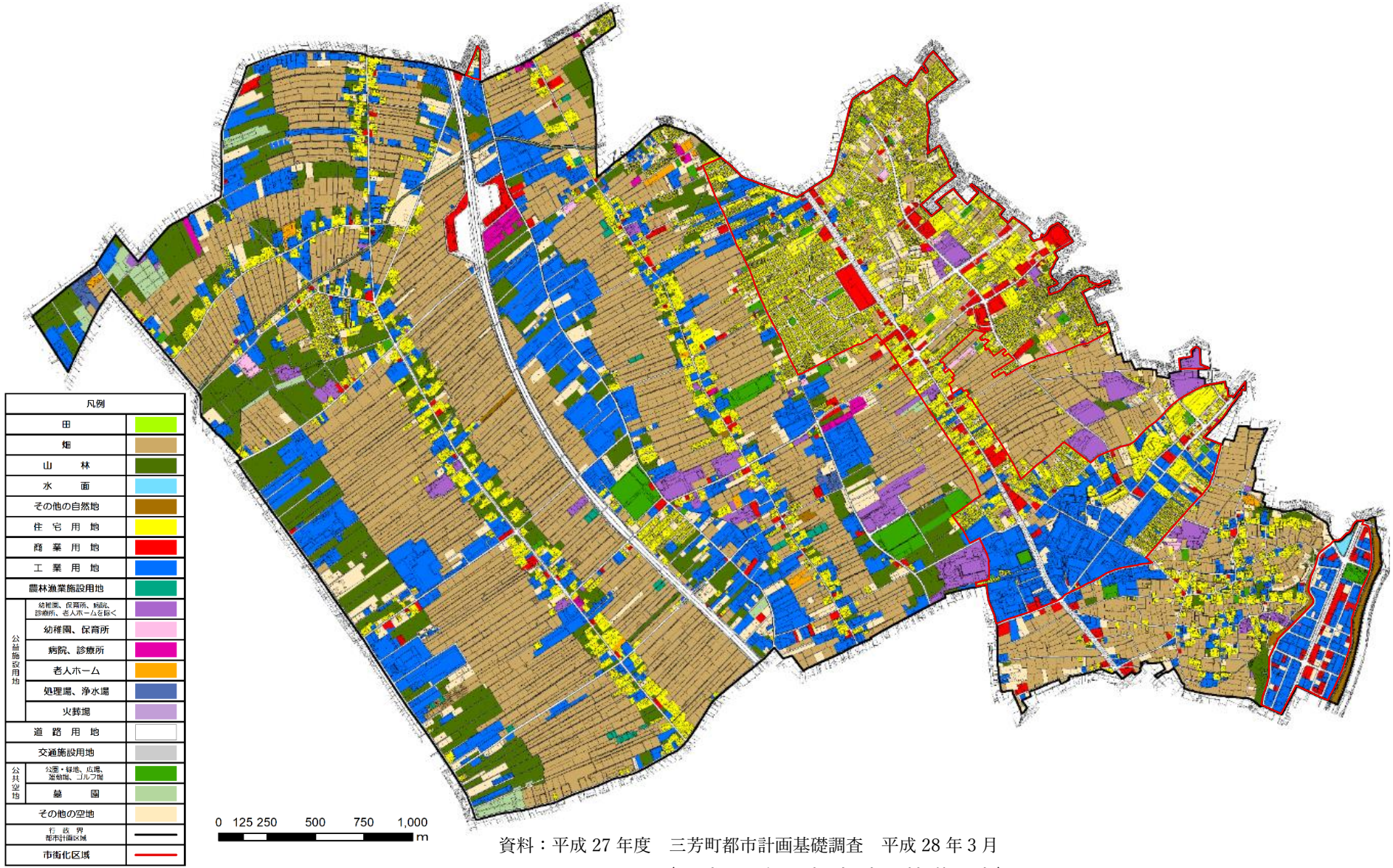


図 2-23 土地利用現況図(平成27年 都市計画基礎調査)

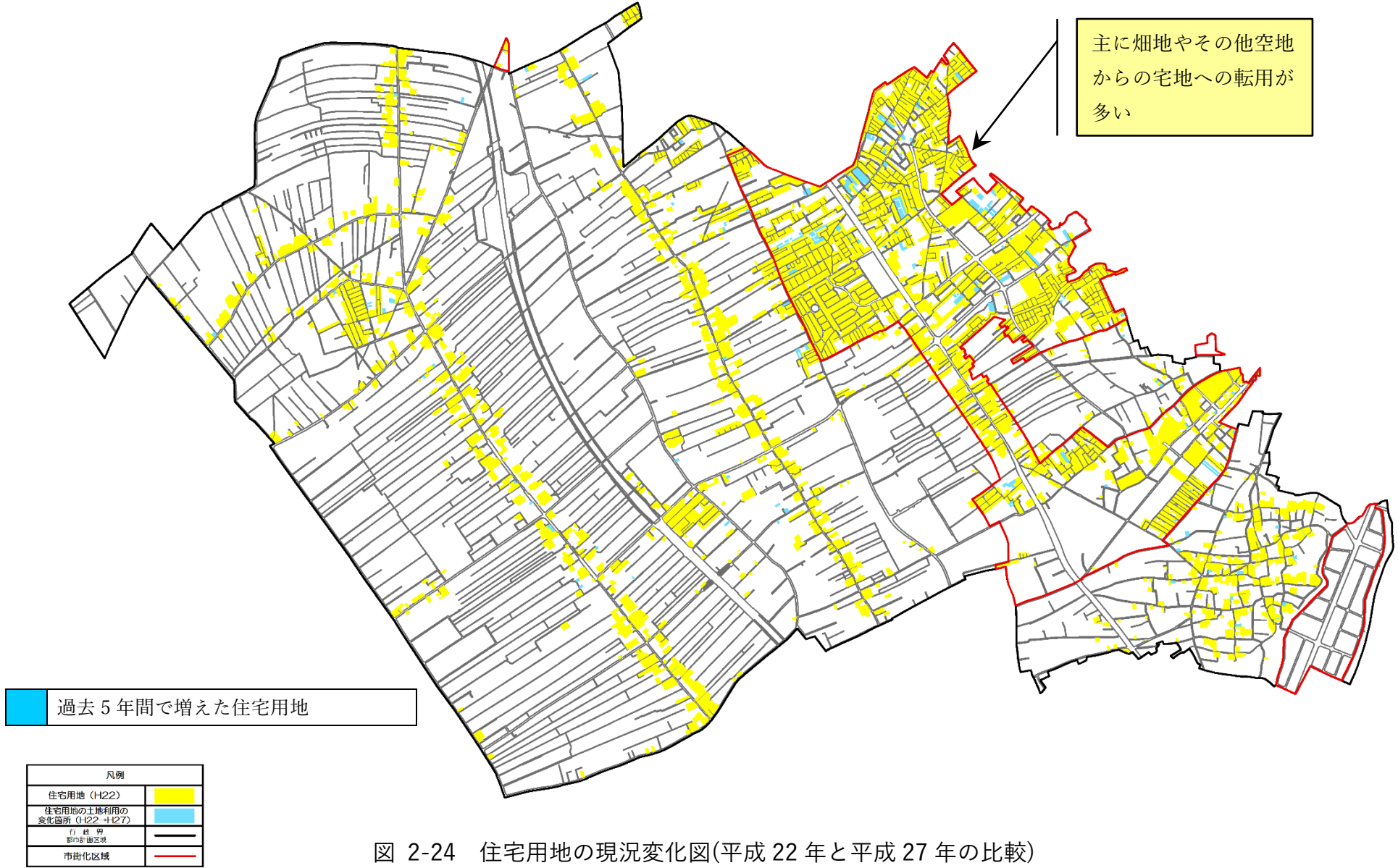


図 2-24 住宅用地の現況変化図(平成 22 年と平成 27 年の比較)

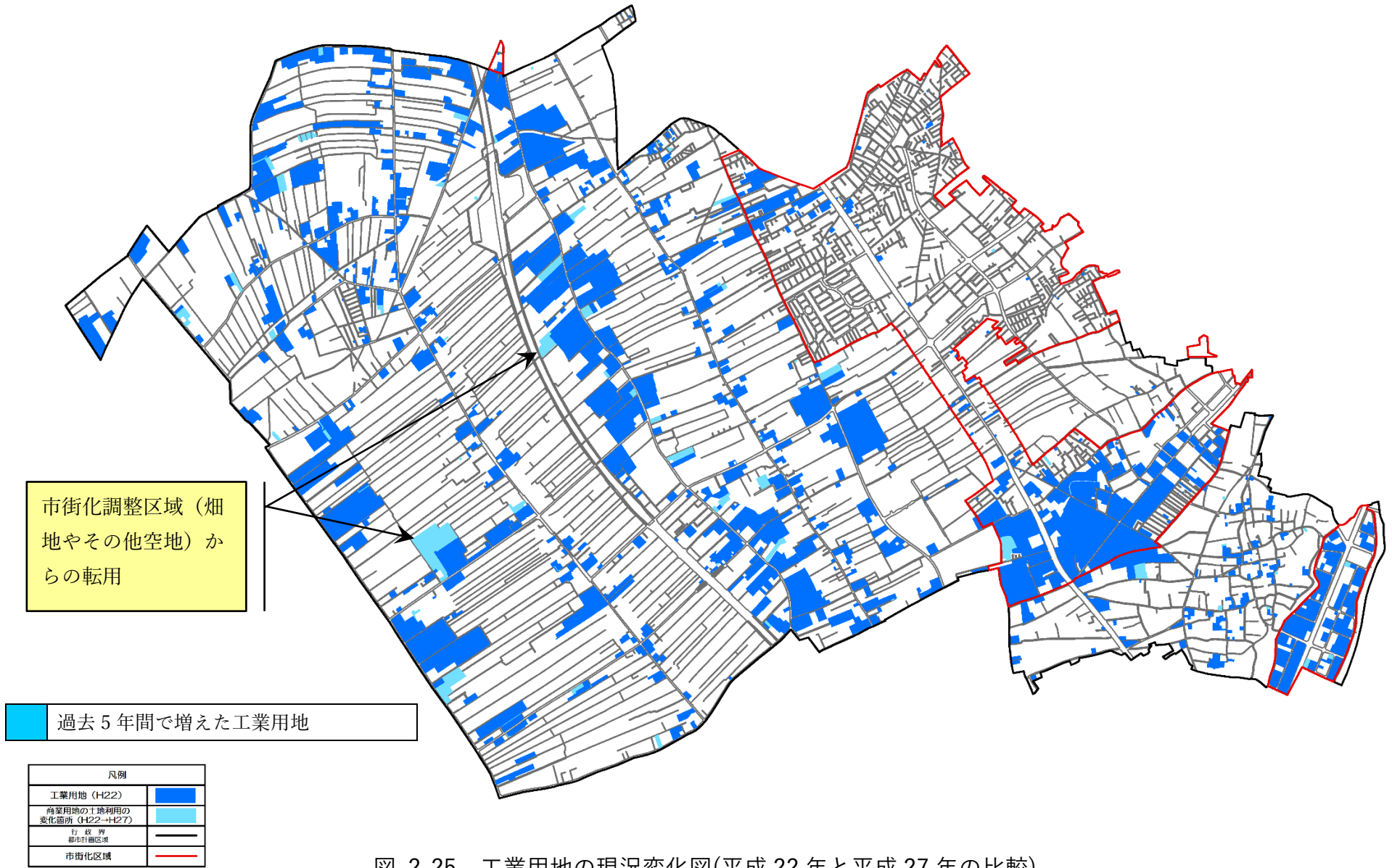


図 2-25 工業用地の現況変化図(平成 22 年と平成 27 年の比較)



図 2-26 山林の現況変化図(平成 22 年と平成 27 年の比較)

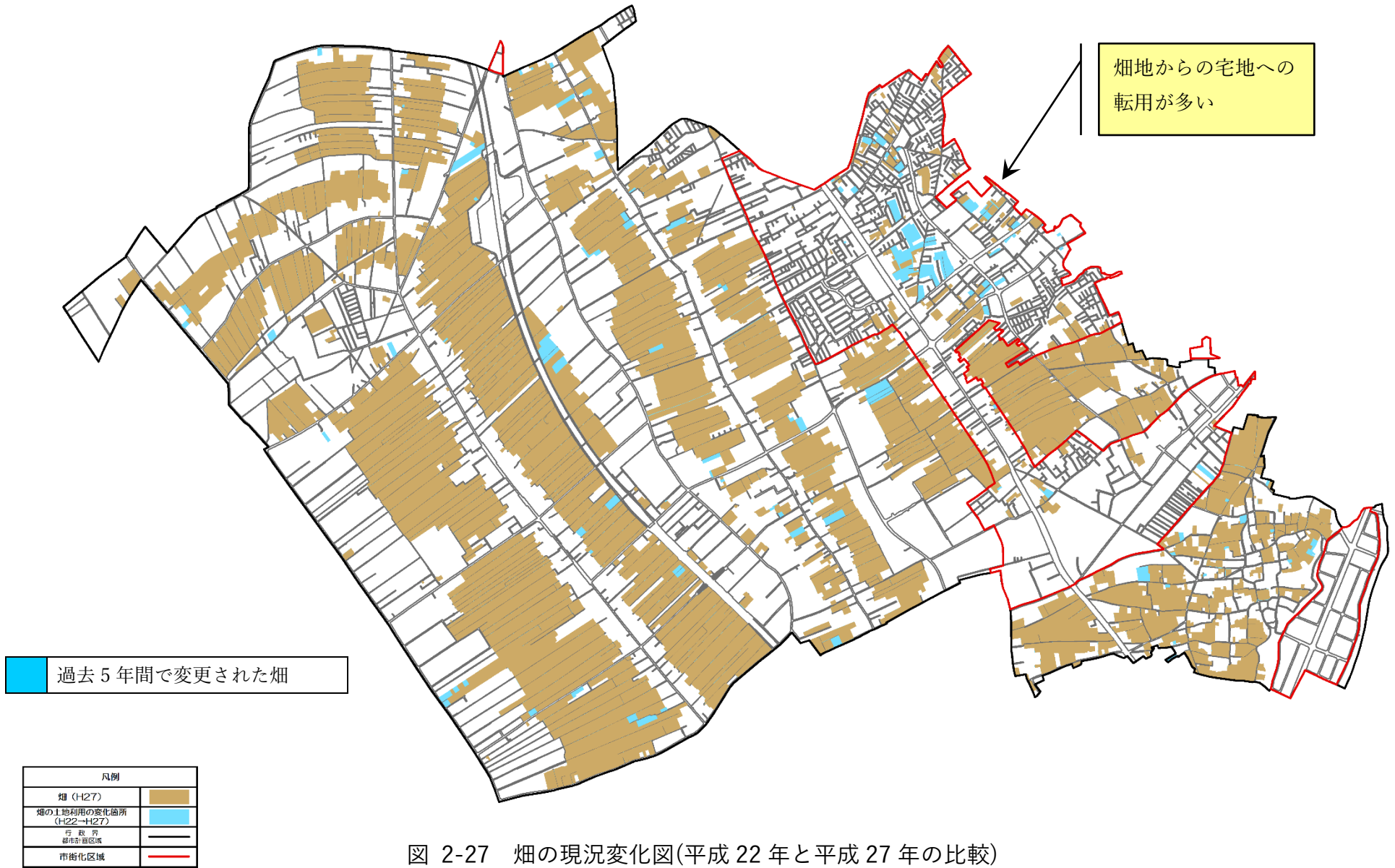


図 2-27 畑の現況変化図(平成 22 年と平成 27 年の比較)

3) 都市施設

(ア) 公共交通

本町における鉄道利用は、富士見市内の東武東上線鶴瀬、みずほ台の各駅を主に利用し、各駅へのアクセスは自転車、バス、自家用車等を利用しています。地域路線バスは町内を循環する形で運行しています。

4) 道路整備

(ア) 道路体系

町域の道路網をみると、図 2-28 に示すように、東側に東武東上線の鶴瀬、みずほ台の各駅があり、各駅が東の玄関口となっています。また、平成 18 年度に三芳スマート IC が常設化され、さらに平成 27 年度からフル化の整備事業が進められており、本町の西の玄関口と位置付けられています。

広域幹線道路として、国道 254 号(川越街道)は、景観八景にも指定されており、歩道が整備され、中央分離帯には街路樹としてマツ・ケヤキを中心とした植栽がされています。関越自動車道は高架部分を除いて法面が緑化され、緑を提供しています。

都市幹線道路として、主要地方道さいたま・ふじみ野・所沢線、一般県道三芳・富士見線、都市計画道路竹間沢・大井・勝瀬通り線が通っています。

地域幹線道路として、広域幹線道路や都市幹線道路へのアクセスする道路が通っています。

生活道路として、主に東西、南北方向に生活道路が整備され、日常生活における町内移動道路として利用されています。

(イ) 都市計画道路

町域の都市計画道路は、表 2-11、図 2-28 に示すように、7 路線、延長 7,950 m が計画決定されており、改良延長 3,520m、改良率 44.3% となっています。これらの都市計画道路は、国道 254 号と連携して市街地を支えるはじご状のネットワークを形成しています。

表 2-11 都市計画道路の改良状況

| | 番号 | 名称 | 計画幅員 m | 計画延長 m | 改良済 延長 m | 改良率 % |
|----|--------|--------------|-----------|-----------|----------------|----------|
| ① | 3.3.2 | 浦和・所沢線 | 25.5 | 1,080 | 1,080 | 100.0 |
| ② | 3.4.5 | 鶴瀬駅西通り線 | 20 | 820 | 820 | 100.0 |
| ③ | 3.4.7 | みずほ台駅西通り線 | 20 | 1,510 | 470 | 31.1 |
| ④ | 3.4.10 | 竹間沢・大井・勝瀬通り線 | 16 | 3,620 | 1,150 | 31.8 |
| ⑤ | 3.4.11 | 三芳・富士見通り線 | 16 | 880 | 0 | 0.0 |
| ⑥ | 7.5.2 | 針ヶ谷中央通線 | 12 | 40 | 0 | 0.0 |
| ⑦ | 3.4.12 | 東台・鶴馬通線 | 16 | 0 | — | — |
| 合計 | | | — | 7,950 | 3,520 | 44.3 |

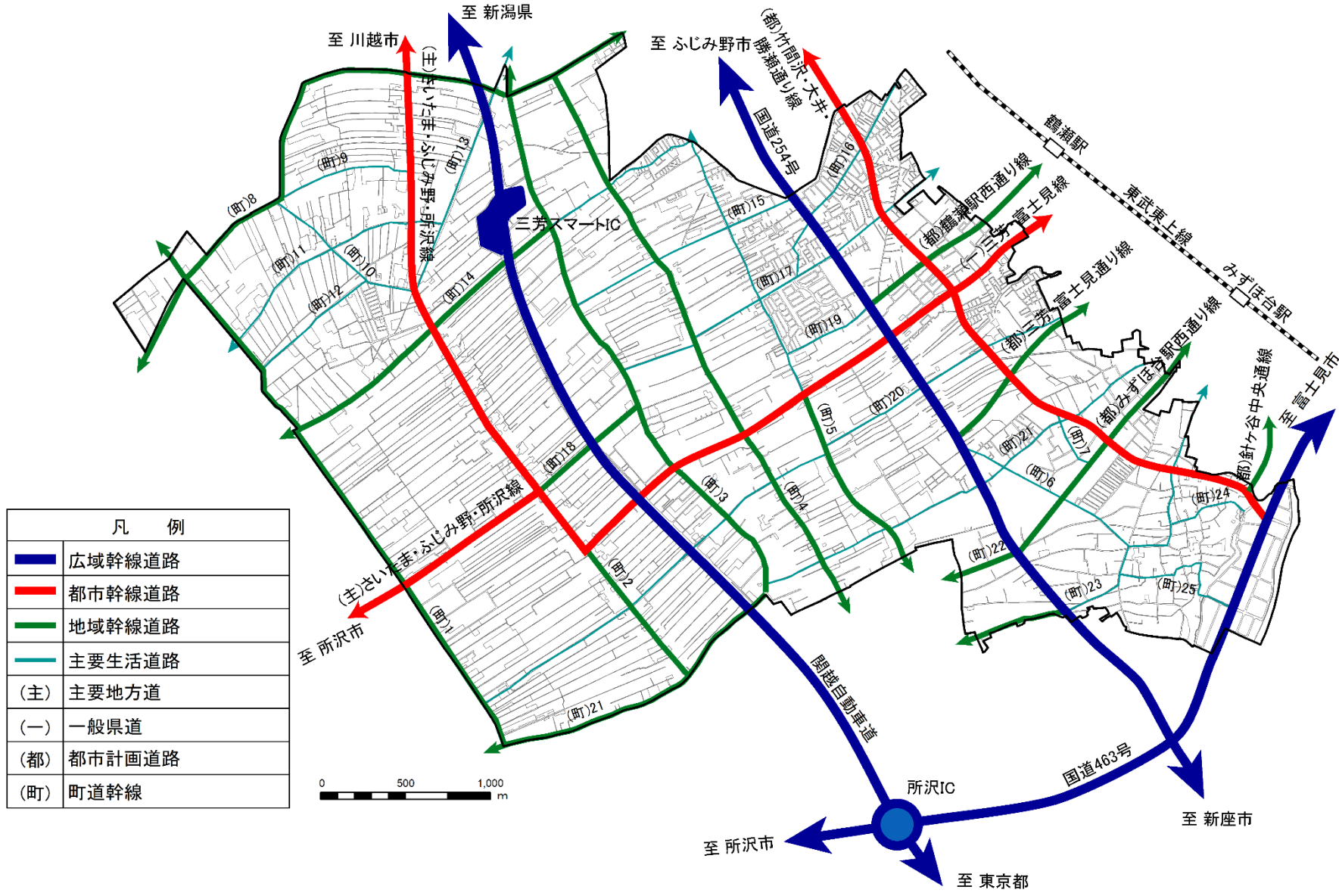


図 2-28 鉄道及び道路網図

(ウ) 街路樹

本町における道路の緑化状況は、図 2-29 に示すとおりであり、緑化が行われている道路は、国道 254 号、主要地方道さいたま・ふじみ野・所沢線をはじめとして 17 路線で行われています。街路樹にはケヤキ、ハナミズキ、サクラなどの落葉樹が植樹されています。国道 254 号では管理者はもとより、沿道住民の方々に理解と協力を得た上で、緑地帯を利用した四季折々の草花の植栽や交差点付近への排気ガスに耐えられる低木の常緑樹の植樹を行なっています。また、主要地方道さいたま・ふじみ野・所沢線のケヤキ並木は、上富ケヤキ並木通りと称し、美しい景観を形成していることから三芳町景観八景に指定されています。

表 2-12 道路緑化の状況

| 種類 | No. | 位置 | 街路樹 |
|--------|-----|------------------|---------|
| 広域幹線道路 | 1 | 国道 254 号 | マツ、ケヤキ |
| | 2 | 国道 463 号 | ケヤキ |
| 都市幹線道路 | 3 | (一)三芳・富士見線 | ハナミズキ |
| | 4 | (一)三芳・富士見線 | ハナミズキ |
| | 5 | (都)竹間沢・大井・勝瀬通り線 | モミジバフウ |
| | 6 | (都)竹間沢・大井・勝瀬通り線 | ケヤキ |
| | 7 | (主)さいたま・ふじみ野・所沢線 | ケヤキ |
| 地域幹線道路 | 8 | (都)鶴瀬駅西通り線 | サルスベリ |
| | 9 | (都)みずほ台駅西通り線 | ケヤキ |
| | 10 | 町道幹線 3 号線 | ハナミズキ |
| | 11 | 町道幹線 5 号線 | サルスベリ |
| | 12 | 町道幹線 14 号線 | サクラ |
| | 13 | 町道幹線 18 号線 | サルスベリ |
| 生活道路 | 14 | 町道幹線 25 号線 | サクラ |
| | 15 | 町道幹線 26 号線 | サクラ |
| | 16 | 町道北永井 13 号線 | サクラ |
| | 17 | 町道藤久保 297 号線 | モミジバフウ |
| | 18 | 町道藤久保 310 号線 | モミジバフウ |
| | 19 | 町道藤久保 381 号線 | サルスベリ |
| | 20 | 町道竹間沢 26 号線 | ケヤキ |
| | 21 | 町道竹間沢 40 号線 | ケヤキ |
| | 22 | 町道みずほ台 2 号線 | イチョウ |
| | 23 | 町道みずほ台 4 号線 | ケヤキ |
| | 24 | 町道みずほ台 5 号線 | ケヤキ、カエデ |
| | 25 | 町道みずほ台 9 号線 | ケヤキ |
| | 26 | 町道竹間沢東 6 号線 | サクラ |
| | 27 | 町道竹間沢東 8 号線 | サクラ |
| | 28 | 町道竹間沢東 13 号線 | サクラ |

注) (一)：一般県道の略、(都)：都市計画道路の略、(主)：主要地方道の略を意味します。



図 2-29 道路の緑化状況

5) 公園

都市公園として、図 2-30、表 2-13 に示すように、63 箇所、13.9ha の都市公園が存在しています。

都市公園の広さとして、1,000m²以上の規模の公園は令和の森公園の6.61haを筆頭に25箇所、1,000m²未満の規模の公園が38箇所整備されています。

表 2-13 都市公園一覧

| 名称 | | 所在地 | 面積 (m ²) | 名称 | | 所在地 | 面積 (m ²) |
|----|------------|--------------|-------------------------|----|------------|------------|-------------------------|
| 1 | 新開公園 | みよし台14 | 1,400 | 33 | 宮本第1子供広場 | 北永井882-67 | 106 |
| 2 | 唐沢公園 | みよし台4 | 1,599 | 34 | 宮本第2子供広場 | 北永井883-19 | 168 |
| 3 | 北松原公園 | 藤久保3929-4 | 1,456 | 35 | 宮本第3子供広場 | 北永井948-103 | 50 |
| 4 | 俣埜公園 | 藤久保378-7 | 2,645 | 36 | 宮本第4子供広場 | 北永井875-44 | 175 |
| 5 | 令和の森公園 | 藤久保1118-1他5筆 | 66,090 | 37 | 北永井第3区子供広場 | 北永井892-3 | 2,058 |
| 6 | ひらの公園 | 北永井681-131 | 1,213 | 38 | 北永井神社内子供広場 | 北永井931 | 136 |
| 7 | 北新埜中央公園 | 藤久保855-104 | 2,110 | 39 | 富士塚第1子供広場 | 藤久保16-62 | 401 |
| 8 | 竹間沢東緑道 | 竹間沢東19他6筆 | 1,838 | 40 | 富士塚第2子供広場 | 藤久保8-10 | 1,084 |
| 9 | 北松原第2公園 | 藤久保3810-1 | 2,197 | 41 | 富士塚第3子供広場 | 藤久保40-8 | 167 |
| 10 | 北松原第3公園 | 藤久保6323他9筆 | 1,200 | 42 | 富士塚第4子供広場 | 藤久保12-64 | 168 |
| 11 | 藤久保第1公園 | 藤久保5068 | 2,398 | 43 | 富士塚第5子供広場 | 藤久保29-40 | 133 |
| 12 | 藤久保第2公園 | 藤久保5272 | 1,018 | 44 | 俣埜第1子供広場 | 藤久保346-4 | 79 |
| 13 | 富士塚第1公園 | 藤久保7407 | 2,550 | 45 | 俣埜第2子供広場 | 藤久保256-6 | 100 |
| 14 | 富士塚第2公園 | 藤久保7408 | 2,000 | 46 | 俣埜第3子供広場 | 藤久保356-2 | 241 |
| 15 | 竹間沢東公園 | 竹間沢東21-1 | 9,343 | 47 | 俣埜第4子供広場 | 藤久保339-11 | 259 |
| 16 | 竹間沢こぶしの里 | 竹間沢1081-1 | 8,918 | 48 | 唐沢子供広場 | 藤久保526-9 | 744 |
| 17 | 宮本ふれあいの森 | 北永井885-1 | 5,767 | 49 | 横松第1子供広場 | 藤久保594-14 | 212 |
| 18 | 中ノ久保ふれあいの森 | 北永井866-1,3 | 2,251 | 50 | 横松第3子供広場 | 藤久保601-6 | 167 |
| 19 | 俣埜ポケットパーク | 藤久保341-201 | 73 | 51 | 横松第4子供広場 | 藤久保541-4 | 130 |
| 20 | 上富中下子供広場 | 上富317-1 | 1,370 | 52 | 東第1子供広場 | 藤久保788-5 | 143 |
| 21 | 吉拓第1子供広場 | 上富414-1 | 868 | 53 | 東第2子供広場 | 藤久保725-1 | 915 |
| 22 | 吉拓第2子供広場 | 上富429-56 | 197 | 54 | 北新埜第1子供広場 | 藤久保855-87 | 474 |
| 23 | 木ノ宮第1子供広場 | 上富1552-21 | 109 | 55 | 北新埜第2子供広場 | 藤久保855-355 | 397 |
| 24 | 木ノ宮第2子供広場 | 上富1552-129 | 101 | 56 | 藤久保第5区子供広場 | 藤久保913-1 | 2,603 |
| 25 | 木ノ宮第3子供広場 | 上富1490-1 | 2,142 | 57 | 通西子供広場 | 竹間沢4-7,8 | 362 |
| 26 | 上永久保子供広場 | 上富1711-32 | 143 | 58 | 新開第1子供広場 | 竹間沢362-6 | 307 |
| 27 | 北永井第2区子供広場 | 北永井762-1 | 2,111 | 59 | 新開第2子供広場 | 竹間沢419-8 | 159 |
| 28 | 中ノ久保子供広場 | 北永井867-33 | 147 | 60 | 新開第3子供広場 | 竹間沢377-4 | 130 |
| 29 | 中ノ久保第2子供広場 | 北永井862-51他 | 179 | 61 | 新開第4子供広場 | 竹間沢332-29 | 251 |
| 30 | 中ノ久保第3子供広場 | 北永井844-46 | 120 | 62 | 北側子供広場 | 竹間沢680-6 | 1,133 |
| 31 | 中ノ久保第4子供広場 | 北永井843-13 | 132 | 63 | みよし台子供広場 | みよし台3-3 | 920 |
| 32 | 三芳田地子供広場 | 北永井871-7 | 593 | 合計 | | | 138,650 |

注)令和の森公園には以下の公園が含まれています。

緑地公園(6,667 m² 藤久保1112-1,10)、自然の森・レクリエーション公園(11,800 m² 藤久保1112-2)、
運動公園グラウンド(28,607 m² 藤久保1118-1)、運動公園テニスコート(5,771 m² 藤久保1120-1)、
弓道場(1,059 m² 藤久保1120-1)、多目的広場(5,040 m² 藤久保1120-1)、平地林(7,146 m² 藤久保1121-1)の6筆

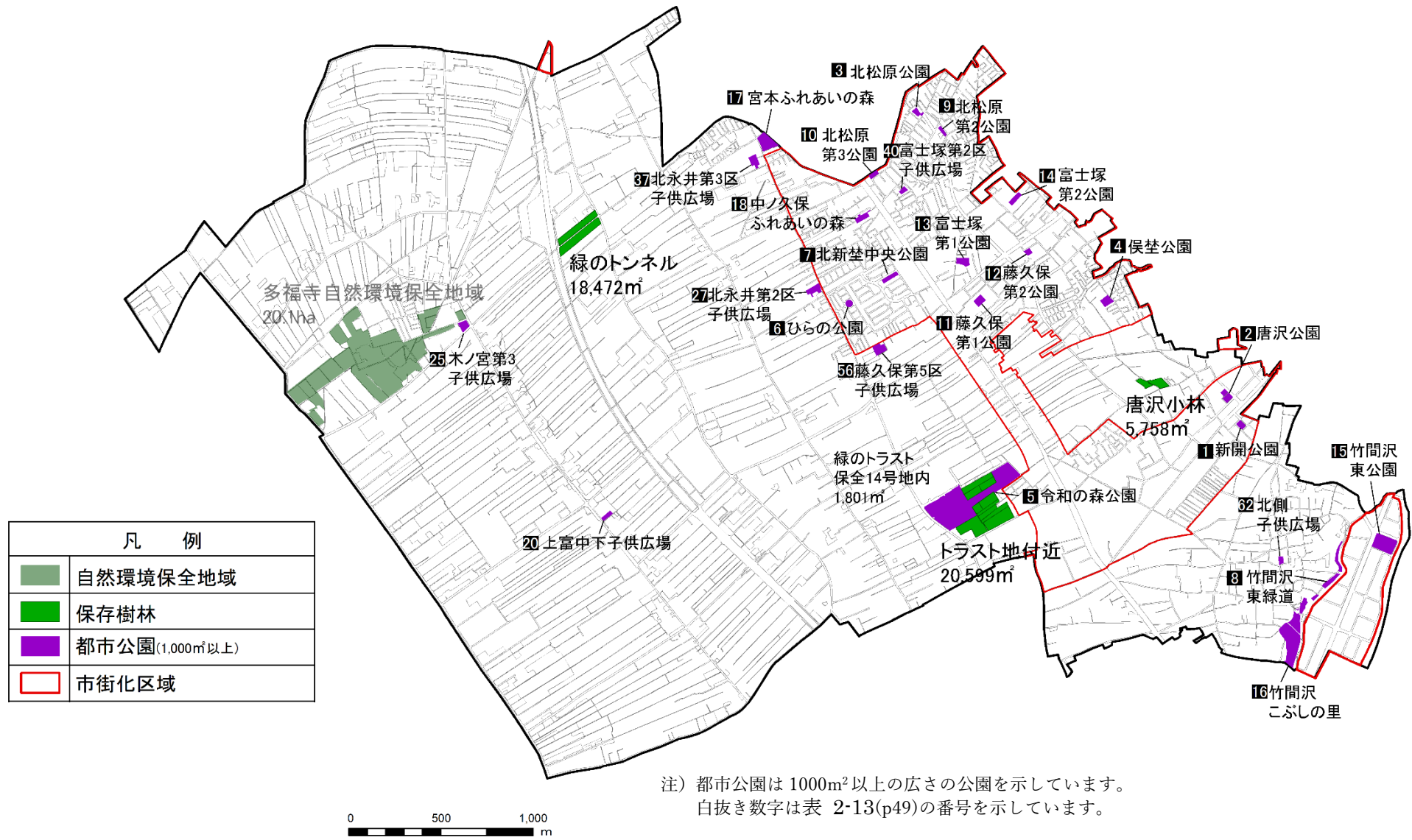


図 2-30 都市公園及び保全樹林等の分布状況

6) 市街地開発事業

本町では、図 2-31、表 2-14 に示すように、土地区画整理事業が 5 箇所(71.6ha)で実施されており、4 箇所(60.5ha)が完了しています。この面積は市街化区域 299ha のうち約 24%が整備済み若しくは事業中となっていますが、残りの 1 箇所も令和 2 年度に完了する予定です。

表 2-14 土地区画整理事業一覧

| 事業名 | 事業主体 | 施行面積 (ha) | 実施状況 |
|------------------|------|--------------|-------------|
| 三芳みずほ台特定土地区画整理事業 | 組合 | 9.6 | 完了 |
| 三芳町竹間沢第一土地区画整理事業 | 組合 | 24.9 | 完了 |
| 三芳町北松原土地区画整理事業 | 組合 | 11.1 | 令和 2 年度完了予定 |
| 三芳町藤久保第一土地区画整理事業 | 組合 | 11.4 | 完了 |
| 三芳町富士塚土地区画整理事業 | 組合 | 14.6 | 完了 |

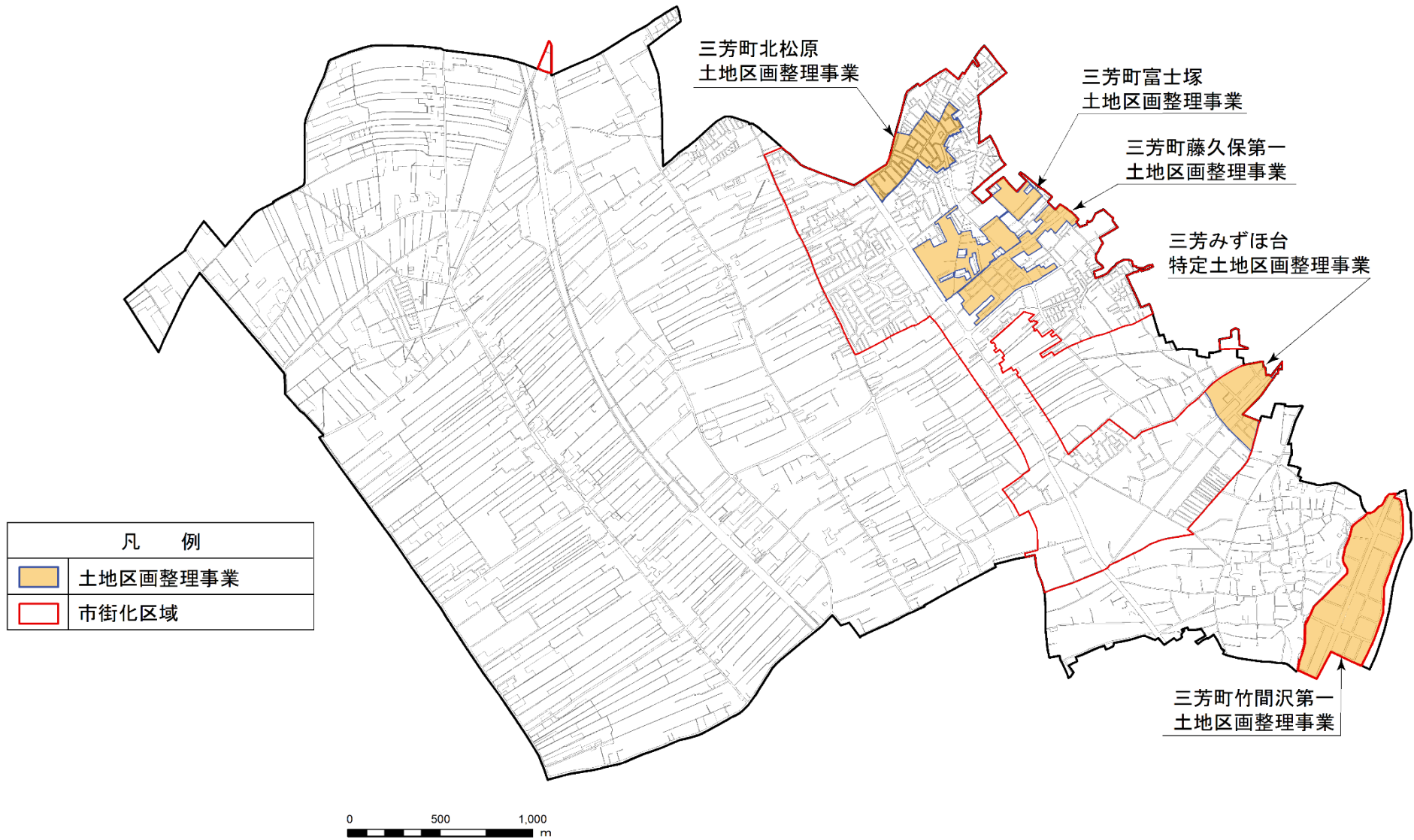


図 2-31 土地区画整理事業位置

2.2 緑地の現況

(1) 施設緑地の現況

施設緑地としては、表 1-2 に示すように本町では公共空地、公園、教育施設の学校、運動場やグラウンド、道路の植樹帯、公共公益施設の植栽地が存在します。

都市公園として、図 2-30(p 50)に示すように、令和の森公園の 6.61ha を筆頭に 63 箇所、13.87ha の公園が整備され、1,000m²以上の公園で 25 箇所、1,000m²未満の公園が 38 箇所存在しています。

本町での学校、運動場等の施設緑地をみると、表 2-15、図 2-32 に示すとおり、施設緑地面積は 20.4ha が整備されています。

表 2-15 学校・運動場等の施設緑地

| 施設名 | 主体 | 施設内容 | 所在地 | 緑地面積 (m ²) |
|-----------------------|-----|--------------|------------------|---------------------------|
| 三芳小学校 | 町 | グラウンド | 北永井 343 | 8,590 |
| 藤久保小学校 | 町 | グラウンド | 藤久保 7223 | 10,560 |
| 上富小学校 | 町 | グラウンド | 上富 1267-4 | 5,560 |
| 唐沢小学校 | 町 | グラウンド | 藤久保 410-2 | 9,940 |
| 竹間沢小学校 | 町 | グラウンド | 竹間沢 550-1 | 6,730 |
| 三芳中学校 | 町 | グラウンド | 北永井 350 | 10,800 |
| 三芳東中学校 | 町 | グラウンド | 藤久保 610-1 | 9,080 |
| 藤久保中学校 | 町 | グラウンド | 藤久保 420-2 | 11,520 |
| 令和の森公園 ^{注2)} | 町 | 運動公園グラウンド等 | 藤久保 1118-1 他 5 筆 | 66,090 |
| 竹間沢テニスコート | 町 | テニスコート | 竹間沢 254-1 | 3,070 |
| 豊島区立三芳グラウンド | 豊島区 | 野球場、サッカー、テニス | 上富 382-1 | 34,400 |
| 幼稚園グラウンド | 民間 | グラウンド | 藤久保 733-1 | 2,290 |
| | 民間 | グラウンド | 北永井宮前 72-1 | 1,370 |
| | 民間 | グラウンド・平地林 | 上富 1567-1 | 6,730 |
| 乗馬クラブ | 民間 | 乗馬場 | 北永井 685-1 | 17,010 |
| 合計 | — | — | — | 203,740 |

注 1) 緑地としたグラウンド等の面積であり、建物は含まれていません。

緑地面積の資料は、学校は三芳町緑の基本計画(平成 17 年 3 月)p39 の運動場の値、他の施設は地形図から計測した。

注 2) 令和の森公園には緑地公園(6,667 m² 藤久保1112-1,10)、自然の森・レクリエーション公園(11,800 m² 藤久保1112-2)、運動公園グラウンド(28,607 m² 藤久保1118-1)、運動公園テニスコート(5,771 m² 藤久保1120-1)、弓道場(1,059 m² 藤久保1120-1)、多目的広場(5,040 m² 藤久保1120-1)、平地林(7,146 m² 藤久保1121-1)の6筆が含まれています。

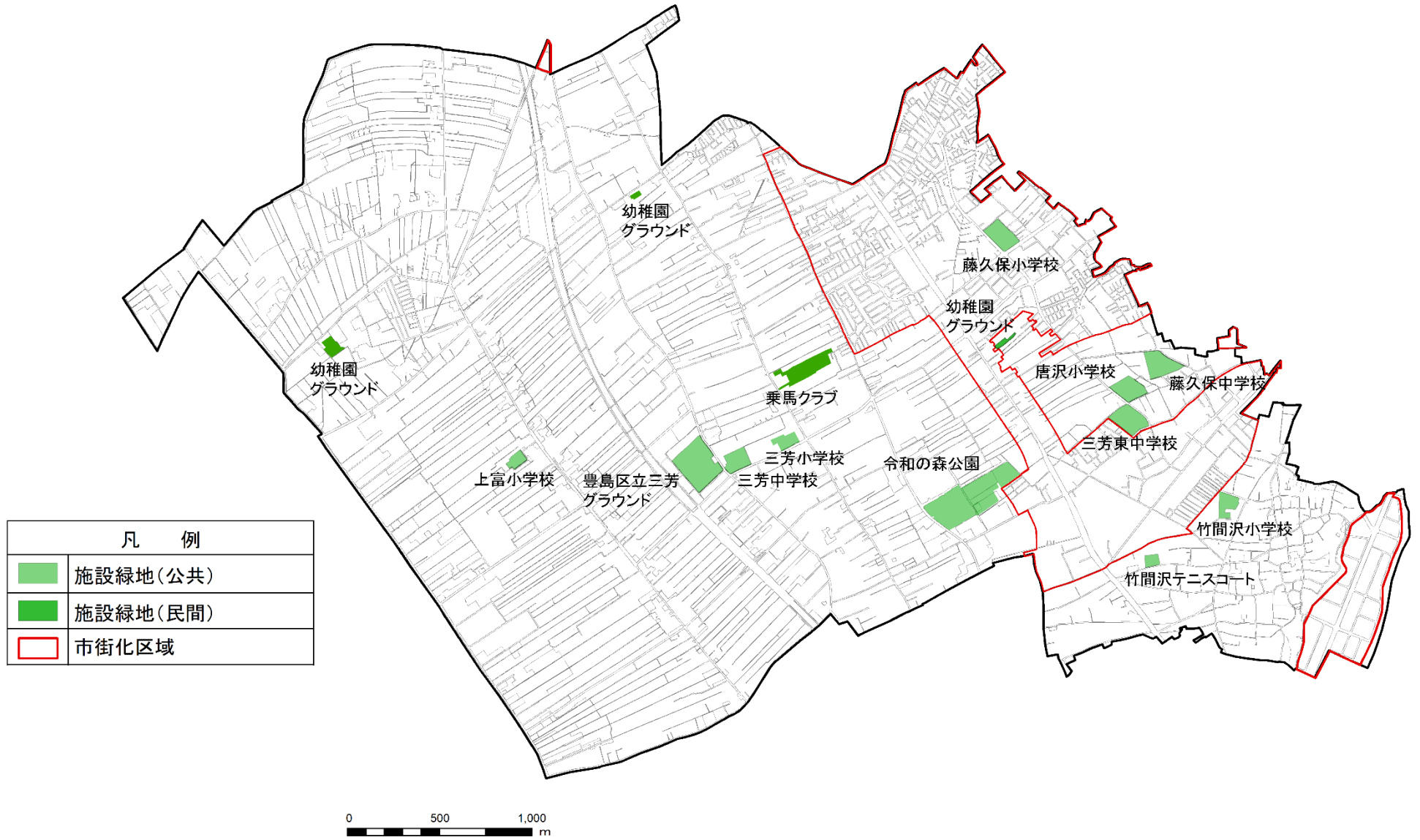


図 2-32 施設緑地(教育施設・運動場等)の分布状況

(2) 地域制緑地の現況

地域制緑地は自然環境保全法で社寺周辺が自然環境保全地域に、農業振興地域の整備に関する法律で市街化調整区域の農地が農振農用地区域に、上富地区が埼玉県の旧跡に指定され、図 2-33~図 2-34 に示すとおりです。

ふるさと埼玉の緑を守る条例により上富地区と上富中西地区、けやき並木、こぶしの里の4箇所が県指定景観地に、三芳町みどりの保護育成及び活用に関する条例により保存樹林3箇所が指定され、都市緑地法により緑の協定が3箇所締結されています。

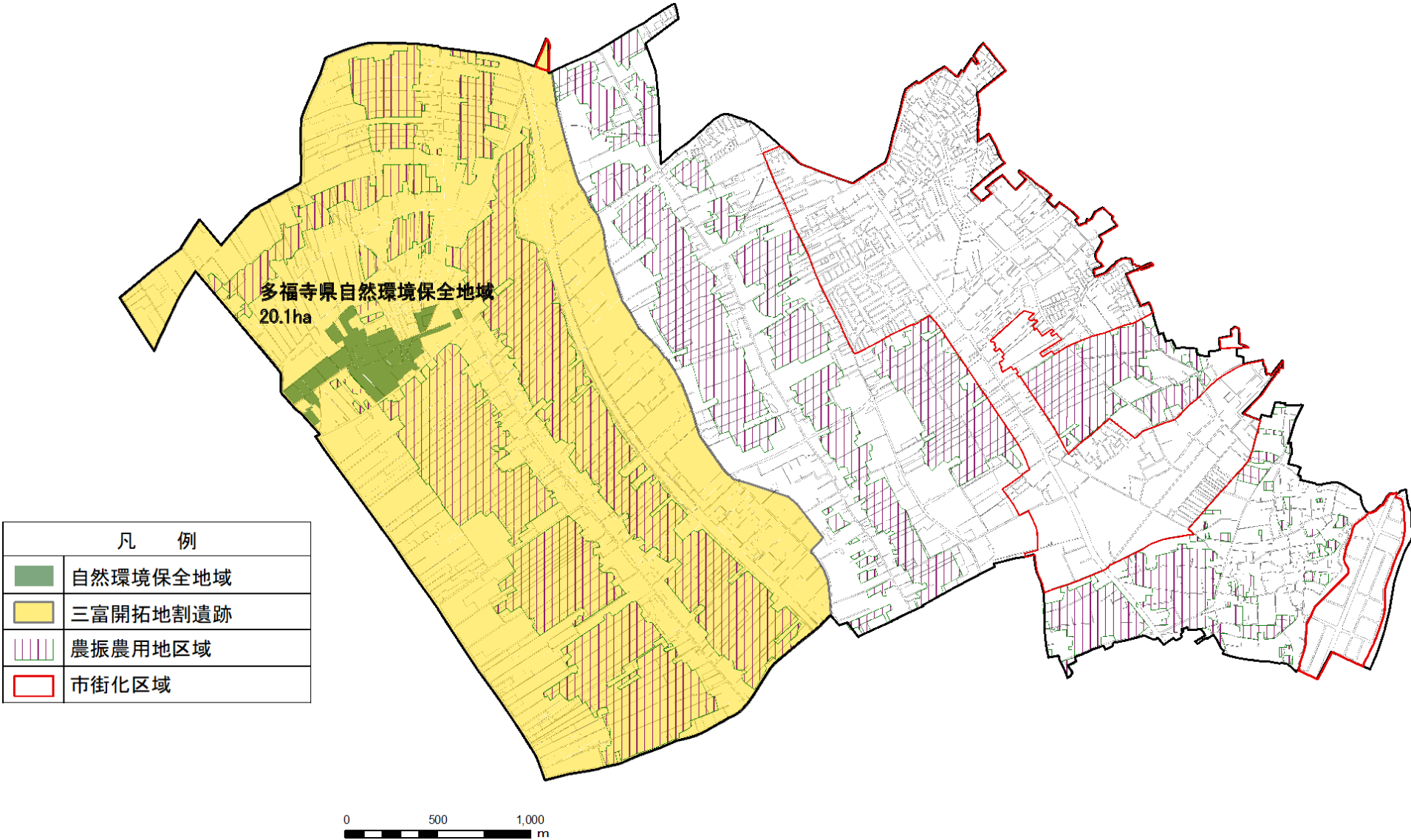


図 2-33 地域制緑地(法によるもの)の分布状況

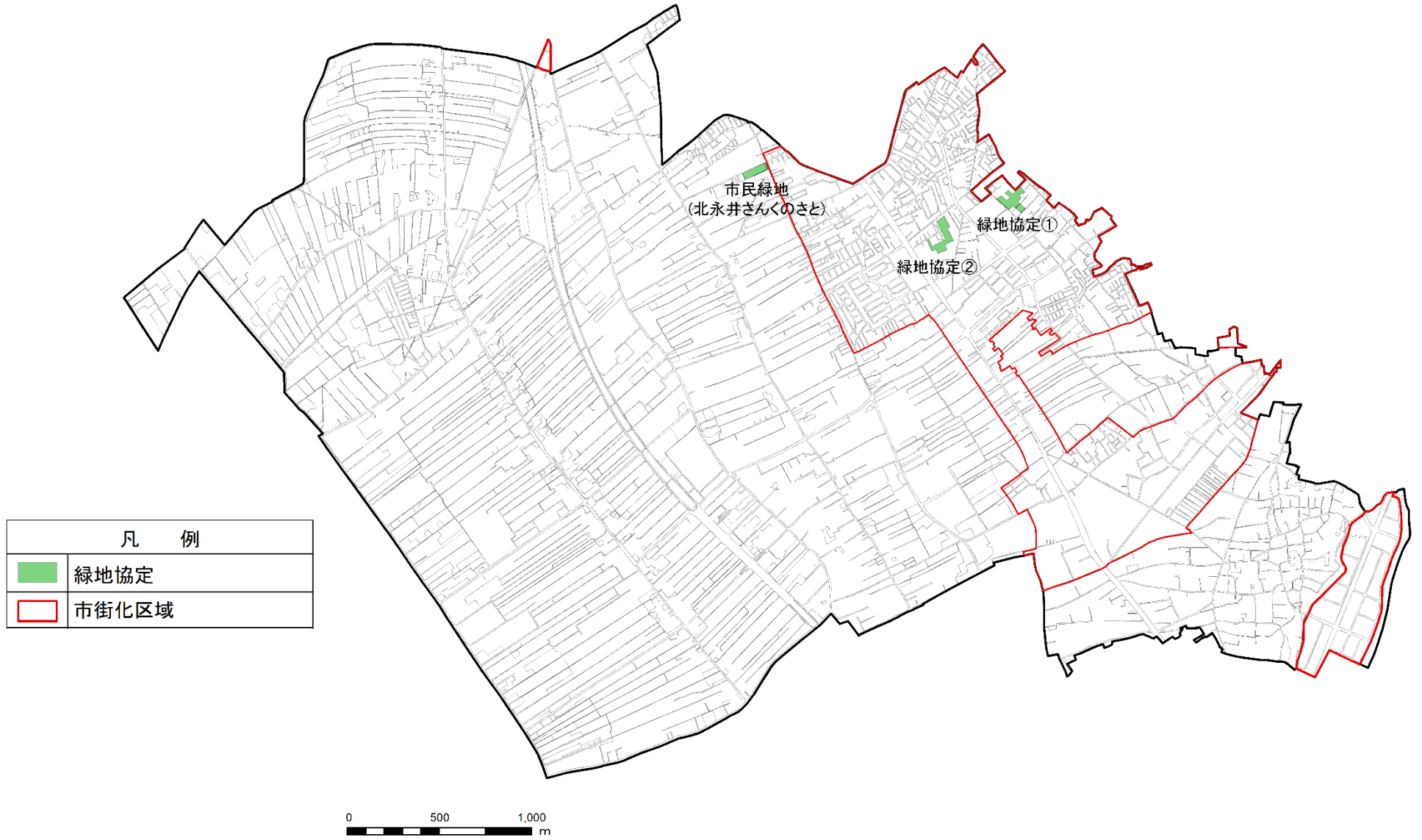


図 2-34 地域制緑地(協定によるもの)の分布状況

2.3 みどりを守り育む住民活動の状況

(1) 緑化・花いっぱい運動

街路樹の整備やプランターなどを設置して住民生活に潤いと安らぎのあるまちづくりを展開するため、平成30年度より「まちかど花いっぱい推進事業」を展開しています。

(2) ごみゼロ運動

環境美化意識を高め、ゴミのないきれいなまちを目指して、各行政連絡区や自治会、ボランティア団体等の各種団体と協力してゴミゼロ運動を実施しています。

(3) 生垣設置補助

緑豊かで災害に強いまちにするため、新たな生垣の設置が一定の条件に当てはまる場合にその費用の一部を補助しています。

2.4 みどりの保護に係る施策の実績

(1) 条例の制定

1) 三芳町みどりの保護育成及び活用に関する条例

町のみどりの保護、育成及び緑陰の活用を図り、住民の快適な生活を確保することを目的としています。みどりの保護、保存樹林の指定や維持管理のための助成金を交付しています。

現在指定している個所は表 2-16 及び図 2-30(p50)に示すように3箇所です。

表 2-16 町指定の保存樹林

| 施設名 | 所在地 | 面積(m ²) | 備考 |
|----------------------|-----|---------------------|----|
| 地蔵街道緑のトンネル一帯 | 上富 | 18,472 | |
| 唐沢小東側及び藤久保中南側一帯 | 藤久保 | 5,758 | |
| 緑のトラスト保全第14号地内及び南側周辺 | 藤久保 | 22,400 | |

(2) 各種事業による取組

1) くぬぎ山自然再生事業

自然再生事業は、過去に失われた自然を積極的に取り戻すことにより生態系の健全性を回復することを目的として行われる事業です。くぬぎ山は都市化が進む30km圏内にあり、三富地域に残された大規模な緑地でオオタカ等の希少種の生息地でもあります。このような自然環境を守っていくための事業を展開しています。

2) 平地林の保全にかかる事業

多様な主体を対象に、平地林の保全をはかり、地域に伝わる農業の知恵や自然・文化を体験していただくため、町では体験落ち葉掃き事業を実施しています。また、町だけではなく、農業者やNPOにより平地林の保全にかかる事業も行われています。

3) 武蔵野の落ち葉堆肥農法の継承

伝統的で多様な農林水産業が営まれ、独自の農村文化が受け継がれているおり、伝統的な農林水産業システムを将来に受け継がれるべき遺産と位置付けて、「日本農業遺産」制度が創設されています。日本農業遺産は農林水産大臣が認定する制度であり、平成31年3月現在で全国15地域が認定されています。

本町を含む武蔵野地域の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産に認定されています。武蔵野の落ち葉堆肥農法は、樹種(落葉広葉樹)を選定した植林と下草刈りや落ち葉掃き等による平地林の管理、落ち葉堆肥による土壌改良とそれによる安定的な農産物の栽培を行うものであり、300年以上前から本地域で行われている伝統農法です。そして、この武蔵野の落ち葉堆肥農法を維持するため、落ち葉堆肥農法を実践している農業者の認定など、伝統農法の継承を行っています。

4) 森林整備計画

地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進する森林整備計画を策定しています。

現状と課題を踏まえ、森林の有する諸機能をより高度に発揮させるため、広葉樹施業や天然生林の的確な保全・整備を進め、多様な森林の育成を図るものです。特に三富地区の農用林として活用されている平地林で活動する各種団体による体験落ち葉掃き、下草刈り等の活動を支援しています。また、イベント等を開催し、これら活動を通じて環境教育、健康づくりの場としての活用を図る計画です。

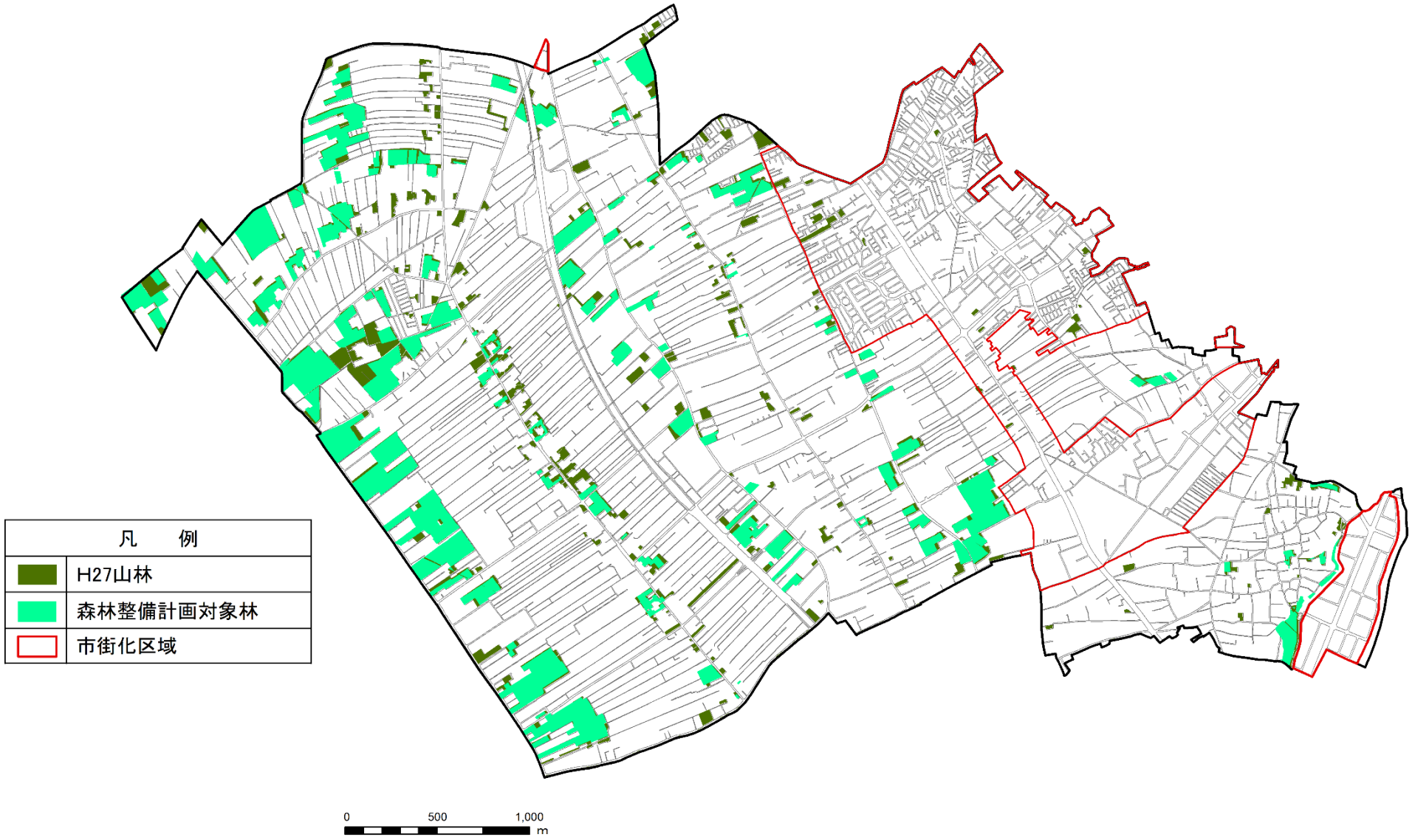


図 2-35 森林整備計画対象林と H27 山林の状況

2.5 みどりの機能からみた現況

(1) 環境保全機能

みどりの環境保全機能は、二酸化炭素の吸収・固定による地球温暖化防止、蒸発散作用によるヒートアイランド現象の緩和、生活環境(大気質の浄化、騒音の抑制効果など)の改善、生物多様性の生育・生息環境の提供等により、快適なまちづくり、生活環境の形成に重要な役割を果たしています。

本町においては、平地林や社寺林を始めとした緑地が多い自然環境を有しており、動植物の生息・生育環境に寄与しているとともに、移動のための休息地や捕食者からの隠れ蓑としても機能しています。また、都市気象の緩和や大気質の浄化等としても機能しており、重要な骨格を形成しています。

落ち葉農法については、平地林の落ち葉を堆肥化し、農作物の肥料として活用した循環型の農法であり、落ち葉を掃くことにより林床には日差しが入り、春先にはキンランなどの貴重な種の生育環境ともなっています。

竹間沢こぶしの里においては、町域唯一の湿地環境が残されており、河岸段丘の斜面林や水路については、動植物の生息・生育環境として貴重な環境資源となっていますが、重要種の分布状況でも記載したように、当該地区の動物相や植物相の情報が不足している状況です。

(2) レクリエーション機能

みどりのレクリエーション機能は、自然とのふれあいの場、スポーツ・野外レクリエーションの場、子どもたちの遊び場及び自然を学ぶ場等の機能を有し、健康で安らぎのある生活を営む上で重要な役割を果たしています。

都市公園は、日常における遊びや憩いの場としての機能を担っています。

町役場の近くにある令和の森公園には、野球、テニス、サッカー、グラウンドゴルフ等のグラウンドの他、バーベキュー施設もあり、スポーツ広場となっています。また、埼玉の優れた自然や貴重な歴史的環境を、県民共有の財産として末永く保全していこうという趣旨で取得した「緑のトラスト保全第14号地」も存在し、「緑のトラスト保全第14号地」内には散策路が整備され、町民の憩いの場となっており、グリーンサポート隊の協力の下、保全活動が進められています。

(3) 防災機能

みどりの防災機能は、地震や火災の際の避難経路・避難場所、火災の延焼防止、地表からの土の流出や崖崩れ防止、水源涵養機能促進等の機能を有し、安全・安心の生活のために重要な役割を果たしています。

また、平地林や農地の持つ雨水の浸透による保水機能は流域の河川への流出を

第2章三芳町の現況と特性

遅らせ、洪水防災の一躍を担い、ダム機能を有しています。

住宅の密集する地域の公園、平地林及び農地は、火災の延焼防止機能を持つオープンスペースとして地域に対して重要な役割を果たしています。

(4) 景観構成機能

みどりの景観構成機能は、街並みに潤いや癒しを与えるとともに、自然・歴史・文化に根ざした個性的な景観を形成し、都市景観等を形成するうえで重要な役割を果たしています。

1) 自然景観

本町は、首都から30kmに位置しているものの、武蔵野の面影を残す平地林の豊かな自然と歴史が残っており、町の魅力の一つとなっています。特に上富地域は当時の面影を色濃く残しており、短冊状の地割が続き、美しい農村風景を形成しています。

2) 歴史的景観

江戸時代の新田開発で誕生した本町の上富地区に大規模に広がる三富開拓地割遺跡、美しい地割の農地と平地林、街道に並ぶ屋敷林は歴史的景観であり、道路沿道や屋敷林内には保存樹林や樹木も多く保存されています。

3) 都市景観

川越街道や上富ケヤキ並木通りの街路樹は景観八景に選ばれるほど町らしさを感じさせてくれる「みどり」として評価が高く、平地林の景観と相まって住民に広く認識されています。しかし、都市公園の緑、公共施設の緑、住宅の緑や花壇、工場周辺の植樹帯など市街地の緑は少なく、土地区画整理事業により面整備が実施された一部地域を除いては、建築物の過密化や住宅と工場が共存しています。特に市街地では生垣や街路樹などの緑化が望まれます。

市街化調整区域での平地林等の開発が進行するなど、有効な緑地保全策を構築することが急務となっています。

4) 県指定景観地

上富中西ふるさとの緑の景観地が指定されています。(図 2-36 参照(p64))

5) みどりの景観八景

町に伝わる歴史や文化遺産と一体となって町らしさを感じさせてくれる「みどり」として平成4年にみどりの景観地として指定され、広く住民の皆さんの声により選定されています。(図 2-36 参照(p64))

- ① 多福寺・木ノ宮地蔵の森
- ② 上富ケヤキ並木通り
- ③ 地蔵街道緑のトンネル

- ④ はなみずき通り
- ⑤ 川越街道
- ⑥ こぶしの里と鎌倉街道
- ⑦ みよし台通り
- ⑧ 上富地割遺跡(図 2-33 参照(p56)の三富開拓地割遺跡)



図 2-36 景観八景の分布状況

(5) 生き物の生育・生息機能

みどりの生き物の生育・生息機能は、緑地内やその周辺を生育・生息地として生物多様性を育むとともに、遺伝子や生物種、生態系の保全及びエコロジカルネットワークを形成する機能を有し、生態系の維持・保全に重要な役割を果たしています。

動植物の調査を実施している地区は図 2-37 に示すくぬぎ山地区、トラスト 14 号地及び自然環境保全地域であり、3 地区においては表 2-17 に示すような多くの種が確認されています。確認された種のうち重要な種としてはギンラン、キンラン、オオタカ、サシバ、ハヤブサ、ヒバカリ、ヒメカマキリモドキ、ヒオドシチョウ、トダセスジゲンゴロウ、オオハラナガツチバチは国及び埼玉県の絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されており、生き物の生育・生息環境としての機能が維持され、遺伝子や生物種、生態系が保全されています。

また、多くの平地林や道路の植樹帯及び農用地(畑)は、動物にとって移動経路が確保され、エコロジカルネットワークが形成されています。

竹間沢は町域において唯一の湧水源を有する山下用水(こどもの川)であり、その周辺の斜面林や湿地性植物、湧水は多様な生態系の形成に不可欠な要素となっています。

表 2-17 地域で確認されている動植物の種数と重要種

| 動植物 | くぬぎ山 | トラスト 14 号地 | 自然環境保全地域 | 町域内 | 重要種 | |
|-----|-----------|---------------|------------------|----------------|------------------|------------------|
| 植物 | 46 科 75 種 | 79 科 197 種 | 89 科 258 種 | 98 科 331 種 | キンラン等 7 種 | |
| 動物 | 鳥類 | 5 目 18 科 32 種 | 13 目 27 科 52 種 | 8 目 23 科 40 種 | 13 目 29 科 59 種 | サシバ等 17 種 |
| | 両生類 | 2 目 2 科 2 種 | 0 種 | 0 種 | 2 目 2 科 2 種 | — |
| | 爬虫類 | 1 目 3 科 5 種 | 1 目 4 科 5 種 | 1 目 3 科 3 種 | 1 目 4 科 8 種 | ヒバカリ等 5 種 |
| | 哺乳類 | 4 目 4 科 4 種 | 3 目 4 科 4 種 | 3 目 4 科 5 種 | 5 目 6 科 7 種 | ホンダタヌキ 3 種 |
| | 昆虫類 | 9 目 42 科 68 種 | 13 目 162 科 527 種 | 8 目 54 科 119 種 | 14 目 185 科 640 種 | トダセスジゲンゴロウ等 20 種 |
| クモ類 | — | 21 科 59 種 | — | 21 科 59 種 | キシノウエトタテグモ 1 種 | |



図 2-37 緑地における動物相・植物相の調査済みエリアの状況

(6) コミュニティ形成機能

みどりのコミュニティ形成機能は、地域住民を主体とした平地林の保全や草花の植栽など住民活動の場となっており、公園での地域のお祭りや催し物など、多世代の住民が交流できる機会を生み出す環境を有しており、人とのつながりやコミュニティの形成に重要な役割を果たしています。

また、平地林の恵みを活かした「富(とめ)の川越いも」を作付けている農業者等の団体として川越いも振興会が組織されており、地域のコミュニティが形成されています。そして、これまでの活動が評価され、川越いも振興会は2015(平成27)年度の農林水産祭のまちづくり部門において天皇杯を受賞しています。

2.6 みどりに関する住民の意識

関連計画策定時(2018(平成30)年10月)に実施した結果から整理しました。

(1) 町への愛着度・居留意向

町に愛着を感じている人、町に住み続けたい人は約7割、特有の自然環境が好まれています。

- ① 本町に愛着を感じている方が7割強(74.4%)、どの地区においても三富新田、こぶしの里、けやき並木、平地林など本町の特色ある自然的な要素が多く好まれています。
- ② 今後も町内に住み続けたい人は7割弱(68.2%)、町外及び町内の別の場所に移転したい人の割合は2割弱(17.6%)で、理由は「通勤・買い物に不便」が最も多い。
- ③ 居住年数1年未満の人は、主に都市的な魅力や利便性を求めて「町外に移りたい」傾向が強い。

(2) 地域環境への評価

本町の総合的な満足度は高いですが、交通利便性や働く場所としては不満の傾向が強くなっています。

- ① 多くの項目で満足が不満を上回り、「三芳町の暮らしやすさ」は7割以上(72.6%)が満足・どちらかといえば満足と回答。特にごみ処理等の衛生面や自然環境、日照等快適さに関連する項目の満足度が高い。
- ② 「バスの利便性」「鉄道の利便性」「良い職業を得る場として」「幹線道路・生活道路の整備」交通の利便性や就業場所としての満足度は低い。

(3) 三芳町の将来のまちづくり

安心・快適に住み続けられる環境、身近な交通の利便性と安全性の向上が望まれています。

- ① 環境整備としては「生活に必要な機能が整った快適な暮らしができる環境」(56.7%)が最も多く望まれ、「高齢者や障がい者など誰もが安心して暮らすことができる環境」(43.2%)、「武蔵野の平地林等の豊かな自然の中でゆったりと暮らすことができる環境」(33.3%)が次ぎ、安心してゆったりと住み続けられる環境整備が多く望まれています。
- ② 施設・機能整備としては「バス等の輸送力などの公共交通の便」(49.3%)、「歩道や歩行者専用・優先の道路」(39.3%)が多く、身近な交通環境の利便性と安全性の向上が望まれています。

(4) みどりに関する住民意識の要約

関連計画の作成段階(「H17 緑計画」は2004(平成16)年度)、都市計画マスタープランは2018(平成30)年10月に実施した意識調査を基に、緑に関する内容を要約すると、表2-18に示すとおりです。

町らしさでは平地林、上富等の農地、社寺林等の緑、ケヤキ並木、三富新田、川越街道の松並木等が挙げられています。

表 2-18 緑に関する住民意識について

| 視点 | 住民意識 |
|-----------|---|
| 緑の現状 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 平地林、農地と社寺等の緑の評価が高く保全が必要 ➤ 緑豊かで自然環境がよい ➤ 自然環境の保全や景観や街並みが高い |
| 緑の質と量 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 身の回りの緑が減少し、低下 ➤ 良質の緑の創出が必要 |
| 平地林等の保全 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 積極的な保全 |
| 町らしい緑 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 平地林、上富等の農地、社寺等の緑 ➤ 自然・緑、ケヤキ並木、三富新田 ➤ 川越街道の松並木等 |
| 公園 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 身近な公園や自然と親しめる公園整備 |
| 残したい緑 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 平地林、史跡、社寺等の緑 |
| 住民参加 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 身近な緑化、公園、平地林の清掃 ➤ 参加増加のためにアピールが必要 |
| 将来像 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 自然環境に恵まれているまち |
| まちづくりの方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」 |



ヤマユリ

第3章 都市のみどりに関する税制の状況

国においては、都市のみどりについて良好な自然環境を行為制限により守るための制度が設けられています。

その状況は表 3-1 に示すとおりであり、竹間沢こしぶの里の保全や平地林の保全、三富開拓地割遺跡内の農地の保全等を守る制度として、平地林の都市公園利用の導入を検討します。

表 3-1 都市のみどりに関する税制

| 分類 | 制度等 | 制度概要 | 固定資産税 都市計画税 | 相続税 |
|-------|--------------------|--|---------------------------------|---|
| 公園 | 都市公園 (借地公園) | 土地所有者との貸借契約により土地物件に関する権利を借り受けて都市公園を開設 | 非課税(地方公共団体に無償貸し付けの場合) | 4割評価減(契約期間20年以上などの条件を満たす場合) |
| 契約 | 市民緑地 | 地方公共団体等が土地所有者と契約を結び、地域の人々の利用に公開 | 非課税(地方公共団体に無償貸し付けの場合) | 2割評価減(契約期間20年以上などの条件を満たす場合) |
| | 緑地保全地域 | 里山などの都市近郊の緑地、広域的な緑地を届出、命令性により保全 | — | — |
| 地域地区等 | 特別緑地地区 | 良好な自然環境を形成している地域を対象に、開発行為を許可制により規制し、現状凍結的に保全 | 最高 1/2 の評価減(管理協定と併用すれば非課税) | 山林・原野については8割評価減(管理協定と併用すればさらに2割評価減) 延納利子税の利率を課税相対財産の評価額に占める不動産等の評価額の割合が、50%以上の場合：3.6%、50%未満の場合：4.2%とする |
| | 管理協定 | 緑地保全地域、特別緑地保全地区の管理について、地方公共団体等が土地所有者と協定 | 非課税(地方公共団体に無償貸し付けの場合) | 管理協定区域が特別緑地保全地区内において、定められた場合は特別緑地保全地区としての評価減に加えさらに2割評価減 |
| | 地区計画 緑地保全 条例 | 条例に基づく許可制により、地区内の貴重な緑地を現状凍結的に保存 | — | — |
| | 生産緑地 地区 | 市街化調整区域内農地を都市計画決定し建築行為等を許可制により規制 | 宅地内課税委の適用除外、農地として課税 | 残営農年数等により 3.5～0.5 割評価減 相続人が営農継続の場合、納税猶予(相続人が死亡の日に免除) |
| | 歴史的風土特別保存地区 | 古都における歴史的風土を保存するため、開発行為を許可制にすることにより規制し、現状凍結的に保存 | 固定資産税を課さない場合、基準財政収入額の特例 | 行為制度の内容を踏まえて評価減 林地の場合、さらに3割評価減 延納利子税の利率を課税相対財産の評価額に占める不動産等の評価額の割合が、50%以上の場合：3.6%、50%未満の場合：4.2%とする |
| 認定 | 市民農園 | 地方公共団体が借地を行い、住民利用に供する分区園を整備 特定市民農園：貸付期間が20年以上等一定の要件を満たすもの | 無償貸し付けの場合は非課税 有償の場合課税することが可能 | 2割評価減(特定市民農園の場合3割評価減) 生産緑地ではさらに生産緑地として評価 |

資料：みどりの政策の現状と課題 国土交通省

https://www.mlit.go.jp/singikai/infra/city_history/city_planning/park_green/h18_1/images/shiryou06.pdf



ネジバナ

第4章 施策の実施状況

4.1 実施した主な施策

「H17 緑計画」の実施状況をみると、表 4-1 のように、緑に関する主な施策を推進しています。

表 4-1 「H17 緑計画」の主な施策の実施状況

| 基本方針 | 施策の方針 | 主な施策 | 実績状況 |
|----------------|-----------------------------|---|--|
| 歴史的な緑を継承し、守ろう | 平地林の保全 | ① 市民緑地制度の活用 ② 緑地協定制度の推進 | ○：「さんくのと」と協定 ○：緑地協定の締結 |
| | 上富の新田開拓遺跡 ^{※1} の保全 | | ○ |
| | 社寺・屋敷林の保全 | | ○ |
| | 地域制緑地の指定 | ① 多福寺県自然環境保全地域 | ○ |
| | 保存樹林、樹木の指定 | | ○ |
| 潤いのある緑のまちを創ろう | 道路、公共施設の緑化 | ① 道路の緑化 ② 学校の緑化 ③ 都市公園の緑化 ④ その他公共施設の緑化 | ○ ○：ビオトープづくりの継続 ○ ○ |
| | 民有地の緑化 | ① 住宅地の緑化 ② 商業地の緑化 ③ 工業地の緑化 | ○：緑地協定、苗木配布、生垣補助制度再開 ○：開発に伴う沿道緑化 ○ |
| | みどりのネットワーク形成 | | ○ |
| みどりへの関心を高めよう | 普及啓発活動と顕彰制度の推進 | ① 緑化イベントの開催 ② 環境教育の推進 ③ 「町民の森」の整備 | ○：自然観察会、丸太切り、クラフト体験等開催 ○：自然体験教室の実施 ○：緑のトラスト保全第14号地取得、保全 |
| | 緑化のPR | ① 緑化コンクールの開催 ② 表彰制度の設立 | × × |
| みんなで力を合わせて進めよう | みどりの活動団体の育成 | ① 緑化推進団体の育成 ② 緑化推進協議会の設立 ③ ボランティアの育成・支援 | ○：まちかど花いっぱい推進事業を通して緑化推進団体への支援 ○：2015(平成27)年度設立 ○：みよしグリーンサポート隊の活動支援 |
| | 緑の基金の設立 | ① ぬくもり基金による緑化活動支援 | ○：緑化推進費寄付金の設立 |

資料：「三芳町緑の基本計画 平成17年3月 三芳町」に実績を加筆しました。

注) ※1の新田開拓遺跡の名称は「H17 緑計画」の記載内容であり、本計画では「三富開拓地割遺跡」をいいます。

4.2 目標の達成状況

「H17 緑計画」における目標値と現在の実績をみると、表 4-2 に示すように、都市公園等の達成状況が低い状況です。

一人当たりの都市公園等の面積をみると、埼玉県で 7.3m²/人^{※24}、全国平均で 12.0m²/人であり、都市公園等としての本町の規模は埼玉県の 2 分の 1 程度です。

国において定めている整備水準(一人当たり公園面積に関するもの)をみると、緑の政策大綱では、都市公園等は概ね全ての市街地において歩いていける範囲に公園の整備を推進するとともに、公園内の植樹面積の増加に努めることとしており、長期的には、住民一人当たりの都市公園等面積の目標を 20 m²としています。

また、都市公園法施行令では、市町村(特別区を含む)の区域内の都市公園の住民一人当たりの敷地面積の標準は、10 m²以上とし、当該市町村の市街地の都市公園の当該市街地の住民一人当たり敷地面積の標準は、5 m²以上としています。

表 4-2 「H17 緑計画」の目標と達成状況

| 年次 | | H32(R02)年 | | 現在 (令和2年4月) |
|------------------|---------|----------------------------------|------------------------|------------------------|
| 緑地の目標 | | 63.5ha 12.2%(市街地面積比) | | 20.3ha 6.8% |
| 都市公園面積 | | 5.00m ² /人 | | 3.87 m ² /人 |
| 都市公園等面積 | | 7.68m ² /人(公共施設緑地を含む) | | 7.23 m ² /人 |
| 緑 化 目 標 | 樹木被覆率 | 15% | | — |
| | 植栽総本数 | 50 千本 | | — |
| | | 緑化率 | 樹木本数 | — |
| | 都市公園 | 公園敷地 30%以上 | 20 本以上/ha | — |
| | 道路 | 街路延長 50%以上 | 100 本以上/km | — |
| | 学校 | 学校敷地 20%以上 | 100 本以上/学校 | — |
| | その他公共施設 | 敷地 15~20%以上 | 100 本以上/施設 | — |
| | 民有地 | 専用住宅 | 既設:空地 20% 新設:敷地 10% | — |
| | 集合住宅 | 既設・新設:空地 10% | — | |
| | 店舗 | 既設:空地 5% 新設:敷地 5% | — | |

注) 本町の人口は 2019(平成 31)年 4 月の人口(38,193 人)を用いています。

※24 国土交通省都市局ホームページの 2017(平成 29)年度末 都道府県別一人当たり都市公園等整備現況の値を示しています。http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/t_kouen/pdf/04_h28.pdf

第5章 現状分析と課題及び見直し点

5.1 計画全体

【課題】

本町には、平地林や社寺林、屋敷林、農地等武蔵野をイメージ・想像する環境が残されています。また平地林や農地には昔ながらの営みを今に残す落ち葉堆肥農法が受け継がれ、重要な動植物の生育・生息も確認されているものの、その平地林や農地も減少傾向にあります。

「H17 緑計画」の策定段階(2005(平成 17)年 3 月)以降において、「生物多様性手引き」及び「生物多様性配慮事項」等が策定され、生物多様性の保全等の観点から「みどり」の重要性はさらに高まっており、みどりを保全するとともに、移動に配慮したエコロジカルネットワークを形成することが必要です。

「H17 緑計画」では策定後の進捗・管理計画の策定が必要です。

【見直しの視点】

◆生物多様性の施策展開

緑地の保全や緑化の推進、公園整備によって「みどり」を確保するとともに、住民や事業者(団体)及び行政の三位一体の協働により、生物多様性や持続性のある施策を展開し、住民が暮らし続ける街並みを形成します。

◆進捗管理の実施

進捗管理を策定した計画の見直しを行います。

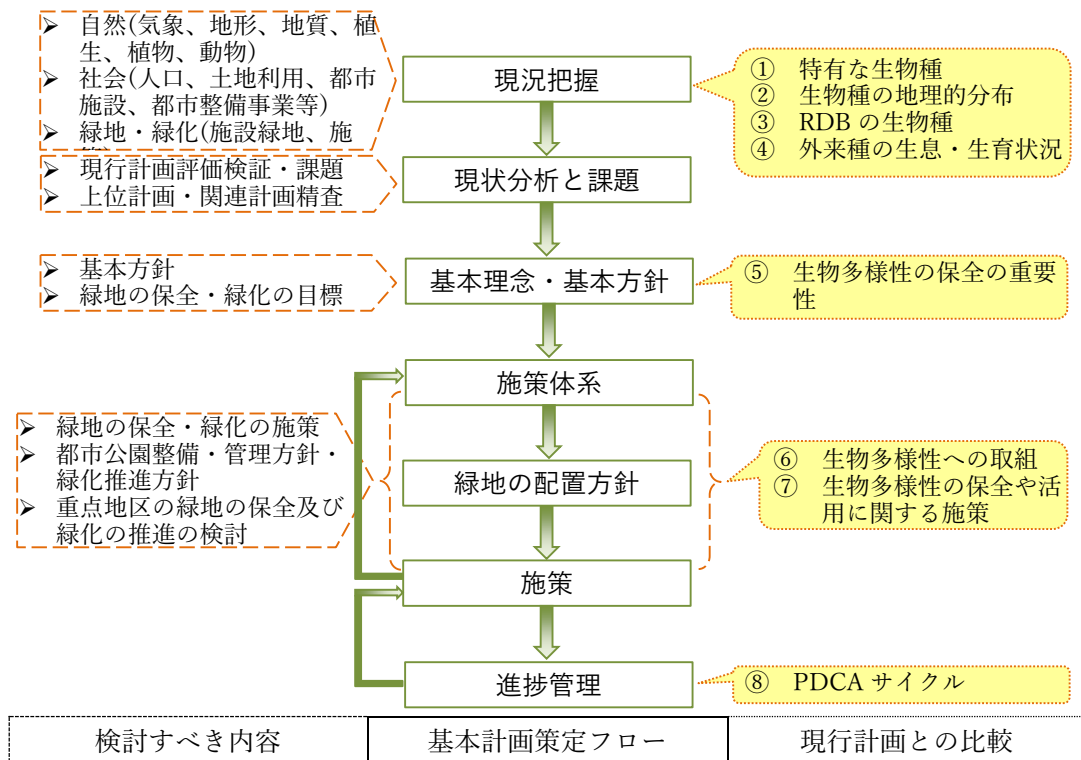


図 5-1 三芳町緑の基本計画策定フロー

5.2 緑地の保全・活用に係る課題と見直し点

【課題】

本町には、平地林や農地等武蔵野をイメージ・想像する環境が残されているものの、その平地林や農地も減少傾向にあり、さらに管理の行き届かない平地林は林床にアズマネザサやアオキ等が繁茂し、貴重な植物相の生育環境が少なくなり、生態系に影響を及ぼしています。

特に、竹間沢こぶしの里においては、町域の唯一の湿地環境が残され、斜面林や水路は動植物の生息・生育環境として貴重な環境資源となっているものの、動物相や植物相の情報が不足している状況です。

住民の意識調査では、自然環境の保全や景観、街並みに高い意識があり、身の回りの緑が減少し、良質の緑の創出が必要と意識していますが、その平地林を管理する担い手である管理人やボランティアの高齢化も進んでいます。

【見直しの視点】

◆動植物の生息・生育状況調査の実施

平地林における動植物の生息・生育状況の情報としては、くぬぎ山地区やトラスト 14 号地及び自然環境保全地域の 3 箇所の情報のみであり、他の地域での情報が乏しい状況です。実際、「北永井さんくのさと」の平地林においてヒバカリ(VU：絶滅危惧Ⅱ類)を確認しており、計画的な動植物の生息・生育状況の環境調査の実施が必要です。特に、竹間沢こぶしの里は、町域の唯一の湿地環境であり、動植物の生息・生育環境として貴重な環境資源となっているものの、動物相や植物相の情報が不足している状況であり、生息・生育状況調査の実施が必要です。

◆こぶしの里の湧水や山下用水(こどもの川)の水辺の保全

こぶしの里やこどもの川の斜面林及びその周辺の農用地は、湧水や河川の維持流量の重要な水源です。また、本町では唯一の湧水源とした地形を有し、この水源や湿地環境を生息・生育環境とする動植物の保全が必要です。

◆緑のトラスト保全整備事業の推進

埼玉県条例により指定されている上富中西ふるさとの緑の景観地、三芳町多福寺県自然環境保全地域や、町指定の保存樹林など、本町特有の緑地を後世に残していくために、緑のトラスト保全整備事業を引き続き推進することが必要です。また、工業地における緑化の推進、住民、事業者、行政等の協働による緑化運動を推進し、緑あふれる緑地整備に努めることも必要です。

◆平地林の地権者との合意形成に伴う有効活用

平地林では、土地所有者との合意形成を図りながら、緑地協定制度等に指定し、平地林を活用した公園整備と適切な維持管理を行うものとしします。

◆みどりの守る担い手の拡充

生物多様性の保全から緑地を適切に管理していくために、管理の担い手を育てる技術を伝承していくことや、住民や事業者(団体)との連携によりみどりの担い手を増やしていくことが必要です。

住民意識調査では、身近な緑地や公園及び平地林の保全に積極的に参加する意識が高く、既に「みよしグリーンサポート隊」も結成されており、その拡充を図ります。

5.3 緑化の推進に係る課題と見直し点

【課題】

本町には、武蔵野の面影を残す平地林が広がり、緑豊かな環境に恵まれている一方で、人目にふれない場所も多く、平地林や道路などへのごみの不法投棄やポイ捨ても多く見受けられることから、2016(平成28)年12月1日に「三芳町をきれいにする条例」を施行しました。

本町の主要な緑である平地林の面積は142.34haで町域の9.3%を占め、宅地化されている緑地を建ぺい率から推定すると192.6ha、同15.3%を占めており、民有地も緑の重要な存在となっています。図2-10(p16)に示すように上富地区や北永井地区の住宅地は緑の多い住宅地として分類されています。

民有地における新開発には2件の緑地協定が締結されており、確実な緑化が当協定で担保されています。また道路整備に当たっては生物の移動経路の確保や、魅力ある街並みの形成に向けた緑の植栽を図ります。

【見直しの視点】

◆清潔できれいな町の形成

住民とともに、「清潔できれいな町」として安全で快適な生活環境を確保するとともに、ごみの不法投棄などの防止対策強化を図ります。住民と行政の相互協力体制の充実を図りつつ、パトロールなどの監視機能を強化し、ごみの不法投棄を抑制する環境づくりを進めます。また、環境美化地域清掃活動への多くの住民参加を促し、住民の環境美化意識の高揚を図ります。

◆新規開発に伴う緑化の検討

民有地における緑地を確保するために、市街化区域内での新規開発については地区計画や緑地協定等を検討します。

◆みどりの連続性の確保

みどりの連続性を確保するためのエコロジカルネットワークの形成を図るとともに、住民がさらなる愛着と誇りを持てる街並みを目指します。特に川越街道や上富ケヤキ通りの松並木やケヤキ並木を保全するとともに、新たに東西方向の並木の導入を検討します。

5.4 公園整備に係る課題と見直し点

【課題】

都市公園は、人々の憩いやスポーツ・レクリエーション活動の場、災害時の避難場所など、多様な機能を持つオープンスペースであり、利用者も子どもから高齢者まで幅広い世代が利用しており、将来に渡ってゆとりと豊かさを実感できる重要な公園となっていますが、一人当たりの都市公園整備面積は 3.87m²/人と少ない状況です。

【見直しの視点】

◆令和の森公園の整備

今後は、住民と協働で地域の特性や住民のニーズに応じた魅力的な公園づくりや緑豊かでうるおいのある本町らしい公園整備をめざす必要があります。

また、運動公園グラウンド、緑地公園、自然の森・レクリエーション公園及び多目的広場を含め、令和の森公園として誰もが憩い、集い、楽しめる魅力ある公園の整備を進めます。

また、令和の森公園内には、埼玉の優れた自然や県民共有の財産として未永く保全する「緑のトラスト保全第14号地」も存在し、グリーンサポート隊の協力の下、保全活動を進めます。

◆市街化区域の公園の整備

市街化区域では、法的要件等の条件が整った段階での市街地整備と連動して新しい公園の整備を進めます。

既存公園においては、計画的な施設の改修、利用者ニーズに応じた公園づくりに努めます。

5.5 環境に係る課題と見直し点

【課題】

本町の自然的土地利用の中では畑と平地林が大きな面積を占め、この畑と平地林が集落と一体的に立地しています。また、これらの農地は、良好な居住環境と豊かな恵みを育むとともに、伝統農法に支えられた農地の維持・保全にも大きく貢献しています。

しかし、後継者の不足等により土地利用の転換による面的分断と耕作放棄地における管理不足により農用地の歴史的景観機能の低下が課題となっています。また、都市化の進行により平地林が伐採され、駐車場や倉庫、工場等に変化しています。これら平地林の緑は、町の原風景を構成するうえで重要な要素となっており、積極的な保全・再生を図る必要があります。

自然環境保全地域周辺やこぶしの里などの緑は市街地から離れており、住民が日常的に利用できる身近な緑が不足しています。市街地に残る平地林を身近な緑として利用していくことが必要です。

【見直しの視点】

◆遊休農地有効活用の模索

本町の豊かな農地・緑地、自然景観を維持・保全していくことを基本とし、特性に合わせた農業生産形態を支援し、優良な営農環境を維持するとともに、地域ブランド化をさらに進め、日本農業遺産に認定された武蔵野の落ち葉堆肥農法や、三富開拓地割遺跡などの歴史的資産を継承するとともに、遊休農地の有効的な活用方法について模索し、集落環境の持続可能な発展を目指します。

◆みどり共生産業ゾーンへの誘致・留置

(町)3号線、(町)8号線の沿道等は、本町の西の玄関口となる三芳スマート IC を交通拠点とした産業誘致ゾーンとして、都市計画法の措置を講じることにより企業の誘致・留置を促進し、産業系施設の誘導を図ります。誘導にあたっては、特に沿道緑化を推進し、景観を形成します。三芳スマート IC を産業、観光交流等の西の玄関口に設定し、地域特性に配慮した環境整備を実施することで、町の経済の活性化を図ります。

5.6 生物多様性に配慮したエコロジカルネットワークの形成の追加

【課題】

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10 2010(平成22)年10月愛知県名古屋市開催)における決議等を踏まえ、生物多様性の確保のため、2011(平成23)年10月に都市緑地法運用指針の改正等が実施されています。

2015(平成27)年の「国連持続可能な開発サミット」では、17の目標と169のターゲットからなるSDGs(持続可能な開発目標)^{※25}が採択されています。

本計画に生物多様性への配慮を盛り込むことは、表5-1に示す主に5つの目標に反映することになり、多くの個別目標の達成にも寄与することになります。

エコロジカルネットワークの構築に向けては、生きものの生息・生育状況を継続的に把握することも重要であり、生きものの生息・生育状況の把握と活用が望まれます。

生きものの生息・生育の場となるみどりを保全・創出するとともに、様々な分野と連携し、生物多様性に配慮したエコロジカルネットワークの構築を目指します。







※25 SDGs：持続可能な開発目標

(Sustainable Development Goals: SDGs)とは、2015年の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。緑の基本計画に生物多様性への配慮を盛り込むことは、「15陸の豊かさを守ろう」をはじめ、「11住み続けられるまちづくりを」や「13気候変動に具体的な対策を」など多くの個別目標の達成に寄与すると言われていました。生物多様性の保全は、先進国において取り組むべき国際的な目標の一つであり、かつ日本における優先課題となっています。



資料：外務省資料「持続可能な開発のための2030アジェンダ」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000270588.pdf>
 SDGsの17の個別目標

表 5-1 本計画に反映する SDGs(持続可能な開発目標)

| 目標テーマ | 概要 | ターゲット |
|--|--|----------------------|
|  目標 6 安全な水とトイレを世界中に | すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する | 6-6 |
|  目標 11 住み続けられるまちづくりを | 都市と人間の居住地を包括的、安全、レジリエント(復元)かつ持続可能にする | 11-4 |
|  目標 12 つくる責任つかう責任 | 持続可能な消費と生産のパターンを確保する | 12-8 |
|  目標 13 気候変動に具体的な対策を | 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る | 13-2 |
|  目標 15 陸の豊かさを守ろう | 陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転並びに生物多様性損失の阻止を図る | 15-1 15-2 15-4 |
|  目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう | 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する | 17-17 |

資料：持続可能な開発目標(SDGs)報告 2019 国際連合広報センター

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/

【見直しの視点】

◆エコロジカルネットワークの形成のための施策の設定

目標 6「安全な水とトイレを世界中に」では、みどりの持つ保水能力を活用した生態系の保護と回復に寄与し、目標 11「住み続けられるまちづくりを」では、みどりの持つ温室効果ガスの吸収力、オープンスペース確保による安全性、環境の回復による持続可能な社会の形成に寄与し、目標 12「つくる責任つかう責任」では、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つことに寄与し、目標 13「気候変動に具体的な対策を」では、みどりの持つ温室効果ガスの吸収力が評価され、目標 15「陸の豊かさを守ろう」では、みどりの維持・創出により生物多様性を確保することになります。また、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」では、住民、団体、事業者(企業)及び行政の三位一体化した施策の展開でパートナーシップを活性化することになります。

表 5-2 緑の基本計画に反映する SDGs(持続可能な開発目標)のターゲット

| 目標テーマ | 本計画に該当するターゲット |
|---|--|
|  目標 6 安全な水とトイレを世界中に | 6.6 (053) 2020 年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む <u>水に関連する生態系の保護・回復を行う。</u> |
|  目標 11 住み続けられるまちづくりを | 11.4(094) 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。 |
|  目標 12 つくる責任つかう責任 | 12.8(108) 2030 年までに、人々があらゆる場所において、 <u>持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</u> |
|  目標 13 気候変動に具体的な対策を | 13.2(113) <u>気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。</u> |
|  目標 15 陸の豊かさを守ろう | 15.1(127) 2020 年までに国際協定の下での義務に則って、 <u>森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。</u> |
| | 15.2(128) 2020 年までにあらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、 <u>森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。</u> |
| | 15.4(130) 2030 年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、 <u>生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う。</u> |
|  目標 17 パートナリシップで目標を達成しよう | 17.17(167) <u>さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</u> |

注)括弧内の数値は 169 ターゲットの内訳番号を示し、アンダーラインは緑の基本計画に反映すべき内容を示します。

第6章 みどりの将来像と目標

6.1 基本理念

本町は首都圏 30km 圏内に位置し、上富の三富開拓地割遺跡に代表される独特な地割りを有する短冊形の農耕地と平地林などが広がっています。その平地林は冬季の季節風を防ぐ防風林や薪炭林として発達したクヌギ・コナラ等の二次林で南北方向に農耕地を挟んだ形で存在しています。この二次林は武蔵野の風土を象徴する歴史的遺産として重要なものであり、県指定ふるさとの景観地に指定され、そこには貴重な植物や動物も確認されており、生物多様性の地域における重要な場となっています。

このように本町のみどりは、人々が自然と深く関わり合いながら長い時間をかけて形成され、生物多様性の保全に資するとともに、武蔵野の落ち葉堆肥農法を継承する一役を担ってきました。

この良好な自然環境を後世に繋げ、人々が潤いのある環境の中で心豊かに暮らすことのできる「緑の武蔵野台地みよし」を将来的にも維持、発展させていくことを目指し、基本理念を次のように定めます。

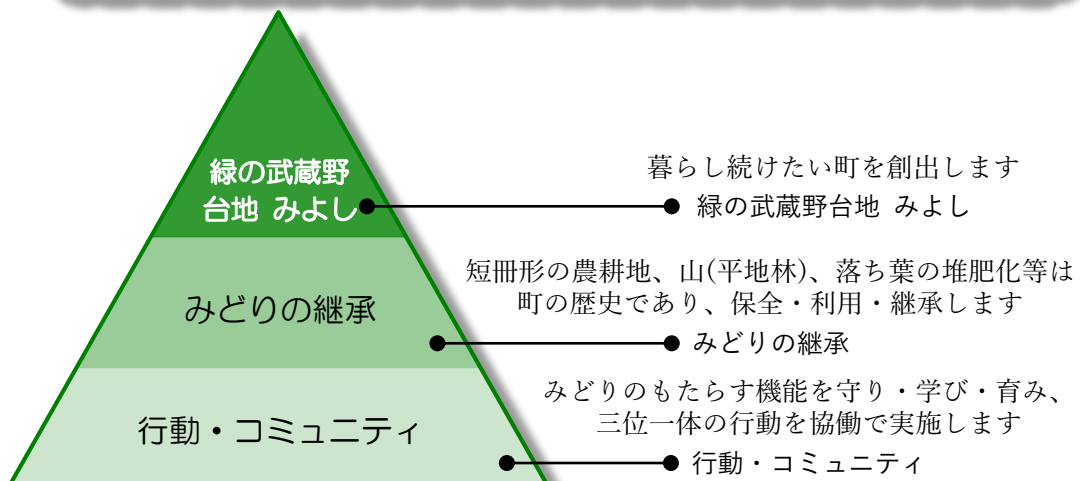
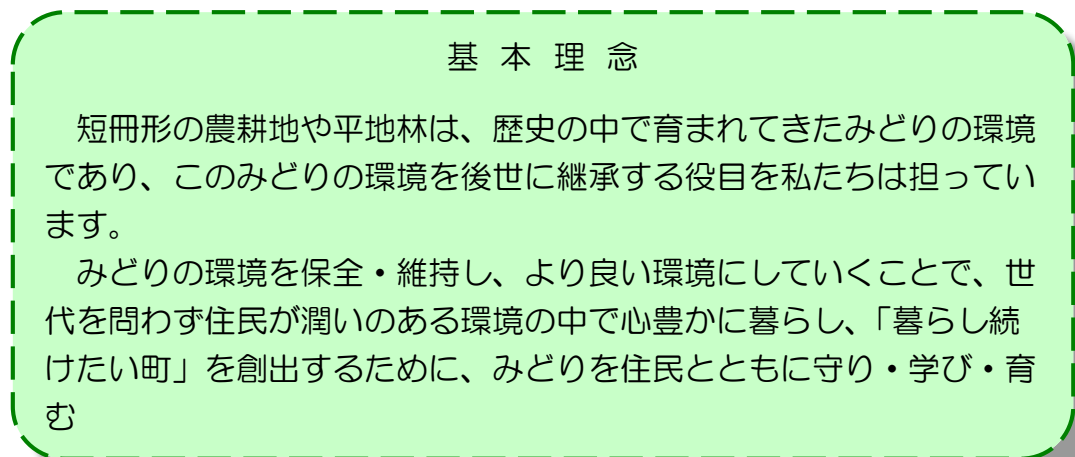


図 6-1 三芳町緑の基本計画の基本理念

6.2 みどりの将来像

「三芳町第5次総合計画」において、自助・共助の拡大を図る協働のまちづくり、良好な環境を確実に将来世代に継承する持続可能なまちづくり、小さいながらもきらりと輝く独創的で個性的な町の特徴・資源を活かすまちづくりを基本理念と定めています。

町の資産は、

◎そこに住み、働き、学ぶすべてのひと

◎人々が、ともに支え合い、いきがいと誇りを持ち、輝くことのできるみどり豊かな三芳町

◎まちを想い愛する人が地域に根つき、活力にあふれ、魅力あるまちを創り、みんなで未来を拓いていく

◎誇れる私たちのまちを未来にしっかりつないでいく

という思いを込めて、第5次総合計画のめざす将来像を「未来につなぐひとまち みどり 誇れる町」と定めています。

都市計画マスタープランでは、第5次総合計画の将来像を実現するための将来都市のイメージを「歴史あるみどり・景観と調和した暮らしやすく活力あるまち」と定めています。

第5次総合計画の将来像を上位計画に、都市計画マスタープランの将来都市像に整合する計画とし、三芳町緑の基本計画の将来像を「H17 緑計画」のとおり、「みどりが育むうるおいと豊かさのあるまち 三芳」としました。

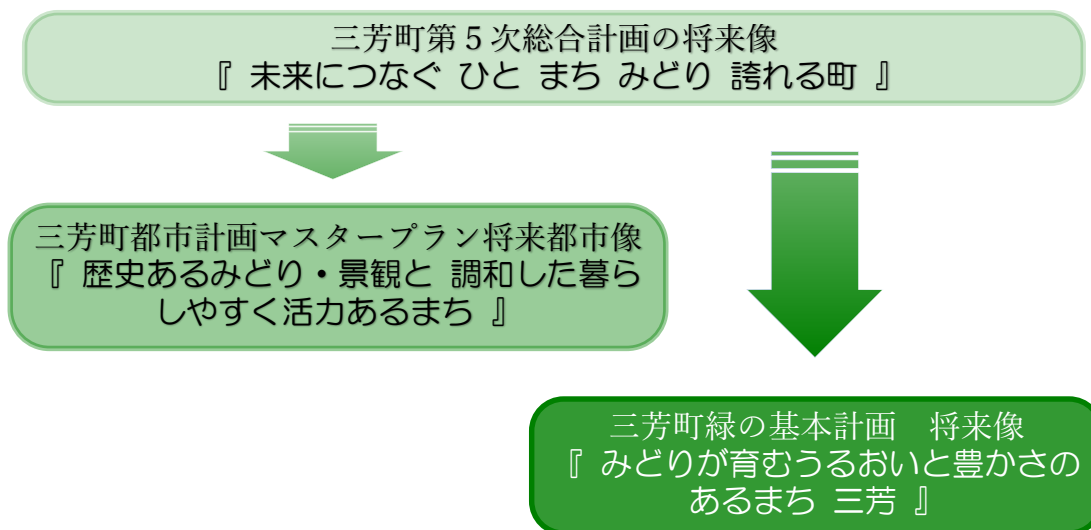
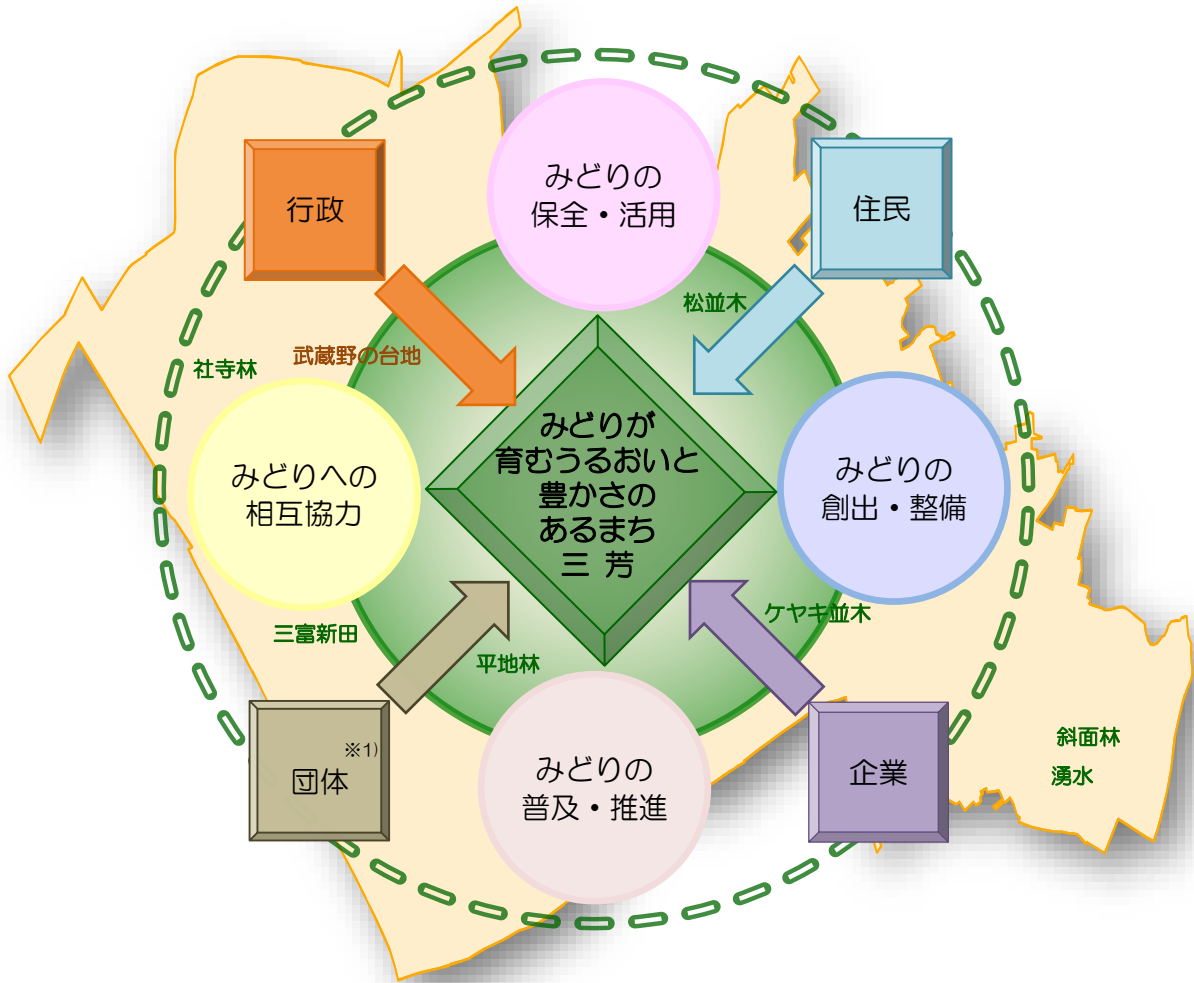


図 6-2 三芳町緑の基本計画の将来像



注※1：本計画において「団体」とは、住民が主体となって組織化された団体をいう。
 例えば、「みよしグリーンサポート隊」や「竹間沢ほたる育成会」、「北永井さんくのと」などの団体をイメージしています。

図 6-3 三芳町の緑の基本計画の将来像構築の協働イメージ

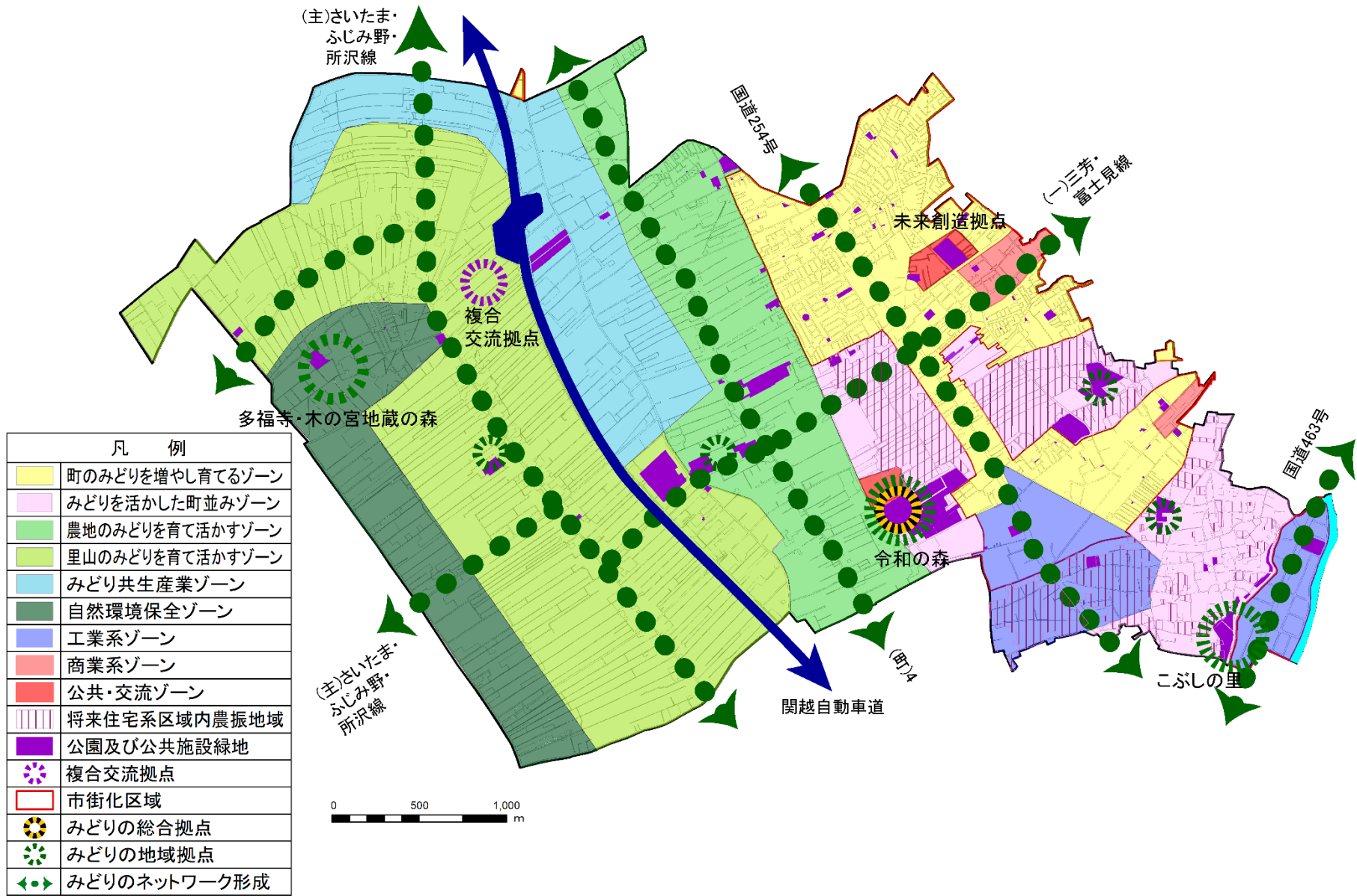


図 6-4 みどりの将来イメージ図

6.3 基本方針

三芳町緑の基本計画の将来像「みどりが育むうるおいと豊かさのあるまち 三芳」を実現するために、3つの基本方針を設定しました。

その基本方針において、実施すべき施策の方針を以下に示します。

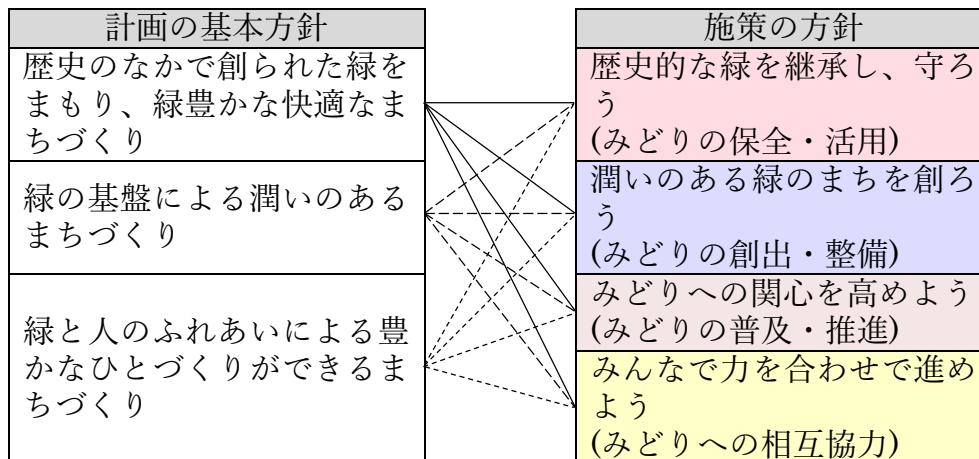


図 6-5 三芳町緑の基本計画の基本方針と施策の方針の関連性

本町では、平地林の減少が進んでいる現状を抑制するための施策を実施するとともに、平地林の保全及び活用と同時に、市街区域内での公園を計画的に整備・管理してきました。

これらの施策は今後も重要であることに加え、生物多様性の保全、景観、多世代交流の観点から、住民、団体、企業(事業者)及び行政との協働により、「みどり」をさらに質の高いものにしていくことが求められています。

本計画では、施策の方針として、「歴史的な緑を継承し、守ろう」(みどりの保全・活用)、「潤いのある緑のまちを創ろう」(みどりの創出・整備)、「みどりへの関心を高めよう」(みどりの普及・推進)、「みんなで力を合わせて進めよう」(みどりへの相互協力)を4本柱とし、みどりの将来の実現に向けて目指していくこととします。

表 6-1 施策の方針のめざす方向性

| 施策の方針 | めざす方向性 |
|---------------------------------------|---|
| <p>歴史的な緑を継承し、守ろう (みどりの保全・活用)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 三富開拓地割跡地や北永井地区の短冊形の農耕地は歴史的な価値を有しており、保全・活用する施策を講じます。 ➤ 平地林は減少傾向にあり、施策による保全が必要であり、また、平地林と合わせて、社寺林や屋敷林はエコロジカルネットワークを形成するうえで重要な機能を有しており、保全・活用する施策を講じます。 |
| <p>潤いのある緑のまちを創ろう (みどりの創出・整備)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 平地林を主体とした緑の核や拠点、みどりのネットワーク形成する街路樹の緑化を創出・整備する施策を講じます。 ➤ 公園や道路等の公共空間において、都市公園や公共施設の緑化を図り、潤いのあるまちにするための施策を講じます。 ➤ 市街化区域内の農地を都市近郊型農業に推進するための施策や開発する場合においても緑化制度の導入を推進するとともに、住宅地、商業地、工場・事業場の緑化を推進し、緑豊かな快適なまちづくりに資する施策を講じます。 |
| <p>みどりへの関心を高めよう (みどりの普及・推進)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 緑に関する普及活動や啓発活動、緑化講座の開催による緑化のPR活動を特に市街化区域内で実施します。 ➤ 緑への関心を誘う手法の一つとして、緑や生き物について観る、触る、知ることによる学ぶ機会を与えることが必要であり、豊かな環境を有する竹間沢や平地林をフィールドとして生物に関する実態調査を実施します。 ➤ みどりの核または拠点となる緑地を設け、みどりが繋がるエコロジカルネットワークを形成します。 |
| <p>みんなで力を合わせて進めよう (みどりへの相互協力)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ みどりの保全・維持については、「みよしグリーンサポート隊」等の団体を育成するシステムづくりを行うためのみどりのパートナー制度等を設け、住民が活動しやすい組織づくりを整備します。 ➤ 落ち葉堆肥農法を活用した「富(とめ)の川越いも」のように農業体験を通して、平地林の恵みによる「本町の良さ」を体現し、住民相互のコミュニティを形成します。 ➤ 住民が活動しやすい環境として、資機材の拠点を整備するとともに、その資源をみどりの基金等で賄い、継続的な活動とすることを目指します。 |

6.4 計画の目標

(1) 人口等の計画フレーム

本計画における人口及び市街化区域の規模は都市計画マスタープランとの整合を図り、以下に示すとおりとします。

表 6-2 計画フレーム

| 項目 | 年次 | 現況(2019) (令和 1)年 | 2040 (令和 22)年 | 備考 (変動率) |
|--------|------------|---------------------|------------------|-----------------|
| 人口 | | 38,193 人 | 34,500 人 | 3,693 人減(9.7%減) |
| | 市街化区域内人口 | 28,162 人 | 25,400 人 | 2,762 人減(9.3%減) |
| | 市街化調整区域内人口 | 10,031 人 | 9,100 人 | 931 人減(9.8%減) |
| 行政区域面積 | | 1,533 ha | 1,533 ha | |
| | 市街化区域面積 | 299 ha | 299 ha | |
| | 市街化調整区域面積 | 1,234 ha | 1,234 ha | |

注) 市街化区域内人口は住民基本台帳の藤久保、竹間沢及びみよし台の各地域別人口としました。

(2) 平地林の維持目標

本町における平地林は、雨水の地下水涵養域であるとともに、生態系におけるエコロジカルネットワークの指標 1,3,5 を維持するうえで重要な機能を有しています。

しかし、平地林が改変された過去 20 年間の変化から推計すると、目標年次の 20 年後には 57.3ha(40%)減少するものと推計されます。これは、過去の相関からの推計であり、今後の少子・高齢化現象等の社会現象によって変化するものです。

種々の施策を講じることにより、生態系におけるエコロジカルネットワークの指標を維持することを念頭に、埼玉県条例に指定されている上富中西ふるさとの緑の景観地、三芳町多福寺県自然環境保全地域や、町指定の保存樹林など、本町特有の緑地を後世に残していくために、緑のトラスト保全整備事業を引き続き推進していきます。また、工業地における緑化の推進、住民、事業者、行政等の協働による緑化運動を推進し、緑あふれる緑地の維持に努めます。

これらの施策により、平地林の減少量を可能な限り抑制することとします。

表 6-3 平地林の減少量の実績と推計

| 項目 | 年次 | 2000 (平成 12)年 | 現況(2015) (平成 27)年 | 2040 (令和 22)年 | 備考 (変動率) |
|-----------|---------------------------|------------------|----------------------|------------------|-----------------|
| 平地林 面積 | 実績 ^{注1} | 188.4 ha | 142.3 ha | — | 46.1 ha 減(24%減) |
| | 累積曲線式 推計 ^{注2} | — | 142.3 ha | 85.0 ha | 57.3 ha 減(40%減) |

注1) 「H17 緑計画」の策定時のデータ(2000(平成 12)年)の平地林面積の実績を示しています。

注2) 平地林面積の推計は過去 20 年間の平地林の推移に基づく 2040 年度の累積曲線式による推定値。
累積曲線式($Y = 1.39E+135X^{-40.25}$ $R^2 = 0.989$ X :西暦年)より推計しています。



コブシ

第7章 みどりの推進施策

7.1 施策の実施時期

施設の実施時期については、施策の実施に伴う概算的な費用(時期・規模)を把握する必要があるが、ここでは施策の重要性等を鑑み以下のように設定しました。

表 7-1 実施時期と期間

| 実施時期 | 実施期間 | 設定の考え方 |
|------|----------|---|
| 短期 | 1～5 年間 | ① 施策として重要性があるもの ② 持続的に実施する必要があるもの ③ 既に講じるための条例・指針等が整理されており、施策への取り組みが可能であるもの |
| 中期 | 5～10 年間 | ① 持続的に実施する必要があるもの ② 新たな制度等の検討・設定があるもの |
| 長期 | 10～20 年間 | ① 持続的に実施する必要があるもの ② 上位計画に反映させる施策など単体では決定できないもの |

7.2 施策の体系

みどりに関する施策の体系は、「歴史的な緑を継承し、守ろう」では平地林や開拓遺跡及び社寺・屋敷林の保全について8施策、「潤いのある緑のまちを創ろう」では“みどりのネットワーク形成”や“公共施設緑化の推進”及び“緑豊かな快適なまちづくり”について17施策、「みどりへの関心を高めよう」では“緑化のPR活動の実施”や“緑や生き物の実態の把握”について15施策、「みんなで力を合わせて進めよう」では“みどりの活動の推進”及び“みどりの活動支援”について9施策、計49施策に取り組む方向性を設定しました。

その概要は次項に示すとおりであり、合わせて、担当する者(部署、住民、事業、団体)を設定し、いつまで実施するかを設定しました。なお、短期及び中期に実施するものについて、それ以降については特別の事情がない限り継続するものとしします。

表 7-2(1) 具体的な施策と概要等

| 基本方針 | 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 担当部署等 | 実施期間 | | |
|------------------------------|--------------|-------------------------|--|----------------|--------|---|---|
| | | | | | 短 | 中 | 長 |
| 歴史的な緑を継承し、守ろう (みどりの保全・活用) | a) 平地林の保全 | ① 市民緑地制度等の活用 | 市民緑地制度や管理協定制度の活用により、土地所有者の管理負担軽減、減税を図り、緑地整備の補助や平地林の管理を代行し、平地林の保全域を広げます ➤ 土地所有者との市民緑地制度等の締結の検討 | 環境課 | | ○ | |
| | b) 開拓遺跡の保全 | ① 三富開拓地割跡地や北永井地区の農用地の保全 | ふるさと緑の景観地の維持として、農用地の荒廃化・草地化した農用地及び遊休農用地を三芳町協働のまちづくりネットワーク(まちづくりネット)と協働した団体づくりと農地の活用及び緑化の推進を図ります ➤ 緑化(花いっぱい運動等)団体づくり及び支援 | 環境課 | ○ | | |
| | | ② 歴史的な農業技術の継承 | 優良な営農環境を維持するとともに、歴史的な農業遺産の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の実施団体支援と技術の継承を实践します ➤ 農業体験の実践(落ち葉掃き区域と利用範囲、落ち葉堆肥農法の継承) ➤ 実施団体支援及び技術の継承 | 観光産業課 観光産業課 | ○ ○ | | |
| | c) 社寺・屋敷林の保全 | ① 社寺林の保全 | 社寺境内の緑地の内、県自然環境保全地域は大規模で町域のみどりの核となる拠点であり、他の社寺林の緑地も緑の回廊、大径木も存在し積極的に保全します ➤ 土地所有者による維持管理(継続) ➤ 保存樹林の指定や維持管理のための助成金交付 | 事業者・団体 環境課 | ○ ○ | | |
| | | ② 屋敷林の保全 | 緑の多い住宅は上富地区や北永井地区の町道幹線1,2,3,4号線沿道に分布しており、緑の回廊が形成されていることから保全します ➤ 土地所有者による維持管理(継続) ➤ 保存樹林の指定や維持管理のための助成金交付 | 住民 環境課 | ○ ○ | | |

表 7-2(2) 具体的な施策と概要等

| 基本方針 | 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 担当 部署等 | 実施期間 | | |
|------------------------------|-----------------|---------------|--|-----------------------|-------------|---|--------|
| | | | | | 短 | 中 | 長 |
| 潤いのある緑のまちを創ろう (みどりの創出・整備) | a) みどりのネットワーク形成 | ① みどりの核・拠点づくり | <p>緑豊かでうまいのある本町らしい公園として、みどりの拠点、住民の活動拠点となる都市公園の整備を継続して進めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和の森公園の整備 ➤ 多福寺・木の宮地蔵の森の維持管理 ➤ 竹間沢こぶしの里の維持管理 | 都市計画課 事業者 都市計画課 | ○ ○ ○ | | |
| | | ② みどりの回廊の形成 | <p>緑の回廊として、道路の街路樹として緑あふれる道路づくりの他、中心市街地では緑のある歩行者空間の創出を行います。また、農用地や平地林は一体化した環境にあり、エコロジカルネットワークが形成された環境であり、これを維持します</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 街路樹の管理(緑あふれる道づくり) ➤ 緑のある歩行者空間の創出 ➤ エコロジカルネットワークの形成(農用地及び平地林の保全) | 道路交通課 道路交通課 環境課 | ○ ○ ○ | | ○ |
| | b) 公共施設緑化の推進 | ① 都市公園等の緑化の推進 | <p>市街化区域内の公園については、市街地整備と連動して新しい公園の整備を進めるとともに、住民の憩いの場づくりのための基本構想を策定します</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新規公園の整備 ➤ 住民の憩いの場((仮称)三芳バザール賑わい公園基本構想)の検討(道の駅) | 都市計画課 道路交通課 | | | ○ ○ |
| | | ② 公共施設の緑化 | <p>公共施設の緑化は住民の模範となる必要があり、公共施設の緑化の積極的な推進、緑豊かな教育環境を創出した学校林制度を継続します</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 学校林制度の継続 ➤ 学校ファーム制度の継続 | 環境課 学校教育課 | ○ ○ | | |

表 7-2(3) 具体的な施策と概要等

| 基本方針 | 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 担当 部署等 | 実施期間 | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------|--|--------------------------|------------------|---|---|
| | | | | | 短 | 中 | 長 |
| {再掲} 潤いのある緑のまちを創ろう (みどりの創出・整備) | c) 緑豊かな快適なまちづくり | ① 住宅地・商業地の緑化の推進 | <p>住宅地や商業地の緑化については、開発時の緑化の指導等により、緑豊かな空間の形成に努めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 苗木等の配布 ➤ 生垣設置補助制度の拡充・利用促進 ➤ 緑地協定の締結 ➤ 花いっぱい運動推進事業の展開 | 環境課 環境課 環境課 環境課 | ○ ○ ○ ○ | | |
| | | ② 工場・事業場の緑化の推進 | <p>工場・事業場については、計画的な緑化の促進を行うとともに、地域と一体化した緑地を形成します</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ みどり共生産業ゾーンの沿道緑地の指導 ➤ 工場・事業場の敷地内外周の緑化 ➤ 社会・環境貢献緑地評価システムによる評価・認定制度の推奨 | 環境課 環境課 事業者 | ○ ○ ○ | | |

表 7-2(4) 具体的な施策と概要等

| 基本方針 | 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 担当 部署等 | 実施期間 | | |
|-----------------------------|----------------|-------------------|---|---|-----------------------|---|---|
| | | | | | 短 | 中 | 長 |
| みどりへの関心を高めよう (みどりの普及・推進) | a) 緑化のPR活動の実施 | ① 緑に関する普及活動の推進 | 住民に緑に対する関心を深めるため、各種のイベントを開催し、その長年の功績を称え、表彰制度の充実を図ります ➤ 緑化イベントの開催 ➤ 花いっぱい運動推進事業の展開{再掲} ➤ (仮称)三芳バザール賑わい公園を活用した花の拠点づくり ➤ 緑化講座の開催 ➤ 積極的な情報発信(みどりの相談ネットの開設) | 環境課 環境課 環境課 環境課 環境課 | ○ ○ ○ ○ ○ | | ○ |
| | | ② 緑に関する啓発活動の推進 | 住民に緑に対する意識を高めるため、各種のイベントを開催します。また、緑や生き物等の調査を定期的実施し、その成果を「(仮称)三芳町生物誌」としてとりまとめ、普及活動の情報発信資料とします ➤ 自然観察会の実施 ➤ 落ち葉堆肥農法等の農業体験事業の実施 ➤ 生物に関する調査・研究((仮称)三芳町生物誌) | 環境課 観光産業課 環境課 | ○ ○ ○ | | ○ |
| | b) 緑や生き物の実態の把握 | ① 竹間沢及び斜面林の保全 | 多様な環境を有する竹間沢地区内の動物相や植物相の把握がされていない状況であり、調査を兼ねた環境教育の場として実践します ➤ こぶしの里の保全・管理 ➤ 身近な自然をフィールドとした学校環境教育の支援 | 都市計画課 学校教育課 | ○ ○ | ○ | |
| | | ② エコロジカルネットワークの形成 | 多様な環境を有する竹間沢地区や平地林における動植物の情報に乏しく、生態系における必要な生息環境を保全するため調査を実施します ➤ みどりの核となる令和の森の保全 ➤ みどりの拠点となる自然環境保全地域、こぶしの里の保全 ➤ みどりの回廊の保全(緑あふれる道路づくり{再掲}等) ➤ 動植物に関するエコロジカルネットワークの確認 ➤ ボランティア団体支援(こぶしの里等活動支援) | 都市計画課 事業者・都市計画課 道路交通課 環境課 環境課 | ○ ○ ○ ○ ○ | ○ | ○ |

表 7-2(5) 具体的な施策と概要等

| 基本方針 | 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 担当 部署等 | 実施期間 | | |
|-------------------------------|--------------|-----------------|---|-------------------|-------------|---|---|
| | | | | | 短 | 中 | 長 |
| みんなで力を合わせて進めよう (みどりへの相互協力) | a) みどりの活動の推進 | ① みどりの活動の推進 | 三芳町協働のまちづくりネットワーク(まちづくりネット)を活用したみどりに関する活動団体づくりとその支援を行います ➤ みどりの活動団体の育成 ➤ みどりのボランティア活動団体の推進 | 環境課 環境課 | ○ ○ | | |
| | | ② みどりにふれあう機会の創出 | 緑は四季を通して変化し、楽しみも存在します。その体現するために、自然体験するみどりのモデル地区を指定し、緑に関する年間計画を策定します ➤ 自然体験のできるみどりのモデル地区の指定 ➤ 自然観察会等みどりのふれあう機会の開催計画の策定 ➤ みどりの講座等の開催 | 環境課 環境課 環境課 | ○ ○ ○ | | |
| | b) みどりの活動支援 | ① みどりの活動支援 | 三芳町まちづくり寄附条例等に基づく基金を活用したみどりに関する各種団体の活動資金を支援します ➤ 自然観察会等みどりに関する活動への支援 ➤ 農業体験の実践(落ち葉掃き区域と利用範囲、落ち葉堆肥農法の継承){再掲} | 環境課 観光産業課 | ○ ○ | | |
| | | ② みどりの基金の確保 | 三芳町まちづくり寄附条例等に基づく基金を確保し、みどりに関する各種団体の活動資金を確保するためのPR活動を行います ➤ 緑ぬくもり基金(緑化推進費寄附)のPR活動 | 環境課 | ○ | | |
| | | ③ 資機材の拠点づくり | みどりの維持管理を行うにはそれなりの資機材が必須であり、拠点となる箇所には住民がいつでも利用できるような資機材の配置を行います ➤ みどりの拠点への資機材の配備 | 環境課 | ○ | | |

7.3 特質すべき事項の詳細内容

(1) 平地林の保全

1) 市民緑地制度等の活用

町域に存在する平地林の筆数は 2015(平成 27)年現在で 430 筆あり、過去 5 年間(2010(平成 22)～2015(平成 27))年で 11.3ha の平地林が減少し、工業用地や駐車場、資材置き場等に開発されています。これは、平地林への開発規制がないことや、相続等に伴い山林を止むなく手放す対応、土地所有者の高齢化等により管理が行き届かず、荒廃化するところも散見されています。

これらも問題を少しでもなくすために、平地林の保全・維持・活用する方法として、市民緑地制度や管理協定制度を活用します。

(ア) 市民緑地制度の活用

土地所有者と町又はその団体が契約し、平地林や屋敷林等の緑地を公開する制度であり、地域の人々が利用できる公開された緑地として提供されます。その規模は 300m²以上の土地が対象です。

土地所有者にとって次のメリットがあります。

- ① 町又はその団体が緑地の管理を行うことにより、管理の負担軽減
- ② 土地を地方公共団体に無償で貸し付けた場合には、土地の固定資産税及び都市計画税が非課税
- ③ 緑地の公開に必要な施設の整備が国の補助対象(緑地環境整備総合支援事業)

(イ) 管理協定制度の活用

土地所有者と町又はその団体が協定を結ぶことにより、土地所有者に代わって緑地の管理を行う制度であり、土地所有者の管理の負担を軽減することができます。

2) 緑地協定制度の推進

緑地協定とは、都市緑地法に基づき、良好な住環境を創っていくため、関係者全員の合意によって区域を設定し、緑地の保全又は緑化に関する協定を締結するものです。

協定には 2 種類あり、都市緑地法の 45 条に基づくものは、既にコミュニティの形成が行われている地区において、土地所有者等の全員の合意により協定を締結し、市町村長の認可を受け、同法 54 条に基づくものは、宅地開発事業において分譲を受けた者が緑地協定に従うものであり、本町では 3 件の緑地協定が締結されています。

締結のメリットとしては、関係者で話し合いを行い、まちぐるみで緑化を行うため、計画的な緑化が図られ地域の環境・景観レベルが向上します。

(2) 緑に関する施策における計画反映のための関連性

緑に関する施策において、基本方針の4本柱、緑の機能または計画の機能のそれぞれの関連性を表7-3に整理しました。

表 7-3 緑の施策と計画反映のための関連性

| 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 計画の基本方針 | | | | 緑の機能 | | | | 計画機能 | | | | |
|--------------|-----------------------|--------------------------------------|---------|------|------|------|------|----------|----|------|------|--------|------|-----|------|
| | | | 保全活用 | 創出整備 | 普及推進 | 相互協力 | 環境保全 | レクリエーション | 防災 | 景観構成 | 生育生息 | コミュニティ | 拠点地区 | 軸回廊 | 緩衝地区 |
| 平地林の保全 | 市民緑地制度等の活用 | 土地所有者との市民緑地制度等の締結の検討 | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | |
| 開拓遺跡の保全 | 三富開拓地割跡地や北永井地区の農用地の保全 | 緑化(花いっぱい運動等)団体づくり及び支援 | ○ | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| | | 農業体験の実践(落ち葉掃き区域と利用範囲、落ち葉堆肥農法の継承) | ○ | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | |
| | 歴史的な農業技術の継承 | 実施団体支援及び技術の継承 | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 社寺・屋敷林の保全 | 社寺林の保全 | 土地所有者による維持管理(継続) | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | |
| | | 保存樹林の指定や維持管理のための助成金交付 | ○ | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| | 屋敷林の保全 | 土地所有者による維持管理(継続) | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | |
| | | 保存樹林の指定や維持管理のための助成金交付 | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ |
| みどりのネットワーク形成 | みどりの核・拠点づくり | 令和の森公園の整備 | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 多福寺・木の宮地蔵の森の維持管理 | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| | | 竹間沢こぶしの里の維持管理 | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| | みどりの回廊の形成 | 街路樹の管理(緑あふれる道づくり) | | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| | | 緑のある歩行者空間の創出 | | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| | | エコロジカルネットワークの形成(農用地及び平地林の保全{再掲}) | | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 公共施設緑化の推進 | 都市公園等の緑化の推進 | 新規公園の整備 | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 住民の憩いの場((仮称)三芳バザール賑わい公園基本構想)の検討(道の駅) | | ○ | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | 公共施設の緑化 | 学校林制度の継続 | | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| | | 学校ファーム制度の継続 | | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | |

| 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 計画の基本方針 | | | | 緑の機能 | | | | | 計画機能 | | | |
|-------------------------|------------------------|------------------------------|---------|------|------|------|------|----------|----|------|------|--------|------|-----|------|
| | | | 保全活用 | 創出整備 | 普及推進 | 相互協力 | 環境保全 | レクリエーション | 防災 | 景観構成 | 生育生息 | コミュニティ | 拠点地区 | 軸回廊 | 緩衝地区 |
| 緑豊かな快適なまちづくり | 住宅地・商業地の緑化の推進 | 苗木等の配布 | | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 生垣設置補助制度の拡充・利用促進 | | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 緑地協定の締結 | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 花いっぱい運動推進事業の展開 | | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| | 工場・事業場の緑化の推進 | みどり共生産業ゾーンの沿道緑地の指導 | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ |
| | | 工場・事業場の敷地内外周の緑化 | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | | 社会・環境貢献緑地評価システムによる評価・認定制度の推奨 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | |
| 緑化のPR活動の実施 | 緑に関する普及活動の推進 | 緑化イベントの開催 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| | | 花いっぱい運動推進事業の展開{再掲} | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | |
| | | (仮称)三芳バザール賑わい公園を活用した花の拠点づくり | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | |
| | | 緑化講座の開催 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | |
| | | 積極的な情報発信(みどりの相談ネットの開設) | | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| | 緑に関する啓発活動の推進 | 自然観察会の実施 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | | 落ち葉堆肥農法等の農業体験事業の実施 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 生物に関する調査・研究((仮称)三芳町生物誌) | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| 緑や生き物の実態の把握 | 竹間沢及び流域内調査の実施 | こぶしの里の保全・管理 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 生物(動物相・植物相)調査の実施 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 身近な自然をフィールドとした学校環境教育の支援 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | |
| | エコロジカルネットワークの形成 | みどりの核となる令和の森の保全 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | みどりの拠点となる自然環境保全地域、こぶしの里の保全 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | みどりの回廊の保全(緑あふれる道路づくり{再掲}等) | | | ○ | | | | | | | | | ○ | |
| | | 動植物に関するエコロジカルネットワークの現状調査 | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | |
| | ボランティア団体支援(こぶしの里等活動支援) | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | |

| 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 計画の基本方針 | | | | 緑の機能 | | | | | 計画機能 | | | |
|-----------|---------------|--------------------------------------|---------|------|------|------|------|----------|----|------|------|--------|------|-----|------|
| | | | 保全活用 | 創出整備 | 普及推進 | 相互協力 | 環境保全 | レクリエーション | 防災 | 景観構成 | 生育生息 | コミュニティ | 拠点地区 | 軸回廊 | 緩衝地区 |
| みどりの活動の推進 | みどりの活動の推進 | みどりの活動団体の育成 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| | | みどりのボランティア活動団体の推進 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| | | みどりのボランティア活動団体の推進 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| | みどりにふれあう機会の創出 | 自然体験のできるみどりのモデル地区の指定 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | |
| | | 自然観察会等みどりのふれあう機会の開催計画の策定 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| | | みどりの講座等の開催 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| みどりの活動支援 | みどりの活動支援 | 自然観察会等みどりに関する活動への支援 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| | | 農業体験の実践(落ち葉掃き区域と利用範囲、落ち葉堆肥農法の継承){再掲} | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | |
| | みどりの基金の確保 | 緑ぬくもり基金(緑化推進費寄附)のPR活動 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| | 資機材の拠点づくり | みどりの拠点への資機材の配備 | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |

7.4 重点地区のみどりの推進施策

緑地重点地区とは、都市計画法に基づき緑の基本計画に定めることのできる「重点的に緑化の推進に配慮を加えるべき地区」のことであり、都市公園の整備、走路や公共施設の緑化、民有地の緑化等の緑化施策を総合的に講じていくために設定するものです。

(1) 重点地区の選定

重点地区は、市街化調整区域及び将来住宅地の検討地区である藤久保第1～6区、みよし台第1区、竹間沢第1区の全域及び北永井第2～3区の1部を対象地区とします。

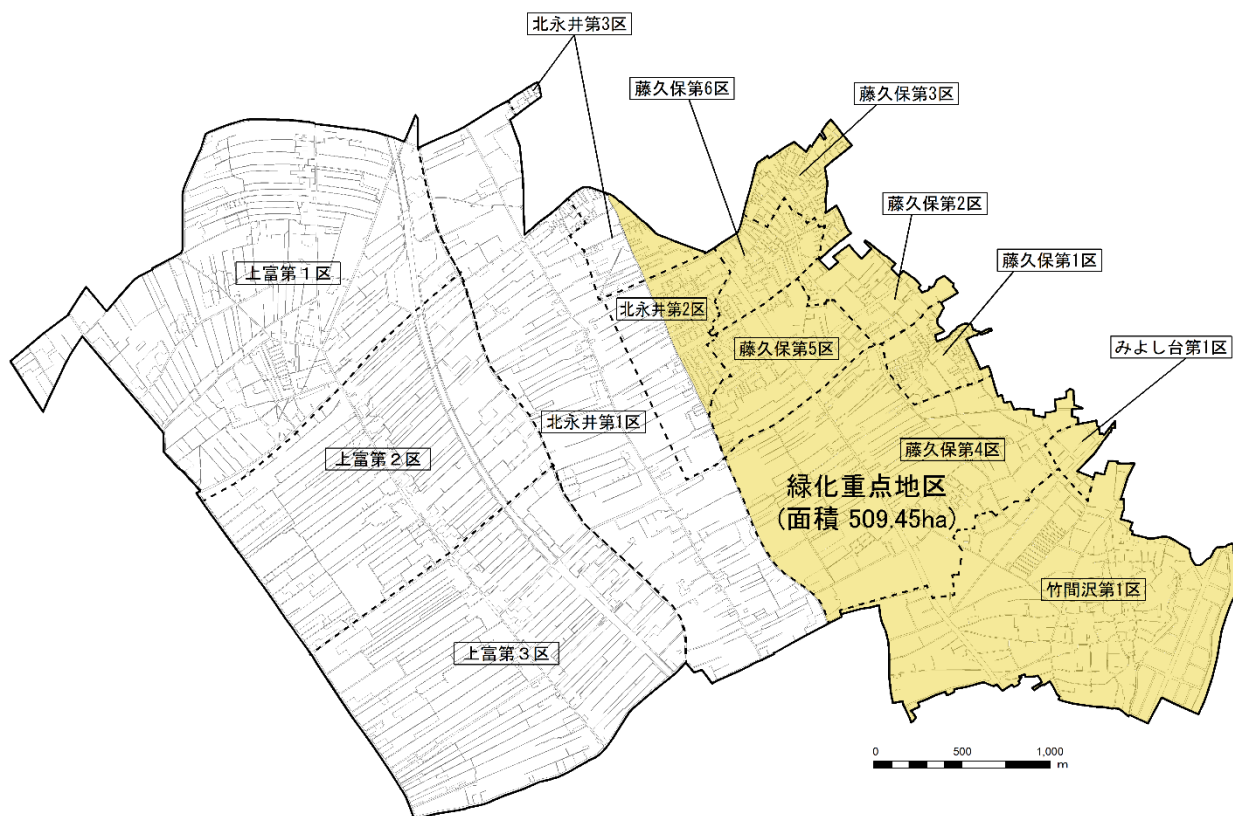


図 7-1 緑化重点地区の位置図

(2) 現状と課題

当該地区は、本町の核となる地区であり、本町全人口の約73%を占めていく区域であり、町役場、総合体育館等の公共施設が多く立地し、東武東上線の鶴瀬駅やみずほ台駅の近いこともあり、人の往来の多い地区となっています。

そのような環境にあって、将来住宅化するエリアについては現在市街化調整区域であり、今でも農地(畑)が多くを占めています。

本町のみどりの環境を保全・維持し、より良い環境にしていくことで、世代を問わず住民が潤いのある環境の中で心豊かに暮らし、「暮らし続けたい町」を創

出するため、本地区を緑化重点地区に定め、公園の整備、道路の緑化等による緑のネットワーク形成、住民、団体、事業者及び行政と協働した緑化活動を通じた花と緑による街並みの演出を総合的に進めていく必要があります。

7.5 緑化推進に関する施策

(1) 都市公園等

令和の森公園を整備するとともに、周辺の平地林と一体化した機能を図ります。また、将来の住宅化する地域については、土地区画整理事業等による整備の際は、地域のみどりとの連続性に配慮した公園を配置します。

(2) 道路

都市幹線道路や地域幹線道路についても街路樹の植樹を検討し、緑のネットワークの形成に寄与します。

(3) 商業地・住宅地

生垣の設置、緑のカーテン、プランター花壇の設置等多様な緑化手法により、花と緑であふれる魅力ある街並みを住民、事業者、団体等と協働で行います。

(4) 工業地

職住接近型工業地となるエリアであり、みどりと共生する工業地とするために、敷地内の緑化を推進します。

重点地区の整備構想を図 7-2 に示します。

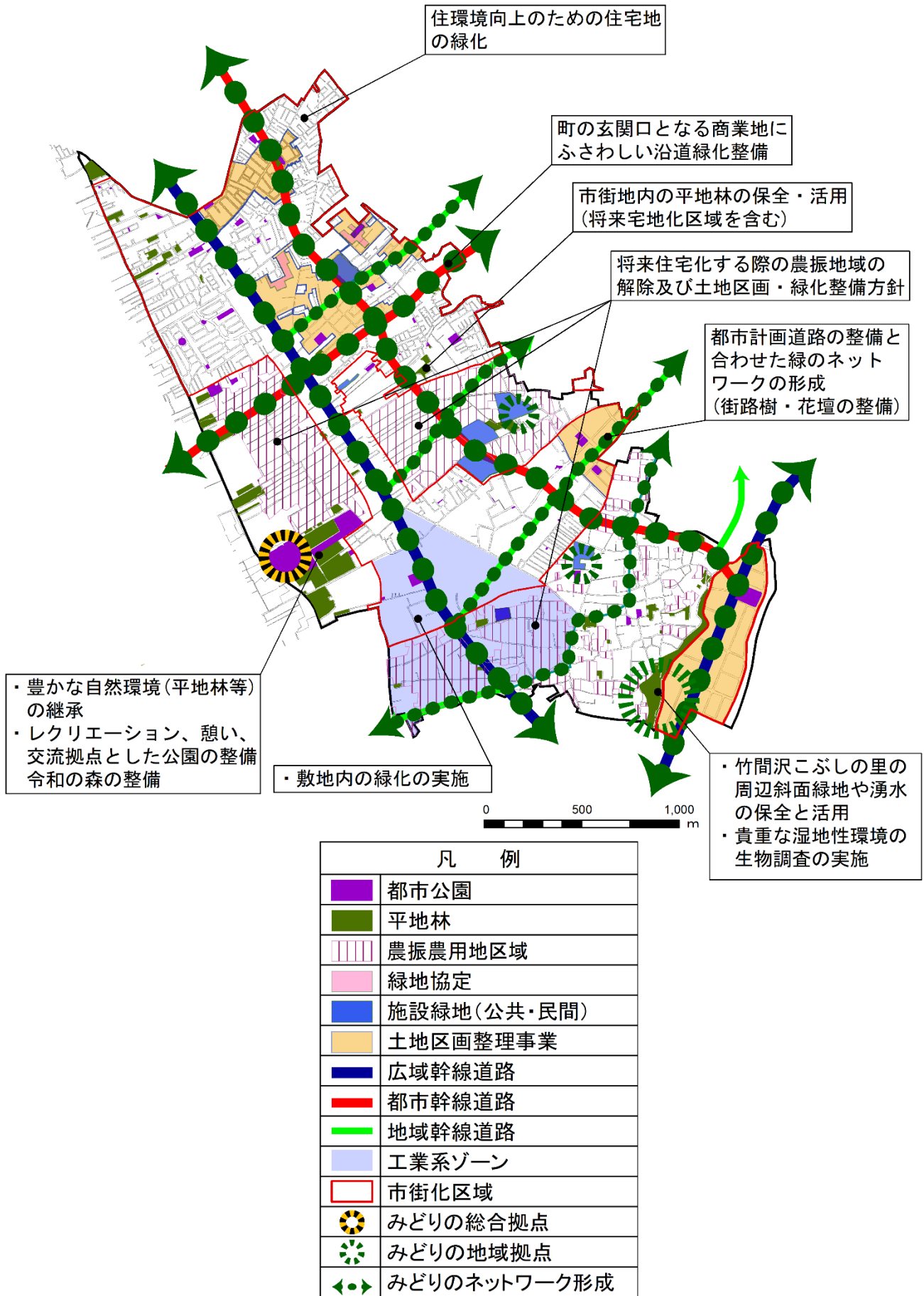


図 7-2 緑化重点地区の整備構想図・課題の抽出

第8章 進捗管理計画

8.1 推進体制

本計画の推進に当たっては、住民(活動の担い手・所有者)、団体、企業(事業者)、町の関係部署が連携し、協働して取り組み、三位一体となって実施することが必要です。

みどりを守り育てる活動への参加を楽しみ、緑ぬくもり基金を住民、団体、事業者により安定化させ、その基金を通して活動の担い手を支え合い、そのつながりを広げていくことにより、大きな輪になるスパイラルを形成します。

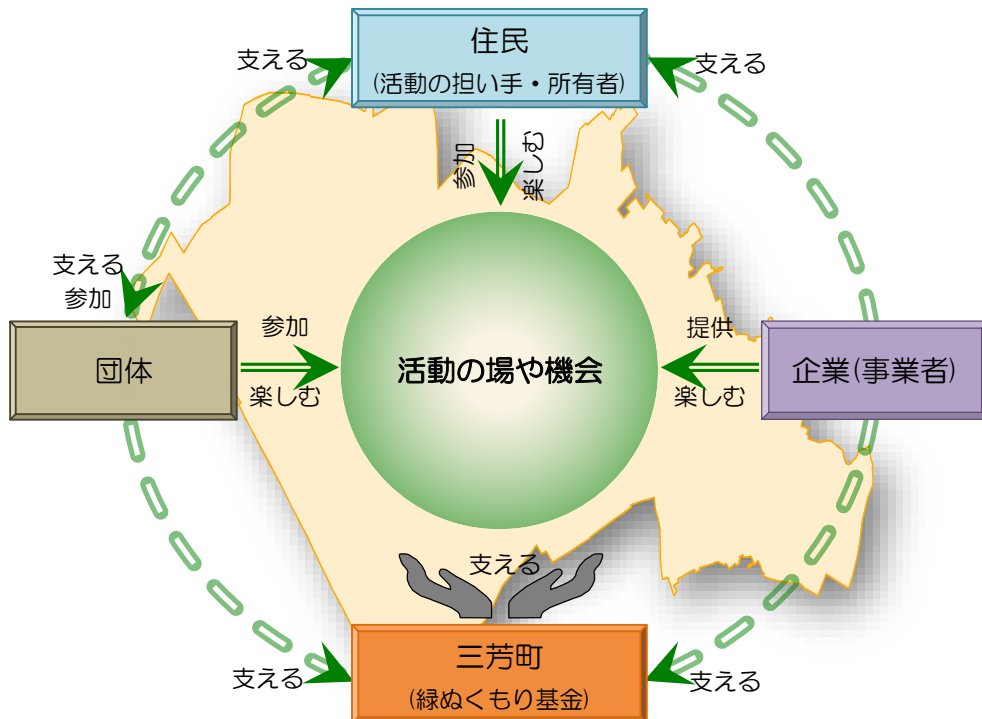


図 8-1 協働による計画推進のイメージ

8.2 進行管理

(1) PDCA サイクル

三芳町緑の基本計画は、緑の将来のあるべき姿を表現するものであり、実効性を担保することが必要です。

三芳町緑の基本計画に基づく施策を着実に進めていくためには、計画(Plan)、実行(Do)、点検(Check)、見直し・改善(Action)のサイクルを継続的に進め、計画の進捗管理を行う必要があります。定期的に描く施策の進捗状況の点検を行い、その結果等を踏まえて目標達成状況を評価し、必要に応じて改善・見直しを行うことも必要です。

三芳町緑の基本計画は、20 年後をイメージした取り組みを示しているため、社会情勢の変化により、新たな事業の実施や施策の優先度を柔軟に見定め、中間期に見直しを行い、実効性のある施策を展開します。

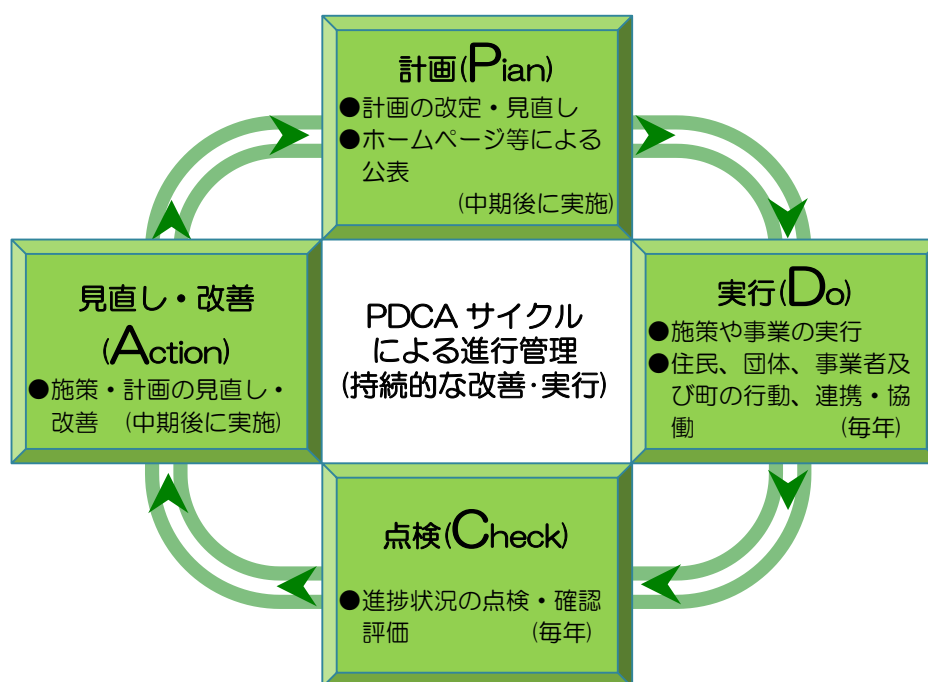


図 8-2 三芳町緑の基本計画の PDCA サイクルによる進捗管理

(2) 施策を担当する関連部署

三芳町緑の基本計画の施策は、いずれかの単独または複数の部署が関連するものであり、それらを明らかにし、点検時の進捗状況の点検・確認・評価がスムーズに行えるようにするものです。

表 8-1 施策の担当する関連部署

| 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 部署 | | | | | 住民 | 事業者 | 団体 |
|------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|-----|-------|-------|-------|-------|----|-----|----|
| | | | 環境課 | 観光産業課 | 都市計画課 | 道路交通課 | 学校教育課 | | | |
| 平地林の保全 | 市民緑地制度等の活用 | 土地所有者との市民緑地制度等の締結の検討 | ○ | | | | | | | |
| 開拓遺跡の保全 | 三富開拓地割跡地や北永井地区の農用地の保全 | 緑化(花いっぱい運動等)団体づくり及び支援 | ○ | | | | | | | |
| | 歴史的な農業技術の継承 | 農業体験の実践(落ち葉掃き区域と利用範囲、落ち葉堆肥農法の継承) | | ○ | | | | △ | | |
| | | 実施団体支援及び技術の継承 | | | ○ | | | | | △ |
| 社寺・屋敷林の保全 | 社寺林の保全 | 土地所有者による維持管理(継続) | | | | | | | ○ | △ |
| | | 保存樹林の指定や維持管理のための助成金交付 | ○ | | | | | | △ | |
| | 屋敷林の保全 | 土地所有者による維持管理(継続) | | | | | ○ | | | |
| | | 保存樹林の指定や維持管理のための助成金交付 | ○ | | | | | △ | | |
| みどりのネットワーク形成 | みどりの核・拠点づくり | 令和の森公園の整備 | | | ○ | | | | | |
| | | 多福寺・木の宮地蔵の森の維持管理 | | | | | | | ○ | |
| | | 竹間沢こぶしの里の維持管理 | | | ○ | | | | | |
| | みどりの回廊の形成 | 街路樹の管理(緑あふれる道づくり) | | | | ○ | | | | |
| | | 緑のある歩行者空間の創出 | | | | ○ | | | | |
| エコロジカルネットワークの形成(農用地及び平地林の保全) | ○ | △ | | | | | | | | |
| 公共施設緑化の推進 | 都市公園等の緑化の推進 | 新規公園の整備 | | | ○ | | | | | |
| | | 住民の憩いの場((仮称)三芳バザール賑わい公園基本構想)の検討(道の駅) | | | | ○ | | | | |
| | 公共施設の緑化 | 学校林制度の継続 | ○ | | | | △ | | | |
| | | 学校ファーム制度の継続 | | | | | ○ | | | |
| 緑豊かな快適なまちづくり | 住宅地・商業地の緑化の推進 | 苗木等の配布 | ○ | | | | | | | |
| | | 生垣設置補助制度の拡充・利用促進 | ○ | | | | | | | |
| | | 緑地協定の締結 | ○ | | | | | | | |
| | | 花いっぱい運動推進事業の展開 | ○ | | | | | | | |
| | 工場・事業場の緑化の推進 | みどり共生産業ゾーンの沿道緑地の指導 | ○ | | △ | | | | | |
| | | 工場・事業場の敷地内外周の緑化 | | | | | | | ○ | |
| | | 社会・環境貢献緑地評価システムによる評価・認定制度の推奨 | △ | | | | | | ○ | |

第8章進捗管理計画

| 施策の方針 | 具体的な施策 | 取組の概要 | 部署 | | | | | 住民 | 事業者 | 団体 |
|-------------------------|------------------------|--------------------------------------|-----|-------|-------|-------|-------|----|-----|----|
| | | | 環境課 | 観光産業課 | 都市計画課 | 道路交通課 | 学校教育課 | | | |
| 緑化のPR活動の実施 | 緑に関する普及活動の推進 | 緑化イベントの開催 | ○ | | | | | △ | | △ |
| | | 花いっぱい運動推進事業の展開{再掲} | ○ | | | | | △ | | △ |
| | | (仮称)三芳バザール賑わい公園を活用した花の拠点づくり | ○ | | △ | | | | | |
| | | 緑化講座の開催 | ○ | | | | | △ | | △ |
| | | 積極的な情報発信(みどりの相談ネットの開設) | ○ | | | | | | | |
| | 緑に関する啓発活動の推進 | 自然観察会の実施 | ○ | | | | | △ | | |
| | | 落ち葉堆肥農法等の農業体験事業の実施 | | ○ | | | | △ | | △ |
| 生物に関する調査・研究((仮称)三芳町生物誌) | | ○ | | | | | | | | |
| 緑や生き物の実態の把握 | 竹間沢及び流域内調査の実施 | こぶしの里の保全・管理 | | | ○ | | | | | |
| | | 身近な自然をフィールドとした学校環境教育の支援 | | | | | ○ | | | |
| | エコロジカルネットワークの形成 | みどりの核となる令和の森の保全 | | | ○ | | | | | |
| | | みどりの拠点となる自然環境保全地域、こぶしの里の保全 | | | ○ | | | | ○ | |
| | | みどりの回廊の保全(緑あふれる道路づくり{再掲}等) | | | | ○ | | | | |
| | | 動植物に関するエコロジカルネットワークの確認 | ○ | | | | | | | |
| | ボランティア団体支援(ホテルの里等活动支援) | ○ | | | | | | △ | | |
| みどりの活動の推進 | みどりの活動の推進 | みどりの活動団体の育成 | ○ | | | | | △ | △ | |
| | | みどりのボランティア活動団体の推進 | ○ | | | | | | | |
| | みどりにふれあう機会の創出 | 自然体験のできるみどりのモデル地区の指定 | ○ | | | | | | | △ |
| | | 自然観察会等みどりのふれあう機会の開催計画の策定 | ○ | | | | | | | △ |
| | | みどりの講座等の開催 | ○ | | | | | △ | | |
| みどりの活動支援 | みどりの活動支援 | 自然観察会等みどりに関する活動への支援 | ○ | | | | | △ | △ | |
| | | 農業体験の実践(落ち葉掃き区域と利用範囲、落ち葉堆肥農法の継承){再掲} | | ○ | | | | △ | △ | |
| | みどりの基金の確保 | 緑ぬくもり基金(緑化推進費寄附)のPR活動 | ○ | | | | | | | |
| | 資機材の拠点づくり | みどりの拠点への資機材の配備 | ○ | | | | | | | |

資料編

1.三芳町緑の基本計画策定検討委員会

(1) 三芳町緑の基本計画策定検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 都市緑地法第4条に基づく緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画を策定するため、三芳町緑の基本計画策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の事項を所掌する。

- (1) 三芳町緑の基本計画の策定に関すること。
- (2) その他目的を達成するために必要と認められる事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は委員10名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、町長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 町民・関連団体の代表
- (3) 町職員（政策推進室長、都市計画課長）

(任期)

第4条 委員の任期は、三芳町緑の基本計画の策定が終了する日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学識経験を有する者をもって充てる。

- 2 委員会に副委員長を1人置き、委員長の指名によってこれを定める。
- 3 委員長は会務を総理、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提供を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、環境課自然環境担当において処理する。

(その他)

第8条 この要綱の定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この告示は、令和元年10月31日から施行する。
- 2 この告示の施行後最初に開かれる検討委員会の会議は、第6条の規定にかかわらず、町長が召集する。

(2) 三芳町緑の基本計画策定検討委員会 委員

任期：三芳町緑の基本計画策定が終了する日まで

| 委員 | 規定 | 所属 | 氏名(敬称略) | 就任年月日 | 備考 |
|-----------|----|-----------------------------|---------|------------|------|
| 学識経験者 | 1号 | 淑徳大学 | 松原 健司 | 令和元年11月28日 | |
| 町民・関連団体の長 | 2号 | 三芳町緑化推進協議会 | 上島 三介 | 令和元年11月28日 | 委員長 |
| ” | 2号 | 竹間沢ホテル育成会 | 古寺 貞之 | 令和元年11月28日 | |
| ” | 2号 | 区長会 | 竹内 滋 | 令和元年11月28日 | |
| ” | 2号 | 三芳川越いも振興会 | 武田 直章 | 令和元年11月28日 | |
| ” | 2号 | 落ち葉野菜研究グループ | 早川 徹 | 令和元年11月28日 | 副委員長 |
| ” | 2号 | 三芳町協働のまちづくりネットワーク みどり環境グループ | 原 芳彦 | 令和元年11月28日 | |
| 町職員 | 3号 | 都市計画課長 | 近藤 康浩 | 令和元年11月28日 | |
| ” | 3号 | 政策推進室長 | 島田 高志 | 令和元年11月28日 | |

(3) 三芳町緑の基本計画策定検討委員会 開催状況

| 頻度 | 開催日 | 主な議題 | 備考 |
|-----|------------|------------------------------------|----|
| 第1回 | 令和元年11月28日 | ・委嘱状交付 ・委員長選出 ・緑の基本計画の策定に向けて | |
| 第2回 | 令和元年12月18日 | ・諮問 ・緑の基本計画について | |
| 第3回 | 令和2年1月21日 | ・緑の基本計画について(全体) | |
| 第4回 | 令和2年3月13日 | ・緑の基本計画について(全体) ・答申 | |

注)三芳町緑化推進協議会においても、5月、10月の2回に渡り、協議・意見聴取を行っています。

2.用語の説明

| 用語の説明 | |
|--------------|---|
| あ行 | |
| 生け垣設置の助成金 | 緑豊かで災害に強いまちにするため新たな生垣の設置が一定の条件に当てはまる場合にその費用の一部を補助する制度です。 |
| 雨水流出抑制 | 樹木の樹冠に一時的に雨水が貯まり、さらに幹を通して土壤に浸透させ、一時流出を遅らせることができ、河川等への流出を遅らせること。 |
| エコロジカルネットワーク | 野生の生き物が必要とする繁殖の場や餌場、休息の場などの様々な場と、渡りや繁殖、巣立ち、採餌、休息など様々な目的の移動経路の繋がりとして、緑のネットワークを形成すること |
| NPO | 「Non-Profit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称(直訳すると「非営利組織」)で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。 |
| SDGs | 「SustainableDevelopmentGoals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。 持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と169のターゲット(取組・手段)から構成され、地球上の誰一人として取り残さないこと(1eavenoonebehind)を誓い、発展途上国のみならず、先進国も含めたすべての主体が取り組む普遍的なもの。 |
| オープンスペース | 公園・広場・河川・農地など、建物によって覆われていない土地あるいは敷地内の空地。 |
| か行 | |
| 渇水防止 | 雨水を土壤に浸透させることにより、流出を遅らせることになり、河川流量を安定化すること。 |
| 環境教育 | 人間も地球に生きる多様な生物の一種であるという認識に立ち、環境について自然や地理・歴史などのトータルな学習を行うこと。 |
| 緩衝緑地 | 大気汚染や騒音、振動、悪臭などの公害や災害防止のために、住居地と工場地帯、交通施設を分離することが必要な場所に設置される。 |
| 岩石地 | 当該土地の大部分が岩石で被われている土地又は岩石が風化して角礫を多く含んだ状態の土地をいい、具体的には、海浜の岩礁地、溶岩台地等をいう。 |
| 協働 | 住民及び自治体が共通の目的を達成するために、互いの自主性と特性を尊重し、対等な立場でそれぞれの果たすべき責任と役割を分担し、協力を進めること。 |

用語の説明

| | |
|--------|--|
| 公共公益施設 | 住民の生活のために必要なサービス施設の総称。公益施設は一般的には教育施設、官公庁施設、医療施設、コミュニティ施設等を示すのに対し、公共施設はその内容の範囲が法令により定められている。例えば、都市計画法では道路、公園、下水道、緑地、広場、河川、運河、水路、消防の用に供する貯水施設と規定されている。 |
| 国勢調査 | 総務省統計局が5年に一度行う全国規模の人口等に関わる調査。国内のすべての居住者が対象となる。 |
| コミュニティ | 地域共同体のことで、住民相互の協力と連帯による地域のまちづくりを担うもの。 |

さ行

| | |
|-----------------|--|
| 市街化区域 | すでに市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域をいう。 |
| 市街化調整区域 | 市街化を抑制すべき区域をいう。 |
| 施設緑地 | 施設整備を通じて緑地の保全・創造を図るものであり、都市公園が代表的なものです。 |
| 自然的土地利用 | 本計画では、田、畑、山林、水面及びその他自然地为自然的土地利用と称しています。 |
| 指標1 | 生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き(平成30年4月)で定める指標の1つであり、動植物の生息地又は生育地となるポテンシャルを有する緑地等の量的な状況を現わす指標。 |
| 指標3 | 生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き(平成30年4月)で定める指標の1つであり、対象とする緑地の都市でも生息可能な動物(コゲラに着目)の生息地又は生育地となるポテンシャルを有する連続性のある緑地等から構成されるエコロジカルネットワークの形成の状況を現わす指標。 |
| 指標5 | 生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き(平成30年4月)で定める指標の1つであり、都市の生物多様性が都市住民にもたらす生態系サービスの状況を示す指標で、都市のみどりによる温室効果ガス吸収量等を数値化した指標 |
| 市民農園 | 一般的には、市民がレクリエーション活動として農作業を行えるよう農地等を一定の区画に区分し、貸し付ける農園をいう。設置者は地方公共団体、農協、農地を所有する個人等である。 |
| 社会・環境貢献緑地評価システム | 「SEGES(Social and Environmental Green Evaluation System)」は、都市の「緑の認定」ともいわれ、事業者が所有する『みどり』を対象に、都市のアメニティに特化した緑地機能を第三者(公益財団法人 都市緑化機構)により評価するもの。 |
| 住民参画 | 社会福祉活動などの企画から地域住民が直接携わって組み立てること。 |

用語の説明

| | |
|---------|--|
| 主要生活道路 | 幹線道路と連絡する住民が通勤・通学、買物等で日常的に利用する主要な生活道路をいう。 |
| 主要地方道 | 道路法第 56 条の規定により国土交通大臣が指定する主要な都道府県道又は市道をいう。高速自動車国道や一般国道と一体となって広域交通を担う幹線道路として位置付けられている。 |
| 循環型社会 | これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会ではなく、有限な天然資源の消費量を減らすとともに、再生産、再利用を行って資源の循環を図っていけるような社会のこと。 |
| 樹林地 | 当該土地の大部分について樹木が生育している一団の土地であり、樹林には竹林も含まれる。 |
| 少子・高齢化 | 出生数が減少し子どもの割合が低下することや、平均寿命の伸びなどにより高齢者の割合が増加すること。 |
| スマート IC | 高速道路のサービスエリア(SA)やパーキングエリア(PA)に設置されたETC(自動料金収受システム)専用の出入口(インターチェンジ)のこと。 |
| 総合計計画 | 1969 年の地方自治法改正により、第 2 条第 4 項「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。」と定められ、総合計画の基本部分である「基本構想」の策定が地方自治体に義務付けられました。総合計画は地方自治体の全ての計画の基本となり、地域づくりの最上位に位置づけられる計画のこと。 |
| 草地 | 当該土地の大部分が草で被われている土地であり、ゴルフ場のような人工草地も含まれ、農地は原則含まれない。 |

た行

| | |
|--------|---|
| 団体 | 本計画において「団体」とは、住民が主体となって組織化された団体をいう。例えば、「みよしグリーンサポート隊」や「竹間沢ほたる育成会」、「北永井さんくのさと」などの団体をいう。 |
| 地域幹線道路 | 町内の拠点間及び主要な地域を結ぶ道路。 |
| 地域制緑地 | 緑地の分類であり、都市の自然環境・景観を保全することを目的に特定の地域を指定し、土地の利用を規制する都市計画体系上の緑地保全に係る制度の総称のこと。 |
| 地区計画 | 比較的小規模な地区を対象に、それぞれの地区の特性を活かした個性的で良好な街並みの形成を目的として、道路や公園などの地区施設の配置及び規模、建築物等の制限、草地や樹林地の保全に関するきめ細かなルールを定める都市計画制度です。 |

用語の説明

| | |
|-------------|--|
| 特別緑地保全地区 | 都市緑地保全法に基づき、都市計画区域内の緑地のうち風致、景観が優れている等の緑地を保全するため県又は市が都市計画に定める地域地区のこと。特別緑地保全地区内において建築物の新築等の行為を行う際は許可が必要であり、現状凍結的に保全できる。不許可のため損失を受けた者に対して、損失補償、土地の買入れ制度がある。 |
| 都市幹線道路 | 道路網のうちでも主要な骨格をなし、都市に出入りする交通により、本町と周辺都市を連結する道路です。 |
| 都市基盤 | 道路、公園、上下水道などの都市を形成する都市施設の中でも根幹的なもの。 |
| 都市近郊型農業 | 都市に近接する地域の農業。大都市圏等の消費地に近いため、新鮮な野菜や花・庭木等の栽培に適している農業です。 |
| 都市計画公園 | 都市計画法に基づき都市計画決定している公園又は緑地です。 |
| 都市計画道路 | 都市の骨格を形成し、都市交通における最も基幹的な都市施設として都市計画法に基づいて都市計画決定された道路です。 |
| 都市計画マスタープラン | 都市計画法第 18 条の 2 の規定に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことであり、総合計画、都市計画区域マスタープランに即し、市町村がその都市計画に関する基本的な方針(基本構想、全体構想、地域別構想)を住民の意見を聴きながら定めるもの。 |
| 都市公園 | 都市計画法に規定する都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地及び、都市計画施設である公園又は緑地で地方公共団体が設置するもの。 |
| 都市緑地法 | 良好な都市環境の形成を図ることで、健康で文化的な都市生活の確保に寄与することを目的とし、都市における緑地の保全、緑化の推進に関して必要な事項を定めた法律であり、「緑の基本計画」の策定や特別緑地保全地区、緑地協定等さまざまな制度が定められている。 |
| 土地区画整理事業 | 土地区画整理法(昭和 29 年法律第 119 号)に基づき、都市計画区域内の土地について、公共施設の整備改善及び宅地の利用の増進を図るために行われる土地の区画形質の変更や公共施設の新設又は変更に関する事業。 |
| トラスト保全地 | 埼玉のすぐれた自然や歴史的環境を後世に残すため、さいたま緑のトラスト基金により取得・保全する緑地。 |

な行

| | |
|--------|--|
| 日本農業遺産 | 日本において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を農林水産大臣が認定する制度。 |
| ネットワーク | 都市の構造を構成する要素(緑、水辺など)や主な施設(道路など)等が連結され、相互の機能を高めること。 |

用語の説明

は行

- ビオトープ ドイツ語の「生物」を表す Bio と「場所」を意味する Top の合成語で「野生動植物の生息する空間」を意味する。もともとは、特定の生物が生息できる環境条件を備えた空間を示す概念だったが今日では、生態系としての森林や川、沼、雑木林などの総称としても使われる。現存する自然を保全するもの、人為的に自然を復元するものなどがあり、日本では後者の意味で使われることが多い。
- 保存樹木、保存樹林 都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律に基づき、都市計画区域内における、一定の要件に該当する樹木のうち、町長が、都市の美観風致を維持するために保存の必要があると認め指定したもの。保存樹林は、都市計画区域内における、一定の要件に該当する樹木の集団のうち、町長が、都市の美観風致を維持するために保存の必要があると認め指定したもの。

ま行

- 水辺地 池沼、河川、海、湖等の水面を含むそれらの周辺地域。
- 緑の基本計画 都市緑地保全法の改正により、従来の緑のマスタープランと都市緑化推進計画を統合し、総合的な緑のマスタープランとなる「緑地の保全及び緑化に関する基本計画」。その内容は市町村が自主性をもって策定するもので、「整備、開発又は保全の方針」、「市町村マスタープラン」と整合のとれたものとなる必要がある。
- 緑のトラスト保全整備事業 県では、県民から広く寄附を募り、それを資金として埼玉の優れた自然や貴重な歴史的環境を、県民共有の財産として末永く保全していこうという「さいたま緑のトラスト』運動」を展開している。
- 武蔵野の落ち葉堆肥農法 樹種(落葉広葉樹)を選定した植林と下草刈りや落ち葉掃き等による平地林の管理、落ち葉堆肥による土壌改良とそれによる安定的な農産物の栽培を行うものであり、300年以上前から本地域で行われている伝統農法です。
- 面整備 建築物等の建設や公園等の整備を目的に土地を整地し、一体でまちを整備すること。

ら行

- 緑化重点地区 都市緑地法によって緑化の推進を重点的に図るべき地区として定める地区のこと。
- 緑地 自然的環境を有するオープンスペース。緑の基本計画の整備、保全の対象となる「緑地」は、「施設緑地」、法や条例などの指定により担保されている「地域制緑地」の2つに分けられます。

用語の説明

| | |
|----------|--|
| 緑地協定 | <p>従来の緑化協定を拡大したもので、住民による緑化への取組に加え、住民相互の合意により、主に住民の敷地内の樹木や生け垣の保全もできる制度。</p> <p>都市緑地保全法に基づき、町長の認可を受けて締結される。許可の公告後その区域内に移転してきた者に対しても効力がある。</p> |
| 隣接している土地 | <p>樹林地等の土地と一体となって良好な自然的環境を形成している土地の範囲をいい、この隣接地には緑地に介在する農地も含まれ得る。</p> |
| 歴史的な景観 | <p>歴史的環境の織り成す風景、景色、眺め。</p> |
| RDB | <p>レッドデータブック(Red Data Book(RDB))は、絶滅のおそれのある野生生物に関する保全状況や分布、生態、影響を与えている要因等の情報を記載した図書であり、国では「レッドリスト 2015 について(環境省)平成27年9月 平成27年3月」、埼玉県では「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成24年3月 埼玉県)、「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(令和元年12月 埼玉県)」が発行されています。</p> |
| 類する土地 | <p>樹林地に類するものとして屋敷林、庭園、街道の並木等、水辺地に類するものとして湿地帯等、岩石地に類するものとして砂丘地等をいい、農地は原則として含まれない。</p> |

3.表や図及び写真の索引の記載頁

【表の索引】

| | | |
|----------|--------------------------------|-----|
| 表 1-1 | みどりの機能と役割 | 2 |
| 表 1-2 | 緑地の分類と町域における該当の有無 | 6 |
| 表 2-1 | 自然的土地利用の状況 | 13 |
| 表 2-2 | 平地林の面積区分別規模状況(2015(平成 27)年) | 17 |
| 表 2-3 | 重要な植物の確認状況 | 22 |
| 表 2-4 | 重要な鳥類の確認状況 | 23 |
| 表 2-5 | 重要な爬虫類の確認状況 | 25 |
| 表 2-6 | 重要な哺乳類の確認状況 | 26 |
| 表 2-7 | 重要な昆虫類等の確認種 | 27 |
| 表 2-8 | 平地林区分における指標 3 | 30 |
| 表 2-9 | 森林整備計画対象林区分における指標 3 | 31 |
| 表 2-10 | 土地利用の状況 | 38 |
| 表 2-11 | 都市計画道路の改良状況 | 45 |
| 表 2-12 | 道路緑化の状況 | 47 |
| 表 2-13 | 都市公園一覧 | 49 |
| 表 2-14 | 土地区画整理事業一覧 | 51 |
| 表 2-15 | 学校・運動場等の施設緑地 | 53 |
| 表 2-16 | 町指定の保存樹林 | 58 |
| 表 2-17 | 地域で確認されている動植物の種数と重要種 | 65 |
| 表 2-18 | 緑に関する住民意識について | 69 |
| 表 3-1 | 都市のみどりに関する税制 | 71 |
| 表 4-1 | H17 緑計画の主な施策の実施状況 | 73 |
| 表 4-2 | H17 緑計画の目標と達成状況 | 74 |
| 表 5-1 | 本計画に反映する SDGs(持続可能な開発目標) | 81 |
| 表 5-2 | 本計画に反映する SDGs(持続可能な開発目標)のターゲット | 82 |
| 表 6-1 | 施策の方針のめざす方向性 | 88 |
| 表 6-2 | 計画フレーム | 89 |
| 表 6-3 | 平地林の減少量の推計 | 89 |
| 表 7-1 | 実施時期と期間 | 91 |
| 表 7-2(1) | 具体的な施策と概要等 | 92 |
| 表 7-3 | 緑の施策と計画反映のための関連性 | 99 |
| 表 8-1 | 施策の担当する関連部署 | 107 |

【図の索引】

| | | |
|-----------|--------------------------------|----|
| 図 1-1 | 計画の位置づけ | 4 |
| 図 1-2 | 緑地の分類 | 5 |
| 図 2-1 | 平年値(1981～2010年の30年間)の気象状況 | 9 |
| 図 2-2 | 風配図の状況 | 10 |
| 図 2-3 | 断面位置と地形断面 | 11 |
| 図 2-4 | 地形分類図 | 12 |
| 図 2-5 | 自然的土地利用の経年変化 | 13 |
| 図 2-6 | 明治初期から中期の緑被地状況(迅速側図) | 14 |
| 図 2-7 | 昭和40年代の緑被地状況 | 14 |
| 図 2-8 | 2010(平成22)年時の緑被地(山林・畑)状況 | 15 |
| 図 2-9 | 2015(平成27)年時の緑被地(山林・畑)状況 | 15 |
| 図 2-10 | 植生の状況 | 16 |
| 図 2-11 | 平地林の面積区分別規模状況(2015(平成27)年) | 17 |
| 図 2-12 | 平地林の分布状況(2015(平成27)年) | 18 |
| 図 2-13 | 森林整備計画対象林の状況 | 20 |
| 図 2-14 | 緑地の一部をなす農地(畑)と平地林の分布状況 | 32 |
| 図 2-15 | 平地林によるエコロジカルネットワーク形状の状況 | 33 |
| 図 2-16 | 森林整備計画対象林のエコロジカルネットワーク形状の状況 | 34 |
| 図 2-17 | 平地林によるエコロジカルネットワークと農用地(畑)の分布状況 | 35 |
| 図 2-18 | 人口及び世帯数の推移 | 36 |
| 図 2-19 | 過去10年間の人口及び世帯数の経年変化(平成18～27年) | 36 |
| 図 2-20 | 年齢3区分別人口の推移 | 37 |
| 図 2-21 | 5歳階級別人口比率の昭和60年と平成27年の比較 | 37 |
| 図 2-22(1) | 土地利用の状況 | 39 |
| 図 2-23 | 土地利用現況図(平成27年 都市計画基礎調査) | 40 |
| 図 2-24 | 住宅用地の現況変化図(平成22年と平成27年の比較) | 41 |
| 図 2-25 | 工業用地の現況変化図(平成22年と平成27年の比較) | 42 |
| 図 2-26 | 山林の現況変化図(平成22年と平成27年の比較) | 43 |
| 図 2-27 | 畑の現況変化図(平成22年と平成27年の比較) | 44 |
| 図 2-28 | 鉄道及び道路網図 | 46 |
| 図 2-29 | 道路の緑化状況 | 48 |
| 図 2-30 | 都市公園及び保全樹林等の分布状況 | 50 |
| 図 2-31 | 土地区画整理事業位置 | 52 |
| 図 2-32 | 施設緑地(教育施設・運動場等)の分布状況 | 54 |
| 図 2-33 | 地域制緑地(法によるもの)の分布状況 | 56 |
| 図 2-34 | 地域制緑地(協定によるもの)の分布状況 | 57 |
| 図 2-35 | 森林整備計画対象林とH27山林の状況 | 60 |
| 図 2-36 | 景観八景の分布状況 | 64 |

| | | |
|--------|-----------------------------|-----|
| 図 2-37 | 緑地における動物相・植物相の調査済エリアの状況 | 66 |
| 図 5-1 | 三芳町緑の基本計画策定フロー | 75 |
| 図 6-1 | 三芳町緑の基本計画の基本理念 | 83 |
| 図 6-2 | 三芳町緑の基本計画の将来像 | 84 |
| 図 6-3 | 三芳町の緑の基本計画の将来像構築の協働イメージ | 85 |
| 図 6-4 | みどりの将来イメージ図 | 86 |
| 図 6-5 | 三芳町緑の基本計画の基本方針と施策の方針の関連性 | 87 |
| 図 7-1 | 緑化重点地区の位置図 | 102 |
| 図 7-2 | 緑化重点地区の整備構想図・課題の抽出 | 104 |
| 図 8-1 | 協働による計画推進のイメージ | 105 |
| 図 8-2 | 三芳町緑の基本計画の PDCA サイクルによる進捗管理 | 106 |

【写真の索引】

| | | |
|--------|-------------|----|
| 写真 2-1 | 重要な植物の確認状況 | 22 |
| 写真 2-2 | 重要な鳥類の確認状況 | 24 |
| 写真 2-3 | 重要な爬虫類の確認状況 | 25 |
| 写真 2-4 | 重要な哺乳類の確認状況 | 26 |
| 写真 2-5 | 重要な昆虫類の確認状況 | 28 |

4. 町内の生物相

【植物相の確認一覧表】

植物相(1/5)

| No. | 分類群 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | | |
|-----|----------------------|----------|---|--|--------------------------------|-----|-----|------|------|-----|---|
| | | | | | の保存 | 環境省 | 埼玉県 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 | |
| 1 | ヒカゲノカズラ綱 | イワヒバ科 | クラマゴケ | <i>Selaginella remotifolia</i> | | | | | | ○ | |
| 2 | シダ植物 | ハナヤスリ科 | オオハナワラビ | <i>Botrychium japonicum</i> | | | | | | ○ | |
| 3 | | トクサ科 | スギナ | <i>Equisetum arvense</i> | | | | ○ | ○ | | |
| 4 | | オシダ科 | リョウメンシダ | <i>Arachniodes standishii</i> | | | | | | ○ | |
| 5 | | | ヤブソテツ | <i>Cyrtomium fortunei</i> | | | | | | ○ | |
| 6 | | | テリハヤブソテツ | <i>Cyrtomium fortunei f. laetevirens</i> | | | | | | ○ | |
| 7 | | | ベニシダ | <i>Dryopteris erythrosora</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 8 | | | クマワラビ | <i>Dryopteris lacera</i> | | | | | | ○ | |
| 9 | | | ヤマイタチシダ | <i>Dryopteris varia var. setosa</i> | | | | | | ○ | |
| 10 | | | アイアスカイノデ | <i>Polystichum longifrons</i> | | | | | | ○ | |
| 11 | | | ウラボシ科 | ノキシノブ | <i>Lepisorus thunbergianus</i> | | | | | | ○ |
| 12 | | | ゼンマイ科 | ゼンマイ | <i>Osmunda japonica</i> | | | | | | ○ |
| 13 | | | イノモトソウ科 | オオバノイノモトソウ | <i>Pteris cretica</i> | | | | | | ○ |
| 14 | | ヒメシダ科 | ミヅシダ | <i>Stegogramma pozoi ssp. mollissima</i> | | | | | | ○ | |
| 15 | | | ミドリヒメワラビ | <i>Thelypteris viridifrons</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 16 | | メシダ科 | イヌワラビ | <i>Athyrium niponicum</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 17 | | | ホソバシケシダ | <i>Deparia conilli</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 18 | | | クサソテツ | <i>Matteuccia struthiopteris</i> | | | | | | ○ | |
| 19 | | 裸子植物 | イチョウ科 | イチョウ | <i>Ginkgo biloba</i> | | | | | ○ | |
| 20 | マツ科 | | アカマツ | <i>Pinus densiflora</i> | | | | | ○ | | |
| 21 | スギ科 | | スギ | <i>Cryptomeria japonica</i> | | | | | ○ | | |
| 22 | ヒノキ科 | | ヒノキ | <i>Chamaecyparis obtusa</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 23 | | | サワラ | <i>Chamaecyparis pisifera</i> | | | | | | ○ | |
| 24 | 被子植物 双子葉類 離弁花類 | カバノキ科 | イヌシデ | <i>Carpinus tschonoskii</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 25 | | | ケヤマハンノキ | <i>Alnus hirsuta</i> | | | | | | ○ | |
| 26 | | | ヤマハンノキ | <i>Alnus hirsuta var. sibirica</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 27 | | | ハンノキ | <i>Alnus japonica</i> | | | | | | | ○ |
| 28 | | | アカシデ | <i>Carpinus laxiflora</i> | | | | | | | ○ |
| 29 | | ブナ科 | クリ | <i>Castanea crenata</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 30 | | | クヌギ | <i>Quercus acutissima</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 31 | | | アラカシ | <i>Quercus glauca</i> | | | | | | | ○ |
| 32 | | | シラカシ | <i>Quercus myrsinaefolia</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 33 | | | コナラ | <i>Quercus serrata</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 34 | | ニレ科 | ムクノキ | <i>Aphananthe aspera</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 35 | | | エノキ | <i>Celtis sinensis var. japonica</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 36 | | | アキノレ | <i>Ulmus parvifolia</i> | | | | | | | ○ |
| 37 | | | ケヤキ | <i>Zelkova serrata</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 38 | | クワ科 | ヒメコウゾ | <i>Broussonetia kazinoki</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 39 | | | クワクサ | <i>Fatoua villosa</i> | | | | | ○ | | |
| 40 | | | カナムグラ | <i>Humulus japonicus</i> | | | | | ○ | | |
| 41 | | | ヤマグワ | <i>Morus australis</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 42 | イラクサ科 | カラムシ | <i>Boehmeria nivea var. concolor</i> | | | | | ○ | | | |
| 43 | | メヤブマオ | <i>Boehmeria plataniifolia</i> | | | | | | | ○ | |
| 44 | | アカソ | <i>Boehmeria silvestrii</i> | | | | | | | ○ | |
| 45 | | アオミズ | <i>Pilea pumila</i> | | | | | | ○ | ○ | |
| 46 | タデ科 | ミズヒキ | <i>Antenoron filiforme</i> | | | | | ○ | ○ | | |
| 47 | | オオイヌタデ | <i>Persicaria lapathifolia</i> | | | | | | | ○ | |
| 48 | | イヌタデ | <i>Persicaria longiseta</i> | | | | | | ○ | ○ | |
| 49 | | ハナタデ | <i>Persicaria posumbu</i> | | | | | | ○ | | |
| 50 | | ツルドクダミ | <i>Pleuropteris multiflorus</i> | | | | | | ○ | | |
| 51 | | ミチヤナギ | <i>Polygonum aviculare</i> | | | | | | ○ | | |
| 52 | | ヤマゴボウ科 | ヨウシュヤマゴボウ | <i>Phytolacca americana</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 53 | オシロイバナ科 | オシロイバナ | <i>Mirabilis jalapa</i> | | | | | ○ | | | |
| 54 | ザクロソウ科 | ザクロソウ | <i>Mollugo pentaphylla</i> | | | | | ○ | ○ | | |
| 55 | ナデシコ科 | ノミハツヅリ | <i>Arenaria serpyllifolia</i> | | | | | | | ○ | |
| 56 | | ツメクサ | <i>Sagina japonica</i> | | | | | | ○ | | |
| 57 | | ウシハコベ | <i>Stellaria aquatica</i> | | | | | | ○ | | |
| 58 | | コハコベ | <i>Stellaria media</i> | | | | | | | ○ | |
| 59 | アカザ科 | シロザ | <i>Chenopodium album</i> | | | | | ○ | ○ | | |
| 60 | ヒコ科 | ヒカゲイノコズチ | <i>Achyranthes bidentata var. japonica</i> | | | | | ○ | ○ | | |
| 61 | | ヒナタイノコズチ | <i>Achyranthes bidentata var. tomentosa</i> | | | | | | | ○ | |
| 62 | モクレン科 | ホオノキ | <i>Magnolia hypoleuca</i> | | | | | | | ○ | |
| 63 | | コブシ | <i>Magnolia praecoccissima</i> | | | | | | ○ | ○ | |
| 64 | マツブサ科 | サネカズラ | <i>Kadsura japonica</i> | | | | | ○ | ○ | | |
| 65 | クスノキ科 | ニッケイ | <i>Cinnamomum sieboldii</i> | | | | | | | ○ | |
| 66 | | ヤマコウバシ | <i>Lindera glauca</i> | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 67 | | シロダモ | <i>Neolitsea sericea</i> | | | | | | | ○ | |

植物相(2/5)

| No. | 分類群 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | | | |
|-----|--------------|--|------------------------------|---|--------------------------|--|-----|------|------|-----|---|---|
| | | | | | の保存 | 環境省 | 埼玉県 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 | | |
| 68 | 被子植物 双子葉類 | キンボウゲ科 | ボタンツル | <i>Clematis apiifolia</i> | | | | ○ | | | | |
| 69 | | | アキカラマツ | <i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i> | | | | ○ | | | | |
| 70 | 離弁花類 | メギ科 | ナンテン | <i>Nandina domestica</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 71 | | | アケビ科 | アケビ | <i>Akebia quinata</i> | | | | ○ | | ○ | |
| 72 | ミツバアケビ | <i>Akebia trifoliata</i> | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 73 | ツツラフジ科 | アオツツラフジ | アオツツラフジ | <i>Cocculus orbiculatus</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 74 | | | ドクダミ | <i>Houttuynia cordata</i> | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 75 | 離弁花類 | センリョウ科 | フタリシズカ | <i>Chloranthus serratus</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 76 | | | シナサルナシ | <i>Actinidia chinensis</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 77 | ツバキ科 | ツバキ | ツバキ | <i>Camellia japonica</i> var. <i>hortensis</i> | | | | | | ○ | | |
| 78 | | | サザンカ | <i>Camellia sasanqua</i> | | | | ○ | | | | |
| 79 | | | チャノキ | <i>Camellia sinensis</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 80 | | | ヒサカキ | <i>Eurya japonica</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 81 | | | ヤブツバキ | <i>Camellia japonica</i> | | | | | ○ | | | |
| 82 | | | オトギリソウ科 | オトギリソウ | <i>Hypericum erectum</i> | | | | | | ○ | |
| 83 | ケシ科 | ムラサキケマン | ムラサキケマン | <i>Corydalis incisa</i> | | | | | | ○ | | |
| 84 | | | タケニグサ | <i>Macleaya cordata</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 85 | アブラナ科 | ナズナ | ナズナ | <i>Capsella bursa-pastoris</i> var. <i>triangularis</i> | | | | | | ○ | | |
| 86 | | | タネツケバナ | <i>Cardamine flexuosa</i> | | | | | | ○ | | |
| 87 | | | イヌガラシ | <i>Rorippa indica</i> | | | | | | ○ | | |
| 88 | | | スカシタゴボウ | <i>Rorippa islandica</i> | | | | ○ | | | | |
| 89 | ユキノシタ科 | ウツギ | ウツギ | <i>Deutzia crenata</i> | | | | ○ | | | | |
| 90 | | | アジサイ | <i>Hydrangea macrophylla</i> | | | | ○ | | | | |
| 91 | | | ガクアジサイ | <i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>normalis</i> | | | | ○ | | | | |
| 92 | バラ科 | キンミズヒキ | キンミズヒキ | <i>Agrimonia japonica</i> | | | | | | ○ | | |
| 93 | | | ヒメキンミズヒキ | <i>Agrimonia nipponica</i> | | | | ○ | | | | |
| 94 | | | クサボケ | <i>Chaenomeles japonica</i> | | | | | | ○ | | |
| 95 | | | ヤブヘビイチゴ | <i>Duchesnea indica</i> | | | | | | ○ | | |
| 96 | | | ヤマブキ | <i>Kerria japonica</i> | | | | ○ | | | | |
| 97 | | | ミツバツチグリ | <i>Potentilla freyniana</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 98 | | | ウワミズザクラ | <i>Prunus grayana</i> | | | | ○ | ○ | | | |
| 99 | | | クサイチゴ | <i>Rubus hirsutus</i> | | | | | | ○ | | |
| 100 | | | ヤマザクラ | <i>Prunus jamasakura</i> | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 101 | | | ナワシロイチゴ | <i>Rubus parvifolius</i> | | | | | | ○ | | |
| 102 | | | ノイバラ | <i>Rosa multiflora</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 103 | | | マメ科 | ネムノキ | ネムノキ | <i>Albizia julibrissin</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 104 | | | | | ヤブマメ | <i>Amphicarpaea edgeworthii</i> var. <i>japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 105 | アレチヌスビトハギ | <i>Desmodium paniculatum</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 106 | ヌスビトハギ | <i>Desmodium podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 107 | ヤハズソウ | <i>Kummerowia striata</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 108 | ヤマハギ | <i>Lespedeza bicolor</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 109 | キハギ | <i>Lespedeza buergeri</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 110 | マルバハギ | <i>Lespedeza cyrtobotrya</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 111 | クズ | <i>Pueraria lobata</i> | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 112 | ヤハズエンドウ | <i>Vicia angustifolia</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 113 | フジ | <i>Wisteria floribunda</i> | | | | | | | | ○ | | |
| 114 | カマツカ | <i>Pseudogobio esocinus esocinus</i> | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 115 | カタバミ科 | カタバミ | カタバミ | <i>Oxalis corniculata</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 116 | | | アカカタバミ | <i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i> | | | | ○ | | | | |
| 117 | | | オッタチカタバミ | <i>Oxalis stricta</i> | | | | ○ | | | | |
| 118 | トウダイグサ科 | エノキグサ | エノキグサ | <i>Acalypha australis</i> | | | | | | ○ | | |
| 119 | | | オオニシキソウ | <i>Euphorbia maculata</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 120 | | | コニシキソウ | <i>Euphorbia supina</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 121 | | | アカメガシワ | <i>Mallotus japonicus</i> | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 122 | | | ヒメミカンソウ | <i>Phyllanthus matsumurae</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 123 | ミカン科 | サンショウ | <i>Zanthoxylum piperitum</i> | | | | ○ | | ○ | | | |
| 124 | ニガキ科 | シンジュ | シンジュ | <i>Ailanthus altissima</i> | | | | | | ○ | | |
| 125 | | | ニガキ | <i>Picrasma quassioides</i> | | | | ○ | | | | |
| 126 | センダン科 | センダン | <i>Melia azedarach</i> | | | | | ○ | | | | |
| 127 | ウルシ科 | ヌルデ | ヌルデ | <i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 128 | | | ヤマウルシ | <i>Rhus trichocarpa</i> | | | | | ○ | ○ | | |
| 129 | カエデ科 | イロハモミジ | <i>Acer palmatum</i> | | | | ○ | | ○ | | | |
| 130 | トチノキ科 | トチノキ | <i>Aesculus turbinata</i> | | | | | | ○ | | | |
| 131 | モチノキ科 | イヌツゲ | イヌツゲ | <i>Ilex crenata</i> | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 132 | | | モチノキ | <i>Ilex integra</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 133 | | | タラヨウ | <i>Ilex latifolia</i> | | | | | | ○ | | |
| 134 | | | アオハダ | <i>Ilex macropoda</i> | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 135 | | | ウメモドキ | <i>Ilex serrata</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 136 | ニシキギ科 | ツルウメモドキ | ツルウメモドキ | <i>Celastrus orbiculatus</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 137 | | | ニシキギ | <i>Euonymus alatus</i> | | | | ○ | | | | |
| 138 | | | コマユミ | <i>Euonymus alatus</i> f. <i>ciliatodentatus</i> | | | | | | ○ | | |
| 139 | | | マユミ | <i>Euonymus sieboldianus</i> | | | | ○ | | ○ | | |
| 140 | | | | | | | ○ | | ○ | | | |

植物相(3/5)

| No. | 分類群 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|------|----------|------------|--|---------|-----|-----|------|------|-----|
| | | | | | の保存 | 環境省 | 埼玉県 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 141 | 被子植物 | ミツバウツギ科 | ゴンズイ | <i>Euscaphis japonica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 142 | 双子葉類 | ブドウ科 | ノブドウ | <i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i> | | | | ○ | | ○ |
| 143 | 離弁花類 | | ヤブガラシ | <i>Cayratia japonica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 144 | | | ツタ | <i>Parthenocissus tricuspidata</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 145 | | | エビヅル | <i>Vitis ficifolia</i> var. <i>lobata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 146 | | アオギリ科 | アオギリ | <i>Firmiana simplex</i> | | | | | | ○ |
| 147 | | スミレ科 | エイザンスミレ | <i>Viola eizanensis</i> | | | | | | ○ |
| 148 | | | タチツボスミレ | <i>Viola grypoceras</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 149 | | | アオイスマレ | <i>Viola hondoensis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 150 | | | スミレ | <i>Viola mandshurica</i> | | | | | | ○ |
| 151 | | | アカネスミレ | <i>Viola phalacrocarpa</i> | | | | | | ○ |
| 152 | | | ノジスミレ | <i>Viola yedoensis</i> | | | | | | ○ |
| 153 | | ウリ科 | アマチャヅル | <i>Gynostemma pentaphyllum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 154 | | | カラスウリ | <i>Trichosanthes cucumeroides</i> | | | | ○ | | ○ |
| 155 | | アカバナ科 | メマツヨイグサ | <i>Oenothera biennis</i> | | | | | | ○ |
| 156 | | ミズキ科 | アオキ | <i>Aucuba japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 157 | | | アメリカヤマボウシ | <i>Benthamidia florida</i> | | | | ○ | | |
| 158 | | | ミズキ | <i>Cornus controversa</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 159 | | ウコギ科 | ヤマウコギ | <i>Acanthopanax spinosus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 160 | | | タラノキ | <i>Aralia elata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 161 | | | ヤツデ | <i>Fatsia japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 162 | | | セイヨウキツタ | <i>Hedera helix</i> | | | | ○ | | |
| 163 | | | キツタ | <i>Hedera rhombea</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 164 | | リョウブ科 | リョウブ | <i>Clethra barbinervis</i> | | | | | | ○ |
| 165 | | イチヤクソウ科 | ウメガサソウ | <i>Chimaphila japonica</i> | | | | | | ○ |
| 166 | | | イチヤクソウ | <i>Fyrola japonica</i> | | | | | | ○ |
| 167 | | セリ科 | ミツバ | <i>Cryptotaenia japonica</i> | | | | ○ | | |
| 168 | 被子植物 | ツツジ科 | ドウダンツツジ | <i>Enkianthus perulatus</i> | | | | ○ | | |
| 169 | 双子葉類 | | アセビ | <i>Pieris japonica</i> | | | | | | ○ |
| 170 | 合弁花類 | | サツキ | <i>Rhododendron indicum</i> | | | | ○ | | |
| 171 | | | ヤマツツジ | <i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i> | | | | ○ | | ○ |
| 172 | | | ネジキ | <i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i> | | | | | ○ | ○ |
| 173 | | ヤブコウジ科 | マンリョウ | <i>Ardisia crenata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 174 | | | ヤブコウジ | <i>Ardisia japonica</i> | | | | | | ○ |
| 175 | | | オカトラノオ | <i>Lysimachia clethroides</i> | | | | | | ○ |
| 176 | | サクラソウ科 | コナスビ | <i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 177 | | カキノキ科 | カキノキ | <i>Diospyros kaki</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 178 | | エゴノキ科 | エゴノキ | <i>Styrax japonica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 179 | | ハイノキ科 | サワフタギ | <i>Symplocos sawafutagi</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 180 | | モクセイ科 | アオダモ | <i>Fraxinus lanuginosa</i> f. <i>serrata</i> | | | | | | ○ |
| 181 | | | ネズミモチ | <i>Ligustrum japonicum</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 182 | | | トウネズミモチ | <i>Ligustrum lucidum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 183 | | | イボタノキ | <i>Ligustrum obtusifolium</i> | | | | ○ | | ○ |
| 184 | | | ヒイラギ | <i>Osmanthus heterophyllus</i> | | | | ○ | | |
| 185 | | リンドウ科 | リンドウ | <i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i> | | | | ○ | | ○ |
| 186 | | キョウチクトウ科 | テイカカズラ | <i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i> | | | | ○ | | |
| 187 | | ガガイモ科 | ガガイモ | <i>Metaplexis japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 188 | | アカネ科 | ヘクソカズラ | <i>Paederia scandens</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 189 | | | ヤエムグラ | <i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i> | | | | | ○ | |
| 190 | | | アカネ | <i>Rubia argyi</i> | | | | | | ○ |
| 191 | | ムラサキ科 | ハナイバナ | <i>Bothriospermum tenellum</i> | | | | | | ○ |
| 192 | | | キュウリグサ | <i>Trigonotis peduncularis</i> | | | | | | ○ |
| 193 | | クマツヅラ科 | ムラサキシキブ | <i>Callicarpa japonica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 194 | | | クサギ | <i>Clerodendrum trichotomum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 195 | | シソ科 | キラソウ | <i>Ajuga decumbens</i> | | | | ○ | | |
| 196 | | | ジュウニヒトエ | <i>Ajuga nipponensis</i> | | | | | | ○ |
| 197 | | | ホトケノザ | <i>Lamium amplexicaule</i> | | | | | | ○ |
| 198 | | | イヌコウジュ | <i>Mosla punctulata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 199 | | | レモンエゴマ | <i>Perilla frutescens</i> var. <i>citriodora</i> | | | | | | ○ |
| 200 | | | アオジソ | <i>Perilla frutescens</i> var. <i>viridis</i> | | | | ○ | | |
| 201 | | | アキノタムラソウ | <i>Salvia japonica</i> | | | | ○ | | |
| 202 | | | ヒメオドリコソウ | <i>Lamium purpureum</i> | | | | | ○ | ○ |
| 203 | | ナス科 | ホオズキ | <i>Physalis alkekengi</i> var. <i>franchetii</i> | | | | ○ | | |
| 204 | | | テリミノイヌホオズキ | <i>Solanum americanum</i> | | | | | | ○ |
| 205 | | | ヒョドリジョウゴ | <i>Solanum lyratum</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 206 | | ゴマノハグサ科 | ウリクサ | <i>Lindernia crustacea</i> | | | | | | ○ |
| 207 | | | トキワハゼ | <i>Mazus pumilus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 208 | | | オオイヌノフグリ | <i>Veronica persica</i> | | | | | ○ | |
| 209 | | | クチナシグサ | <i>Monochasma sheareri</i> | | | | | | ○ |
| 210 | | キツネノマゴ科 | キツネノマゴ | <i>Justicia procumbens</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 211 | 被子植物 | | ハグロソウ | <i>Peristrophe japonica</i> var. <i>subrotunda</i> | | | | | | ○ |
| 212 | 双子葉類 | ハマウツボ科 | ナンバンギセル | <i>Aeginetia indica</i> | | | | | | ○ |
| 213 | 合弁花類 | ハエドクソウ科 | ハエドクソウ | <i>Phryma leptostachya</i> var. <i>asiatica</i> | | | | ○ | | ○ |

植物相(4/5)

| No. | 分類群 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|--------------|--------|------------|--|---------|-----|-----|------|------|-----|
| | | | | | の保存 | 環境省 | 埼玉県 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 214 | | | ナガバハエドクソウ | <i>Phryma leptostachya</i> var. <i>oblongifolia</i> | | | | ○ | | |
| 215 | | オオバコ科 | オオバコ | <i>Plantago asiatica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 216 | | スイカズラ科 | ヤマウグイスカグラ | <i>Lonicera gracilipes</i> | | | | ○ | | |
| 217 | | | ウグイスカグラ | <i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 218 | | | スイカズラ | <i>Lonicera japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 219 | | | ニワトコ | <i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i> | | | | ○ | | ○ |
| 220 | | | ガマズミ | <i>Viburnum dilatatum</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 221 | | オミナエシ科 | オトコエシ | <i>Patrinia villosa</i> | | | | | | ○ |
| 222 | | キク科 | オオブタクサ | <i>Ambrosia trifida</i> | | | | ○ | | |
| 223 | | | ヨモギ | <i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i> | | | | ○ | | |
| 224 | | | シラヤマギク | <i>Aster scaber</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 225 | | | アメリカセンダングサ | <i>Bidens frondosa</i> | | | | | | ○ |
| 226 | | | コセンダングサ | <i>Bidens pilosa</i> | | | | ○ | | ○ |
| 227 | | | アメリカオニアザミ | <i>Cirsium vulgare</i> | | | | ○ | | |
| 228 | | | ヤブタバコ | <i>Carpesium abrotanoides</i> | | | | | | ○ |
| 229 | | | ガンクビソウ | <i>Carpesium divaricatum</i> | | | | | | ○ |
| 230 | | | サジガンクビソウ | <i>Carpesium glossophyllum</i> | | | | | | ○ |
| 231 | | | ノアザミ | <i>Cirsium japonicum</i> | | | | | | ○ |
| 232 | | | オオキンケイギク | <i>Coreopsis lanceolata</i> | | | | ○ | | |
| 233 | | | オオアレチノギク | <i>Conyza sumatrensis</i> | | | | | | ○ |
| 234 | | | ダンドボロギク | <i>Erechtites hieracifolia</i> | | | | ○ | | ○ |
| 235 | | | ヒメムカシヨモギ | <i>Erigeron canadensis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 236 | | | ヒヨドリバナ | <i>Eupatorium chinense</i> var. <i>oppositifolium</i> | | | | ○ | | ○ |
| 237 | | | ツツブキ | <i>Farfugium japonicum</i> | | | | ○ | | |
| 238 | | | ハハコグサ | <i>Gnaphalium affine</i> | | | | | | ○ |
| 239 | | | チチコグサ | <i>Gnaphalium japonicum</i> | | | | | | ○ |
| 240 | | | ハキダメギク | <i>Galinsoga ciliata</i> | | | | ○ | | |
| 241 | | | ハルジオン | <i>Erigeron philadelphicus</i> | | | | | ○ | ○ |
| 242 | | | ニガナ | <i>Ixeris dentata</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 243 | | | ヤブタバコ | <i>Lapsana humilis</i> | | | | | ○ | |
| 244 | | | アキノノゲシ | <i>Lactuca indica</i> | | | | ○ | | |
| 245 | | | フキ | <i>Petasites japonicus</i> | | | | ○ | | |
| 246 | | | コウヤボウキ | <i>Pertya scandens</i> | | | | | | ○ |
| 247 | | | ノボロギク | <i>Senecio vulgaris</i> | | | | ○ | | ○ |
| 248 | | | コメナモミ | <i>Siegesbeckia orientalis</i> ssp. <i>glabrescens</i> | | | | | | ○ |
| 249 | | | セイタカアワダチソウ | <i>Solidago altissima</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 250 | | | アキノキリンソウ | <i>Solidago virgaurea</i> var. <i>asiatica</i> | | | | | | ○ |
| 251 | | | オニノゲシ | <i>Sonchus asper</i> | | | | ○ | | ○ |
| 252 | | | ヒメジョオン | <i>Stenactis annuus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 253 | | | エゾタンポポ | <i>Taraxacum hondoense</i> | | | | | | ○ |
| 254 | | | セイヨウタンポポ | <i>Taraxacum officinale</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 255 | | | ヤクシソウ | <i>Youngia denticulata</i> | | | | | | ○ |
| 256 | | | オニタビラコ(広義) | <i>Youngia japonica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 257 | 被子植物 単子葉類 | ユリ科 | ハビル | <i>Allium grayi</i> | | | | | | ○ |
| 258 | | | ハラン | <i>Aspidistra elatior</i> | | | | ○ | | |
| 259 | | | ホウチャクソウ | <i>Disporum sessile</i> | | | | ○ | | ○ |
| 260 | | | チゴユリ | <i>Disporum smilacinum</i> | | | | | | ○ |
| 261 | | | ヤブカンゾウ | <i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i> | | | | ○ | | |
| 262 | | | ヒメヤブラン | <i>Liriope minor</i> | | | | | | ○ |
| 263 | | | ヤブラン | <i>Liriope muscari</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 264 | | | ジャノヒゲ | <i>Ophiopogon japonicus</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 265 | | | オオバジャノヒゲ | <i>Ophiopogon planiscapus</i> | | | | ○ | | |
| 266 | | | キチジョウソウ | <i>Reineckea carnea</i> | | | | ○ | | |
| 267 | | | オモト | <i>Rohdea japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 268 | | | ツルボ | <i>Scilla scilloides</i> | | | | | | ○ |
| 269 | | | サルトリイバラ | <i>Smilax china</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 270 | | | タチシオデ | <i>Smilax nipponica</i> | | | | | | ○ |
| 271 | | | シオデ | <i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 272 | | | ヤマジノホトギス | <i>Tricyrtis affinis</i> | | | | | | ○ |
| 273 | | | アマナ | <i>Tulipa edulis</i> | | | | | | ○ |
| 274 | | | オオバギボウシ | <i>Hosta montana</i> | | | | | ○ | ○ |
| 275 | | | ヤマユリ | <i>Lilium auratum</i> | | | | | ○ | ○ |
| 276 | | | ナガバジャノヒゲ | <i>Ophiopogon ohwii</i> | | | | | ○ | |
| 277 | | ヒガンバナ科 | ヒガンバナ | <i>Lycoris radiata</i> | | | | | | ○ |
| 278 | | | キツネノカミソリ | <i>Lycoris sanguinea</i> | | | | | | ○ |
| 279 | | ヤマノイモ科 | ヤマノイモ | <i>Dioscorea japonica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 280 | | | オニドコロ | <i>Dioscorea tokoro</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 281 | 被子植物 単子葉類 | アヤメ科 | シャガ | <i>Iris japonica</i> | | | | ○ | | |
| 282 | | イグサ科 | クサイ | <i>Juncus tenuis</i> | | | | ○ | | |
| 283 | | | スズメノヤリ | <i>Luzula capitata</i> | | | | | | ○ |
| 284 | | ツユクサ科 | ツユクサ | <i>Commelina communis</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 285 | | | ヤブミョウガ | <i>Pollia japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 286 | | | ムラサキツユクサ | <i>Tradescantia reflexa</i> | | | | ○ | | |

植物相(5/5)

| No. | 分類群 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|-----|---------|-----------|--|------------------------------|-----|-----|------|------|-----|
| | | | | | の保存 | 環境省 | 埼玉県 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 287 | | イネ科 | カモジグサ | <i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i> | | | | ○ | | |
| 288 | | | メリケンカルカヤ | <i>Andropogon virginicus</i> | | | | | | ○ |
| 289 | | | メヒシバ | <i>Digitaria ciliaris</i> | | | | ○ | | ○ |
| 290 | | | イヌビエ | <i>Echinochloa crusgalli</i> | | | | | | ○ |
| 291 | | | オヒシバ | <i>Eleusine indica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 292 | | | カゼクサ | <i>Eragrostis ferruginea</i> | | | | ○ | | ○ |
| 293 | | | ホソムギ | <i>Lolium perenne</i> | | | | ○ | | |
| 294 | | | ムサシノササクサ | <i>Lophatherum gracile</i> f. <i>musashiense</i> | | | | | | ○ |
| 295 | | | ミチシバ | <i>Melica onoei</i> | | | | | | ○ |
| 296 | | | ササガヤ | <i>Microstegium japonicum</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 297 | | | ススキ | <i>Miscanthus sinensis</i> | | | | | | ○ |
| 298 | | | コチヂミザサ | <i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 299 | | | アズマネザサ | <i>Pleoblastus chino</i> | | | | ○ | | ○ |
| 300 | | | スズメノヒエ | <i>Paspalum thunbergii</i> | | | | | | ○ |
| 301 | | | モウソウチク | <i>Phyllostachys pubescens</i> | | | | | | ○ |
| 302 | | | スズメノカタビラ | <i>Poa annua</i> | | | | ○ | | ○ |
| 303 | | | アキノエノコログサ | <i>Setaria faberi</i> | | | | ○ | | ○ |
| 304 | | | エノコログサ | <i>Setaria viridis</i> | | | | ○ | | |
| 305 | | | シバ | <i>Zoysia japonica</i> | | | | ○ | | |
| 306 | | | コスズメガヤ | <i>Eragrostis poaeoides</i> | | | | | ○ | |
| 307 | | | ササクサ | <i>Lophatherum gracile</i> | | | | | ○ | ○ |
| 308 | | | ケチヂミザサ | <i>Oplismenus undulatifolius</i> | | | | | ○ | ○ |
| 309 | | | オオクサキビ | <i>Panicum dichotomiflorum</i> | | | | | ○ | |
| 310 | | | クマザサ | <i>Sasa veitchii</i> | | | | | | ○ |
| 311 | | | ネズミノオ | <i>Sporobolus fertilis</i> | | | | | | ○ |
| 312 | | | イネ科の一種 | Gramineae sp. | | | | ○ | | |
| 313 | | | ヤシ科 | シュロ | <i>Trachycarpus fortunei</i> | | | | ○ | ○ |
| 314 | | | サトイモ科 | カラビシヤク | <i>Pinellia ternata</i> | | | | | ○ |
| 315 | | | カヤツリグサ科 | エナシヒゴクサ | <i>Carex aphanolepis</i> | | | | | ○ |
| 316 | | | | ヒメカンスゲ | <i>Carex conica</i> | | | | | ○ |
| 317 | | | | ホソバヒカゲスゲ | <i>Carex humilis</i> | | | | | ○ |
| 318 | | | | ヒゴクサ | <i>Carex japonica</i> | | | | ○ | ○ |
| 319 | | ヒカゲスゲ | | <i>Carex lanceolata</i> | | | | | ○ | |
| 320 | | ナキリスゲ | | <i>Carex lenta</i> | | | | | ○ | |
| 321 | | コゴメガヤツリ | | <i>Cyperus iria</i> | | | | | ○ | |
| 322 | | カヤツリグサ | | <i>Cyperus microiria</i> | | | | | ○ | |
| 323 | | カワラスゲ | | <i>Carex incisa</i> | | | | | ○ | |
| 324 | | ショウガ科 | | ミョウガ | <i>Zingiber mioga</i> | | | | ○ | ○ |
| 325 | | ラン科 | エビネ | <i>Calanthe discolor</i> | | EN | | | ○ | |
| 326 | | | ギンラン | <i>Cephalanthera erecta</i> | | VU | | ○ | ○ | |
| 327 | | | キンラン | <i>Cephalanthera falcata</i> | | VU | EN | ○ | ○ | |
| 328 | | | ササバギンラン | <i>Cephalanthera longibracteata</i> | | NT | | ○ | ○ | |
| 329 | | | サイハイラン | <i>Cremastra appendiculata</i> | | NT | | ○ | ○ | |
| 330 | | | シュンラン | <i>Cymbidium goeringii</i> | | NT | | ○ | ○ | |
| 331 | | | | オオバトシボンソウ | <i>Platanthera minor</i> | | NT | | | ○ |
| | | | 計 | 98科 | 331種 | 9 | 11 | 4 | 205 | 75 |

資料: くぬぎ山:くぬぎ山地区自然環境調査報告書 平成29年度 埼玉県環境部

14号地: 緑のトラスト保全第14号地自然環境調査報告書 平成29年3月 埼玉県環境部

多福寺: 上富地区自然環境調査報告書 平成29年3月 (公財)埼玉県生態系保護協会

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省: 「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西: 「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注) 「多福寺」は表 2-3(p22)で記載した「県自然環境保全地域」の調査結果です。

【鳥類相の確認一覧表】

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|--------|----------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------|-----|-----|------|------|-----|
| | | | | | 種の保存法 | 環境省 | 埼玉県 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 1 | キジ目 | キジ科 | コジュケイ | <i>Bambusicola thoracicus</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 2 | | | キジ | <i>Phasianus colchicus</i> | | | | ○ | | |
| 3 | カモ目 | カモ科 | カルガモ | <i>Anas zonorhyncha</i> | | | | ○ | | |
| 4 | ハト目 | ハト科 | カワラバト(ドバト) | <i>Columba livia</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 5 | | | キジバト | <i>Streptopelia orientalis</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 6 | カツオドリ目 | ウ科 | カワウ | <i>Phalacrocorax carbo</i> | | | | ○ | | ○ |
| 7 | ペリカン目 | サギ科 | ゴイサギ | <i>Nycticorax nycticorax</i> | | | | ○ | | |
| 8 | | | アオサギ | <i>Ardea cinerea</i> | | | DD | ○ | ○ | ○ |
| 9 | カッコウ目 | カッコウ科 | カッコウ | <i>Cuculus canorus</i> | | | | ○ | | |
| 10 | アマツバメ目 | アマツバメ科 | アマツバメ | <i>Apus pacificus</i> | | | | ○ | | |
| 11 | | | ヒメアマツバメ | <i>Apus nipalensis</i> | | | LP | ○ | | |
| 12 | チドリ目 | チドリ科 | コチドリ | <i>Charadrius dubius</i> | | | | ○ | | |
| 13 | タカ目 | タカ科 | トビ | <i>Milvus migrans</i> | | | | ○ | | |
| 14 | | | ツミ | <i>Accipiter gularis</i> | | | NT | ○ | | |
| 15 | | | オオタカ | <i>Accipiter gentilis</i> | ○ | NT | VU | ○ | | ○ |
| 16 | | | ノスリ | <i>Buteo buteo</i> | | | NT2 | | | ○ |
| 17 | | | サンバ | <i>Butastur indicus</i> | | | VU | EN | ○ | |
| 18 | キツツキ目 | キツツキ科 | コゲラ | <i>Dendrocopos kizuki</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 19 | | | アカゲラ | <i>Dendrocopos major</i> | | | | ○ | | ○ |
| 20 | | | アオゲラ | <i>Picus awokera</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ |
| 21 | ハヤブサ目 | ハヤブサ科 | チョウゲンボウ | <i>Falco tinnunculus</i> | | | NT2 | ○ | | ○ |
| 22 | | | ハヤブサ | <i>Falco peregrinus</i> | ○ | VU | VU | ○ | | |
| 23 | インコ目 | インコ科 | ワカケホンセイインコ | <i>Psittacula krameri manillensis</i> | | | | ○ | | |
| 24 | スズメ目 | モズ科 | モズ | <i>Lanius bucephalus</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 25 | | カラス科 | カケス | <i>Cyanopica cyanus</i> | | | | | ○ | ○ |
| 26 | | | オナガ | <i>Cyanopica cyanus</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 27 | | | ハシボソガラス | <i>Corvus corone</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 28 | | | ハシブトガラス | <i>Corvus macrorhynchos</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 29 | | シジュウカラ科 | ヤマガラ | <i>Poecile varius</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ |
| 30 | | | シジュウカラ | <i>Parus minor</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 31 | | ヒバリ科 | ヒバリ | <i>Alauda arvensis</i> | | | | ○ | | |
| 32 | | ツバメ科 | ツバメ | <i>Hirundo rustica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 33 | | | イワツバメ | <i>Delichon dasypus</i> | | | | ○ | | |
| 34 | ヒヨドリ科 | ヒヨドリ | <i>Hypsipetes amaurotis</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 35 | ウグイス科 | ウグイス | <i>Cettia diphone</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ | |
| 36 | エナガ科 | エナガ | <i>Aegithalos caudatus</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ | |
| 37 | ムシクイ科 | センダイムシクイ | <i>Phylloscopus coronatus</i> | | | | | | ○ | |
| 38 | メジロ科 | メジロ | <i>Zosterops japonicus</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 39 | ムクドリ科 | ムクドリ | <i>Spodiopsar cineraceus</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 40 | ヒタキ科 | シロハラ | <i>Turdus pallidus</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 41 | | アカハラ | <i>Turdus chrysolaus</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 42 | | ツグミ | <i>Turdus naumanni</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 43 | | ルリヒタキ | <i>Tarsiger cyanurus</i> | | | | | | ○ | |
| 44 | | ジョウビタキ | <i>Phoenicurus aureus</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ | |
| 45 | | キビタキ | <i>Ficedula narcissina</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ | |
| 46 | | コサメビタキ | <i>Muscicapa dauurica</i> | | | CR | | ○ | | |
| 47 | スズメ科 | スズメ | <i>Passer montanus</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 48 | セキレイ科 | キセキレイ | <i>Motacilla cinerea</i> | | | | ○ | | ○ | |
| 49 | | ハクセキレイ | <i>Motacilla alba</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 50 | | セグロセキレイ | <i>Motacilla grandis</i> | | | | ○ | ○ | | |
| 51 | | タヒバリ | <i>Anthus rubescens</i> | | | | ○ | | | |
| 52 | アトリ科 | アトリ | <i>Fringilla montifringilla</i> | | | | ○ | | | |
| 53 | | カワラヒワ | <i>Chloris sinica</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 54 | | シメ | <i>Coccothraustes coccothraustes</i> | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 55 | | イカル | <i>Eophona personata</i> | | | | ○ | | ○ | |
| 56 | ホオジロ科 | ホオジロ | <i>Emberiza cioides</i> | | | RT | ○ | ○ | ○ | |
| 57 | | カシラダカ | <i>Emberiza rustica</i> | | | | ○ | ○ | | |
| 58 | | アオジ | <i>Emberiza spodocephala</i> | | | NT1 | ○ | ○ | ○ | |
| 59 | チメドリ科 | ガビチョウ | | | | | | | ○ | |
| 合計 | 13目 | 29科 | | 59種 | 2 | 3 | 17 | 52 | 32 | 40 |

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省:「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西:「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注)「多福寺」は表 2-4(p23)で記載した「県自然環境保全地域」の調査結果です。

【両生類相の確認一覧表】

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|------|--------|----------|--------------------------------|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 1 | カエル目 | ヒキガエル | アズマヒキガエル | <i>Bufo japonicus formosus</i> | | | | | ○ | |
| 2 | | アマガエル科 | ニホンアマガエル | <i>Hyla japonica</i> | | | | | ○ | |
| 合計 | 1目 | 2科 | 2種 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省:「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西:「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注)「多福寺」は「県自然環境保全地域」の調査結果を意味します。

【爬虫類相の確認一覧表】

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|------|-------|----------------------------|------------------------------------|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 1 | トカゲ目 | ヤモリ科 | ニホンヤモリ | <i>Gekko japonicus</i> | | | | ○ | ○ | |
| 2 | | トカゲ科 | ヒガシニホントカゲ | <i>Plestiodon finitimus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 3 | | カナヘビ科 | ニホンカナヘビ | <i>Takydromus tachydromoides</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 4 | | ナミヘビ科 | シマヘビ | <i>Elaphe quadrivirgata</i> | | | | ○ | ○ | |
| 5 | | | ジムグリ | <i>Euprepiophis conspicillatus</i> | | | | | | ○ |
| 6 | | | ヒバカリ | <i>Hebius vibakari</i> | | | | | | |
| 7 | | | アオダイショウ | <i>Elaphe climacophora</i> | | NT | | ○ | ○ | |
| 8 | | ヤマカガシ | <i>Rhabdophis tigrinus</i> | | NT | | | | ○ | |
| 合計 | 1目 | 4科 | 8種 | | 0 | 2 | 0 | 5 | 5 | 3 |

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省:「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西:「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注)「多福寺」は表 2-5(p25)で記載した「県自然環境保全地域」の調査結果です。

【哺乳類相の確認一覧表】

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|-------|---------|----------|--|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 1 | モグラ目 | モグラ科 | アズマモグラ | <i>Mogera imaizumii</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ウサギ目 | ウサギ科 | ウサギ科の一種 | <i>Leporidae sp.</i> | | RT | NT2 | | ○ | |
| 3 | ネズミ目 | ネズミ科 | ハタネズミ | <i>Microtus montebelli</i> | | | | | | ○ |
| 4 | コウモリ目 | ヒナコウモリ科 | アブラコウモリ | <i>Pipistrellus abramus</i> | | | | | | ○ |
| — | | | コウモリ目の一種 | <i>Chiroptera sp.</i> | | | | ○ | | |
| 5 | ネコ目 | イヌ科 | ホンダタスキ | <i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i> | | RT | NT2 | ○ | ○ | ○ |
| 6 | | | ホンダイタチ | <i>Mustela itatsi itatsi</i> | | RT | | | ○ | |
| 7 | | ジャコウネコ科 | ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> | | | | ○ | ○ | |
| 合計 | 5目 | 6科 | 7種 | | 0 | 3 | 2 | 4 | 5 | 4 |

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省:「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西:「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注)「多福寺」は表 2-6(p26)で記載した「県自然環境保全地域」の調査結果です。

【昆虫類相の確認一覧表】

昆虫類(1/8)

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|----------|-------------|--------------------|--|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 1 | トンボ目 | トンボ科 | ウスバキトンボ | <i>Pantala flavescens</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 2 | | | シオカトンボ | <i>Orthetrum albistylum speciosum</i> | | | | | ○ | ○ |
| 3 | | | ナツアカネ | <i>Sympetrum darwinianum</i> | | | | | | |
| 4 | | | ノシメトンボ | <i>Sympetrum infuscatum</i> | | | | | | |
| 5 | | | アキアカネ | <i>Sympetrum frequens</i> | | | | | | |
| 6 | | | クノシメトンボ | <i>Sympetrum baccha matutinum</i> | | | | | | |
| 7 | | カワトンボ科 | ハグロンボ | <i>Atrocalopteryx atrata</i> | | | | | | |
| 8 | | ヤンマ科 | ヤブヤンマ | <i>Polycanthagyna melanictera</i> | | | | | | |
| 9 | | サナエトンボ科 | コオニヤンマ | <i>Sieboldius albardae</i> | | | | | | |
| 10 | | | オナガサナエ | <i>Meligomphus viridicostus</i> | | | | | | |
| 11 | ゴキブリ目 | ゴキブリ科 | ヤマトゴキブリ | <i>Periplaneta japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 12 | | チャバネゴキブリ科 | モリチャバネゴキブリ | <i>Blattella nipponica</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 13 | カマキリ目 | カマキリ科 | ハラビロカマキリ | <i>Hierodula patellifera</i> | | | | | ○ | ○ |
| 14 | | | オオカマキリ | <i>Tenodera aridifolia</i> | | | | | ○ | ○ |
| 15 | シロアリ目 | ミンガシラシロアリ科 | ヤマトシロアリ | <i>Reticulitermes speratus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 16 | ハサミムシ目 | マルムネハサミムシ科 | ヒゲジロハサミムシ | <i>Gonolabis marginalis</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 17 | バッタ目 | コロギス科 | ハネナシコロギス | <i>Nippancistroger testaceus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 18 | | | コロギス | <i>Prosopogryllacris japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 19 | | クツワムシ科 | クツワムシ | <i>Mecopoda niponensis</i> | | EN | VU | ○ | | ○ |
| 20 | | ツユムシ科 | セスジツユムシ | <i>Ducetia japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 21 | | キリギリス科 | ササキリ | <i>Conocephalus melaenus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 22 | | | ハヤシノウマオイ | <i>Hexacentrus hareyamai</i> | | | | ○ | | ○ |
| 23 | | | ササキリモドキ | <i>Kuzicus suzukii</i> | | | | ○ | | ○ |
| 24 | | | クサキリ | <i>Ruspolia lineosa</i> | | | | ○ | | ○ |
| 25 | | | ヤブキリ | <i>Tettigonia orientalis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 26 | | マツムシ科 | アオマツムシ | <i>Trujalia hibinonis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 27 | | コオロギ科 | モリオカメコオロギ | <i>Loxoblemmus sylvestris</i> | | | | ○ | | ○ |
| 28 | | カネタタキ科 | カネタタキ | <i>Ornebius kanetataki</i> | | | | ○ | | ○ |
| 29 | | アリツカコオロギ科 | Myrmecophilus 属の一種 | <i>Myrmecophilus sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 30 | | ヒバリモドキ科 | ウスグモスズ | <i>Amusurgus genji</i> | | | | ○ | | ○ |
| 31 | | | Natula 属の一種 | <i>Natula sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 32 | | | キアシヒバリモドキ | <i>Trigonidium japonicum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 33 | | バッタ科 | ショウリウバッタ | <i>Acrida cinerea</i> | | | | ○ | | ○ |
| 34 | | | クルマバッタモドキ | <i>Oedaleus infernalis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 35 | | | コバネイナゴ | <i>Oxya yezoensis</i> | | | | | ○ | |
| 36 | | オンブバッタ科 | オンブバッタ | <i>Atractomorpha lata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 37 | | ヒシバッタ科 | ハラヒシバッタ | <i>Tetrix japonica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 38 | | カマドウマ科 | カマドウマ | <i>Atachycines apicalis apicalis</i> | | | | | | |
| 39 | | ツユムシ科 | ツユムシ | <i>Phaneroptera falcata</i> | | | | | | |
| 40 | | コオロギ科 | エンマコオロギ | <i>Teleogryllus emma</i> | | | | | | |
| 41 | | | ミツカドコオロギ | <i>Loxoblemmus doenitzi</i> | | | | | | |
| 42 | | | ツツレサセコオロギ | <i>Velarifictorus nikado</i> | | | | | | |
| 43 | | | コガタコオロギ | <i>Velarifictorus ornatus</i> | | | NT | | ○ | |
| 44 | ナナフシ目 | ナナフシ科 | ヤスマツビナナフシ | <i>Micadina yasumatsui</i> | | NT | | ○ | | ○ |
| 45 | | | ナナフシモドキ | <i>Ramulus nikado</i> | | | | ○ | | ○ |
| 46 | チャチャテムシ目 | ケチャチャテ科 | ケチャチャテ科の一種 | <i>Caeciliidae sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 47 | カメムシ目 | テングステバ科 | ツマゴステバ | <i>Orthopagus lunulifer</i> | | | | ○ | | ○ |
| 48 | | アオバハゴロモ科 | アオバハゴロモ | <i>Geisha distinctissima</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 49 | | マルウンカ科 | クサビウンカ | <i>Sarima amagisana</i> | | | | ○ | | ○ |
| 50 | | ハゴロモ科 | ステバハゴロモ | <i>Euricania facialis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 51 | | | ベッコウハゴロモ | <i>Orosanga japonicus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 52 | | | アミガサハゴロモ | <i>Pochazia albomaculata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 53 | | グンバイウンカ科 | ミドリグンバイウンカ | <i>Kallitaxila sinica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 54 | | セミ科 | アブラゼミ | <i>Graptopsaltria nigrofuscata</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 55 | | | ミンミンゼミ | <i>Hyalessa maculaticollis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 56 | | | ツクツクボウシ | <i>Meimuna opalifera</i> | | | | ○ | | ○ |
| 57 | | | ヒグラシ | <i>Tanna japonensis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 58 | | | ニイニイゼミ | <i>Platypleura kaempferi</i> | | | | | ○ | ○ |
| 59 | | コガシラアワフキムシ科 | コガシラアワフキ | <i>Eoscarta assimilis</i> | | | | ○ | ○ | ○ |
| 60 | | ヨコバイ科 | ツマグロオオヨコバイ | <i>Bothrogonia ferruginea</i> | | | | | ○ | ○ |
| 61 | | | ブチミヤクヨコバイ | <i>Drabescus nigrifemoratus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 62 | | | ヨツモンヒメヨコバイ | <i>Empoasca canara limbata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 63 | | | シロヒメヨコバイ | <i>Eurhadina betularia</i> | | | | ○ | | ○ |
| 64 | | | ホシヒメヨコバイ | <i>Limassolla multipunctata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 65 | | | Naratettix 属の一種 | <i>Naratettix sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 66 | | | モモグロヨコバイ | <i>Paralaeviccephalus nigrifemoratus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 67 | | | Penthimia 属の一種 | <i>Penthimia sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 68 | | | ヒトツメヨコバイ | <i>Phlogotettix cyclops</i> | | | | ○ | | ○ |
| 69 | | アブラムシ科 | キスゲフクレアブラムシ | <i>Indomegoura indica</i> | | | | ○ | | ○ |
| 70 | | | Stomaphis 属の一種 | <i>Stomaphis sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 71 | | | セイトウアワチウヒゲナホアブラムシ | <i>Uroleucon nigrotuberculatum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 72 | | クビナガカメムシ科 | ヒメクビナガカメムシ | <i>Hoplitocoris lewisi</i> | | | | ○ | | ○ |
| 73 | | サンガメ科 | ヨツナサンガメ | <i>Agriosphodrus dohrni</i> | | | | ○ | | ○ |
| 74 | | | アカサンガメ | <i>Cydnocoris ruscatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 75 | | | オトビサンガメ | <i>Isyndus obscurus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 76 | | | クロトビロサンガメ | <i>Oncocephalus breviscutum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 77 | | ヘリカメムシ科 | オオクモヘリカメムシ | <i>Homoeocerus stricornis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 78 | | | ホシハラビロヘリカメムシ | <i>Homoeocerus unipunctatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 79 | | キンカメムシ科 | アカシキンカメムシ | <i>Poecilocoris lewisi</i> | | | | ○ | | ○ |
| 80 | | ゲンハイムシ科 | アワダチソウゲンハイ | <i>Corythucha marmorata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 81 | | | ヤブガラシゲンハイ | <i>Cystechila consuta</i> | | | | ○ | | ○ |
| 82 | | | ヘクソカズラゲンハイ | <i>Dulinius conchatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 83 | | | ナシゲンハイ | <i>Stephanitis nashi</i> | | | | ○ | | ○ |
| 84 | | | ヒメゲンハイ | <i>Uhlirites debilis</i> | | | | ○ | | ○ |

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|----------|------------|--------------------------|---|---------|-----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 85 | | ハナカメムシ科 | ヤサハナカメムシ | <i>Amphiareus obscuriceps</i> | | | | ○ | | ○ |
| 86 | | カスミカメムシ科 | イッカクカスミカメ | <i>Acrorrhinium inexpectatum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 87 | | | ヒメセダカカスミカメ | <i>Charagochilus angusticollis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 88 | | | <i>Deraeocoris</i> 属の一種 | <i>Deraeocoris sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 89 | | | <i>Lygocoris</i> 属の一種 | <i>Lygocoris sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 90 | | | ミイロカスミカメ | <i>Neomegacoeolum vitreum</i> | | | | ○ | | ○ |
| 91 | | | コモンキ ノコカスミカメ | <i>Peritropis advena</i> | | | | ○ | | ○ |
| 92 | | | ツヤクロカスミカメ | <i>Philostephanus glaber</i> | | | | ○ | | ○ |
| 93 | | | ミツボシヒョウタンカスミカメ | <i>Filophorus pseudoperplexus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 94 | | | ベニモントビカスミカメ | <i>Psallus roseoguttatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 95 | | | クロツヤチビカスミカメ | <i>Sejanus potanini</i> | | | | ○ | | ○ |
| 96 | | | メンガタカスミカメ | <i>Eurystylus coelestialium</i> | | | | | ○ | ○ |
| 97 | | ホソヘリカメムシ科 | ニセヒメクモヘリカメムシ | <i>Paraplesius vulgaris</i> | | | | | | ○ |
| 98 | | | クモヘリカメムシ | <i>Leptocoris chinensis</i> | | | | | ○ | |
| 99 | | ヘリカメムシ科 | ハリカメムシ | <i>Cletus schmidtii</i> | | | | ○ | | ○ |
| 100 | | | ツマキヘリカメムシ | <i>Hygia opaca</i> | | | | ○ | | ○ |
| 101 | | | キバラヘリカメムシ | <i>Phinactus bicoloripes</i> | | | | | ○ | |
| 102 | | ヒメヘリカメムシ科 | コブチヒメヘリカメムシ | <i>Stictopleurus minutus</i> | | | | ○ | | ○ |
| - | | | <i>Stictopleurus</i> 属 | <i>Stictopleurus sp.</i> | | | | | ○ | |
| 103 | | イトカメムシ科 | イトカメムシ | <i>Yemma exilis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 104 | | ナガカメムシ科 | ヒメオオメナガカメムシ | <i>Geocoris proteus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 105 | | | オオメナガカメムシ | <i>Geocoris varius</i> | | | | ○ | | ○ |
| 106 | | | ヨツボシヒョウタンナガカメムシ | <i>Gyndes pallicornis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 107 | | ナガカメムシ科 | チビツヤナガカメムシ | <i>Lamproplax unispina</i> | | | | ○ | | ○ |
| 108 | | | オオモンシロナガカメムシ | <i>Metochus abbreviatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 109 | | | ヘリグロヒメナガカメムシ | <i>Nysius sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 110 | | | ヒゲナガカメムシ | <i>Pachygronthe antennata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 111 | | | モンシロナガカメムシ | <i>Panaorus albomaculatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 112 | | ツノカメムシ科 | エサキモンキツノカメムシ | <i>Sastrapta esakii</i> | | | | ○ | | ○ |
| 113 | | ツチカメムシ科 | ヒメツヤツチカメムシ | <i>Chilocoris nigricans</i> | | | | ○ | | ○ |
| 114 | | | ヒメツチカメムシ | <i>Fromundus pygmaeus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 115 | | | コツチカメムシ | <i>Macroscytus fraterculus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 116 | | | ツチカメムシ | <i>Macroscytus japonensis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 117 | | | マルツチカメムシ | <i>Microporus nigrita</i> | | | | ○ | | ○ |
| 118 | | カメムシ科 | ムラサキシラホシカメムシ | <i>Eysarcoris annamita</i> | | | | ○ | | ○ |
| 119 | | | ツヤアオカメムシ | <i>Glaucias subpunctatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 120 | | | クサギカメムシ | <i>Halyomorpha halys</i> | | | | ○ | | ○ |
| 121 | | | <i>Hermolaus</i> 属の一種 | <i>Hermolaus sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 122 | | | チャバネアオカメムシ | <i>Plautia stali</i> | | | | ○ | | ○ |
| 123 | | | ブチヒゲカメムシ | <i>Dolycoris baccarum</i> | | | | | ○ | |
| 124 | | クスギカメムシ科 | ヘラクヌギカメムシ | <i>Urostylis annulicornis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 125 | | カタビロアメンボ科 | <i>Microvelia</i> 属の一種 | <i>Microvelia sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 126 | | マルカメムシ科 | マルカメムシ | <i>Megacopta punctatissima</i> | | | | | ○ | ○ |
| 127 | アミメカゲロウ目 | カマキリモドキ科 | ヒメカマキリモドキ | <i>Mantissa japonica japonica</i> | | VU | | ○ | | ○ |
| 128 | | ヒメカゲロウ科 | ヤマトヒメカゲロウ | <i>Hemerobius japonicus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 129 | | | <i>Hemerobius</i> 属の一種 | <i>Hemerobius sp.</i> | | | | ◎ | | ○ |
| 130 | | | ホソバヒメカゲロウ | <i>Micromus multipunctatus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 131 | | | ミドリヒメカゲロウ | <i>Notiobiella subolivacea</i> | | | | ○ | | ○ |
| 132 | | クサカゲロウ科 | ヨツボシクサカゲロウ | <i>Chrysopa pallens</i> | | | | ○ | | ○ |
| 133 | | | スズキクサカゲロウ | <i>Chrysoperla suzukii</i> | | | | ○ | | ○ |
| 134 | | | <i>Chrysoperla</i> 属の一種 | <i>Chrysoperla sp.</i> | | | | ◎ | | |
| 135 | | | イツホシアカマダラクサカゲロウ | <i>Pseudomallada cognatellus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 136 | | ウスバカゲロウ科 | ウスバカゲロウ | <i>Hagenomyia micans</i> | | | | ○ | | ○ |
| 137 | チョウ目 | ヒロゾコガ科 | マダラマルハヒロゾコガ | <i>Hypophrietis conspersa</i> | | | | ○ | | ○ |
| 138 | | キバガ科 | キバガ科の一種 | <i>Gelechiidae sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 139 | | ヒゲナガキバガ科 | ゴマフシロハビロキバガ | <i>Scythropiodes leucostola</i> | | | | ○ | | ○ |
| 140 | | ヒラタマルハキバガ科 | デコボコマルハキバガ | <i>Depressaria irregularis</i> | | | | ○ | | ○ |
| 141 | | マルハキバガ科 | マルハキバガ科の一種 | <i>Oecophoridae sp.</i> | | | | ○ | | ○ |
| 142 | | スガ科 | コナガ | <i>Plutella xylostella</i> | | | | ○ | | ○ |
| 143 | | ハマキガ科 | ヘリオビヒメハマキ | <i>Cryptaspasma marginifasciata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 144 | | | <i>Cryptaspasma</i> 属の一種 | <i>Cryptaspasma sp.</i> | | | | ◎ | | |
| 145 | | セミヤドリガ科 | セミヤドリガ | <i>Epipomponia nawai</i> | | | | ○ | | ○ |
| 146 | | イラガ科 | アカイラガ | <i>Phrixolepia sericea</i> | | | | ○ | | ○ |
| 147 | | セセリチョウ科 | ダイミョウセセリ | <i>Daimio tethys tethys</i> | | | | ○ | | ○ |
| 148 | | | ミヤマセセリ | <i>Erynnis montana montana</i> | | NT1 | CR | | | |
| 149 | | | イチモンジセセリ | <i>Parnara guttata guttata</i> | | | | ○ | | ○ |
| 150 | | | キマダラセセリ | <i>Potanthus flavus flavus</i> | | | | ○ | | ○ |
| 151 | | シジミチョウ科 | ムラサキシジミ | <i>Arthopala japonica</i> | | | | | ○ | |
| 152 | | | アカシジミ | <i>Japonica lutea lutea</i> | | | | | ○ | |
| 153 | | | ウラナミアカシジミ | <i>Japonica saepestriata saepestriata</i> | | RT | NT2 | | ○ | |
| 154 | | | ヤマトシジミ本土亜種 | <i>Zizeeria maha argia</i> | | | | | | |
| 155 | | | ツバメシジミ | <i>Everes argiades argiades</i> | | | | | | |
| 156 | | | ルリシジミ | <i>Celastrina argiolus ladonides</i> | | | | | | |
| 157 | | テングチョウ科 | テングチョウ日本本土亜種 | <i>Libythea lepita celtoides</i> | | | | | | |
| 158 | | タテハチョウ科 | ミドリヒョウモン | <i>Argynnis paphia tushimana</i> | | | | | | |
| 159 | | | メスグロヒョウモン | <i>Damora sagana liana</i> | | NT2 | | | | |
| 160 | | | ツマグロヒョウモン | <i>Argyreus hyperbius hyperbius</i> | | | | ○ | | |
| 161 | | | イチモンジチョウ | <i>Limenitis camilla japonica</i> | | | | | | |
| 162 | | | コミスジ | <i>Neptis sappho intermedia</i> | | | | | | |
| 163 | | | ミスジチョウ | <i>Neptis phibra phibra</i> | | NT2 | | | | |
| 164 | | | アカボシゴマダラ | <i>Hestina assimilis assimilis</i> | | | | ○ | ○ | |
| 165 | | | ヒオドシチョウ | <i>Nymphalis xanthomelas japonica</i> | | VU | VU | | | |
| 166 | | | ゴマダラチョウ本土亜種 | <i>Hestina persimilis japonica</i> | | | | ○ | ○ | |
| 167 | | | ルリタテハ本土亜種 | <i>Kaniska canace nojaponicum</i> | | | | ○ | | |
| 168 | | | ジャンメチョウ | <i>Minois dryas bipunctata</i> | | | NT | | ○ | |
| 169 | | ジャンメチョウ科 | ヒメウラナミジャンメ | <i>Ypthina argus argus</i> | | | | | | |
| 170 | | | ヒカゲチョウ | <i>Lethe icelis</i> | | | | ○ | | |

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | | |
|-----|----|---------|-----------------|--|---------|----|------|------|------|-----|---|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 | |
| 171 | | | ヒメジャノメ | <i>Mycalesis gotama fulginea</i> | | | | | ○ | | |
| 172 | | | サトキマダラヒカゲ | <i>Neope goschkevitschii</i> | | | | | ○ | | |
| 173 | | | キタテハ | <i>Polygonia c-aureum c-aureum</i> | | | | | ○ | | |
| 174 | | | アカタテハ | <i>Vanessa indica indica</i> | | | | | ○ | | |
| 175 | | | クロヒカゲ本土亜種 | <i>Lethe diana diana</i> | | | | | | ○ | |
| 176 | | アゲハチョウ科 | コムスジ本州以南亜種 | <i>Neptis sappho intermedia</i> | | | | | | ○ | |
| 177 | | | ジャコウアゲハ本土亜種 | <i>Atrophaneura alcinous alcinous</i> | | | | | | | |
| 178 | | | ナガサキアゲハ | <i>Papilio memnon thunbergii</i> | | | | | ○ | | |
| 179 | | | アオスジアゲハ | <i>Graphium sarpedon nipponum</i> | | | | | | | |
| 180 | | | クロアゲハ本土亜種 | <i>Papilio protenor demetrius</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 181 | | | アゲハ | <i>Papilio xuthus</i> | | | | | ○ | | |
| 182 | | | キアゲハ | <i>Papilio machaon hippocrates</i> | | | | | | ○ | |
| 183 | | シロチョウ科 | キタキチョウ | <i>Eurema mandarina</i> | | | | | ○ | ○ | |
| 184 | | | キチョウ | <i>Eurema hecabe</i> | | | | | | | |
| 185 | | | ツマキチョウ本土亜種 | <i>Anthocharis scolymus scolymus</i> | | | | | | | |
| 186 | | | モンシロチョウ | <i>Fieris rapae crucivora</i> | | | | | | | ○ |
| 187 | | | スジグロシロチョウ | <i>Fieris melete</i> | | | | | | | |
| 188 | | | ウラギンシジミ | <i>Curetis acuta paracuta</i> | | | | | | | |
| 189 | | ツトガ科 | ツトガ | <i>Ancylolomia japonica</i> | | | | | | ○ | |
| 190 | | | オオキノメイガ | <i>Botyodes principalis</i> | | | | | | ○ | |
| 191 | | | Bradina 属の一種 | <i>Bradina sp.</i> | | | | | | ○ | |
| 192 | | | コブノメイガ | <i>Cnaphalocrocis medinalis</i> | | | | | | ○ | |
| 193 | | | シロスジツトガ | <i>Crambus argyrophorus</i> | | | | | | ○ | |
| 194 | | | ワタヘリクロノメイガ | <i>Diaphania indica</i> | | | | | | ○ | |
| 195 | | | アヤナミノメイガ | <i>Eurhyarodes accessalis</i> | | | | | | ○ | |
| 196 | | | モンキクロノメイガ | <i>Herpetogramma luctuosale zelleri</i> | | | | | | ○ | |
| 197 | | | ミツテンノメイガ | <i>Mabra charonialis</i> | | | | | | ○ | |
| 198 | | | マメノメイガ | <i>Maruca vitrata</i> | | | | | | ○ | |
| 199 | | | ワモンノメイガ | <i>Nomophila noctuella</i> | | | | | | ○ | |
| 200 | | | シロアシクロノメイガ | <i>Omiodes tristrialis</i> | | | | | | ○ | |
| 201 | | | シバツトガ | <i>Parapediasia teterella</i> | | | | | | ○ | |
| 202 | | | シロオビノメイガ | <i>Spoladea recurvalis</i> | | | | | | ○ | |
| 203 | | メイガ科 | トビイロシマメイガ | <i>Hypsopygia regina</i> | | | | | | ○ | |
| 204 | | | ナカムラサキフトメイガ | <i>Lista flicki</i> | | | | | | ○ | |
| 205 | | | トビイロフタスジシマメイガ | <i>Stemmatophora valida</i> | | | | | | ○ | |
| 206 | | | シロオビマダラメイガ | <i>Acrobasis injunctella</i> | | | | | | | ○ |
| 207 | | カギバガ科 | ニッコウトガリバ | <i>Epipsestis nikkoensis</i> | | | | | | ○ | |
| 208 | | シヤクガ科 | モミジツマキリエダシヤク | <i>Endropiodes indictinaria</i> | | | | | | ○ | |
| 209 | | | Eupithecia 属の一種 | <i>Eupithecia sp.</i> | | | | | | ○ | |
| 210 | | | オオバナミガタエダシヤク | <i>Hypomecis lunifera</i> | | | | | | ○ | |
| 211 | | | キオビベニヒメシヤク | <i>Idaea impexa</i> | | | | | | ○ | |
| - | | | Idaea 属の一種 | <i>Idaea sp.</i> | | | | | | ◎ | |
| 212 | | | Jodis 属の一種 | <i>Jodis sp.</i> | | | | | | ○ | |
| 213 | | | トビスジヒメナミシヤク | <i>Orthonama obstipata</i> | | | | | | ○ | |
| 214 | | | ツマキリウススキエダシヤク | <i>Pareclipsis gracilis</i> | | | | | | ○ | |
| 215 | | | クロスジアオナミシヤク | <i>Chloroclystis v-ata</i> | | | | | | | ○ |
| 216 | | | ナミガタエダシヤク | <i>Heterarmia charon charon</i> | | | | | | | ○ |
| 217 | | | フタスジオエダシヤク | <i>Rhynchobapta cervinaria bilineata</i> | | | | | | | ○ |
| 218 | | | ツマキヤチホコ | <i>Phalera assimilis assimilis</i> | | | | | | | ○ |
| 219 | | | Scopula 属の一種 | <i>Scopula sp.</i> | | | | | | ○ | |
| 220 | | | Timandra 属の一種 | <i>Timandra sp.</i> | | | | | | ○ | |
| 221 | | ヤママユガ科 | オオミズアオ | <i>Actias aliena aliena</i> | | | | | | ○ | |
| 222 | | | ヤママユ | <i>Antheraea yamamai yamamai</i> | | | RT | NT2 | | | |
| 223 | | | ウスタビガ | <i>Rhodinia figax figax</i> | | | | | | | |
| 224 | | ヒゲナガガ科 | ミドリヒゲナガ | <i>Adela reaumurella</i> | | | | | | | |
| 225 | | ハマキガ科 | ピロードハマキ | <i>Cerace xanthocosma</i> | | | | | | | |
| 226 | | スズメガ科 | オオスカシバ | <i>Cephonodes hylas hylas</i> | | | | | | | |
| 227 | | シヤチホコガ科 | ホソバシヤチホコ | <i>Fentonia ocypete ocypete</i> | | | | | | | |
| 228 | | | ウスイロギンモンシヤチホコ | <i>Spatalia doerriesi</i> | | | | | | ○ | |
| 229 | | | セダカシヤチホコ | <i>Euhampsonia cristata</i> | | | | | | | |
| 230 | | ヒトリガ科 | ヨツボシホソバ | <i>Lithosia quadra</i> | | | | | | ○ | |
| 231 | | ドクガ科 | チャドクガ | <i>Arma pseudocoopersa</i> | | | | | | ○ | |
| 232 | | | モンシロドクガ | <i>Sphrageidus similis</i> | | | | | | ○ | |
| 233 | | ヤガ科 | ナシケンモン | <i>Acronicta rumicis</i> | | | | | | ○ | |
| 234 | | | タマナヤガ | <i>Agrotis ipsilon</i> | | | | | | ○ | |
| 235 | | | ウリキンウワバ | <i>Anadevidia peponis</i> | | | | | | ○ | |
| 236 | | | ヒメサビスジヨトウ | <i>Athetis stellata</i> | | | | | | ○ | |
| 237 | | | コシロシタバ | <i>Catocala actaea</i> | | NT | | | | ○ | |
| 238 | | | オニベニシタバ | <i>Catocala dula</i> | | | | | | ○ | |
| 239 | | | マメキシタバ | <i>Catocala duplicata</i> | | | | | | ○ | |
| 240 | | | フシキシタバ | <i>Catocala separans</i> | | | NT | | | ○ | |
| 241 | | | モモイロシマコヤガ | <i>Corgatha costimacula</i> | | | | | | ○ | |
| 242 | | | シラオビキリガ | <i>Cosmia camptostigma</i> | | | | | | ○ | ○ |
| 243 | | | エゾギクキンウワバ | <i>Ctenoplusia albostrata</i> | | | | | | ○ | |
| 244 | | | ホソバミドリヨトウ | <i>Euplexidia angusta</i> | | | | | | ○ | |
| 245 | | | タイワンキシタアツバ | <i>Hypena trigonalis</i> | | | | | | ○ | |
| 246 | | | ヨシノアツバ | <i>Hypena yoshinialis</i> | | | | | | ○ | |
| 247 | | | ヒメネジロコヤガ | <i>Maliattha signifera</i> | | | | | | ○ | |
| 248 | | | フサキバアツバ | <i>Mosopia sordidum</i> | | | | | | ○ | |
| 249 | | | クロシタキヨトウ | <i>Mythimna placida</i> | | | | | | ○ | |
| 250 | | | アシブトクチバ | <i>Parallela stupeosa</i> | | | | | | ○ | |
| 251 | | | ニセタマナヤガ | <i>Peridroma saucia</i> | | | | | | ○ | |
| 252 | | | ツマテコンゴビゲアツバ | <i>Protozanclognatha triplex</i> | | | | | | ○ | |
| 253 | | | クロスジヒメアツバ | <i>Schrankia costaestrigalis</i> | | | | | | ○ | |
| 254 | | | オオアカマエアツバ | <i>Simplicia niphona</i> | | | | | | ○ | |
| 255 | | | スジキリヨトウ | <i>Spodoptera depravata</i> | | | | | | ○ | |
| 256 | | | ハスモンヨトウ | <i>Spodoptera litura</i> | | | | | | ○ | |

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|--------|------------|-------------------------------|--------------------------------------|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 257 | | | キクキンウワバ | <i>Thysanoplusia intermixta</i> | | | | | ○ | |
| 258 | | | シロスジアオトウ | <i>Trachea atriplicis</i> | | | | | ○ | |
| 259 | ハエ目 | ガガンボ科 | キイロホノガガンボ | <i>Nephrotoma virgata</i> | | | | | | |
| - | | | <i>Nephrotoma</i> 属の一種 | <i>Nephrotoma sp.</i> | | | | | ○ | |
| 260 | | | ホリカワクシヒゲガガンボ | <i>Pselophora hiiscipennis</i> | | | | | ○ | |
| 261 | | | Tipula属の一種 | <i>Tipula sp.</i> | | | | | ○ | |
| 262 | | トゲナシケバエ科 | Plecia属の一種 | <i>Plecia sp.</i> | | | | | ○ | |
| 263 | | ツノキノコバエ科 | ツノキノコバエ科の一種 | <i>Keroplastidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 264 | | ナミキノコバエ科 | Allactoneura属の一種 | <i>Allactoneura sp.</i> | | | | | ○ | |
| 265 | | | ナミキノコバエ科の一種 | <i>Mycetophilidae sp.</i> | | | | | ◎ | |
| 266 | | クロバネキノコバエ科 | クロバネキノコバエ科の一種 | <i>Sciaridae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 267 | | チョウバエ科 | チョウバエ科の一種 | <i>Psychodidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 268 | | カ科 | <i>Stegomyia</i> 属の一種 | <i>Stegomyia sp.</i> | | | | | ○ | |
| 269 | | | ヒトスジシマカ | <i>Aedes albopictus</i> | | | | | | ○ |
| 270 | | ヌカカ科 | ニワトリスカカ | <i>Beltranmyia arakawai</i> | | | | | ○ | |
| 271 | | ユスリカ科 | ユスリカ亜科の一種 | <i>Chironominae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 272 | | | エリユスリカ亜科の一種 | <i>Orthocladinae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 273 | | クサアブ科 | イワタシギクサアブ | <i>Dialysis iwatai</i> | | | | | ○ | |
| 274 | | ミズアブ科 | アメリカミズアブ | <i>Hermetia illucens</i> | | | | | ○ | |
| 275 | | | コウカアブ | <i>Ptecticus tenebriifer</i> | | | | | | ○ |
| 276 | | キアブモドキ科 | キアブモドキ科の一種 | <i>Xylomyidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 277 | | ツリアブ科 | ヒロウドツリアブ | <i>Bombylius major</i> | | | | | | |
| 278 | | | クロバネツリアブ | <i>Ligyra tantalus</i> | | | | | | |
| 279 | | ハナアブ科 | クロヒラタアブ | <i>Betasyrphus serarius</i> | | | | | | |
| 280 | | | フタホシヒラタアブ | <i>Eupeodes corollae</i> | | | | | | |
| 281 | | | アシフトハナアブ | <i>Helophilus virgatus</i> | | | | | | |
| 282 | | シギアブ科 | キイロシギアブ | <i>Rhagio flavimediis</i> | | | | | ○ | |
| 283 | | ムシヒキアブ科 | ハラボソムシヒキ | <i>Dioctria nakanensis</i> | | | | | ○ | |
| 284 | | | ウスグロムシヒキ | <i>Eutolmus rufibarbis</i> | | | | | ○ | |
| 285 | | | <i>Leptogaster</i> 属の一種 | <i>Leptogaster sp.</i> | | | | | ○ | |
| 286 | | | ナミマガリケムシヒキ | <i>Neotamus angusticornis</i> | | | | | ○ | |
| 287 | | | チャイロオオシアブ | <i>Laphria rufa</i> | | | | | | ○ |
| 288 | | アシナガバエ科 | マダラホノアシナガバエ | <i>Condylostylus nebulosus</i> | | | | | ○ | |
| 289 | | ノミバエ科 | ノミバエ科の一種 | <i>Phoridae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 290 | | ハナアブ科 | マダラコシボソハナアブ | <i>Baccha maculata</i> | | | | | ○ | |
| 291 | | | ホソヒラタアブ | <i>Episyrphus bakteatus</i> | | | | | ○ | ○ |
| 292 | | | キゴシハナアブ | <i>Eristalinus quinquestratus</i> | | | | | ○ | |
| 293 | | | <i>Eumerus</i> 属の一種 | <i>Eumerus sp.</i> | | | | | ○ | |
| 294 | | | ナミホシヒラタアブ | <i>Eupeodes bucculatus</i> | | | | | ○ | |
| 295 | | | ハチモドキハナアブ | <i>Monoceromyia pleuralis</i> | | NT | | | ○ | |
| 296 | | | キアシマヒラタアブ | <i>Paragus haemorrhous</i> | | | | | ○ | |
| 297 | | | クロマヒラタアブ | <i>Paragus politus</i> | | | | | ○ | |
| 298 | | | ミナミヒラタアブ | <i>Sphaerophoria indiana</i> | | | | | ○ | |
| 299 | | | ホソヒラタアブ | <i>Sphaerophoria macrogaster</i> | | | | | ○ | |
| 300 | | | ナミハナアブ | <i>Eristalis tenax</i> | | | | | | ○ |
| 301 | | アタマアブ科 | アタマアブ科の一種 | <i>Pipunculidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 302 | | ナガズヤセバエ科 | モンキアシナガヤセバエ | <i>Nerius femoratus</i> | | | | | ○ | |
| 303 | | ツヤホソバエ科 | ヒトテウツヤホソバエ | <i>Sepsis monostigma</i> | | | | | ○ | |
| 304 | | キモグリバエ科 | ヤマギシモリノキモグリバエ | <i>Rhodesiella yamagishii</i> | | | | | ○ | |
| 305 | | ショウジョウバエ科 | マダラマトイ | <i>Phortica okadai</i> | | | | | ○ | |
| 306 | | | ショウジョウバエ科の一種 | <i>Drosophilidae sp.</i> | | | | | ◎ | |
| 307 | | ミギワバエ科 | ニミヤトビクチミギワバエ | <i>Brachydeutera ibari</i> | | | | | ○ | |
| 308 | | | <i>Parydra</i> 属の一種 | <i>Parydra sp.</i> | | | | | ○ | |
| 309 | | ハナバエ科 | ハナバエ科の一種 | <i>Anthomyiidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 310 | | ヒメイエバエ科 | <i>Fannia</i> 属の一種 | <i>Fannia sp.</i> | | | | | ○ | |
| 311 | | イエバエ科 | <i>Musca</i> 属の一種 | <i>Musca sp.</i> | | | | | ○ | |
| 312 | | | オオイエバエ | <i>Muscina stabulans</i> | | | | | ○ | |
| 313 | | | サシバエ | <i>Stomoxys calcitrans</i> | | | | | ○ | |
| 314 | | | イエバエ科の一種 | <i>Muscidae sp.</i> | | | | | ◎ | |
| 315 | | クロバエ科 | トウキョウキンバエ | <i>Hemipyrellia liguriens</i> | | | | | ○ | |
| 316 | | | ツマグロキンバエ | <i>Stomorhina obsoleta</i> | | | | | ○ | ○ |
| 317 | | ニクバエ科 | ゲンロクニクバエ | <i>Sarcophaga albiceps</i> | | | | | ○ | |
| 318 | | | モトミゼラニクバエ | <i>Sarcophaga dux</i> | | | | | ○ | |
| 319 | | | ナミニクバエ | <i>Sarcophaga similis</i> | | | | | ○ | |
| 320 | | ヤドリバエ科 | <i>Ctenophorinia</i> 属の一種 | <i>Ctenophorinia sp.</i> | | | | | ○ | |
| 321 | | | <i>Janthinomomyia elegans</i> | <i>Janthinomomyia elegans</i> | | | | | ○ | |
| 322 | | | ブランコヤドリバエ族の一種 | <i>Exoristini sp.</i> | | | | | ◎ | |
| 323 | コウチュウ目 | オサムシ科 | キイロチビゴモクムシ | <i>Acupalpus inornatus</i> | | | | | ○ | |
| 324 | | | コマルガタゴミムシ | <i>Amara simplicidens</i> | | | | | ○ | |
| 325 | | | メダカチビカワゴミムシ | <i>Asaphidion semilucidum</i> | | | | | ○ | |
| 326 | | | ムネミゾマルゴミムシ | <i>Caelostomus picipes japonicus</i> | | | | | ○ | |
| 327 | | | アオオサムシ | <i>Carabus insulicola insulicola</i> | | | | | ○ | |
| 328 | | | オオアトボシアオゴミムシ | <i>Chlaenius micans</i> | | | | | ○ | |
| 329 | | | アトワアオゴミムシ | <i>Chlaenius virgulifer</i> | | | | | ○ | |
| 330 | | | チャヒメヒョウタンゴミムシ | <i>Clivina westwoodi</i> | | | | | ○ | |
| 331 | | | クロモリヒラタゴミムシ | <i>Colpodes atricomis</i> | | | | | ○ | |
| 332 | | | ハギキノゴミムシ | <i>Coptodera subapicalis</i> | | | | | ○ | |
| 333 | | | コヨツボシアトキリゴミムシ | <i>Dolichoctis striatus striatus</i> | | | | | ○ | |
| 334 | | | セアカヒラタゴミムシ | <i>Dolichus halensis</i> | | | | | ○ | |
| 335 | | | スジアオゴミムシ | <i>Haplochlaenius costiger</i> | | | | | ○ | |
| 336 | | | オオゴモクムシ | <i>Harpalus capito</i> | | | | | ○ | |
| 337 | | | ハコダテゴモクムシ | <i>Harpalus discrepans</i> | | | | | ○ | |
| 338 | | | オオズケゴモクムシ | <i>Harpalus eous</i> | | | | | ○ | |
| 339 | | | ケウスゴモクムシ | <i>Harpalus griseus</i> | | | | | ○ | |
| 340 | | | ニセクロゴモクムシ | <i>Harpalus simplicidens</i> | | | | | ○ | |
| 341 | | | ウスアカクロゴモクムシ | <i>Harpalus sinicus</i> | | | | | ○ | |
| 342 | | | コゴモクムシ | <i>Harpalus tridens</i> | | | | | ○ | |

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|-----------|----|-----------------|--|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 343 | | | ジュウジアトクリゴミムシ | <i>Lebia retrofasciata</i> | | | | ○ | | |
| 344 | | | コルリアトクリゴミムシ | <i>Lebia viridis</i> | | | | ○ | | |
| 345 | | | オオゴミムシ | <i>Lesticus magnus</i> | | | | ○ | | |
| 346 | | | メダカアトクリゴミムシ | <i>Orionella lewisii</i> | | | | ○ | | |
| 347 | | | クビナゴモクムシ | <i>Oxycentrus argutoroides</i> | | | | ○ | | |
| 348 | | | Paratachys属の一種 | <i>Paratachys sp.</i> | | | | ○ | | |
| 349 | | | クロスホナシゴミムシ | <i>Perigona nigriceps</i> | | | | ○ | | |
| 350 | | | カラカネゴモクムシ | <i>Platymetopus flavilabris</i> | | | | ○ | | |
| 351 | | | オオヒラタゴミムシ | <i>Platynus magnus</i> | | | | ○ | | |
| 352 | | | ヨリトモナゴミムシ | <i>Pterostichus yoritomus</i> | | | | ○ | | |
| 353 | | | ミドリマメゴモクムシ | <i>Stenolophus difficilis</i> | | | | ○ | | |
| 354 | | | イツホシマメゴモクムシ | <i>Stenolophus quinquepustulatus</i> | | | | ○ | | |
| 355 | | | マルガタツヤヒラタゴミムシ | <i>Synuchus arcuaticollis</i> | | | | ○ | | |
| 356 | | | クロツヤヒラタゴミムシ | <i>Synuchus cycloderus</i> | | | | ○ | | |
| 357 | | | オオクロツヤヒラタゴミムシ | <i>Synuchus nitidus</i> | | | | ○ | | |
| 358 | | | ヒメゴミムシ | <i>Anisodactylus tricuspidatus tricuspidatus</i> | | | | | ○ | |
| 359 | | | ベーツホソアトクリゴミムシ | <i>Dromius batesi</i> | | | | | ○ | |
| 360 | | | コガシラナゴミムシ | <i>Pterostichus microcephalus</i> | | | | | ○ | |
| 361 | | | マルガタゴミムシ | <i>Amara chalcites</i> | | | | | ○ | |
| 362 | ハンミョウ科 | | トウキョウヒメハンミョウ | <i>Cylindera kaleea yedoensis</i> | | | | ○ | | |
| 363 | ゲンゴロウ科 | | トダセシゲンゴロウ | <i>Copelatus nakamurai</i> | VU | EN | | ○ | | |
| 364 | ガムシ科 | | アカケシガムシ | <i>Ceryon olivus</i> | | | | ○ | | |
| 365 | | | セマルケンガムシ | <i>Cryptopleurum subtile</i> | | | | ○ | | |
| 366 | エンマムシ科 | | ツヤマルエンマムシ | <i>Atholus pithous</i> | | | | ○ | | |
| 367 | | | コエンマムシ | <i>Margarinotus niponicus</i> | | | | ○ | | |
| 368 | シデムシ科 | | オオヒラタンデムシ | <i>Eusilpha japonica</i> | | | | ○ | ○ | |
| 369 | ハネカクシ科 | | ヒメクロセシジハネカクシ | <i>Anotylus laticornis</i> | | | | ○ | | |
| 370 | | | ルイスセシジハネカクシ | <i>Anotylus lewisii</i> | | | | ○ | | |
| 371 | | | Carpelimus属の一種 | <i>Carpelimus sp.</i> | | | | ○ | | |
| 372 | | | キバナセシジハネカクシ | <i>Falagria sapida</i> | | | | ○ | | |
| 373 | | | ホソガタナガハネカクシ | <i>Hypnogyra tubulus</i> | | | | ○ | | |
| 374 | | | クロズトガリハネカクシ | <i>Lithocharis nigriceps</i> | | | | ○ | | |
| 375 | | | クロサビイロハネカクシ | <i>Ocypus lewisii</i> | | | | ○ | | |
| 376 | | | キンボシハネカクシ | <i>Ocypus weisei</i> | | | | ○ | | |
| 377 | | | ウスアカバホソハネカクシ | <i>Othius medius medius</i> | | | | ○ | | |
| 378 | | | ヒメアカセシジハネカクシ | <i>Oxytelus migrator</i> | | | | ○ | | |
| 379 | | | オオドウガネコガシラハネカクシ | <i>Philonthus lewisii</i> | | | | ○ | | |
| 380 | | | ヘリアカバコガシラハネカクシ | <i>Philonthus solidus</i> | | | | ○ | | |
| 381 | | | ヒメホソコガシラハネカクシ | <i>Philonthus wuesthoffi</i> | | | | ○ | | |
| 382 | | | アカバハネカクシ | <i>Platydacus brevicornis</i> | | | | ○ | | |
| 383 | | | クビボソハネカクシ | <i>Rugilus rufescens</i> | | | | ○ | | |
| 384 | | | Scaphisoma属の一種 | <i>Scaphisoma sp.</i> | | | | ○ | | |
| 385 | | | ヒゲトハネカクシ亜科の一種 | <i>Aleocharinae sp.</i> | | | | ◎ | | |
| 386 | | | アリガタハネカクシ亜科の一種 | <i>Paederinae sp.</i> | | | | ◎ | | |
| 387 | | | セシジハネカクシ亜科の一種 | <i>Oxyporinae sp.</i> | | | | ◎ | | |
| 388 | | | アオバアリガタハネカクシ | <i>Paederus fuscipes</i> | | | | | ○ | |
| 389 | マルハナノミダシ科 | | ツマアカマルハナノミダシ | <i>Eucinetus haemorrhoidalis</i> | | | | ○ | | |
| 390 | センチコガネ科 | | センチコガネ | <i>Phelotrupes laevistriatus</i> | | | | ○ | ○ | |
| 391 | | | ヒメトラハナムグリ | <i>Lasioletrichus succinctus</i> | | | | | ○ | |
| 392 | クワガタムシ科 | | クワガタ | <i>Dorcus rectus rectus</i> | | | | ○ | | |
| 393 | | | ノギリクワガタ | <i>Prosopocoilus inclinator inclinator</i> | | | | ○ | | |
| 394 | コガネムシ科 | | コイチャコガネ | <i>Adoretus tenuimaculatus</i> | | | | ○ | | |
| 395 | | | アオドウガネ | <i>Anomala albopilosa albopilosa</i> | | | | ○ | | |
| 396 | | | ドウガネブイブイ | <i>Anomala cuprea</i> | | | | ○ | | |
| 397 | | | サクラコガネ | <i>Anomala dumiana</i> | | | | ○ | | |
| 398 | | | ヒメコガネ | <i>Anomala rufocuprea</i> | | | | ○ | | |
| 399 | | | セマダラコガネ | <i>Blitopertha orientalis</i> | | | | ○ | | |
| 400 | | | ナガチャコガネ | <i>Heptophylla picea</i> | | | | ○ | | |
| 401 | | | コガネムシ | <i>Mimela splendens</i> | | | | ○ | | |
| 402 | | | クロカナブン | <i>Rhomborhina polita</i> | | | | ○ | | |
| 403 | | | コクロコガネ | <i>Holotrichia picea</i> | | | | ○ | | |
| 404 | | | ヒロウドコガネ | <i>Maladera japonica japonica</i> | | | | ○ | | |
| 405 | | | カミキビロウドコガネ | <i>Maladera kamiyai</i> | | | | ○ | | |
| 406 | | | コフキコガネ | <i>Melolontha japonica</i> | | | | ○ | | |
| 407 | | | ヒラタハナムグリ | <i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i> | | | | ○ | | |
| 408 | | | コブマルエンマコガネ | <i>Onthophagus atripennis</i> | | | | ○ | ○ | |
| 409 | | | マメコガネ | <i>Popillia japonica</i> | | | | ○ | | |
| 410 | | | シラホシハナムグリ | <i>Protaetia brevitarsis brevitarsis</i> | | | | ○ | | |
| 411 | | | シロテンハナムグリ | <i>Protaetia orientalis submarmorea</i> | | | | ○ | | |
| 412 | | | カナブン | <i>Pseudotorvorrhina japonica</i> | | | | ○ | | |
| 413 | | | カブトムシ | <i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i> | | | | ○ | | |
| 414 | タマムシ科 | | クロナガタマムシ | <i>Agrilus cyaneoniger cyaneoniger</i> | | | | ○ | | |
| 415 | | | ヤマトタマムシ | <i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i> | | | | ○ | | |
| 416 | | | コウゾチビタマムシ | <i>Trachys broussonetiae</i> | | | | ○ | | |
| 417 | | | ヤノナミガタチビタマムシ | <i>Trachys yanoi</i> | | | | ○ | | |
| 418 | コメツキムシ科 | | サビキコリ | <i>Agrypnus binodulus binodulus</i> | | | | ○ | ○ | |
| 419 | | | オオハナコメツキ | <i>Dieronychus nothus</i> | | | | ○ | | |
| 420 | | | フトナガコメツキ | <i>Ectamenogonus robustus</i> | | | | ○ | | |
| 421 | | | キバナクチボソコメツキ | <i>Glyphonyx bicolor bicolor</i> | | | | ○ | | |
| 422 | | | チャイロコメツキ | <i>Haterumelater bicarinatus bicarinatus</i> | | | | ○ | | |
| 423 | | | クロツヤハダコメツキ | <i>Hemicrepidius secessus secessus</i> | | | | ○ | | |
| 424 | | | クロツヤクシコメツキ | <i>Melanotus annosus</i> | | | | ○ | | |
| 425 | | | ヒラタククシコメツキ | <i>Melanotus correctus correctus</i> | | | | ○ | | |
| 426 | | | ヒメクシコメツキ | <i>Melanotus legatoides</i> | | | | ○ | | |
| 427 | | | クシコメツキ | <i>Melanotus legatus legatus</i> | | | | ○ | | |
| 428 | | | ルイスクシコメツキ | <i>Melanotus lewisi lewisi</i> | | | | ○ | | |
| 429 | | | ヒゲナガコメツキ | <i>Mulsanteus junior junior</i> | | | | ○ | | |

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | | |
|-----|----|------------|----------------|--|---------|----|------|------|------|-----|--|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 | |
| 430 | | | オオナガコメツキ | <i>Nipponoelater sieboldi sieboldi</i> | | | | | ○ | | |
| 431 | | | クロコハナコメツキ | <i>Paracardiophorus opacus</i> | | | | | ○ | | |
| 432 | | | アカアシオオグシコメツキ | <i>Spheniscosomus cete cete</i> | | | | | ○ | | |
| 433 | | | オオグシヒゲコメツキ | <i>Tetrigus lewisi</i> | | | | | ○ | | |
| 434 | | テントウムシ科 | ナナホシテントウ | <i>Coccinella septempunctata</i> | | | | | | ○ | |
| 435 | | | オオニジュウヤホシテントウ | <i>Henosepilachna vigintioctomaculata</i> | | | | | | ○ | |
| 436 | | コメツキダマシ科 | クロスジヒゲコメツキダマシ | <i>Proxyllobius galloisi</i> | | | | | ○ | | |
| 437 | | ペニボタル科 | クロハナボタル | <i>Plateros coracinus</i> | | | | | ○ | | |
| 438 | | シバンムシ科 | ヒメホリタケシバンムシ | <i>Caenocara ruffitarse</i> | | | | | ○ | | |
| 439 | | | オオナガシバンムシ | <i>Priobium cylindricum</i> | | | | | ○ | | |
| 440 | | ヒョウホムシ科 | ケジロヒョウホムシ | <i>Ptinus senilis senilis</i> | | | | | ○ | | |
| 441 | | テントウムシ科 | ムーアシロホシテントウ | <i>Calvia muiri</i> | | | | | ○ | | |
| 442 | | | トホシテントウ | <i>Epilachna admirabilis</i> | | | | | ○ | | |
| 443 | | | ナミテントウ | <i>Harmonia axyridis</i> | | | | | ○ | | |
| 444 | | | ニジュウヤホシテントウ | <i>Henosepilachna vigintioctopunctata</i> | | | | | ○ | | |
| 445 | | | キイロテントウ | <i>Illeis koebelei koebelei</i> | | | | | ○ | | |
| 446 | | | アトホシヒメテントウ | <i>Nephus phosphorus</i> | | | | | ○ | | |
| 447 | | | ウスキホシテントウ | <i>Oenopia hirayamai</i> | | | | | ○ | | |
| 448 | | | ヨツボシテントウ | <i>Phymatosternus lewisii</i> | | | | | ○ | | |
| 449 | | | モンクチビルテントウ | <i>Platynaspidium maculosus</i> | | | | | ○ | | |
| 450 | | | ヒメカメノコテントウ | <i>Propylea japonica</i> | | | | | ○ | | |
| 451 | | | ハレヤヒメテントウ | <i>Pseudoscymnus hareja</i> | | | | | ○ | | |
| 452 | | | クモガタテントウ | <i>Psyllobora vigintimaculata</i> | | | | | ○ | | |
| 453 | | | クロヘリヒメテントウ | <i>Scymnus hoffmanni</i> | | | | | ○ | | |
| 454 | | | カワムラヒメテントウ | <i>Scymnus kawamurai</i> | | | | | ○ | | |
| 455 | | | コクロヒメテントウ | <i>Scymnus posticalis</i> | | | | | ○ | | |
| 456 | | | クロナヤテントウ | <i>Serangium japonicum</i> | | | | | ○ | | |
| 457 | | | シロホシテントウ | <i>Vibidia duodecimguttata</i> | | | | | ○ | | |
| 458 | | ハムシ科 | アカガネサルハムシ | <i>Acrothitium gaschkewitchii gaschkewitchii</i> | | | | | | ○ | |
| 459 | | | ムネアカキバネサルハムシ | <i>Pagria consimile</i> | | | | | | ○ | |
| 460 | | | イチモンジカメノコハムシ | <i>Thlaspidia biramosa</i> | | | | | | ○ | |
| 461 | | キスイムシ科 | キイロセマルキスイ | <i>Atomaria lewisi</i> | | | | | ○ | | |
| 462 | | | ナガマルキスイ | <i>Atomaria punctatissima</i> | | | | | ○ | | |
| 463 | | | クロモンキスイ | <i>Cryptophagus decoratus</i> | | | | | ○ | | |
| 464 | | | マルガタキスイ | <i>Curelius japonicus</i> | | | | | ○ | | |
| 465 | | テントウムシダマシ科 | クリバナツヤテントウダマシ | <i>Lycoperdina castaneipennis</i> | | | | | ○ | | |
| 466 | | オオキノコムシ科 | ルリオオキノコムシ | <i>Aulacochilus sibiricus</i> | | | | | ○ | | |
| 467 | | | ヒメオビオオキノコムシ | <i>Episcapha fortunei</i> | | | | | ○ | | |
| 468 | | オオキスイムシ科 | ヨツボシオオキスイ | <i>Helota gemmata</i> | | | | | ○ | | |
| 469 | | ケンキスイ科 | アカハラケンキスイ | <i>Librodor rufiventris</i> | | | | | ○ | | |
| 470 | | コメツキモドキ科 | キムネヒメコメツキモドキ | <i>Anadastus atriceps</i> | | | | | ○ | | |
| 471 | | ヒメマキムシ科 | ウスチャケンシマキムシ | <i>Corticara gibbosa</i> | | | | | ○ | | |
| 472 | | | ヤマトケンシマキムシ | <i>Melanophthalma japonica</i> | | | | | ○ | | |
| 473 | | ネスイムシ科 | トビイロドオネスイ | <i>Monotoma picipes</i> | | | | | ○ | | |
| 474 | | ケンキスイ科 | ナガコグチャケンキスイ | <i>Amphicrossus lewisi</i> | | | | | ○ | | |
| 475 | | | クロハナケンキスイ | <i>Carpophilus chalybeus</i> | | | | | ○ | | |
| 476 | | | クワイロドオキスイ | <i>Carpophilus marginellus</i> | | | | | ○ | | |
| 477 | | | ルイスコオコケンキスイ | <i>Cryptarcha lewisi</i> | | | | | ○ | | |
| 478 | | | ニセアカマダケンキスイ | <i>Lasiodactylus borealis</i> | | | | | ○ | | |
| 479 | | | コヨツボシケンキスイ | <i>Librodor ipsoides</i> | | | | | ○ | | |
| 480 | | | ヨツボシケンキスイ | <i>Librodor japonicus</i> | | | | | ○ | | |
| 481 | | | マルガタカケンキスイ | <i>Pocadites japonus</i> | | | | | ○ | | |
| 482 | | | クロキマダケンキスイ | <i>Soronia lewisi</i> | | | | | ○ | | |
| 483 | | | マルキマダケンキスイ | <i>Stelidota multiguttata</i> | | | | | ○ | | |
| 484 | | ヒメハナムシ科 | トビイロヒメハナムシ | <i>Olibrus consanguineus</i> | | | | | ○ | | |
| 485 | | ホソヒラタムシ科 | ミツモンセマルヒラタムシ | <i>Psammoecus trimaculatus</i> | | | | | ○ | | |
| 486 | | | ミツカドホソヒラタムシ | <i>Silvanoprus scuticollis</i> | | | | | ○ | | |
| 487 | | アリモドキ科 | ホソクビアリモドキ | <i>Formicomus braminus coiffaiti</i> | | | | | ○ | | |
| 488 | | | ウスモンホソアリモドキ | <i>Omonadus confucii confucii</i> | | | | | ○ | | |
| 489 | | | タナカホソアリモドキ | <i>Stricticomus tobias</i> | | | | | ○ | | |
| 490 | | コブゴミムシダマシ科 | ツヤケンヒメホソカタムシ | <i>Microprius opacus</i> | | | | | ○ | | |
| 491 | | | ハヤシヒメヒラタホソカタムシ | <i>Microsicus hayashii</i> | | | | | ○ | | |
| 492 | | | ツヤナガヒラタホソカタムシ | <i>Pycnomerus vilis</i> | | | | | ○ | | |
| 493 | | ナガクチキムシ科 | アキモンヒメナガクチキ | <i>Holostrophus orientalis</i> | | | | | ○ | | |
| 494 | | | クロホソナガクチキ | <i>Phloeotrya rugicollis</i> | | | | | ○ | | |
| 495 | | ハナムシ科 | クワイロヒゲハナムシ | <i>Higehananomia palpalis</i> | | | | | ○ | | |
| 496 | | コキノコムシ科 | ヒレロキノコムシ | <i>Mycetophagus hillerianus</i> | | | | | ○ | | |
| 497 | | | チャイロキノコムシ | <i>Typhaea stercorea</i> | | | | | ○ | | |
| 498 | | カミキリモドキ科 | キバナカミキリモドキ | <i>Nacerdes luteipennis</i> | | | | | ○ | | |
| 499 | | | アオカミキリモドキ | <i>Nacerdes waterhousei</i> | | | | | ○ | | |
| 500 | | チビキカワムシ科 | ツヤチビキカワムシ | <i>Lissodema laevipenne</i> | | | | | ○ | | |
| 501 | | ゴミムシダマシ科 | オオクチキムシ | <i>Allecula fuliginosa</i> | | | | | ○ | | |
| 502 | | | クワイロクチキムシ | <i>Borboresthes acicularis</i> | | | | | ○ | | |
| 503 | | | トビイロクチキムシ | <i>Borboresthes cruralis</i> | | | | | ○ | | |
| 504 | | | ナガニジゴミムシダマシ | <i>Ceropria induta</i> | | | | | ○ | | |
| 505 | | | ヒメツノゴミムシダマシ | <i>Cryphaeus duellicii</i> | | | | | ○ | | |
| 506 | | | モンキゴミムシダマシ | <i>Diaperis lewisi lewisi</i> | | | | | ○ | | |
| 507 | | | ルリゴミムシダマシ | <i>Encyalesthus violaceipennis</i> | | | | | ○ | | |
| 508 | | | スナゴミムシダマシ | <i>Gonocephalum japonum</i> | | | | | ○ | | |
| 509 | | | ハムシダマシ | <i>Lagria rufipennis</i> | | | | | ○ | | |
| 510 | | | ヒゲブトゴミムシダマシ | <i>Luprops orientalis</i> | | | | | ○ | | |
| 511 | | | ベニモンキノゴミムシダマシ | <i>Platyedema subfascia subfascia</i> | | | | | ○ | | |
| 512 | | | キマワリ | <i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i> | | | | | ○ | | |
| 513 | | | モトヨツコブゴミムシダマシ | <i>Uloma bonzica</i> | | | | | ○ | | |
| 514 | | | エグリゴミムシダマシ | <i>Uloma marseuli marseuli</i> | | | | | ○ | | |
| 515 | | カミキリムシ科 | キマダラカミキリ | <i>Aeolesthes chrysothrix chrysothrix</i> | | | | | ○ | | |
| 516 | | | ニイジマチビカミキリ | <i>Egesina bifasciana bifasciana</i> | | | | | ○ | | |

昆虫類(7/8)

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|-----|-----------|-----------------|--|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 517 | | | カタジロゴマフカミキリ | <i>Mesosa hirsuta hirsuta</i> | | | | | ○ | |
| 518 | | | ナガゴマフカミキリ | <i>Mesosa longipennis</i> | | | | | ○ | |
| 519 | | | ノコギリカミキリ | <i>Prionus insularis insularis</i> | | | | | ○ | |
| 520 | | | クロカミキリ | <i>Spondylis buprestoides</i> | | | | | | |
| 521 | | | ベニカミキリ | <i>Purpuricenys temminckii</i> | | | | | | |
| 522 | | ハムシ科 | タマツツハムシ | <i>Adiscus lewisii</i> | | | | | ○ | |
| 523 | | | ウリハムシ | <i>Aulacophora indica</i> | | | | | ○ | |
| 524 | | | イノコヅチカメノコハムシ | <i>Cassida japana</i> | | | | | ○ | |
| 525 | | | タテスジキツツハムシ | <i>Cryptocephalus nigrofasciatus</i> | | | | | ○ | |
| 526 | | | カサハラハムシ | <i>Demotina modesta</i> | | | | | ○ | |
| 527 | | | クワハムシ | <i>Fleutiauxia armata</i> | | | | | ○ | |
| 528 | | | キベリクビボソハムシ | <i>Lema adamsii</i> | | | | | ○ | |
| 529 | | | キバラリクビボソハムシ | <i>Lema concinnipennis</i> | | | | | ○ | |
| 530 | | | ヤマモハムシ | <i>Lema honorata</i> | | | | | ○ | |
| 531 | | | キイロクビナガハムシ | <i>Lilloceris rugata</i> | | | | | ○ | |
| 532 | | | ルリマルノミハムシ | <i>Nonarthra cyanea</i> | | | | | ○ | |
| 533 | | | ハギツツハムシ | <i>Pachybrachis eruditus</i> | | | | | ○ | |
| 534 | | | ツヤキバナサルハムシ | <i>Pagria flavopustulata</i> | | | | | ○ | |
| 535 | | | アトボンハムシ | <i>Paridea angulicollis</i> | | | | | ○ | |
| 536 | | | ナトビハムシ | <i>Psylliodes punctifrons</i> | | | | | ○ | |
| 537 | | | ドウガネサルハムシ | <i>Scelodonta lewisii</i> | | | | | ○ | |
| 538 | | | トビサルハムシ | <i>Trichochrysea japana</i> | | | | | ○ | |
| 539 | | | クロウリハムシ | <i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i> | | | | | ○ | |
| 540 | | ヒゲナガゾウムシ科 | キノコヒゲナガゾウムシ | <i>Euparius oculatus oculatus</i> | | | | | ○ | |
| 541 | | | ウスモンツツヒゲナガゾウムシ | <i>Ozotomerus japonicus japonicus</i> | | | | | ○ | |
| 542 | | | カオジロヒゲナガゾウムシ | <i>Sphinctrotropis laxa</i> | | | | | ○ | |
| 543 | | | チャイロチョッキリ | <i>Aderorhinus crioceroides</i> | | | | | ○ | |
| 544 | | | ヒメクロオトシヅミ | <i>Apoderus erythrogaster</i> | | | | | ○ | ○ |
| 545 | | | ハイイロチョッキリ | <i>Cyllorhynchites ursulus</i> | | | | | ○ | |
| 546 | | | エゴヒゲナガゾウムシ | <i>Exechesops leucopus</i> | | | | | ○ | |
| 547 | | ゾウムシ科 | ホソヒメカタゾウムシ | <i>Asphalmus japonicus</i> | | | | | ○ | |
| 548 | | | アオバナネサルゾウムシ | <i>Ceutorhynchus ibukianus</i> | | | | | ○ | |
| 549 | | | クリシギゾウムシ | <i>Curculio sikkimensis</i> | | | | | ○ | |
| - | | | Curculio 属の一種 | <i>Curculio sp.</i> | | | | | ◎ | |
| 550 | | | アシナガオニゾウムシ | <i>Gasterocercus longipes</i> | | | | | ○ | |
| 551 | | | タデトゲサルゾウムシ | <i>Homorosoma asperum</i> | | | | | ○ | |
| 552 | | | スベリビユサルゾウムシ | <i>Hypurus bertrandi</i> | | | | | ○ | |
| 553 | | | ケブカクチフトゾウムシ | <i>Lepidipistomodes fumosus</i> | | | | | ○ | |
| 554 | | | ヤサイゾウムシ | <i>Listroderes costirostris</i> | | | | | ○ | |
| 555 | | | カシワクチフトゾウムシ | <i>Nothomylocerus griseus</i> | | | | | ○ | ○ |
| 556 | | | クリアナアキゾウムシ | <i>Pimelocerus exsculptus</i> | | | | | ○ | |
| 557 | | | ケチビコフキゾウムシ | <i>Sitona hispidulus</i> | | | | | ○ | |
| 558 | | | アカネニセクチフトキイゾウムシ | <i>Stenoscelodes hayashii</i> | | | | | ○ | |
| 559 | | | イコマケシツゾウムシ | <i>Trachyphloeosoma advena</i> | | | | | ○ | |
| 560 | | | コフキゾウムシ | <i>Eugnathus distinctus</i> | | | | | | ○ |
| 561 | | | スグリゾウムシ | <i>Pseudocneorhinus bifasciatus</i> | | | | | | ○ |
| 562 | | オサゾウムシ科 | トボンオサゾウムシ | <i>Aplotes roelofi</i> | | | | | ○ | |
| 563 | | | スギキクイサビゾウムシ | <i>Dryophthorus japonicus</i> | | | | | ○ | |
| 564 | | | コクゾウムシ | <i>Sitophilus zeamais</i> | | | | | ○ | |
| 565 | | キクイムシ科 | ザイノキクイムシ亜科の一種 | <i>Ipinae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 566 | ハチ目 | ミツハバチ科 | ルリチュウレンジ | <i>Arge similis</i> | | | | | ○ | |
| 567 | | ミツハバチ科 | ニホンミツハチ | <i>Apis cerana japonica</i> | | | | | ○ | |
| 568 | | | ニッポンヒゲナガハナバチ | <i>Eucera nipponensis</i> | | | | | ○ | |
| 569 | | ハネナガウンカ科 | シリアカハネナガウンカ | <i>Zoraida horishana</i> | | | NT1 | | | |
| 570 | | ハバチ科 | ハグロハバチ | <i>Allantus lucifer</i> | | | | | ○ | |
| 571 | | | セグロコブラハバチ | <i>Athalia infumata</i> | | | | | ○ | |
| 572 | | | イヌノフグリハバチ | <i>Athalia kashmirensis</i> | | | | | ○ | |
| 573 | | キバチ科 | クロセラアシキバチ | <i>Tremex apicalis</i> | | | | | ○ | |
| 574 | | | ニトベキバチ | <i>Sirex nitobei</i> | | | | | | ○ |
| 575 | | コマユバチ科 | ヒゲナガコウラコマユバチ | <i>Ascogaster formosensis</i> | | | | | ○ | |
| 576 | | ヒメバチ科 | クロヒメバチ | <i>Amblyjoppa cognatoria</i> | | | | | ○ | |
| 577 | | | サップロオナガバチ | <i>Epirhyssa sapporensis</i> | | | | | ○ | |
| 578 | | | ヒラタヒメバチ亜科の一種 | <i>Pimplinae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 579 | | カギバラバチ科 | キスジセアカカギバラバチ | <i>Taeniogonalos fasciata</i> | | | | | ○ | |
| 580 | | ツノヤセバチ科 | ニッポンツノヤセバチ | <i>Parastephanellus matsumotoi</i> | | | | | ○ | |
| 581 | | アシトコバチ科 | アシトコバチ科の一種 | <i>Chalcididae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 582 | | ナガコバチ科 | ナガコバチ科の一種 | <i>Eupelmidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 583 | | コガネコバチ科 | コガネコバチ科の一種 | <i>Pteromalidae sp.</i> | | | | | ○ | |
| 584 | | アリガタバチ科 | ムカシアリガタバチ | <i>Acrepyris japonicus</i> | | | | | ○ | |
| 585 | | セイボウ科 | ムツバセイボウ | <i>Chrysis fasciata daphne</i> | | | | | ○ | |
| 586 | | | ハラアカマルセイボウ | <i>Hedychrum japonicum</i> | | | | | ○ | |
| 587 | | クモバチ科 | イシカワクモバチ | <i>Agenioideus ishikawai</i> | | | | | ○ | |
| 588 | | | オオモンクワクモバチ | <i>Anoplus samariensis</i> | | | | | | ○ |
| 589 | | ツチバチ科 | ヒメハラナガツチバチ本土亜種 | <i>Campomeriella annulata annulata</i> | | | | | ○ | |
| 590 | | | オオハラナガツチバチ | <i>Megacampomeris grossa matsumurai</i> | | | VU | | ○ | |
| 591 | | | キンケハラナガツチバチ | <i>Megacampomeris prismatica</i> | | | | | ○ | |
| 592 | | | アカスジツチバチ本土亜種 | <i>Scolia fascinata fascinata</i> | | | | | ○ | |
| 593 | | コツチバチ科 | ニカコツチバチ | <i>Tiphia sternata</i> | | | | | ○ | |
| 594 | | アリ科 | オオハリアリ | <i>Brachyponera chinensis</i> | | | | | ○ | |
| 595 | | | イトウオオアリ | <i>Camponotus itoi</i> | | | | | ○ | |
| 596 | | | クロオオアリ | <i>Camponotus japonicus</i> | | | | | ○ | |
| 597 | | | ミカドオオアリ | <i>Camponotus kiusiuensis</i> | | | | | ○ | |
| 598 | | | ヨツボシオオアリ | <i>Camponotus quadrinotatus</i> | | | | | ○ | |
| 599 | | | ウメマツオオアリ | <i>Camponotus vitiosus</i> | | | | | ○ | ○ |
| 600 | | | コツノアリ | <i>Carebara yamatonis</i> | | | | | ○ | |
| 601 | | | ハリプトシリアゲアリ | <i>Crematogaster matsumurai</i> | | | | | ○ | |
| 602 | | | キイロシリアゲアリ | <i>Crematogaster osakensis</i> | | | | | ○ | |

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|------|--------|-------------|--|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 603 | | | テラニシリアゲアリ | <i>Crematogaster teranishii</i> | | | | ○ | | |
| 604 | | | トゲズネハリアリ | <i>Cryptopone sauteri</i> | | | | ○ | | |
| 605 | | | ハヤシクロヤマアリ | <i>Formica hayashi</i> | | | | ○ | | |
| 606 | | | クロヤマアリ | <i>Formica japonica (s.l.)</i> | | | | ○ | ○ | |
| 607 | | | ニセハリアリ | <i>Hypoponera sauteri</i> | | | | ○ | | |
| 608 | | | クロクサアリ | <i>Lasius fiji (s.l.)</i> | | | | ○ | | |
| 609 | | | トビイロケアリ | <i>Lasius japonicus</i> | | | | ○ | ○ | |
| 610 | | | ヒラアシクサアリ | <i>Lasius spatheus</i> | | | | ○ | | |
| 611 | | | キイロヒメアリ | <i>Monomorium triviale</i> | | | | ○ | | |
| 612 | | | アメイロアリ | <i>Nylanderia flavipes</i> | | | | ○ | | |
| 613 | | | アズマオオズアリ | <i>Pheidole fervida</i> | | | | ○ | | |
| 614 | | | アミメアリ | <i>Pristomyrmex punctatus</i> | | | | ○ | ○ | |
| 615 | | | イガウロコアリ | <i>Strumigenys benten</i> | | | | ○ | | |
| 616 | | | ヒラフンアリ | <i>Technomyrmex gibbosus</i> | | | | ○ | | |
| 617 | | | ムネボソアリ | <i>Temnothorax congruus</i> | | | | ○ | | |
| 618 | | | トビイロシワアリ | <i>Tetramorium tsushimae</i> | | | | ○ | | |
| 619 | | | ウメマツアリ | <i>Vollenhovia emeryi</i> | | | | ○ | | |
| 620 | | スズメバチ科 | オオスズメバチ | <i>Vespa mandarinia</i> | | | | ○ | | |
| 621 | | | カタグロチビドロバチ | <i>Stenodynerus chinensis kalnowskii</i> | | | | ○ | | |
| 622 | | | キボシアシナガバチ | <i>Polistes nipponensis</i> | | | | ○ | | |
| 623 | | | ケブカスジドロバチ | <i>Ancistrocerus densepilosellus</i> | | | | ○ | | |
| 624 | | | コガタスズメバチ | <i>Vespa analis</i> | | | | ○ | | |
| 625 | | | ヒメスズメバチ | <i>Vespa ducalis</i> | | | | ○ | | |
| 626 | | | ミカドツクリバチ | <i>Eumenes micado</i> | | | | ○ | | |
| 627 | | | ムモンツクリバチ | <i>Eumenes rubronotatus</i> | | | | ○ | | |
| 628 | | | モンズメバチ | <i>Vespa crabro</i> | DD | | | ○ | | |
| 629 | | | ムモンソアシナガバチ | <i>Parapolybia indica indica</i> | | | | | ○ | |
| 630 | | | キイロスズメバチ | <i>Vespa simillima</i> | | | | | | |
| 631 | | ギンズバチ科 | ヒメツチスガリ | <i>Cerceris carinalis</i> | | | | ○ | | |
| 632 | | | ニッポンツチスガリ | <i>Cerceris nipponensis</i> | | | | ○ | | |
| 633 | | | フタツバギンズバチ | <i>Crossocerus annulipes hokkaidoensis</i> | | EN | | ○ | | |
| 634 | | | ワモンイスカバチ | <i>Passaloecus nipponicola</i> | | NT | | ○ | | |
| 635 | | コハナバチ科 | アカガネコハナバチ | <i>Halictus aerarius</i> | | | | ○ | | |
| 636 | | | ズマルコハナバチ | <i>Lasioglossum affine</i> | | | | ○ | | |
| 637 | | | ニッポンチビコハナバチ | <i>Lasioglossum japonicum</i> | | | | ○ | | |
| 638 | | | シロスジカタコハナバチ | <i>Lasioglossum occidens</i> | | | | ○ | | |
| 639 | | ハキリバチ科 | ヤトガリハナバチ | <i>Coelioxys yanonis</i> | | | | ○ | | |
| 640 | | ミツバチ科 | コキマダラハナバチ | <i>Nomada okubira</i> | | | | ○ | | |
| 合計 | 14 目 | 185 科 | | 640 種 | 18 | 23 | 16 | 527 | 68 | 119 |

注1: 種名、和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(平成28年度生物リスト)」を基本とし、一部の和名及び学名は「日本昆虫目録(第4、5、7、8巻)」に準拠した。

注2: 「トラスト14号地」の○は分類上種数にはカウントしなかった。

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省: 「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西: 「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注3: 「多福寺」は表 2-7(p27)で記載した「県自然環境保全地域」の調査結果です。

【クモ類相の確認一覧表】

| No. | 科名 | 和名 | 学名 | 重要種選定基準 | | | 確認地区 | | |
|-----|----------|---------------|----------------------------------|---------|----|------|------|------|-----|
| | | | | 環境省 | 全県 | 荒川以西 | 14号地 | くぬぎ山 | 多福寺 |
| 1 | トタテグモ科 | キシノウエトタテグモ | <i>Latouchia typica</i> | NT | NT | | ○ | | |
| 2 | ヒメグモ科 | シロカネイトウウグモ | <i>Argyrodus bonadea</i> | | | | ○ | | |
| 3 | | オナガグモ | <i>Ariamnes cylindrogaster</i> | | | | ○ | | |
| 4 | | シモフリミジグモ | <i>Diploena punctisparsa</i> | | | | ○ | | |
| 5 | | ムラクモヒシガタグモ | <i>Episinus nubilus</i> | | | | ○ | | |
| 6 | | キヒメグモ | <i>Parasteatoda asiatica</i> | | | | ○ | | |
| 7 | | カグヤヒメグモ | <i>Parasteatoda culicivora</i> | | | | ○ | | |
| 8 | | オオヒメグモ | <i>Parasteatoda tepidariorum</i> | | | | ○ | | |
| — | | オオヒメグモ属の一種 | <i>Parasteatoda</i> sp. | | | | ○ | | |
| 9 | サラグモ科 | アシナガサラグモ | <i>Neriene longipedella</i> | | | | ○ | | |
| 10 | | ヘリジロサラグモ | <i>Neriene oidedicata</i> | | | | ○ | | |
| 11 | | シロブチサラグモ | <i>Neriene radiata</i> | | | | ○ | | |
| — | | サラグモ科の一種 | Linyphiidae sp. | | | | ○ | | |
| 12 | アシナガグモ科 | コシロカネグモ | <i>Leucauge subblanda</i> | | | | ○ | | |
| 13 | | キララシロカネグモ | <i>Leucauge subgennea</i> | | | | ○ | | |
| 14 | | ウロコアシナガグモ | <i>Tetragnatha squamata</i> | | | | ○ | | |
| 15 | ジョロウグモ科 | ジョロウグモ | <i>Nephila clavata</i> | | | | ○ | | |
| 16 | コガネグモ科 | オニグモ属の一種 | <i>Araneus</i> sp. | | | | ○ | | |
| 17 | | ナガコガネグモ | <i>Argiope bruennichi</i> | | | | ○ | | |
| — | | コガネグモ属の一種 | <i>Argiope</i> sp. | | | | ○ | | |
| 18 | | ギンメッキゴミグモ | <i>Cyclosa argenteoalba</i> | | | | ○ | | |
| 19 | | ヨツデゴミグモ | <i>Cyclosa sedeculata</i> | | | | ○ | | |
| 20 | | シロスジショウジョウグモ | <i>Hypsosinga sanguinea</i> | | | | ○ | | |
| 21 | | ワキグロサツマノミダマシ | <i>Neoscona mellottei</i> | | | | ○ | | |
| — | | ヒメオニグモ属の一種 | <i>Neoscona</i> sp. | | | | ○ | | |
| 22 | チリグモ科 | ヒラタグモ | <i>Uroctea compactilis</i> | | | | ○ | | |
| 23 | ウズグモ科 | マネキグモ | <i>Miagrammopes orientalis</i> | | | | ○ | | |
| 24 | コモリグモ科 | フジイコモリグモ | <i>Aretosa fujii</i> | | | | ○ | | |
| 25 | | ハリゲコモリグモ | <i>Pardosa laura</i> | | | | ○ | | |
| — | | オオアシコモリグモ属の一種 | <i>Pardosa</i> sp. | | | | ○ | | |
| — | | コモリグモ科の一種 | Lycosidae sp. | | | | ○ | | |
| 26 | キシダグモ科 | イオウイロハシリグモ | <i>Dolomedes sulfureus</i> | | | | ○ | | |
| 27 | ササグモ科 | ササグモ属の一種 | <i>Oxyopes</i> sp. | | | | ○ | | |
| 28 | タナグモ科 | クサグモ | <i>Agelena silvatica</i> | | | | ○ | | |
| 29 | | クロヤチグモ | <i>Coelotes exitialis</i> | | | | ○ | | |
| 30 | | ムサシヤチグモ | <i>Coelotes musashiensis</i> | | | | ○ | | |
| 31 | | シモフリヤチグモ | <i>Iwogumoa insidiosa</i> | | | | ○ | | |
| 32 | ハグモ科 | コタナグモ | <i>Cicurina japonica</i> | | | | ○ | | |
| 33 | | ネコハグモ | <i>Dictyna felis</i> | | | | ○ | | |
| 34 | コマチグモ科 | コマチグモ属の一種 | <i>Cheiracanthium</i> sp. | | | | ○ | | |
| 35 | ツチフクログモ科 | イタチグモ | <i>Prochora praticola</i> | | | | ○ | | |
| 36 | ウラシマグモ科 | ウラシマグモ | <i>Phrurolithus nipponicus</i> | | | | ○ | | |
| — | | ウラシマグモ属の一種 | <i>Phrurolithus</i> sp. | | | | ○ | | |
| 37 | フクログモ科 | マダラフクログモ | <i>Clubiona deletrix</i> | | | | ○ | | |
| 38 | | カギフクログモ | <i>Clubiona pseudogermanica</i> | | | | ○ | | |
| — | | フクログモ属の一種 | <i>Clubiona</i> sp. | | | | ○ | | |
| 39 | ワシグモ科 | ヨリメケムリグモ属の一種 | <i>Drassyllus</i> sp. | | | | ○ | | |
| 40 | | メキリグモ属の一種 | <i>Gnaphosa</i> sp. | | | | ○ | | |
| 41 | エビグモ科 | アサヒエビグモ | <i>Philodromus subaureolus</i> | | | | ○ | | |
| 42 | | シャコグモ | <i>Tibellus japonicus</i> | | | | ○ | | |
| 43 | カニグモ科 | クマダハナグモ | <i>Ebelingia kumadai</i> | | | | ○ | | |
| 44 | | ハナグモ | <i>Ebrechtella tricuspidata</i> | | | | ○ | | |
| 45 | | ワカバグモ | <i>Oxytate striatipes</i> | | | | ○ | | |
| 46 | | アズチグモ | <i>Thomisus labefactus</i> | | | | ○ | | |
| 47 | | セマルトラフカニグモ | <i>Tmarus rimosus</i> | | | | ○ | | |
| 48 | | ヤミイロカニグモ | <i>Aysticus croceus</i> | | | | ○ | | |
| — | | カニグモ属の一種 | <i>Aysticus</i> sp. | | | | ○ | | |
| 49 | ハエトリグモ科 | マミジロハエトリ | <i>Evarcha albaria</i> | | | | ○ | | |
| 50 | | ウデブトハエトリ | <i>Harmochirus insulanus</i> | | | | ○ | | |
| 51 | | エキスハエトリ | <i>Laufeia aenea</i> | | | | ○ | | |
| 52 | | ヨダンハエトリ | <i>Marpissa pulla</i> | | | | ○ | | |
| 53 | | ヤガタアリグモ | <i>Myrmarachne elongata</i> | | | | ○ | | |
| 54 | | アリグモ | <i>Myrmarachne japonica</i> | | | | ○ | | |
| — | | アリグモ属の一種 | <i>Myrmarachne</i> sp. | | | | ○ | | |
| 55 | | チャイロアサヒハエトリ | <i>Phintella abnormis</i> | | | | ○ | | |
| 56 | | デーニツハエトリ | <i>Plexippoides doenitzi</i> | | | | ○ | | |
| 57 | | キレワハエトリ | <i>Sibianor pullus</i> | | | | ○ | | |
| 58 | | アオオビハエトリ | <i>Siler cupreus</i> | | | | ○ | | |
| 59 | | トサハエトリ | <i>Tasa koreana</i> | | | | ○ | | |
| 合計 | 21科 | | 59種 | 1 | 1 | 0 | 69 | 0 | 0 |

※種名、学名及び配列は「(谷川明男)日本産クモ類目録Ver.2016R1」(<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>)に従った。

重要種の選定基準は以下のとおり

環境省:「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-環境省」(爬虫類・両生類 平成26年9月)

全県、荒川以西:「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック2008動物編」(平成20年3月 埼玉県)

注)くぬぎ山地区及び多福寺地区は調査を実施していない。

注)「多福寺」は「県自然環境保全地域」の調査結果ですが、調査結果は「14号地」のみです。